唐古・鍵遺跡
考古資料目録Ⅲ

―木器・木製品・石器・石製品編―

田原本町教育委員会

2017.3

例　　言

1．本書は、唐古・鍵遺跡の出土品のうち、特に重要と思われる遺物について報告する『唐古・鍵遺跡考古資料目録』の第３冊目「木器・木製品・石器・石製品編」である。

2．本書に収録した遺物は、唐古・鍵遺跡第１次から第118次までの調査で出土した遺物の中から選定したものである。発掘調査は、第３～ 12次までは奈良県立橿原考古学研究所、第13次以降は田原本町教育委員会が実施したもので、田原本町教育委員会所蔵の遺物である。

3．唐古・鍵遺跡第３～ 15次調査の出土遺物の遺構名の番号については、概報・報告書では全ての遺構を２桁で表記（ＳＤ-02等）としていたが、本目録では弥生時代中期・後期の遺構を100番台、前期の遺構を200番台とし、３桁（ＳＤ-102等）に改めている。

4．遺物写真の撮影は、亀村俊二・佐藤右文・田原本町教育委員会事務局文化財保存課職員による。

5．遺跡の調査概要と出土資料の全容については、『唐古・鍵遺跡考古資料目録Ⅰ』（2015）を参照されたい。

6．木製品の製品名称は、奈良国立文化財研究所1993『木器集成図録　近畿原始編』奈良国立文化財研究所史料　第36冊を参考にした。

7．漆・赤色顔料付着の木器・木製品・石器・石製品の一部は、奥山誠義 氏（奈良県立橿原考古学研究所）の同定によるものである。

8．木器・木製品の樹種は、元興寺文化財研究所、環境考古研究会、能城修一 氏（森林総合研究所）、鈴木三男 氏・小林和貴 氏（東北大学植物園）、佐々木由香 氏（株式会社パレオ・ラボ）、村上由美子 氏（京都大学総合博物館）の同定によるものである。一部の成果については、『田原本町文化財調査年報24』に掲載している（能城修一・鈴木三男・小林和貴・佐々木由香・村上由美子2016「唐古・鍵遺跡とその周辺遺跡で出土した木製品の樹種」『田原本町文化財調査年報24』田原本町教育委員会）。

9．唐古・鍵遺跡出土資料のうち、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館に展示するものについては、北井利幸 氏（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館）に多大なご協力を賜った。

10．本書の第Ⅰ・Ⅱ部は、藤田三郎が執筆し、清水琢哉・柴田将幹・江浦至希子・小松博子・榊原初美・中谷利枝・服部文子の協力を得た。編集は、藤田・西岡成晃がおこなった。

目　　次

第Ⅰ部　個別資料の概要

１．木器・木製品の概要…… 1

２．石器・石製品の概要…… 6

第Ⅱ部　考古資料目録

凡例

１．木製品…… 12

２．石器・石製品

2-1．打製石器…… 86

2-2．磨製石器…… 118

2-3．石製品…… 140

2-4．礫石器…… 149

附

１．遺物図版…… 158

２．文献（発掘調査関係）…… 164

第Ⅰ部　個別資料の概要

１．木器・木製品の概要

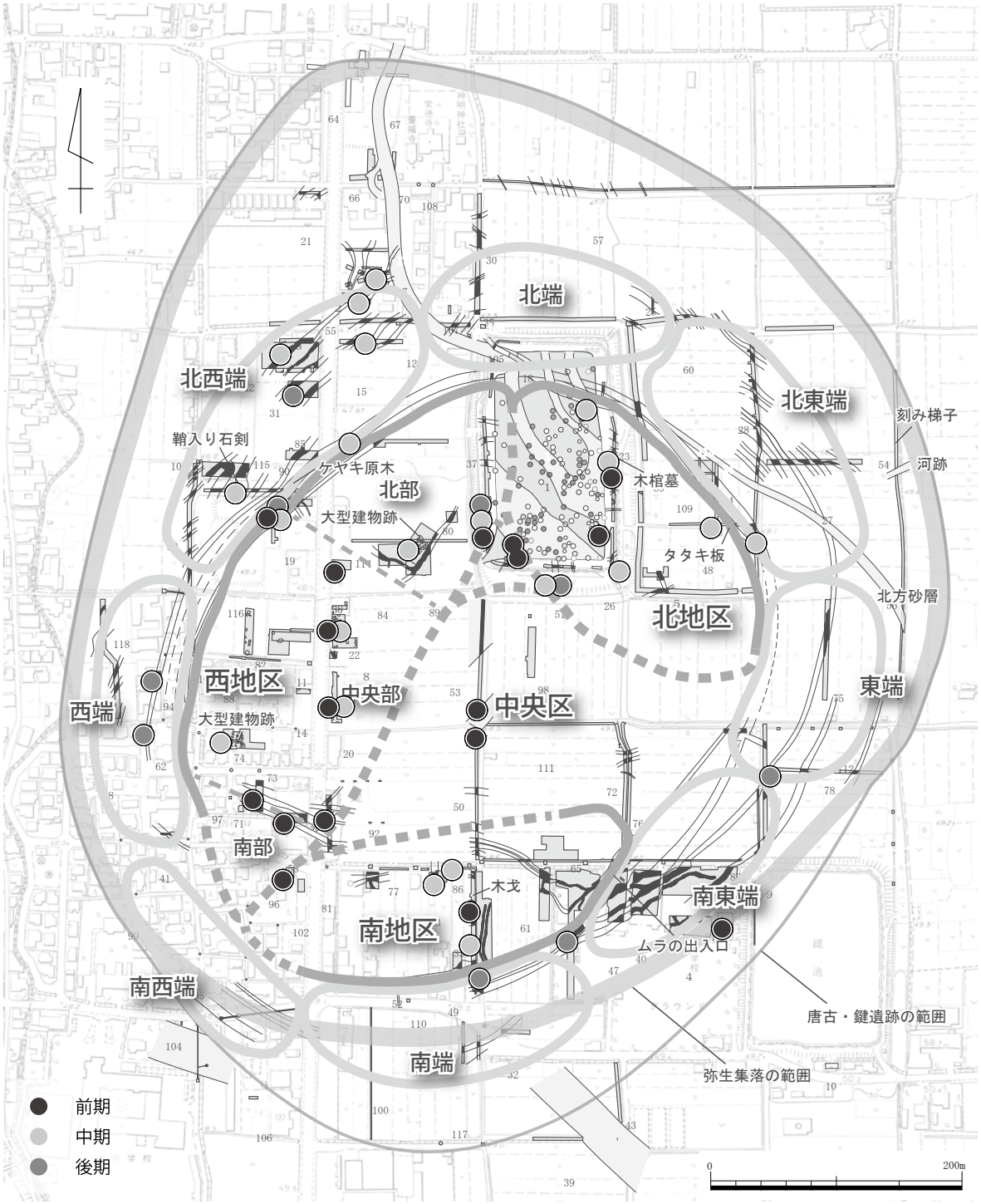
標高49m前後の沖積地に立地する唐古・鍵遺跡は、水分を充分に含んだ粘土質の堆積層で埋没している。この保湿性の高い環境によって、木製品や編み籠製品など有機質の遺物は現代まで残存し、発掘調査によって掘り出されることになる。これら木製品の状態は、出土時には木質そのものの赤味がまだ残る色調を呈しているが、瞬く間に酸化によって黒褐色に変色する。また、風化等も少なく、器表面の状態も良好で加工痕や形態が保持されているが、内部のセルロースは分解しており、木製品自体は脆弱な状態である。このような良好な木製品が大半を占めることから、概ね保湿性のある環境が維持されたとみられるが、一部の地区、あるいは地点においては埋没環境が悪く、劣化した木製品が出土する場合もある。

唐古・鍵集落での木製品の製作は、集落が弥生時代前期から古墳時代前期まで継続的に維持された地域の拠点集落であったため、自給的な製作だけでなく、周辺集落にも木製品を供給していたと考えられる。また、原材や製作途中の木製品を水漬けしておくための穴（木器貯蔵穴）が弥生時代前期段階から多数見つかっており、木製品の生産システムが初期段階から整っていたと考えて良い。このようなことから、唐古・鍵集落は地域の木製品製作の一拠点として位置づけて良いであろう。

さて、唐古・鍵遺跡で検出される木器貯蔵穴は、一辺２～３m前後、深さ１mあまりの大きさである。発掘調査では、このような穴から取り出されず残置された製作途中の木製品が穴底から見つかる場合（土坑が開口しているため、中・上層にさまざまな遺物が投棄されている）と、取り出した後一気に埋め戻した場合（遺物はほとんど無く、粘土やシルトがブロック状になった状態の埋土）の２パターンが見いだされる。このような穴は、特に弥生時代前期に多く、西地区中央部の第20次調査では列を成すように掘削されているものもあり、貯蔵穴が集落内部に計画的に配置されたと考えられる。また、このような木器貯蔵穴は、集落形成の初期段階（大和第Ⅰ-1様式）から出現し

写真１　木器貯蔵穴から出土した高杯未成品・原材（第 53 次）

写真２　埋没した井戸に水漬けされた一木鋤未成品（第 37 次）



第１図　唐古・鍵遺跡の調査成果と地区区分および木製品の原木・未成品の分布図（Ｓ＝1/5,000）

ており、他の地域より出現時期が早く、数量的にも顕著であることから盆地中央部において一大生産拠点であった可能性がある。中期以降になると、このような専用の穴を掘削することは少なくなり、その代用として埋没過程の井戸や環濠、区画溝などの中・上層に水浸けするようになった。井戸では、３点前後の未成品が水漬けされている場合が多い。環濠での貯木で顕著な例として、後期初頭に再掘削された南側の環濠がある。これは、推定延長100mの範囲にわたって多量の木製農具

第１表　各種未成品の地区・時期別出土遺構一覧表

	北地区・北端・中央区	西地区・西端	南地区・南東端・東端
第Ⅰ-1様式	杓子（第45次 SR-201）	平鍬身・高杯（第38次 SK-208）	
第Ⅰ-2様式		平鍬身・縦杓子（第16次 SX-102） 直柄縦斧柄（第20次 SK-215） 平鍬身（第20次 SD-201） 無頸壷（第58次 SD-201） 蓋（第74次 SR-201）	
第Ⅱ-1様式	直柄縦斧柄（第53次 SR-101B） 高杯（第53次 SK-201）	縦杓子（第74次 SK-203）	平鍬身（第33次 SD-205） 平鍬身・一木鋤（第33次 SK-208）
第Ⅱ-2様式			
第Ⅱ-3様式	平鍬身（第23次 SK-151） 膝柄横斧柄（第26次 SK-1102）	平鍬身（第33次 SK-1101／第37次 SK-2139） 泥除（第37次 SK-2102）	
第Ⅲ-1様式			
第Ⅲ-2様式	鉢（第34次 SK-103） 直柄縦斧柄（第50次 SD-106）		
第Ⅲ-3様式	横杓子未成品（第23次 SK-2116）		組合せ鋤・高杯未成品（第33次 SK-124）
第Ⅲ-4様式	平鍬身・組合せ鋤（第23次 SK-113）		
第Ⅳ-1様式		平鍬身（第79次 SK-130） 横杓子（第115次 SD-101D）	
第Ⅳ-2様式			
第Ⅴ-1様式	匙（第51次 SK-104） 梯子（第55次 SD-102）	匙（第13次 SD-102） 泥除（第19次 SK-102） 一木鋤（第37次 SK-2103） 組合せ鋤（第90次 SD-101C）	平鍬身・泥除・一木鋤（第3次 SD-102） 平鍬・組合せ鋤（第63次 SD-103A） 平鍬・泥除（第69次 SD-1109）
第Ⅴ-2様式			
第Ⅵ-1様式			
第Ⅵ-2様式			
第Ⅵ-3様式			
第Ⅵ-4様式 庄内式	蓋（第23次 SK-102）		
布留0・1式			

※　上記表内の表現では、各種未成品の「未成品」は省略する。

未成品が水漬けされている可能性があり、また、北西端の第15次調査の環濠では、多量の木片が出土している地点の例もあり、これらの近隣に木製品製作場所を想定できるかもしれない。

木製品の製作では、木の表面を柔らかくし加工しやすくするため、また、木の歪みを軽減することを目的として、長期の水漬けをおこなっていた可能性があり、単年で完結する行程ではないと考

えられる。まさに上記のような未成品のあり方は、数年単位の製作で需要と供給のバランスをとるような状況を示すものであり、このようなシステムが唐古・鍵集落で構築されていたと思われる。

唐古・鍵遺跡の木製品は、使用により破損・廃棄されており、その全体像が不明なものも多いが、上記のように残置された製作途中の木製品からその製作工程や技術を知ることができる。平鍬や泥除などの連結した未成品、一木鋤や着柄鋤の各段階の未成品、高杯未成品の側面に残る連結部切断痕など農具や容器類の製作については、ほぼその過程を追うことができ、各地の弥生集落でのあり方とほぼ同様である。木製品の樹種については、概ね広葉樹の利用が全体の3/4を占めており（第２図）、唐古・鍵遺跡周辺の樹種構成の環境がそのまま現れていると考えて良いだろう。その中でも農具などはカシ類、高杯や匙などはヤマグワ、弓はイヌガヤ、盾は針葉樹と適材適所の樹種が使われている[1]。

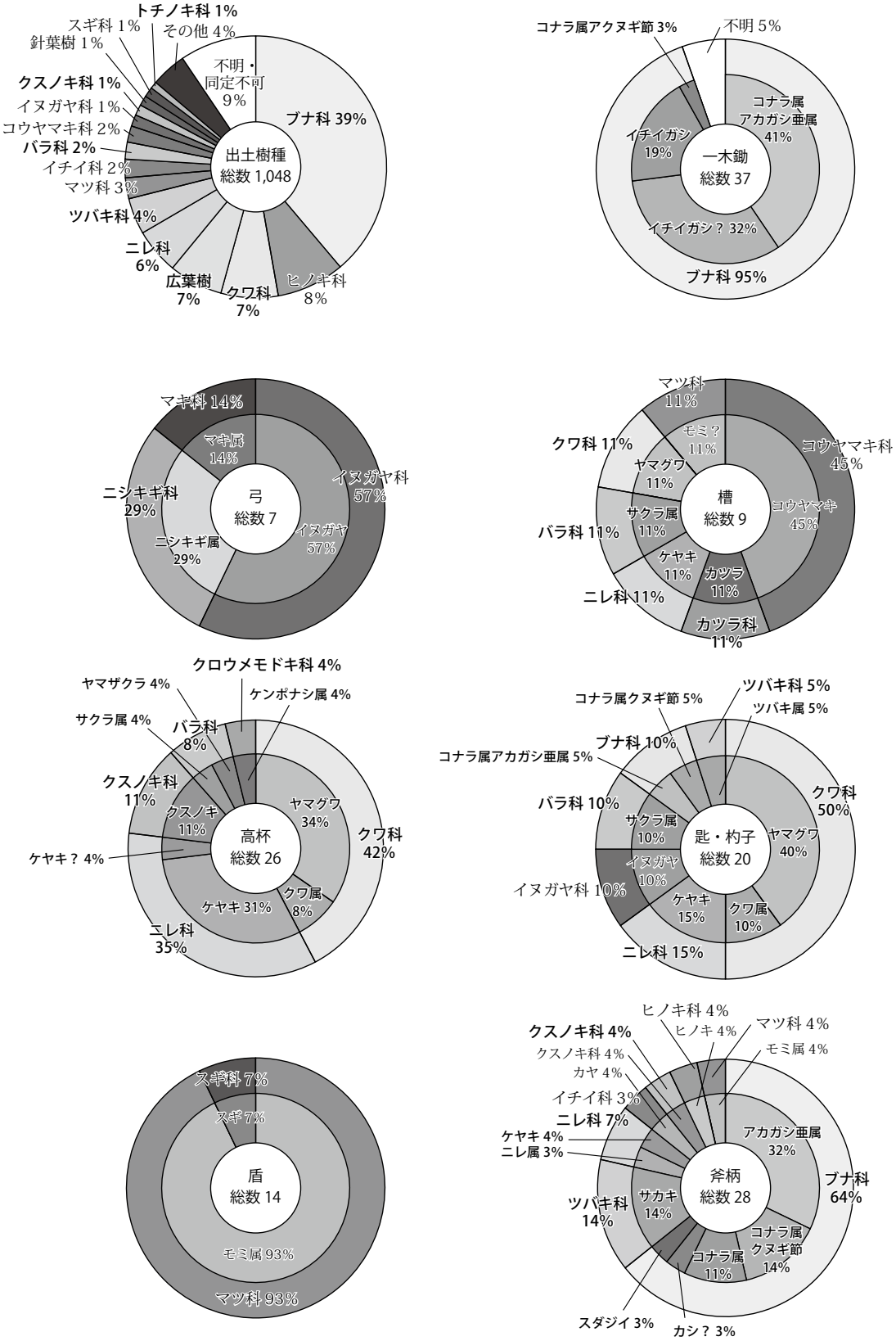
各種木製品の出現時期の分析はおこなっていないが、顕著なものとして木製穂摘具が中期後半（大和第Ⅳ様式）以降、大形木錘と田舟（槽）は後期（大和第Ⅵ様式）以降に出現したとみられる。他の製品は概ね弥生時代中期段階には揃っていると考えられる。漆を塗布するものは、竪櫛を除き、ほぼ前期段階のもので数量的には10点も満たない。全体としては、後期後半以降の木製品の数は、他の時期のものより少ないようである。

木製品の特殊なあり方を示すものがある。匙未成品（第22・23次）や木錘12点（第40・74次）を井戸底・中位に、また、猪下顎骨に穿孔したものやアカニシなどと共に竪杵（第37次）を土坑に、箕や鞘入り石剣、盾、火鑽臼・甕などと共に匙未成品が環濠の凹み（落ち込み）に、卜骨や盾、吉備産大形器台と共に匙未成品（第51次）が井戸に投棄された例などからは、匙が祭祀性のある木製品として扱われていたと想定することも可能である。このほか、環濠掘削後の環濠斜面（第40次）や、方形周溝墓の溝に鋤や鍬を放置した例（第91次）など、これら掘削行為に対する儀礼的な行為を想定できるものもある。

この他、年代を測定した木製品に、大型建物跡の柱がある。唐古・鍵遺跡の調査では、弥生時代中期初頭（第74次）と中期中頃（第93次）の２棟の大型建物跡が見つかっており、その柱穴の一部に柱が残存していた。第74次調査の建物跡では、直径60㎝ほどのケヤキ柱３本とクワの棟持柱が残っており、３本のケヤキ柱のうち、柱を据えた状態のままで出土した２本には目渡穴がなく痩せた柱で、倒された状態の北東の隅柱には目処穴が残り状態も良いものであった。これら２種の柱の違いは、炭素14年代測定法による年代でも異なり、前者は紀元前４～３世紀前半代、後者は下っても紀元前５世紀までの年代が与えられており、100年以上の開きがみられ、これらの違いからは柱が転用されていた可能性も考えられる。第93次調査の建物跡では、弥生時代最大級の直径83㎝のケヤキ柱が見つかっている。炭素14年代測定法では、紀元前275年と同170年頃の可能性がある。

註

（1）田原本町教育委員会『弥生遺産Ⅱ～唐古・鍵遺跡の木製品～』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.17　2014



※　グラフ中の**広葉樹はゴシック体**、針葉樹は明朝体で示した。
※　出土樹種の「その他」には、同定数が５点以下の樹種（ウルシ科、マキ科、ヤナギ科等）を含む。
※　鍬・鋤のうち、身と柄で樹種の異なるものは、身のデータを採用した。

第２図　唐古・鍵遺跡の木製品別にみた樹種選択の傾向

２．石器・石製品の概要

1943 年に発刊された唐古池の発掘調査の成果報告書『大和唐古弥生式遺跡の研究』(1) において、土器や木製品以外の石器の報告も重要である。打製石器においては、各種打製石器の説明とともに、多量に出土する「若干の加工のある剥片の類や単なる核石等」からこの遺跡においては石器製作がおこなわれていたこと、また、打製石器に用いられる「讃岐石」が、二上山産であることを推定した。また、石庖丁においては、出土地点の関係を整理し、前期には「変質安山岩」（流紋岩）を用い背部が直線形で両刃の形式、中期には「輝岩」（結晶片岩）を用い背部が外湾形で片刃の形式に変遷するということを明らかにした。さらに未成品の存在から製作工程や、敲打と錐による穿孔手法などを解明し、近畿地方の石器研究の基礎が作られた。

さて、唐古・鍵遺跡は、弥生時代の全期間を通して継続的に営まれた中核的な大集落であり、多量の土器とともに石器・石製品も数多く出土している。これら石器・石製品の石材の供給は、沖積地に立地する唐古・鍵集落内では困難であり、集落近隣の初瀬川等からの採集、あるいはサヌカイト（二上山西麓）や結晶片岩（紀ノ川中流）、流紋岩（耳成山）などの特定石材については原石採集地からの流通によって獲得していたと考えられる。奥田尚氏の同定によると、近畿地方を主としておおよそ 13 ヶ所から運ばれてきていると推定されている (2)。

唐古・鍵遺跡の発掘調査（第３～ 121 次）で出土した石器・石製品（各調査単位での任意的な自然石サンプルや中世遺構における礎石等を除く）の総量は、おおよそ遺物箱（W34 ㎝ ×D54 ㎝ × H15 ㎝）に換算して約 230 箱である。これらは、弥生時代から近世までのものも含まれるが、石器・石製品としては大半が弥生時代の所産のものである。弥生時代の中での石器・石製品の変遷・数量は把握できていないが、弥生時代前期と後期がかなり少ないので、弥生時代中期の石器・石製品がその主体であったと推定される。

石器･石製品の中で、最も多いのはサヌカイト石材で約 96 箱を占めている。地区別にみると、『唐古・鍵遺跡Ⅰ』の報告 (3) では、南地区（第 61・65・69 次分／調査面積 1,800 ㎡）のサヌカイト総量は約 94 ㎏であり、１㎡あたり約 52ｇである。西地区北部（第 79・80・84・89・93 次分／

写真３　埋納されたサヌカイト原石（第 37 次）

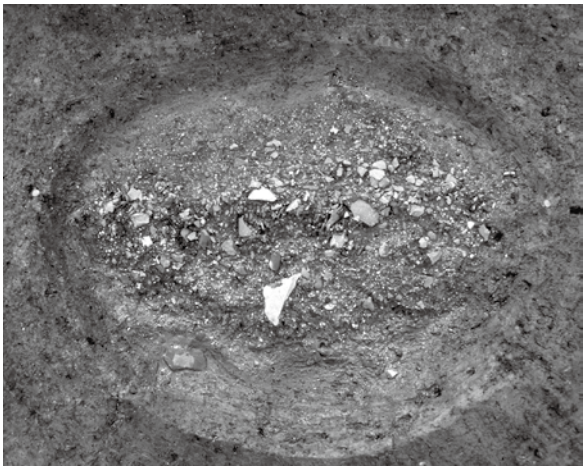
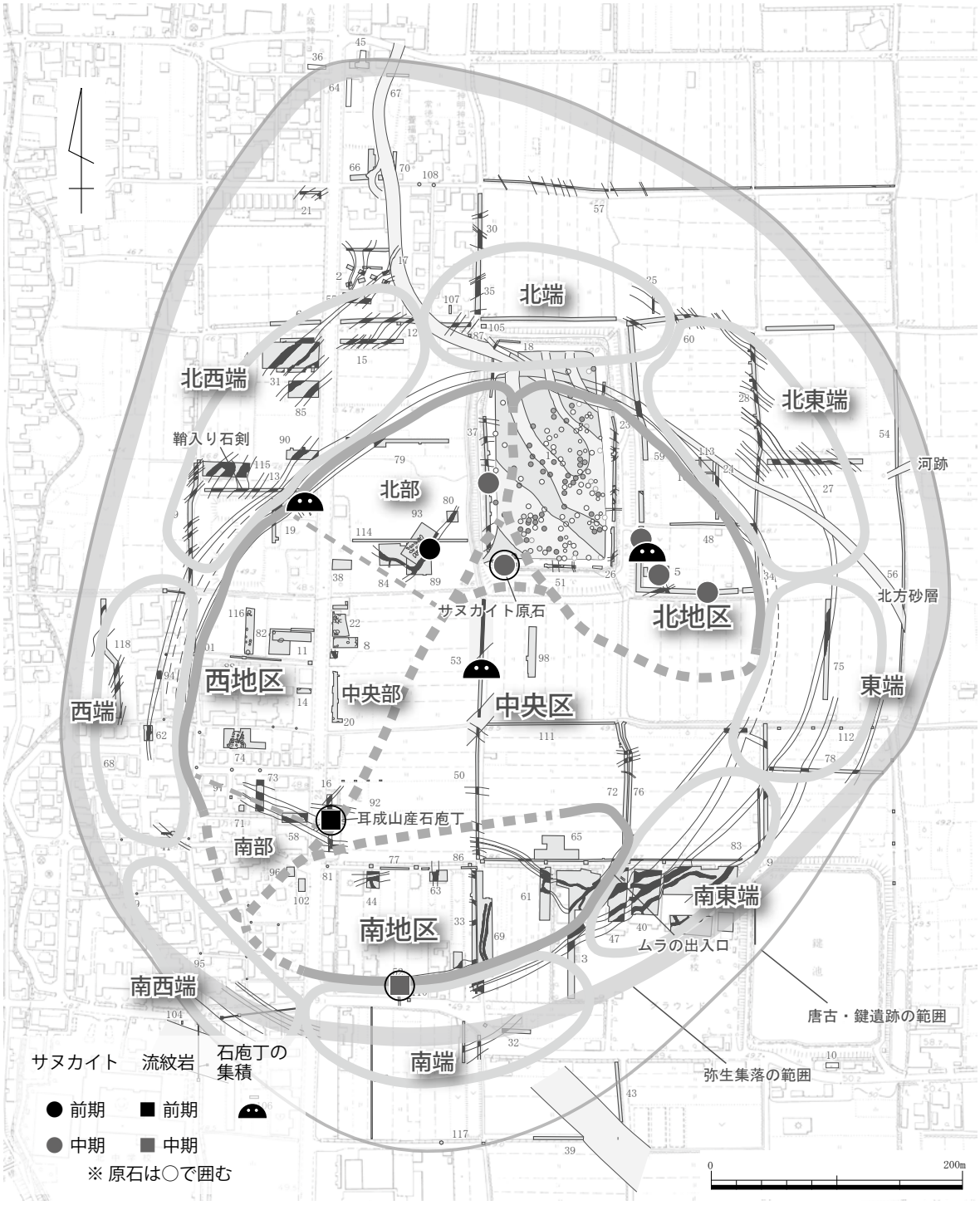


写真４　穴に投棄されたサヌカイト剥片（第 93 次）



第３図　唐古・鍵遺跡の調査成果と地区区分および石器の原石・剥片と石庖丁の集積分布図（Ｓ＝1/5,000）

調査面積 1,752 ㎡）でのサヌカイト総量は約 144 kgであり、１㎡あたり約 81ｇで、特に第 80 次約 180ｇ、第 93 次約 112ｇと群を抜いて多いことが判明している。また、第 79・84 次では石核の点数が多い。中央区（第 98 次分／調査面積 253 ㎡）でのサヌカイト総量は約 37 kg、１㎡あたり約 151ｇで、特に群を抜いて多い。この調査区では未成品や製作失敗品と考えられるものも多くあり、西地区北部から中央区北部にかけて、石器製作に関わる場を想定できよう。上記２地区から

50mほどの地点にはサヌカイト原石が集積された土坑（第 37 次調査 SX-4101）、サヌカイト剥片や失敗品が投棄された土坑（第 37 次調査 SK-2114）があり、このような想定を裏付ける資料となる。

サヌカイト製品の集落でのあり方で、特別な状況を示すものは前述した第 37 次調査例のようなものがあるが、遺跡全体では少ない。唐古・鍵遺跡でのサヌカイト原石の集積は、第 37 次調査例が唯一で、集積された６点のサヌカイト原石の重量は約 2.5、3.1、4.7、6.1、8.4、11.5 ㎏である。この内、重量の重い３点は原石あるいは原石に一打撃のみを加えただけのものである。サヌカイト原石は、これらが最大の大きさであるが、他に、0.8 ㎏（長軸 12 ㎝ × 短軸 10 ㎝）ほどの小形の原石もみられ、集落への搬入の大きさはさまざまのようである。このほか、多量の剥片や失敗品等を集積して大形土坑に投棄した例（第 37・59・93 次）、微細剥片を小ピットに一括廃棄した例（第 5・33・59 次）がある（第３図）。小ピットへの廃棄内容は、最終工程の微細片のみであり、製作途中品等を含む全体の製作と異なる場面を想定する必要があるかもしれない。

一方、磨製石器の主体を占めるのは、石庖丁である。石庖丁の石材は、主として弥生時代前期には流紋岩、中期には結晶片岩が使われている。粘板岩系の石材は、数点である。流紋岩は、唐古・鍵遺跡の南方６㎞にある耳成山産のものが使われている。流紋岩の原石・剥片は、西地区中央部南端の第16次調査地でまとまって出土しており、遺物箱５箱分が出土している。いずれも大溝や土坑に投棄された状態のもので、集積状況を示すものはない。原石は20×35㎝前後で、重量10㎏ほどのものである。この他、第16次調査地の南東110mの第52次調査地や西方20mの第58次調査地においても原石が散見しており、第16次調査地付近が流紋岩の集積地と考えられよう。この流紋岩は硬く、磨製の石庖丁の製作にあたっては結晶片岩と比較して効率が悪い。このことから、中期段階の石庖丁は結晶片岩製に移行・使用された。結晶片岩製石庖丁では、未成品があることから集落内で製品化をおこなっているが、未成品の全長は20㎝ほどのものが最大であるので、素材としても進んだ段階のものが運ばれてきている可能性がある。このような磨製の穂摘具のほか、大形剥片を利用した「大型直縁刃石器」も数点出土しているが、点数的にはごく僅かであり、時期的にも弥生時代の前期段階が中心と考えられる。

写真５　流紋岩原石の出土状況（第 16 次）

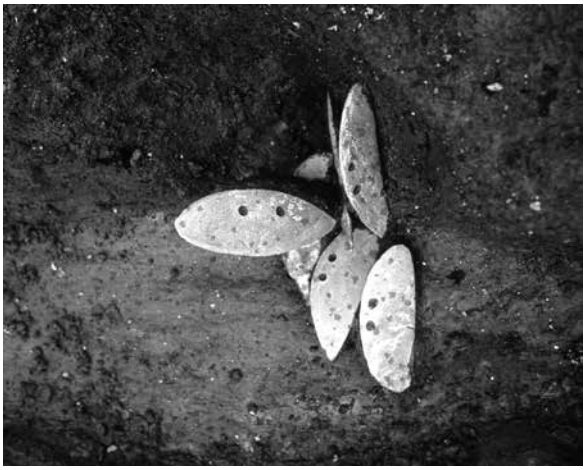


写真６　集積・埋納された石庖丁（第 59 次）

上記のようなサヌカイト製の各種打製石器や磨製石庖丁は、未成品が出土することから唐古・鍵集落内での製作が判明しているが、一方で未成品が出土しない太型蛤刃石斧や抉入り柱状片刃石斧が存在する。ただし、小形の石斧である扁平片刃石斧や柱状片刃石斧は、大形の石斧や石庖丁からの転用品の可能性が高いので、中・大形の石斧が製品として特殊な流通経路をもって唐古・鍵遺跡に運ばれてきたと考えられるであろう。

この他、砥石類では、手持ちと置き型のものがある。形態的には、扁平板状・柱状（撥形）・滴形がある。この中で、鋳造関連遺物が多く出土した南東端の第61・65次調査地から出土した砥石は注目される。金属器を磨くための砥石と考えられる、小形の柱状片刃石斧状のものである。

礫石器の多くは、敲打痕や摩滅痕をもつ調理具と考えられるものである。この中には朱の付着するものも見られることから、朱の精製にかかわる道具も存在したようである。

上記のような日常的な使用が考えられる工具・狩猟具・武器等のほか、特殊な祭祀具も存在する。１つ目は縄文時代の伝統を残す石器群で、石棒（石製品013 ～ 016）や独鈷石（石製品017）、環状石斧（磨製石器223 ～ 225）、多頭石斧（磨製石器226）である。点数的には少なく、前期から中期前半のものが多い。２つ目は青銅祭器との関連を示す矛形石製品（磨製石器222）である。

唐古・鍵遺跡における石器・石製品の概要は、上記のとおりであるが、これとは別に石器の使用方法を示すものが３点ある。いずれも木製品との関連で判明したもので、鞘入り石剣（木製品123／打製石器211）、柄付きの打製石戈（木製品124）、柄付きの石小刀（木製品012／打製石器259）である。いずれも類例のない重要な遺物である。

註

（１）末永雅雄・小林行雄・藤岡謙二郎『大和唐古弥生式遺跡の研究』京都帝国大学文学部考古学研究報告第16冊　1943

（２）奥田尚「第１節　唐古・鍵遺跡出土石器の石種」『唐古・鍵遺跡Ⅰ―特殊遺物・考察編―』田原本町埋蔵文化財調査報告第５集　2009

（３）田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡Ⅰ―遺構・主要遺物編―』田原本町埋蔵文化財調査報告第５集　2009

第Ⅱ部　考古資料目録

第Ⅱ部　凡例

1．遺物は、木器・木製品（以降､「木製品」という）、石器・石製品の順に掲載し、石器・石製品は打製石器、磨製石器、石製品、礫石器の順に掲載した。また、遺物の所属時期は共伴した土器を指標とし、大和土器編年に従い､「大和第○-□様式」と記載した。ただし、石器・石製品については、土器包含層や中世遺構等からの出土であるなどの理由で、詳細な時期を判別できないものについては「弥生時代｣｢弥生時代前・中・後期」と記載した。

2．遺物の掲載に際し、木製品は「MW」、石器・石製品は「MS」から始まる管理番号を付記した。遺物が複数の破片等にわたるものは、それぞれの写真に管理番号の枝番を付した。

3．上記管理番号とともに、次数ごとの製品コードを付記した。これは頭3桁が調査次数、続く5桁を基本的には器種ごとに順に付している。末尾のW･SはWood（木）･Stone（石）の略号である。

4．遺物の大きさの単位は㎝とし、小数点第２位以下を四捨五入し、第１位までを記載した。なお、複数の遺物を単一の観察表にまとめているものは、法量が残存値である場合（　）を、復元値である場合 ※ を用いて表記した。また、木製品は保存処理後の法量である。

5．木製品の保存処理方法は、以下のように略して観察表に記した。

「ラクチトール」……ラクチトール含浸法

「ラクチ・トレハ」……ラクチトール・トレハロース含浸法

「PEG」…… PEG含浸処理法

「脂肪酸」……脂肪酸エステル法

「アルコール」……高級アルコール保存処理法

「アル・キシ」……アルコール・キシレン・樹脂法

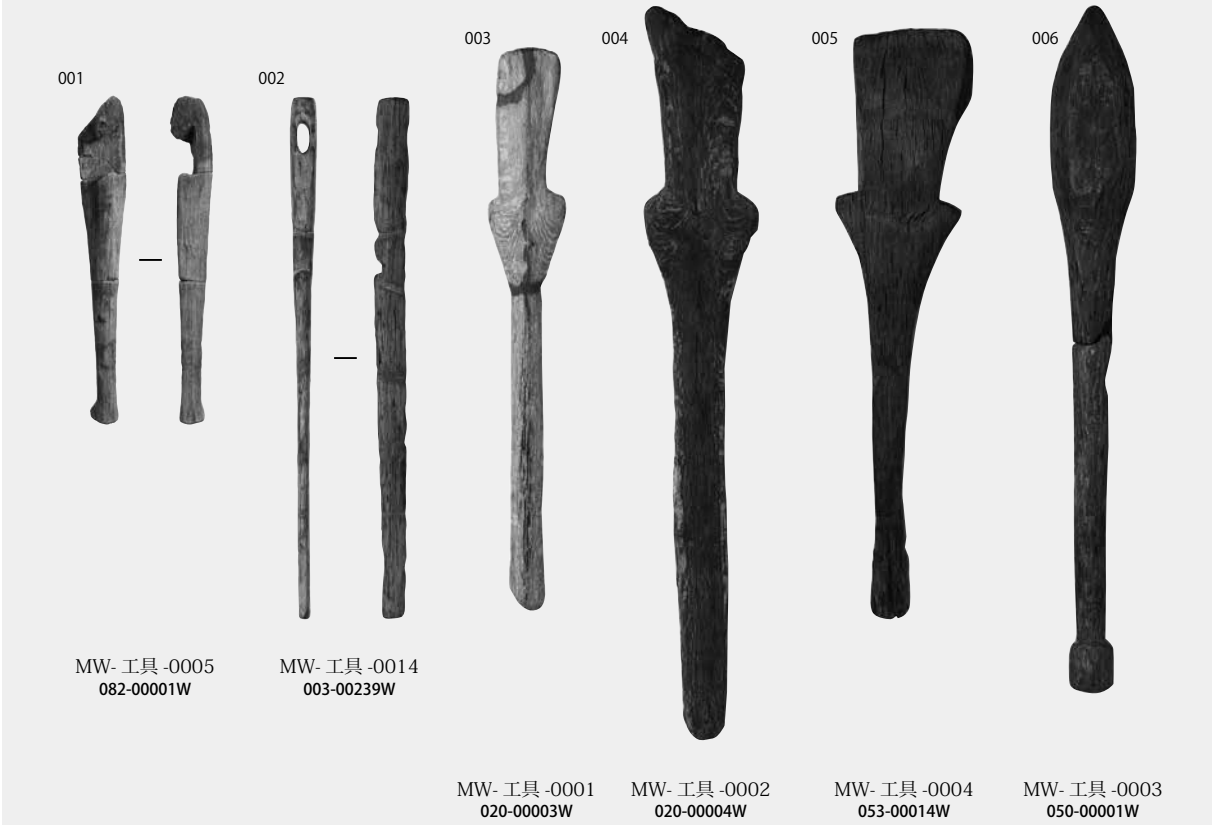
「真空凍結」……真空凍結乾燥法

6．掲載した木製品の写真の縮尺は任意である。石器・石製品は一部を除き縮尺は1/3である。

7．掲載遺物の未接合破片は、巻末に附．遺物図版として掲載した。

001 ～ 006　木製品（工具 / 直柄縦斧柄・未成品）

001 ～ 006



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	樹種	保存処理
001	第 82 次	SK-209	第 3 層	―	W-301	271	大和第Ⅰ-1 様式	(34.7)	5.1	コナラ属クヌギ節	ラクチ・トレハ
002	第 3 次	SD-106	―	黒粘Ⅱ	―	10647	大和第Ⅲ・Ⅳ-1 様式	55.8	3.6	アカガシ亜属	PEG
003	第 20 次	SK-215	第 5 層	青灰色微砂	W-501	759	大和第Ⅰ-2 様式	59.8	8.4	コナラ属アカガシ亜属	PEG
004	第 20 次	SK-215	第 5 層	青灰色微砂	W-503	759	大和第Ⅰ-2 様式	(77.9)	12.3	―	PEG
005	第 53 次	SR-101B	第 6(下) 層	黒褐粘	W-651	384	大和第Ⅱ-1 様式	62.7	13.6	コナラ属アカガシ亜属	脂肪酸
006	第 50 次	SD-106	第 3 層	―	W-301	311	大和第Ⅲ-2 様式	72.9	9.1	コナラ属	脂肪酸

木製品001は、西地区中央部の第82次調査の土坑から出土した直柄縦斧柄である。頭部の一部を欠損する。頭部の断面はやや丸みのある三角形、握り部は楕円形を呈す。小形の直柄で、頭部左側面の装着溝は頭部の中心に向かって広くなる「蟻溝」形態で、石斧等の断面形態に沿わない。握り基部は突起を作り出す。共伴土器は大和第Ⅰ-1様式である。

木製品002は、南東端の第3次調査の環濠から出土した直柄縦斧柄である。頭部から直線的に徐々に細くなる柄で、側面の一部を欠損する。断面は楕円形である。頭部には縦長の楕円孔をあける。共伴土器は大和第Ⅲ・Ⅳ-1様式である。

木製品003・004は、西地区中央部の第20次調査の木器貯蔵穴から、一括出土した直柄縦斧柄未成品である。木製品003は頭部が扇形に広がり、その下位は段を成してくびれる形態である。握り部は棒状を呈す。木製品004は頭部の一部を欠損する。木製品003よりもひとまわり大きく、製作工程も進んでいない。頭部は扇形に広がり、その下位は段を成してくびれる。握り部も太い。いずれも共伴土器は大和第Ⅰ-2-a様式である。

木製品005は、中央区の第53次調査の落ち込み状遺構から出土した直柄縦斧柄未成品である。握り部の太さに比較して頭部がかなり大きい。頭部は扇形に広がり、その下位は段を成してくびれる。頭部の一側辺は直線的である。出土時に土器口縁が頭部に接していたため、土器圧痕の凹みがある。握り部は、基部をやや太くする。共伴土器は大和第Ⅱ-1様式である。

木製品006は、中央区の第50次調査の区画溝から出土した直柄縦斧柄未成品である。柄部の一部を欠損する。握り部からゆるやかにふくらむ頭部をもつ。頭部は上・下面が平坦で、横断面が台形を呈する形態である。握り部の断面は丸く、基部は突起を作り出す。共伴土器は大和第Ⅲ-2様式である。

007　木製品（工具 / 膝柄横斧柄）

本木製品は、西地区中央部の第74次調査の土坑から出土した。完形品。斧台は小さく、その先端は段を成して短くすぼまる。この部分に鹿角製の斧台の間接具（『目録Ⅳ』掲載予定、骨角牙027）が装着されていた。この鹿角製斧台の装着面は前面にあり、幅・長さから小形方柱状石斧が装着された可能性が高い。握り部は斧台に比べて長く、ゆるやかに反っている。共伴土器は大和第Ⅲ-2様式である。

第74次調査
遺構：SK-113
層位：第10層
土色：灰黒色粘砂
取上：　－
№：324
共伴：大和第Ⅲ-2様式
長　さ：38.5
台部長：11.2
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチトール

007

MW- 工具 -0010
074-00002W

間接具（骨角牙製品027）の装着状況

008　木製品（工具 / 膝柄横斧柄）

本木製品は、西北端の第19次調査の環濠から出土した。斧台の一部と握り部下半を欠損する。斧台の後面全体は平坦である。斧台の先端は段を成してひとまわり小さく削り出し、後面を平坦にして装着面とする。前面の先端は小さく、突起を設ける。装着面の幅・長さから小形方柱状石斧が装着された可能性が高い。共伴土器は大和第Ⅲ-1様式である。

第19次調査
遺構：SD-204
層位：第10層
土色：黒粘
取上：　－
№：859
共伴：大和第Ⅲ-1様式
残存長：17.0
台部長：14.7
樹種：カヤ
保存処理：ラクチトール

008

MW- 工具 -0008
019-00018W

009　木製品（工具 / 膝柄横斧柄）

本木製品は、西地区中央部の第16次調査の区画溝から出土した。握り部の下半を欠損する。斧台後面の装着面は一段削り込み、その中央は僅かに凹む。それに対応する斧台前面の中央は、緊縛用に一段削り込む。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

第16次調査
遺構：SD-101
層位：　－
土色：黒褐色砂質土
取上：W-03
№：79
共伴：大和第Ⅱ-3様式
残存長：29.7
台部長：18.5
樹種：　－
保存処理：PEG

009

MW- 工具 -0006
016-00005W

010

MW- 工具 -0015
003-00079W

010　木製品（工具 / 膝柄横斧柄）

本木製品は、南東端の第３次調査の環濠から、木製品037・038・041・052 ～ 054・057・076・188とともに出土した。握り部の下端を欠損する。斧台後面の装着面は一段削り込む。削り込み部分は、17.5㎝の長さがある。斧台前面の先端は、緊縛用に一段削り込む。共伴土器は大和第Ⅴ様式である。

第３次調査
遺構：SD-102
層位：　－
土色：黒粘Ⅱ
取上：W-07
№：10560
共伴：大和第Ⅴ様式
残存長：35.0
台部長：22.4
樹種：コナラ
保存処理：PEG

011

MW- 工具 -0011
026-00003W

011　木製品（工具 / 膝柄横斧柄未成品）

本木製品は、北地区の第26次調査の井戸から出土した。斧台の一部を欠損する。斧台と握り部をほぼ成形したものである。斧台は長く、後面は平坦である。握り部の断面は細く丸い。共伴土器は大和第Ⅱ-3-b様式である。

第26次調査
遺構：SK-1102
層位：第５層
土色：黒粘
取上：W-501
№：392
共伴：大和第Ⅱ-3様式
長　さ：47.2
台部長：25.9
樹種：　－
保存処理：ラクチトール

012

MW- 工具 -0012 (MS- 打他 -0089)
033-00105W (033-00408S)

012　木製品（工具 / 石小刀柄）

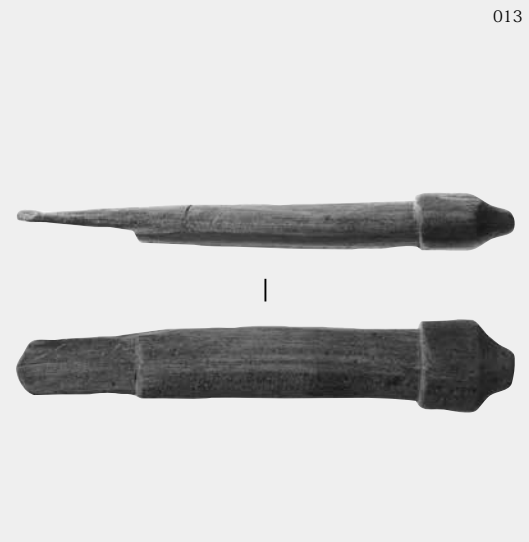
本木製品は、南地区の第33次調査の井戸から出土した。柄部は完形で、石小刀の刃部（打製石器259）は折損する。柄部は、基部がやや太く、先端に向かってすぼまる形態である。丸棒の先端にスリットを入れ、石小刀の基部を差し込み、樹皮で全面を緊縛している。樹皮は、石小刀の圧力によって一部切れている。共伴土器は大和第Ⅱ-3-b様式である。

第33次調査
遺構：SK-123
層位：第２層
土色：灰黒粘
取上：W-208
№：603
共伴：大和第Ⅱ-3様式
長さ：5.9
幅　：2.2
樹種：　－
保存処理：ラクチ・トレハ

013　木製品（工具 / 柄）

本木製品は、北西端の第13次調査の環濠から出土した。完形品。柄部は、基部から先端に向かってややすぼまる形態で、基部は一段太く作り出している。断面は、縦長の楕円形を呈す。先端は、片面を一段削り込み、工具の装着面とする。また、その反対面の先端は突起を設け、緊縛用の紐かけを作り出す。共伴土器は大和第Ⅳ-2・Ⅴ-1様式である。

第13次調査
遺構：SD-102
層位：　－
土色：植物層
取上：　－
№：110
共伴：大和第Ⅳ-2・Ⅴ-1様式
長さ：9.2
幅　：1.7
樹種：　－
保存処理：アル・キシ



MW- 工具 -0013
013-00017W

014　木製品（農具 / 狭鍬身）

本木製品は、北西端の第19次調査の木器貯蔵穴から出土した。完形品。縦長の短冊形で、刃部は丸くなっている。柄孔の隆起は紡錘形を呈すが、上部は丸く、下部は細長く尖った形態である。後面は全体に炭化する。共伴土器は大和第Ⅱ-2様式である。

第19次調査
遺構：SK-1101
層位：第4層
土色：灰黒粘
取上：W-401
№：565
共伴：大和第Ⅱ-2様式
長さ：34.7
幅　：10.7
樹種：イチイガシ？
保存処理：PEG

MW- 農具 -0009
019-00006W

015　木製品（農具 / 狭鍬身）

本木製品は、南地区の第61次調査の区画溝から出土した。刃部・上端を欠損する。縦長の短冊形であるが、刃部がやや広がり丸くなっている。右側辺の上端は、僅かにくびれをもつ。柄孔の隆起は紡錘形を呈すが、上部は丸く、下部は細長く尖った形態である。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

第61次調査
遺構：SD-151CN
層位：第7層
土色：暗灰褐粘
取上：　－
№：1451
共伴：大和第Ⅱ-3様式
残存長：30.3
幅　：9.1
樹種：イチイガシ？
保存処理：ラクチ・トレハ

MW- 農具 -0076
061-00009W

016　木製品（農具 / 狭鍬）

本木製品は、南東端の第40次調査の環濠から、鍬身に柄が装着された状態で出土した。柄の基部は僅かに突起を作り出す。鍬身は縦長の短冊形で、右側面を欠損する。柄孔の隆起は後面にあり、紡錘形を呈すが、上部は丸く、下部は細長く尖った形態である。共伴土器は大和第Ⅱ-1様式である。

第 40 次調査
遺構：SD-104B
層位：第 4(下) 層
土色：　－
取上：W-401
№：378
共伴：大和第Ⅱ-1 様式
長　さ：107.3
身部長：43.4
樹種：身-コナラ属アカガシ亜属、柄-ヤマグワ
保存処理：ラクチトール

017　木製品（農具 / 平鍬身）

本木製品は、北西端の第19次調査の木器貯蔵穴から出土した。側辺の一部を欠損する。縦長の長方形で、刃部は上端よりやや広い。左右側辺は中央よりやや上でくびれ部をもつ。このくびれ部とほぼ同じ位置に柄孔をあける。柄孔の隆起は紡錘形を呈すが、上部は丸く、下部は細長く尖った形態である。共伴土器は大和第Ⅱ-2様式である。

第 19 次調査
遺構：SK-1102
層位：第 4 層
土色：黒粘
取上：W-405
№：555
共伴：大和第Ⅱ-2 様式
長さ：31.6
幅　：19.5
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：PEG

018　木製品（農具 / 平鍬）

本木製品は、南東端の第40次調査の環濠から、鍬身に柄が装着された状態で出土した。右側辺の一部を欠損する。鍬身は、左右側辺が上端でくびれ部をもつ形態で、縦長の三角形に台形を呈す頭部がつく。刃部はやや丸い。このくびれ部とほぼ同じ位置に柄孔をあける。柄孔の隆起は後面にあり、紡錘形を呈すが、上部は丸く、下部は細長く尖った形態である。共伴土器は大和第Ⅱ-2様式である。

第 40 次調査
遺構：SD-104B
層位：第 4 層
土色：灰黒粘
取上：　－
№：351
共伴：大和第Ⅱ-2 様式
長　さ：28.2
残存幅：16.2
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチ・トレハ

019　木製品（農具 / 平鍬）

019

MW- 農具 -0047
051-00004W

第 51 次調査
遺構：SK-104
層位：第 5 層
土色：　－
取上：W-513
№：120
共伴：大和第Ⅴ-1 様式
身部長：24.2
身部幅：18.8
樹種：身-コナラ属アカガシ亜属、柄-不明
保存処理：ラクチ・トレハ

本木製品は、北地区の第51次調査の井戸から、盾（木製品118）等とともに、鍬身に柄が装着された状態で出土した。柄は腐食のため細く、断片となる。鍬身は右側辺の一部を欠損する。側辺上端にくびれ部をもち、縦長の台形を呈す。刃部はやや丸い。柄孔の隆起は後面にあり、上部が丸みのある舟形で、下部がやや尖る。前面の上端には、泥除装着のための段を設ける。段下部は、泥除が外れにくくなるように内側に抉り込む。また、段の下側は、柄孔の上端より斜めに削り込み、泥除の接着面を増やしている。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

020　木製品（農具 / 平鍬身）

020

MW- 農具 -0071
090-00001W

第 90 次調査
遺構：SD-101C
層位：第 16(下) 層
土色：　－
取上：W-1655
№：92
共伴：大和第Ⅴ-1 様式
長　さ：21.9
残存幅：19.4
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチ・トレハ

本木製品は、北西端の第90次調査の環濠から出土した。左側辺の一部を欠損する。上端が内湾ぎみにすぼまる縦長の長方形を呈す。柄孔の位置から刃部は使用により、かなり磨り減っていると思われる。柄孔の隆起部は後面にあり、ほぼ円形を呈すが、下部がやや尖っている。前面の上端には、泥除装着のための段を設ける。段下部は、泥除が外れにくくなるよう内側に抉り込んでいる。また、段の下側は、柄孔の上端より斜めに削り込むことで泥除の接着面を増やしている。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

021

MW- 農具 -0070
029-00001W

021　木製品（農具 / 平鍬）

本木製品は、北西端の第29次調査の環濠から出土した。鍬身の右側辺部と刃部、柄の下半を欠損する。上端が内湾ぎみにすぼまる縦長の長方形を呈す。柄孔の隆起部は後面にあり、柄孔部から緩やかに薄くなる。前面の上端には、泥除装着のための段が横方向に作られている。装着された泥除が外れにくいように、段は下部が内側に抉られている。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

第 29 次調査
遺構：SD-110
層位：第 2 層
土色：植物層
取上：W-201
№：37
共伴：大和第Ⅴ-1 様式
身部残存長：19.7
身部残存幅：14.1
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：脂肪酸

022

MW- 農具 -0020
033-00013W

022　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、南地区の第33次調査の木器貯蔵穴から、後述の一木鋤未成品（木製品059・060）・用途不明未成品（木製品218）とともに出土した。完形品。身の形態は縦長の長方形で、柄孔があけられ、隆起部は下部が尖った舟形に削り出している。両側辺は薄く仕上げられているが、刃は無く、厚みがあることから、刃をつける最終工程前の未成品である。共伴土器は大和第Ⅱ-1-b様式である。

第 33 次調査
遺構：SK-208
層位：第 5 層
土色：灰褐粘
取上：W-501
№：1072
共伴：大和第Ⅱ-1 様式
長さ：27.2
幅：14.5
樹種：イチイガシ？
保存処理：PEG

023　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、西地区中央部の第38次調査の木器貯蔵穴から、高杯未成品（木製品163）とともに出土した平鍬身未成品である。ほぼ完形品。上端が丸くなるが、幅広の長方形の形態である。隆起部はほぼ円形に削り出し、その上面には２㎝ほど抉る未完通の柄孔がある。身の厚みは１㎝ほどで、形・厚みともほぼ整えられており、刃部調整と柄孔製作途中の未成品である。共伴土器は大和第Ⅰ-1-b様式である。

第38次調査
遺構：SK-208
層位：第２層
土色：　－
取上：W-202
№：177
共伴：大和第Ⅰ-1様式
長さ：25.8
幅　：20.5
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチトール

023

MW- 農具 -0074
038-00006W

024　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、北地区の第23次調査の土坑から、後述の平鍬身未成品（木製品025）とともに出土した。刃部右端および上右端が欠損する。上端から刃部に向かってゆるやかに広がる身部で、左右両側辺の上端には三角形の突起部を作り出す。後面の隆起部は、上端が丸く、下方へ細長く尖った舟形である。隆起部の上面には約1.4㎝ほど抉った未完通の柄孔がある。身の厚みは、1.1㎝ほどで、形・厚みともほぼ整えられており、刃部調整と柄孔製作途中の未成品である。共伴土器は大和第Ⅱ-3-b様式である。

第23次調査
遺構：SK-151
層位：第５層
土色：灰黒色砂質土
取上：W-502
№：338
共伴：大和第Ⅱ-3様式
長さ：33.8
幅　：21.8
樹種：カシ
保存処理：脂肪酸→PEG

024

MW- 農具 -0038
023-00010W

025　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、北地区の第23次調査の土坑から、前述の平鍬身未成品（木製品024）とともに出土した。刃部左端および上右端、柄孔隆起部の一部が欠損する。身部は上端がやや細くなるが、ほぼ縦長の長方形を呈する。隆起部は、下部が細く尖るタイプであるが、まだ形態的に整えられておらず、柄孔も無い。左側辺部が厚いが、右側辺部や刃部が薄く不揃いで、形を整える段階の未成品である。共伴土器は大和第Ⅱ-3-b様式である。

第23次調査
遺構：SK-151
層位：第５層
土色：灰黒色砂質土
取上：W-505
№：338
共伴：大和第Ⅱ-3様式
長さ：44.1
幅　：22.5
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチ・トレハ

025

MW- 農具 -0058
023-00007W

026　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、南地区の第33次調査の区画溝から出土した。ほぼ完形品。身部は長方形を呈す。紡錘形の隆起部で、柄孔はまだ無い。身の厚みは、0.7㎝ほどで、形態的にはかなり整えられている段階の未成品である。木製品の表面は、土中埋没中に乾燥した段階があったと考えられ、収縮痕がみられる。共伴土器は大和第Ⅱ-1様式である。

第33次調査
遺構：SD-205
層位：第2層
土色：灰黒粘
取上：W-203
№：1026
共伴：大和第Ⅱ-1様式
長さ：29.0
幅：16.0
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチトール

027　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、西地区中央部の第22次調査の井戸上層から出土した。右上端部の一部を欠損する。身部は長方形を呈す。隆起部は細長い紡錘形を呈し、柄孔はまだ無い。身の厚みは1㎝ほどで、形態的にはかなり整えられており、刃部調整と柄孔穿孔前の段階の未成品である。共伴土器は大和第Ⅱ-3-a様式である。

第22次調査
遺構：SK-1101
層位：第3層
土色：黒粘
取上：W-309
№：366
共伴：大和第Ⅱ-3様式
長さ：31.6
幅：16.1
樹種：イチイガシ
保存処理：脂肪酸→PEG

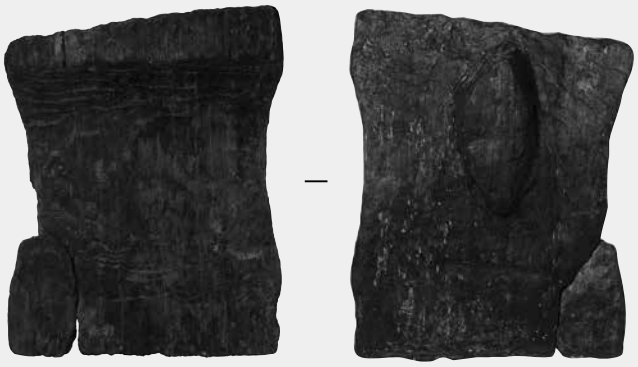
028　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、西地区中央部の第20次調査の区画溝から出土した。両側縁を微欠するが、ほぼ完形品。身部は長方形を呈すが、両側辺はやや内湾ぎみになる。上端に紡錘形の隆起部を削り出すが、柄孔はまだ無い。身の厚みは2.6㎝ほどで、上下端は連続する身部からの切断痕が残っており、切り離した段階の未成品である。共伴土器は大和第Ⅰ-2様式である。

第20次調査
遺構：SD-201
層位：第5層
土色：灰黒粘
取上：W-546
№：686
共伴：大和第Ⅰ-2様式
長さ：41.2
幅：22.2
樹種：アカガシ亜属
保存処理：脂肪酸→PEG

029　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

029



MW- 農具 -0066
037-00001W

第 37 次調査
遺構：SD-4201
層位：第 1 層
土色：黒灰粘
取上：W-01
№：908
共伴：大和第 I 様式
長さ：40.7
幅：32.6
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチ・トレハ

本木製品は、北地区の第37次調査の区画溝から出土した。側縁を小欠するが、ほぼ完形品。身部は長方形を呈すが、両側辺はやや内湾ぎみになる。上端には、紡錘形の隆起部を削り出すが、まだ柄孔は無い。前面の上端部と下端部に幅広の平坦面を設けるが、両端部を除く部分は内湾する。身の厚みは1.5㎝ほどである。下端部は連続する身部からの切断痕が残っている。共伴土器は大和第 I 様式である。

030　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、西地区中央部の第16次調査の土坑から、縦杓子未成品（木製品141）とともに出土した。ほぼ完形品。２連の平鍬身の未成品である。２つの平鍬の身部は長方形を呈すが、両側辺はやや内湾ぎみになる。上下端には２つの紡錘形の隆起部を削り出すことによって、向かい合う身部となる。柄孔はまだ無い。身の厚みは2.5㎝ほどで、平鍬を切断する前の未成品である。共伴土器は大和第 I -2-b 様式である。

第 16 次調査
遺構：SX-102
層位：　－
土色：黒粘Ⅲ
取上：W-07
№：224
共伴：大和第 I -2 様式
長さ：74.4
幅：21.5
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：PEG

030

MW- 農具 -0021
016-00009W

031

MW- 農具 -0014
023-00004W

031　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、北地区の第23次調査の井戸上層から、後述の組合せ鋤身未成品（木製品066）とともに出土した。後面の上端部一部欠損。身部上端からゆるやかに広がり、中央部から直線的に刃部にいたる形態である。身部上半の中央に柄孔があけられる。明瞭な柄孔隆起部はなく、柄孔部から徐々に薄くなる。右側辺部は薄いが、刃部や左側辺部は２㎝ほどあり、薄く仕上げる前段階の未成品である。共伴土器は大和第Ⅲ-4様式である。

第23次調査
遺構：SK-113
層位：第４層
土色：灰黒色粘質土
取上：W-401
№：402
共伴：大和第Ⅲ-4様式
長さ：29.8
幅：20.4
樹種：イチイガシ？
保存処理：PEG

032　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

032

MW- 農具 -0056
069-00009W

本木製品は、南地区の第69次調査の環濠から、後述の泥除未成品（木製品051）とともに出土した。完形品。身部上端から1/3程度ゆるやかに広がり、その下は直線的に刃部にいたる形態である。前面の上端には、泥除装着のための横方向の段が作られており、その下位の柄孔にあたる部分を大きく刳り込んでいる。身上端の厚みは約７㎝もあり、後面の柄孔周囲の調整をする前段階の未成品と考えられる。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

第69次調査
遺構：SD-1109
層位：第６層
土色：　－
取上：W-680
№：1003
共伴：大和第Ⅴ-1様式
長さ：30.7
幅：23.1
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチトール

033　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、南東端の第３次調査の環濠から出土した。完形品である。身部の平面形態は、上端から下方へ徐々に広がり、下半は縦長の台形を呈する。身部後面は平坦で、前面は身部中央にふくらみのある形態である。厚みは左側辺が薄く（約0.8㎝）、右側辺が厚い（約2.5㎝）。共伴土器は大和第Ⅴ様式である。

第３次調査
遺構：SD-102
層位：　－
土色：黒粘Ⅰ
取上：　－
№：10553
共伴：大和第Ⅴ様式
長さ：45.3
幅　：14.9
樹種：アカガシ亜属
保存処理：PEG

033

MW- 農具 -0087
003-00018W

034　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、南地区の第63次調査の区画溝から出土した。後述する木製品035・036と一括品で、形態や大きさから３連結した未成品を切り離したものであろう。後面上端の一部を欠く。身部上端からゆるやかに広がり、中央部から直線的に刃部にいたる形態である。身部上半から徐々に薄くなる。左側辺が厚く、右側辺は薄い。前・後面には多数の刃線痕がみられる。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

第63次調査
遺構：SD-103A
層位：第3(下)層
土色：暗灰粘
取上：W-354
№：311
共伴：大和第Ⅴ-1様式
長さ：30.2
幅　：19.1
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：脂肪酸

034

MW- 農具 -0077
063-00004W

035　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、南地区の第63次調査の区画溝から、木製品034・036とともに出土した。完形品。身部上端からゆるやかに広がり、中央部から直線的に刃部にいたる。身部上半から徐々に薄くなる。右側辺が厚く、左側辺は薄い。上端の切断面は斜めで大きい。前・後面には多数の刃線痕がみられる。木製品034とほぼ同段階の製作工程で、身の厚みを減ずる途中段階の未成品である。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

第63次調査
遺構：SD-103A
層位：第3(下)層
土色：暗灰粘
取上：W-356
№：311
共伴：大和第Ⅴ-1様式
長さ：29.3
幅　：18.6
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：脂肪酸

035

MW- 農具 -0078
063-00005W

036

MW- 農具 -0079
063-00006W

036　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、南地区の第63次調査の区画溝から木製品034・035とともに出土した。完形品。身部上端からゆるやかに広がり、中央部から直線的に刃部にいたる形態である。身部上半から徐々に薄くなる。右側辺が厚く、左側辺は薄い。前面には刃線痕がみられる。本木製品は、木製品034・035より厚みがあり、後面の刃線痕がみられないことから、工程的には一段階遅れているものである。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

第63次調査
遺構：SD-103A
層位：第3(下)層
土色：暗灰粘
取上：W-358
№：311
共伴：大和第Ⅴ-1様式
長さ：33.0
幅：19.9
樹種：イチイガシ
保存処理：脂肪酸

037

MW- 農具 -0088
003-00063W

037　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から、木製品010・038・041・052～054・057・076・188とともに出土した。完形品である。身部は、縦長の長方形を呈し、左側辺上端がやや細くなる。前面は平坦で、後面側がやや丸みをもつ。上端には切断痕がみられることから、連結された平鍬身未成品の切り離された1つである。厚みは右側辺が薄く（約1.5㎝）、左側辺が厚い（約3.5㎝）。共伴土器は大和第Ⅴ様式である。

第3次調査
遺構：SD-102
層位：　―
土色：黒粘Ⅱ
取上：W-23
№：10579
共伴：大和第Ⅴ様式
長さ：38.3
幅：22.0
樹種：アカガシ亜属
保存処理：PEG

038

MW- 農具 -0089
003-00064W

038　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から、木製品010・037・041・052～054・057・076・188とともに出土した。完形品である。身部は、縦長の長方形を呈し、左側辺上端がやや細くなる。前面は平坦で、後面側がやや丸みをもつ。上端には切断痕がみられることから、連結された平鍬身未成品の切り離された1つである。前面の上端は斜めに切断されている。後面には、縦方向の刃線痕が残る。厚みは右側辺が薄く（約1㎝）、左側辺が厚い（約3㎝）。共伴土器は大和第Ⅴ様式である。

第3次調査
遺構：SD-102
層位：　―
土色：黒粘Ⅱ
取上：　―
№：10578
共伴：大和第Ⅴ様式
長さ：22.3
幅：15.2
樹種：アカガシ亜属
保存処理：PEG

039　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、南地区の第37次調査の井戸中層から出土した。完形品。身部上端は水平でなく斜めに切断されている。その上端からゆるやかに広がり、下部から直線的になり刃部にいたる。身の厚みは上端で７㎝、刃部で５㎝ほどあり全体に厚いが、特に後面の柄孔隆起部は意識されて厚い。また、左側辺が厚く、右側辺は薄い。単品として切断された段階の未成品であろう。共伴土器は大和第Ⅱ-3-b様式である。

第37次調査
遺構：SK-2139
層位：第５層
土色：灰黒粘
取上：W-501
№：1066
共伴：大和第Ⅱ-3様式
長さ：37.5
幅：26.4
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチ・トレハ

039

MW- 農具 -0048
037-00059W

040　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、西地区北部の第79次調査の土坑から出土した。完形品。２連の平鍬身の未成品である。２つの平鍬の身部は上端からゆるやかに広がり、中央部から直線的に刃部にいたる形態である。柄孔にあたる部分が厚く、刃部方向に薄くなる。後面には斜位の刃線痕が多数残る。単品に切り離す直前の未成品である。共伴土器は大和第Ⅳ-1様式である。

第79次調査
遺構：SK-130
層位：第５層
土色：　－
取上：W-502
№：653
共伴：大和第Ⅳ-1様式
高さ：61.1
幅：24.3
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチ・トレハ

040

MW- 農具 -0046
079-00002W

041

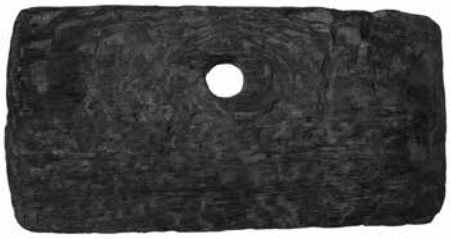
MW- 農具 -0044
003-00068W

041　木製品（農具 / 平鍬身未成品）

本木製品は、南東端の第３次調査の環濠から、木製品010・037・038・052 ～ 054・057・076・188とともに出土した。片方の先端を僅かに欠くが、ほぼ完形品である。両端に身部、中央に頭部を作り出した杵状を呈す２連の曲柄平鍬身の未成品である。身部は、上端から刃部にかけてゆるやかにやや広がる形態である。身部先端の一方は約1.5㎝と薄いが、全体の厚みは3.0㎝ほどでほぼ均一である。共伴土器は大和第Ⅴ様式である。

第３次調査
遺構：SD-102
層位：　－
土色：黒粘Ⅱ
取上：W-20
№：10575
共伴：大和第Ⅴ様式
長さ：106.2
幅　：14.3
樹種：アカガシ亜属
保存処理：PEG

042



MW- 農具 -0075
049-00001W

042　木製品（農具 / 横鍬身）

本木製品は、南地区の第49次調査の大溝から出土した。左側辺の一部を欠く。横長の長方形を呈す形態で、身部中央やや上側に柄孔をあける。柄孔部が厚く、徐々に刃部・側辺部に向かって薄くなる。特に側辺部の先端は、刃部より鋭い。共伴土器は大和第Ⅲ-3様式である。

第 49 次調査
遺構：SD-108
層位：東壁第４層
土色：　－
取上：　－
№：241
共伴：大和第Ⅲ-3 様式
長さ：19.0
幅　：36.6
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：脂肪酸

043　木製品（農具 / 又鍬身）

本木製品は、南地区の第33次調査の区画溝から出土した。身部両側辺と刃部の一部を欠損する。横長の身部中央に柄孔をあけ、柄孔部分は後面側が僅かにふくらむ。刃部は丸棒状で細く、2本が残存するが長さは不揃いである。共伴土器は大和第Ⅱ-2様式である。

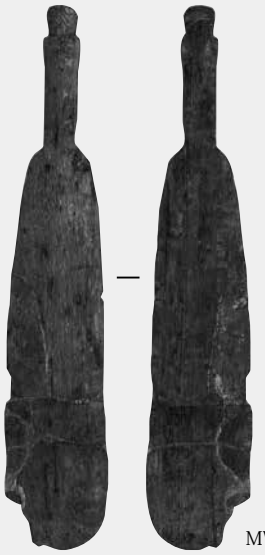
第33次調査
遺構：SD-202B
層位：第5層
土色：灰黒粘
取上：　－
№：1063
共伴：大和第Ⅱ-2様式
残存長：22.9
残存幅：10.5
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチトール

044　木製品（農具 / 又鍬身）

本木製品は、南地区の第33次調査の土坑から出土した。刃部の両先端を欠損する。頭部から刃部へはゆるやかに広がる「ナデ肩」である。ほぼ同じ幅の刃部は、ほぼ真っ直ぐにのびる。横断面は蒲鉾形で、前面は平坦で、後面は丸くなっている。刃部の厚みは1.5㎝ほどで均一である。共伴土器は大和第Ⅲ-1様式である。

第33次調査
遺構：SK-134
層位：第4層
土色：灰黒粘
取上：W-401
№：515
共伴：大和第Ⅲ-1様式
残存長：79.8
幅　：11.7
樹種：イチイガシ
保存処理：ラクチ・トレハ

045



MW- 農具 -0086
003-00415W

045　木製品（農具 / 又鍬身）

第 3 次調査
遺構：Pit-105
層位：　－
土色：　－
取上：W-13
№：10648
共伴：大和第Ⅵ-2 様式
長さ：66.8
幅：12.8
樹種：アカガシ亜属
保存処理：PEG

本木製品は、南東端の第３次調査の土坑から、絵画土器・記号土器（『目録Ⅳ』掲載予定、補遺絵画130・補遺記号096～098・102・104）とともに出土した。刃部の先端と側縁、肩部を僅かに欠く。頭部は直線的で、刃部へはゆるやかに広がるナデ肩で身部は長い。刃部先端が広がる。頭部の横断面は蒲鉾形で、前面は平坦、後面が丸くなっている。頭部の端部近くに抉りを入れる。刃部の厚みは1.5㎝ほどで均一である。共伴土器は大和第Ⅵ-２様式である。

046

MW- 農具 -0080
079-00003W

046　木製品（農具 / 鍬曲柄）

第 79 次調査
遺構：SD-101B
層位：第 7 層
土色：　－
取上：W-701
№：401
共伴：大和第Ⅳ様式
残存長：22.1
残存高：19.8
樹種：サカキ
保存処理：ラクチ・トレハ

本木製品は、西地区北部の第79次調査の環濠から出土した。柄の大半を欠損する。鍬身の刃部方向へ頭部が屈曲してのびる膝柄である。頭部は幹部分、柄は枝部分を利用する。頭部（鍬台）は、鍬身との装着面を平坦に削り、台部前面の上下端は緊縛のための突起を削り出している。共伴土器は大和第Ⅳ様式である。

047

MW- 農具 -0002
013-00026W

047　木製品（農具 / 泥除）

第 13 次調査
遺構：SD-106C
層位：第 7 層
土色：砂質土Ⅱ
取上：　－
№：386
共伴：大和第Ⅲ-3･4 様式
残存長：15.7
残存幅：35.1
樹種：イチイガシ？
保存処理：PEG

本木製品は、北西端の第13次調査の環濠から出土した。泥除は、柄孔から上端の一部を欠損するが、欠損面を再加工している。また、土圧のため変形しているが、中央がふくらむようである。上端には鍬と緊縛するための小円孔を穿っていることから泥除と考えられる。ただし、泥除とした場合、形態的には隅丸の台形を呈すところが、逆台形である。柄孔周辺部に焼痕がある。共伴土器は大和第Ⅲ-３・４様式である。

048　木製品（農具 / 泥除未成品）

本木製品は、西地区北部の第37次調査の土坑から出土した。下端を欠損する。やや横長の半円形を呈す。前面中央がふくらみ、それに対応するように後面の周縁を残して中央を僅かに抉っている。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

第37次調査
遺構：SK-2102
層位：第3層
土色：黒粘
取上：　－
№：1062
共伴：大和第Ⅱ-3様式
残存長：17.6
残存幅：27.9
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチ・トレハ

048

MW- 農具 -0073
037-00040W

049・050　木製品（農具 / 泥除未成品）

049・050

049

MW- 農具 -0006
019-00001W

050

MW- 農具 -0007
019-00002W

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	樹種	保存処理
049	第19次	SK-102	第8(上)層	黒色粘質土	W-801	777	大和第Ⅴ-1様式	31.2	31.6	コナラ属アカガシ亜属	PEG
050	第19次	SK-102	第7層	黒粘	W-703	736	大和第Ⅴ-1様式	25.0	30.3	イチイガシ?	PEG

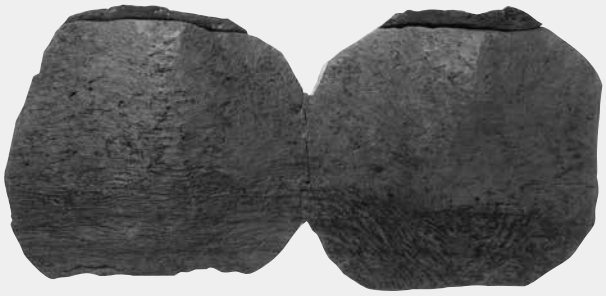
木製品049は、西地区中央部の第19次調査の井戸上層から、後述の木製品050とともに出土した泥除未成品である。完形品。２連あるいは３連の泥除未成品の右端の泥除未成品にあたる。隅丸の長方形にちかい形態を呈す。前面がふくらみ、それに対応するように後面を抉っている。左側辺部は僅かに切断痕が残るが、全体的には平面調整も少しおこなった段階の未成品である。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

木製品050は、西地区中央部の第19次調査の井戸上層から、前述の木製品049とともに出土した泥除未成品である。完形品。上下辺が直線的な不整円を呈す形態である。前面の柄孔にあたる部分が僅かにふくらむ。全体的に薄くなり、ほぼ形態調整をおこなった段階のものであるが、木製品049よりは進行した未成品である。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

051・052　木製品（農具 / 泥除未成品）

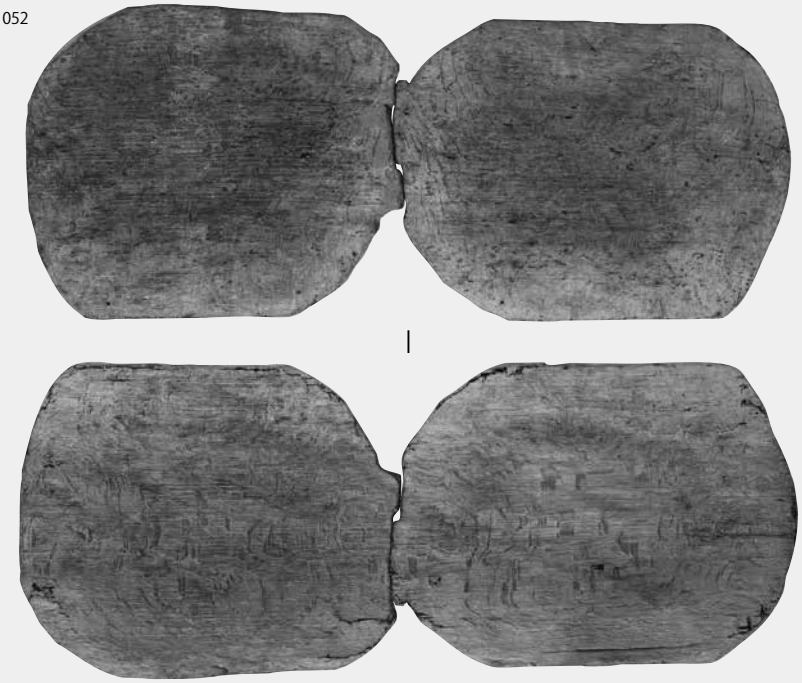
051・052

051



MW- 農具 -0063
069-00010W

052



MW- 農具 -0090
003-00065W

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	樹種	保存処理
051	第 69 次	SD-1109	第 6 層	―	W-603	848	大和第Ⅴ-1 様式	28.2	58.8	イチイガシ?	ラクチ
052	第 3 次	SD-102	―	黒粘Ⅱ	W-01	10559	大和第Ⅴ様式	31.0	76.0	アカガシ亜属	PEG
053	第 3 次	SD-102	―	黒粘Ⅱ	W-24	10554	大和第Ⅴ様式	25.7	89.3	アカガシ亜属	PEG
054	第 3 次	SD-102	―	黒粘Ⅱ	W-19	10649	大和第Ⅴ様式	25.5	103.0	アカガシ亜属	PEG

木製品051 ～ 054は泥除未成品である。

木製品051は、南端の第69次調査の環濠中層から、平鍬未成品（木製品032）とともに出土した。完形品。泥除が２つ連結した未成品であるが、左右側辺部の形態の差異から右側辺部は未成品を切り離した痕跡と推定され、本来は３連結以上の未成品であったと思われる。単品の形態は、隅丸方形にちかい形態である。いずれの上辺にも樹皮が残存していた。前面の柄孔にあたる部分が厚くふくらみ、それに対応するように後面の中央を刳り込んでいる。後面側の刃線痕や側辺部の切断痕は鋭い。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

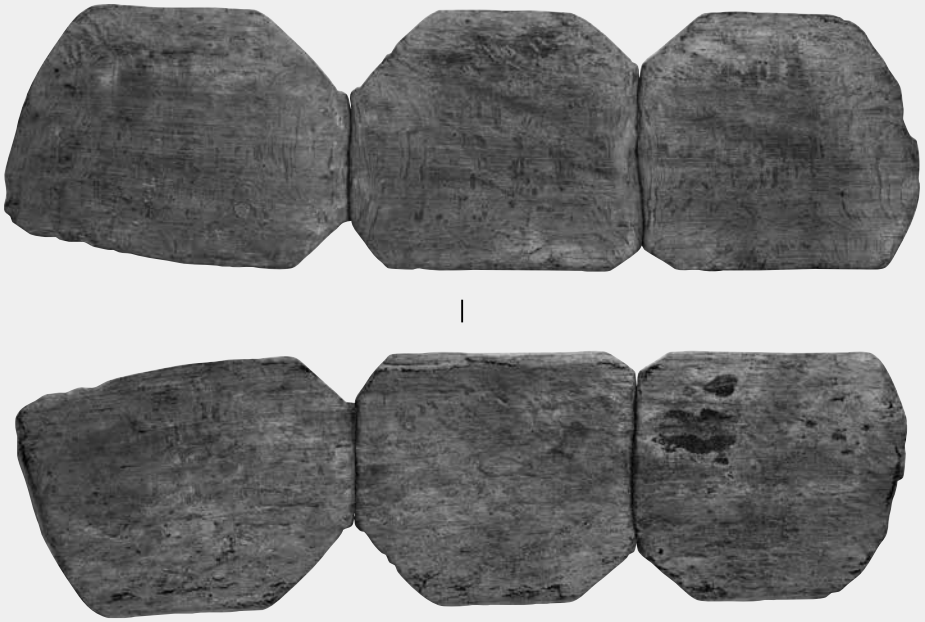
木製品052 ～ 054は、南東端の第３次調査の環濠から、木製品010・037・038・041・057・076・188とともに出土した。

木製品052は、2つに分かれるが、ほぼ完形品。上下辺が直線的な不整円を呈す形態で２連結の未成品であ

053・054　木製品（農具 / 泥除未成品）

053・054

053



MW- 農具 -0091
003-00066W

054

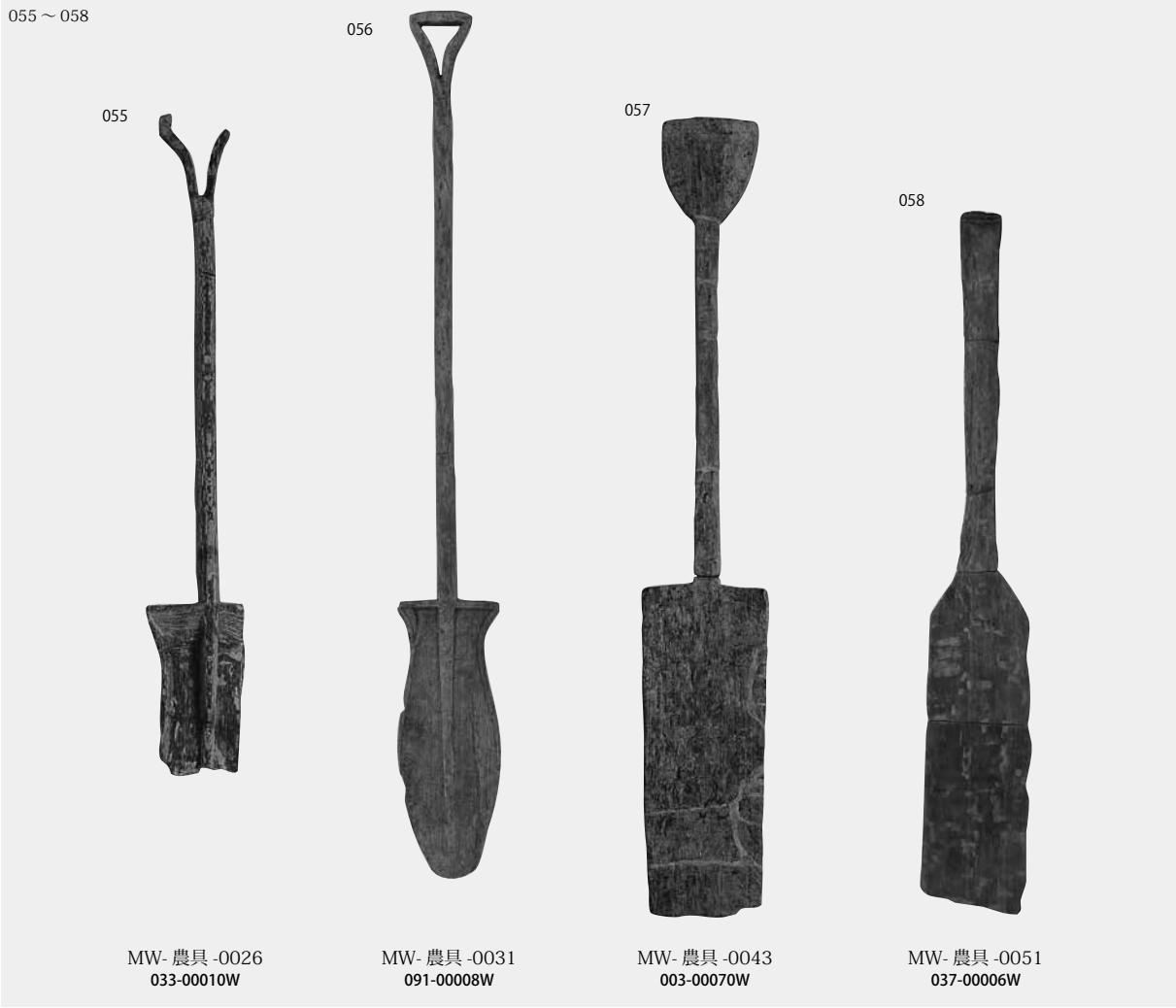
MW- 農具 -0092
003-00477W

る。切り離し部分は、下辺は大きく、上辺を小さく抉っている。前面はややふくらみをもち、それに対応するように後面中央をくぼめる。

木製品053は、3つに分かれるが、ほぼ完形品。上下辺が直線的な不整円を呈す形態で3連結の未成品である。左端の未成品は、052・054に比べ下辺が斜めになっている。切り離し部分は、下辺は小さく、上辺を大きく抉っている。前面はややふくらみをもち、対応するように後面中央を僅かにくぼめる。

木製品054は、後面を一部欠く。上下辺が直線的な不整円を呈す形態で3連結の未成品である。切り離し部分は、下辺はなく、上辺のみ抉っている。前面の柄孔にあたる部分が厚くふくらみ、それに対応するように後面の中央を僅かにくぼめる。いずれも共伴土器は大和第Ⅴ様式である。

055 ～ 058　木製品（農具 / 一木鋤・一木鋤未成品）



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	樹種	保存処理
055	第 33 次	SD-110	第 6 層	灰黒粘	W-601	1148	大和第Ⅱ-1 様式	(100.4)	(14.2)	コナラ属アカガシ亜属	PEG
056	第 91 次	SD-101D	第 11 層	―	W-1101	532	大和第Ⅱ-3 様式	131.5	15.7	スダジイ / クリ	ラクチ・トレハ
057	第 3 次	SD-102	―	黒粘Ⅱ	W-02	10643	大和第Ⅴ様式	121.3	18.6	アカガシ亜属	PEG
058	第 37 次	SK-2103	第 3 層	黒粘	W-308	122	大和第Ⅴ-1 様式	106.6	16.0	イチイガシ？	ラクチ・トレハ
059	第 33 次	SK-208	第 5 層	灰褐粘	W-504	1072	大和第Ⅱ-1 様式	122.1	17.5	コナラ属アカガシ亜属	PEG
060	第 33 次	SK-208	第 5 層	灰褐粘	W-503	1072	大和第Ⅱ-1 様式	125.2	17.0	アカガシ亜属	脂肪酸

木製品055は、南端の第33次調査の環濠から出土した一木鋤である。把手部・身部左側辺部と先端を欠損する。把手は内湾ぎみの逆二等辺三角形を呈する。身部上端は水平で肩があり、側辺部は内湾ぎみに細くなる。身部の横断面形は、後面において中央と両側辺部が立ち上がる。共伴土器は大和第Ⅱ-1様式である。

木製品056は、南東端の第91次調査の環濠から出土した一木鋤である。把手は小さく、2辺がやや内湾する逆二等辺三角形を呈する。身部上端は水平で肩があり、側辺部は上端がくびれ、中央で広がり、先端で細くなる。身部の横断面形は、後面において中央と両側辺部が立ち上がる。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

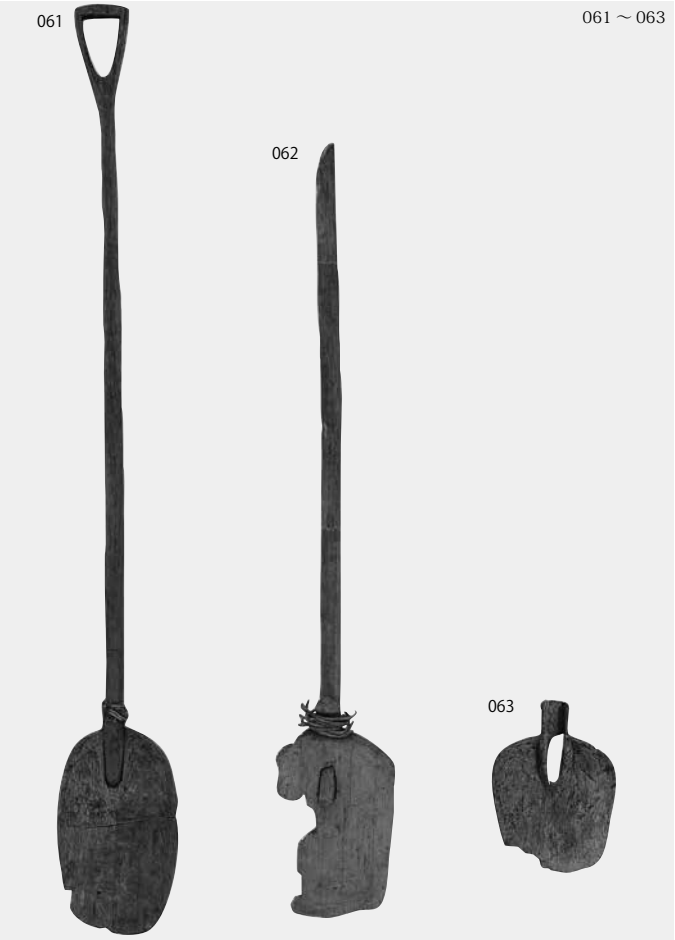
木製品057は一木鋤未成品で、南東端の第3次調査の環濠から、木製品010・037・038・041・052～054・076・188とともに出土した。ほぼ完形である。柄の上端は逆二等辺三角形を呈する。身部の上端は水平で肩があり、側辺部は直線的で縦長の長方形を呈する。柄の部分はかなり細く削り出すとともに、把手や身部もかなり薄く成形している。身部後面はやや内湾ぎみになる。共伴土器は大和第Ⅴ様式である。

木製品058は、西地区北部の第37次調査の井戸上層から出土した一木鋤未成品である。把手がない完形品である。身部の形状は柄から身部へは斜めの「ナデ肩」で、縦長の長方形を呈する。身部の一側辺に樹皮が残存していたが、現在剝離している。柄部は3.5㎝の厚みがあるが、身部は1～2㎝でかなり削りが進行した段階である。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

059 ～ 063　木製品（農具 / 一木鋤未成品・組合せ鋤・組合せ鋤身）

MW- 農具 -0019
033-00016W

MW- 農具 -0015
033-00009W



MW- 農具 -0033
091-00006W

MW- 農具 -0032
091-00005W

MW- 農具 -0037
086-00001W

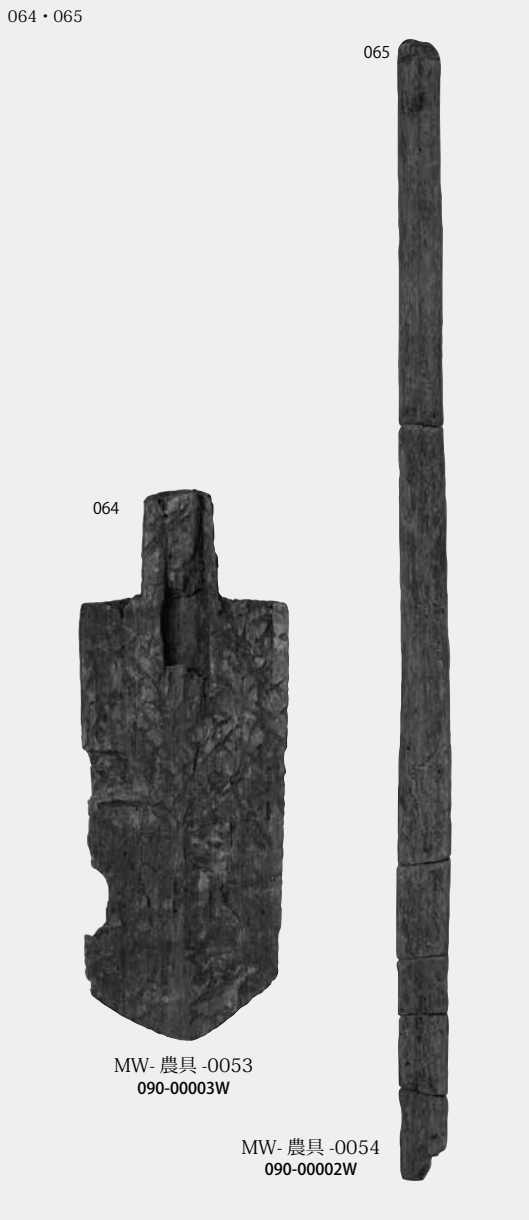
	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	樹種	保存処理
061	第 91 次	SD-201E	第 5(下) 層	―	W-551	992	大和第Ⅱ-3 様式	137.0	17.6	コナラ属アカガシ亜属	ラクチ・トレハ
062	第 91 次	SD-101D	第 11 層	―	W-1103	532	大和第Ⅱ-3 様式	(114.0)	(17.4)	身 - コナラ属アカガシ亜属 柄 - ヤマグワ	ラクチ・トレハ
063	第 86 次	SK-6201	第 2 層	―	W-201	177	大和第Ⅱ様式	(25.9)	18.5	コナラ属アカガシ亜属	ラクチ・トレハ

木製品059・060は、南地区の第33次調査の木器貯蔵穴から出土した一木鋤未成品である。平鍬身未成品（木製品022）および後述の用途不明未成品（木製品218）と共伴する。いずれも完形品。059の柄上端は逆二等辺三角形、060は縦長の長方形を呈する。身部は、いずれも柄に比較して長めの縦長の長方形を呈する。060は把手と身部の一側辺に樹皮が残存する。共伴土器はいずれも大和第Ⅱ-1-b様式である。

木製品061は、南東端の第91次調査の方形周溝墓の周溝から出土した組合せ鋤で、先端の一部を欠損する。柄は長く、上端は逆二等辺三角形の把手がつく。柄の下端は尖らせ、柄孔に挿入している。身の上端には断面「U」字形の着柄軸を設け、その延長上の身上部に柄孔を穿つ。この部分に柄を挿入し樹皮状のもので緊縛している。軸頭は紐かけの突起を削り出している。身部の平面形態は、縦長の楕円形を呈する。身部の横断面形は、後面において両側辺部が僅かに立ち上がる内湾形態である。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

木製品062は、南東端の第91次調査の環濠から出土した組合せ鋤で、柄部上端と身部左側辺部の一部を欠損する。柄の下端は尖らせ、柄孔に挿入している。身の上端から後面上部に断面「U」字形の着柄軸を設け、軸部下端に柄孔を穿つ。この部分に柄を挿入し蔓で緊縛している。軸頭は紐かけの突起を削り出している。身部の平面形態は、上端が斜めで縦長の長方形を呈する。身部の横断面形は、後面において両側辺部が僅かに立ち上がる内湾形態である。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

木製品063は、南地区の第86次調査の土坑から出土した組合せ鋤身で、刃部の一部を欠損する。身の上端には断面「U」字形の着柄軸を設け、延長上の身上部に柄孔を穿つ。軸頭は紐かけの突起を削り出す。身部の横断面形は、後面において両側辺部が僅かに立ち上がる内湾形態である。共伴土器は大和第Ⅱ様式である。



064　木製品（農具 / 組合せ鋤身未成品）

第 90 次調査
遺構：SD-101C
層位：第 15 層
土色：　－
取上：W-1502
№：78
共伴：大和第Ⅴ-1 様式
残存長：48.7
幅　：18.3
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチ・トレハ

本木製品は、西北端の第90次調査の環濠から、後述の組合せ鋤柄未成品（木製品065）とともに出土し、それと組み合う鋤身の未成品である。身部右側辺部の一部を欠損する。身の上端には断面蒲鉾形の着柄軸を設けている。着柄軸はまだ抉られていないが、その延長上の身上部は一段刳り込まれている。柄孔はまだない。身部の平面形態は、上端が水平で側辺は直線的、刃部は幅広の「V」字形である。身部の後面はやや内湾、前面は中央がややふくらみを呈す形態である。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

065　木製品（農具 / 組合せ鋤柄未成品）

第 90 次調査
遺構：SD-101C
層位：第 16 層
土色：　－
取上：W-1604
№：85
共伴：大和第Ⅴ-1 様式
長さ：100.7
幅　：4.8
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチ・トレハ

本木製品は、西北端の第90次調査の環濠から、前述の組合せ鋤身未成品（木製品064）とともに出土し、その着柄となる木製品の未成品である。柄部下端の一部を欠損する。直線的な柄で、柄上半の断面は楕円形、下半は長方形を呈し、下端は薄く尖りぎみになる。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

066　木製品（農具 / 組合せ鋤身未成品）

第 23 次調査
遺構：SK-113
層位：第 2 層
土色：黒粘
取上：W-201
№：193
共伴：大和第Ⅲ-4 様式
高さ：47.9
幅　：18.2
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：PEG

本木製品は、北地区の第23次調査の井戸上層から、前述平鍬身未成品（木製品031）とともに出土した組合せ鋤身未成品である。着柄軸の一部を欠損する。身の上端には断面「U」字形の着柄軸を設けているが、その延長上の身上部に柄孔はまだない。身部の平面形態は、上端が水平で側辺は直線的な縦長の長方形を呈する。身部の横断面形は、僅かに後面が内湾する形態である。共伴土器は大和第Ⅲ-4様式である。

067　木製品（農具 / 組合せ鋤身未成品）

本木製品は、南地区の第33次調査の木器貯蔵穴から、後述の高杯未成品（木製品164）とともに出土した。刃部の一部を欠損する。身の上端に着柄軸にあたる突起を設けている。身部の平面形態は、上端が水平で側辺は直線的であるが刃部に向かって僅かに細くなる。身部の横断面形は、後面は平坦で、前面は身部中央にふくらみのある形態である。また、縦断面は上端から徐々に薄くなる。共伴土器は大和第Ⅲ-3様式である。

第33次調査
遺構：SK-124
層位：第6層
土色：黒粘
取上：W-604
№：770
共伴：大和第Ⅲ-3様式
長さ：45.7
幅：23.2
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：PEG

MW- 農具 -0016
033-00014W

068　木製品（農具 / 組合せ鋤身未成品）

本木製品は、南地区の第63次調査の区画溝から、後述未成品？（木製品069）とともに出土した。刃部の一部を欠損する。着柄軸部分から身部上端に腐食がみられる。身の上端には着柄軸にあたる突起を設けている。身部の平面形態は、上端が水平で側辺は直線的であるが刃部に向かって僅かに細くなる。身部後面は平坦で、前面上半は身部中央にふくらみのある形態である。また、縦断面は上端から徐々に薄くなる。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

第63次調査
遺構：SD-103A
層位：第3(下)層
土色：暗灰粘
取上：W-360
№：311
共伴：大和第Ⅴ-1様式
長さ：56.3
幅：21.4
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチ・トレハ

MW- 農具 -0084
063-00010W

069　木製品（農具 / 組合せ鋤身未成品？）

本木製品は、南地区の第63次調査の区画溝から、前述組合せ鋤身未成品（木製品068）とともに出土した。両側辺の一部に腐食がみられる。長方形の板状で、上端が左右にナデ肩を呈する形状から、一木鋤未成品の身の部分として製作されたと推定される。柄の部分が欠損したため、他の用途(組合せ鋤身？)に転用したものと考えられる。後面は平坦で、前面はやや丸みをもつ。上端が厚く、下端に向かって薄くなる。下端部は、両面から削り尖る。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

第63次調査
遺構：SD-103A
層位：第3(下)層
土色：暗灰粘
取上：W-359
№：311
共伴：大和第Ⅴ-1様式
残存長：59.6
残存幅：17.6
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：脂肪酸

MW- 農具 -0085
063-00014W

070・071　木製品（農具 / 一木又鋤）

072　木製品（農具 / 掘り棒）

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	樹種	保存処理
070	第 98 次	SX-201	第 2 層	―	W-201	557	大和第Ⅱ-1 様式	(74.8)	(13.7)	コナラ属アカガシ亜属	ラクチ・トレハ
071	第 69 次	SD-1109	第 6 層	―	W-665	1003	大和第Ⅴ-1 様式	(66.1)	11.8	コナラ属アカガシ亜属	ﾗｸﾁﾄｰﾙ
072	第 19 次	SD-204	第 7 層	暗褐色粘砂	W-702	717	大和第Ⅳ-1 様式	109.4	5.5	―	ﾗｸﾁﾄｰﾙ

木製品070は、中央区の第98次調査の落ち込み状遺構から出土した。一木又鋤とするが、類例が少ない。把手と刃部の一部を欠損する。上端に横長の長方形状の把手、その下に縦細の長方形と砂時計形の透孔をあける。刃部は二股で、細い。先端は尖る。前面・後面の区別はほとんどつかない。共伴土器は大和第Ⅱ-1-b様式である。

木製品071は、南地区の第69次調査の環濠から出土した。前述木製品070とほぼ同じ形態で一木又鋤とするが、類例が少ない。把手と刃部の一部を欠損する。把手は逆二等辺三角形状で、その下に縦長の不整長方形の透孔をあける。刃部は二股で、細い。前面・後面の区別はほとんどつかない。片面はほぼ炭化している。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

木製品072は、西北端の第19次調査の環濠から出土した掘り棒である。基部を小欠するが、ほぼ完形品である。長柄の先端に、木葉形の小さな身部がつく。柄は、断面円形を呈する。身部は、後面はやや内刳りであるが、先端部は丸い。共伴土器は大和第Ⅳ-1様式である。

073　木製品（農具 / 穂摘具）

本木製品は、西北端の第19次調査の環濠から出土した。完形品。刃部に対して75°の角度で木目が走るもので、側辺が木目と平行する平行四辺形を呈する。四辺形の四隅は、使用により丸くなる。背近くに２孔一対の紐孔を穿っている。紐孔はやや左寄りで、横長の楕円形である。刃部は使用のためやや内湾する。共伴土器は大和第Ⅳ-1様式である。

第 19 次調査
遺構：SD-204
層位：第７層
土色：暗褐色粘砂
取上：W-701
№：717
共伴：大和第Ⅳ-1 様式
長さ：4.9
幅：11.9
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：アルコール

073

MW- 農具 -0008
019-00011W

074　木製品（農具 / 穂摘具）

本木製品は、西北端の第13次調査の環濠から出土した。完形品。刃部に対して70°の角度で木目が走るもので、側辺が木目と平行する平行四辺形を呈する。背近くに２孔一対の紐孔を穿っている。紐孔はやや左寄りである。刃部は使用のため一部欠ける。共伴土器は大和第Ⅳ-1様式である。

第 13 次調査
遺構：SK-107
層位：第５層
土色：粗砂層
取上：W-501
№：564
共伴：大和第Ⅳ-1 様式
長さ：5.5
幅：15.7
樹種：コナラ属クヌギ節
保存処理：PEG

074

MW- 農具 -0001
013-00014W

075　木製品（農具 / 穂摘具）

本木製品は、西北端の第19次調査の土坑から出土した。完形品。刃部に対して70°の角度で木目が走るもので、側辺が木目と平行する平行四辺形を呈する。背近くに２孔一対の紐孔を穿っている。刃部は使用のため一部磨り減っている。共伴土器は大和第Ⅲ-2様式である。

第 19 次調査
遺構：SK-1104
層位：第７層
土色：黒粘
取上：W-701
№：1115
共伴：大和第Ⅲ-2 様式
長さ：5.4
幅：16.1
樹種：　－
保存処理：ラクチ・トレハ

075

MW- 農具 -0030
019-00010W

076

MW- 農具 -0093
003-00077W

076　木製品（農具 / 穂摘具）

第３次調査
遺構：SD-102
層位：　－
土色：黒粘Ⅱ
取上：W-28
№：10650
共伴：大和第Ⅴ様式
長さ：6.3
幅：17.8
樹種：　－
保存処理：PEG

本木製品は、南東端の第３次調査の環濠から、木製品010・037・038・041・052～054・057・188とともに出土した。刃部を僅かに欠くが、ほぼ完形品である。刃部に対して60°の角度で木目が走るもので、側辺が木目と平行する平行四辺形を呈する。平行四辺形の左側辺が長く、右側辺は短い。表面の背近くには、幅約0.8㎝の溝を彫り、その溝内に２孔一対の紐孔を穿つ。紐孔は左寄りで、横長の楕円形である。刃部は使用によりやや内湾するとともに鋸歯状になる。共伴土器は大和第Ⅴ様式である。

077

MW- 農具 -0094
003-00012W

077　木製品（農具 / 穂摘具）

第３次調査
遺構：SD-102N
層位：　－
土色：　－
取上：　－
№：10599
共伴：大和第Ⅴ様式
長さ：6.3
幅：12.4
樹種：未同定
保存処理：PEG

本木製品は、南東端の第３次調査の環濠から出土した。周縁を僅かに欠くが、ほぼ完形品である。刃部に対して75°の角度で木目が走るもので、側辺が木目と平行する平行四辺形を呈する。表面の背近くには、幅約１㎝の溝を彫り、その溝内に２孔一対の紐孔を穿つ。紐孔はやや右寄りで、円形である。背部から刃部に向かって薄くなる。共伴土器は大和第Ⅴ様式である。

078

MW- 農具 -0096
003-00417W

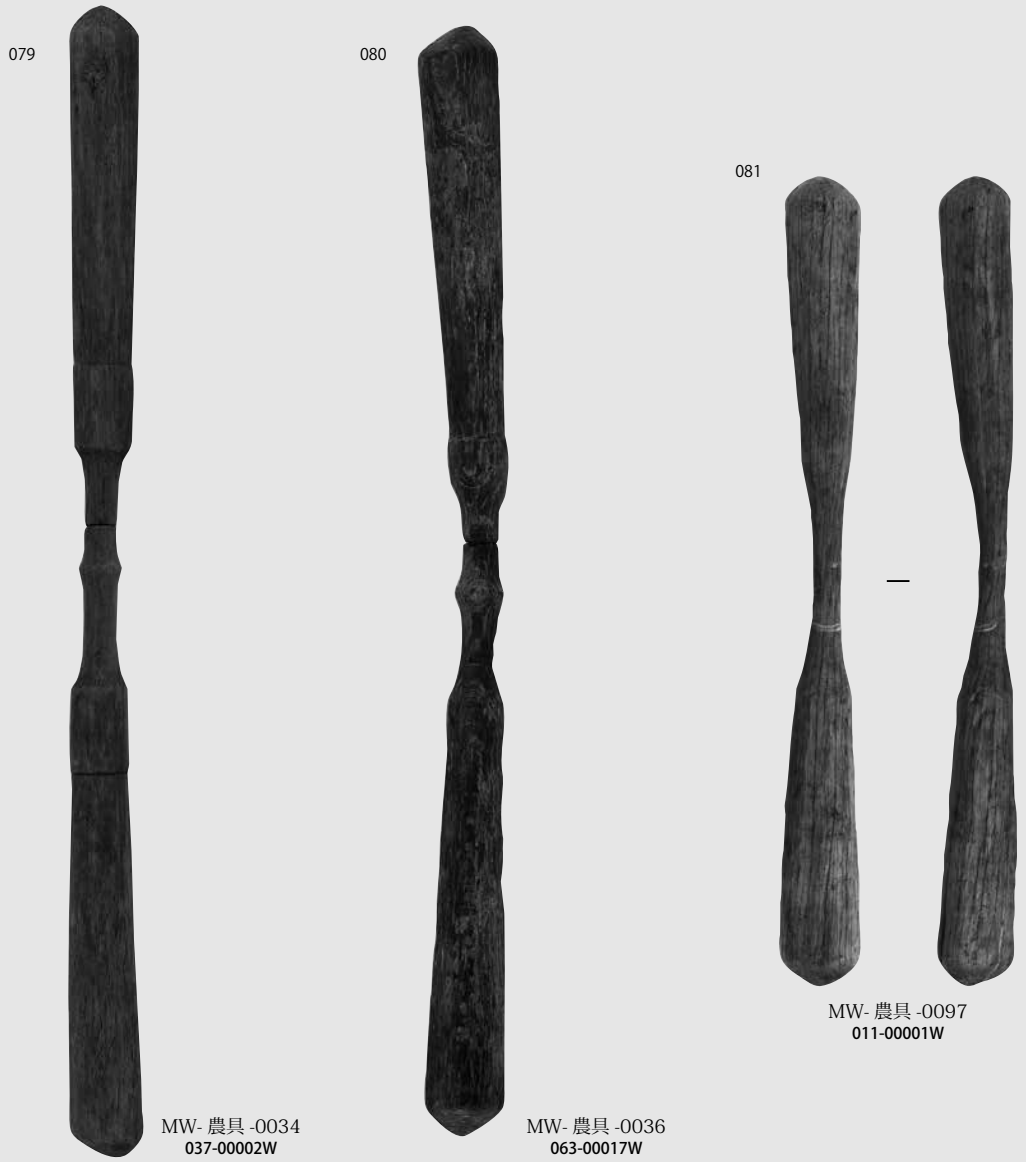
078　木製品（農具 / 穂摘具未成品）

第３次調査
遺構：Pit-105
層位：　－
土色：　－
取上：　－
№：10596
共伴：大和第Ⅴ様式
長さ：6.8
幅：17.9
樹種：未同定
保存処理：PEG

本木製品は、南東端の第３次調査の土坑から出土した。周縁を僅かに欠くが、ほぼ完形品である。形状から穂摘具未成品と考えられる。刃部に対して70°の角度で木目が走るもので、側辺が木目と平行する平行四辺形を呈する。背部から刃部に向かって薄くなる。共伴土器は大和第Ⅴ様式である。

079 ～ 081　木製品（農具 / 竪杵）

079 ～ 081



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	径	樹種	保存処理
079	第 37 次	SK-2114	第 6(下) 層	―	W-1607	469	大和第Ⅲ-1 様式	120.8	7.2	ヤブツバキ?	PEG
080	第 63 次	SD-103B	第 4(下) 層	褐灰色粘質土（植物）	W-451	336	大和第Ⅲ-2 様式	116.5	8.5	コナラ属アカガシ亜属	PEG
081	第 11 次	SK-115	下層	黒粘Ⅱ	―	10428	大和第Ⅵ-3 様式	84.5	8.3	―	PEG

木製品079 ～ 081は竪杵である。

木製品079は、西地区北部の第37次調査の土坑から、木製品080は、南地区の第63次調査の区画溝から出土した。ともに完形品である。搗き部と握部から成る上下対称の杵である。中央の１ヶ所にやや低い算盤玉状の節帯を作り出す。搗き部は、両端から握部に向かって徐々に細くなり、握部との界に幅広で低い隆起帯を巡らせる。079の搗き部両端は、尖りぎみである。079の搗き部の横断面は円形を呈し、080では楕円形を呈す。079の共伴土器は大和第Ⅲ-1様式、080の共伴土器は大和第Ⅲ-2様式である。

木製品081は、西地区中央部の第11次調査の土坑から出土した。握部の一部を欠損するが、ほぼ完形である。搗き部と握部から成る上下対称の杵である。中央に節帯のない素朴な作りである。搗き部は、両端から握部に向かって徐々に細くなり、握部との界は僅かに屈曲させる。搗き部両端は、尖りぎみである。共伴土器は大和第Ⅵ-3様式である。

082

MW- 農具 -0035
069-00001W

082　木製品（農具 / 臼）

本木製品は、南地区の第69次調査の井戸枠（集水施設）として転用されていたものである。大臼の底を打ち欠き、逆さにして井戸底に据え、この大臼の上に底部を打ち欠いた大甕（『目録Ⅱ』特殊115）を重ねていた。円筒状の内部を逆円錐状に深く刳り貫き、搗き部としたものである。外面も内面の搗き部に合わせた形に刳り貫くが、四方には縦方向に把手を削り残す。共伴土器は大和第Ⅲ-3様式である。

第 69 次調査
遺構：SK-1130
層位：第 12 層
土色：　－
取上：W-1201
№：1985
共伴：大和第Ⅲ-3 様式
高さ：44.0
幅：48.5
樹種：トチノキ
保存処理：PEG

083

MW- 農具 -0059
047-00004W

083　木製品（農具 / 小型臼）

本木製品は、南東端の第47次調査の区画溝から出土した。口縁部から底部の一部を欠く。鉢形を呈し、底部はやや尖りぎみである。底部は、器高に対して1/3程度の厚さがあるが、鉢部から口縁部は薄くなる。搗き部は調整により、摩滅し滑らかである。共伴土器は大和第Ⅲ-1様式である。

第 47 次調査
遺構：SD-2105
層位：第 7 層
土色：灰黒粘
取上：　－
№：501
共伴：大和第Ⅲ-1 様式
残存高：14.6
残存幅：19.9
樹種：エノキ属
保存処理：PEG

084

MW- 織編 -0011
038-00011W

084　木製品（農具 / 横槌）

本木製品は、西地区北部の第38次調査の区画溝から出土した。敲打部を一部欠く。握部より敲打部のほうが長く、その界はくびれている。敲打部の横断面形は楕円形を呈す。敲打部の上端に使用によると思われる横位の凹みがみられる。握部の基部は、突起を作り出す。共伴土器は大和第Ⅰ-2様式である。

第 38 次調査
遺構：SD-201
層位：第 1 層
土色：　－
取上：W-10
№：100
共伴：大和第Ⅰ-2 様式
長さ：32.2
幅：6.9
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチトール

085　木製品（農具 / 横槌）

本木製品は、西地区中央部の第20次調査の大型井戸から出土した。卜骨や完形土器(『目録Ⅱ』弥 生043・特 殊005・105)と共伴する。完形品。敲打部より握部ほうが長い。握部からゆるやかに太くなり敲打部にいたるが、全体に細身である。敲打部の横断面形は円形を呈す。握部の基部は、僅かに太くなる。共伴土器は大和第Ⅲ-1様式である。

第20次調査
遺構：SX-101
層位：第6層
土色：灰黒色砂質土
取上：W-626
№：378
共伴：大和第Ⅲ-1様式
長さ：22.1
幅：3.7
樹種：サカキ
保存処理：PEG

085

MW- 織編 -0009
020-00006W

086　木製品（農具 / 横槌）

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から出土した。敲打部の一部と握部下端を欠く。敲打部より握部のほうが長く、その界は一段削り出す。敲打部・握部とも横断面形は円形を呈す。共伴土器は大和第Ⅳ様式である。

第3次調査
遺構：SD-107
層位：　－
土色：黒粘Ⅰ
取上：　－
№：10651
共伴：大和第Ⅳ様式
残存長：17.2
残存幅：3.9
樹種：　－
保存処理：PEG

086

MW- 織編 -0033
003-00352W

087　木製品（農具 / 横槌）

本木製品は、南地区の第65次調査の井戸から出土した。卜骨(『目録Ⅳ』掲載予定、骨角牙070)と共伴する。敲打部より握部ほうが長い。握部からゆるやかに太くなり、くびれて敲打部にいたる。敲打部の横断面形はほぼ円形を呈すが、使用により一部が凹む。握部の基部は、僅かに太くなる。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

第65次調査
遺構：SK-134
層位：第5(下)層
土色：　－
取上：W-553
№：701
共伴：大和第Ⅴ-1様式
長さ：42.4
幅：7.8
樹種：ナシ亜科
保存処理：ラクチ・トレハ

087

MW- 織編 -0001
065-00003W

088

MW- 織編 -0012
051-00008W

088　木製品（編具 / 編台？）

本木製品は、北地区の第51次調査の土坑から出土した。完形品。二股に分かれた部分を利用しており、「Y」字形を呈する。二股の部分は短い。縦の割材で、片面には樹皮が残存する。下端は、片側からの切断で尖っている。枝部分の末端も切断面を残す粗雑な作りである。編台であろう。共伴土器は大和第Ⅲ-2様式である。

第51次調査
遺構：SK-105
層位：第2層
土色：　－
取上：W-201
№：152
共伴：大和第Ⅲ-2様式
長さ：41.4
幅：22.0
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：ラクチトール

089

MW- 織編 -0006
013-00015W

089　木製品（編具 / 木錘）

本木製品は、西北端の第13次調査の環濠から出土した。直径2㎝ほどの芯持材の両端を切断し、その側面中央に細い溝を巡らせるものである。長さ5㎝ほどの小型品で、樹皮はそのまま残している。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

第13次調査
遺構：SD-106B
層位：第4層
土色：灰黒粘
取上：　－
№：334
共伴：大和第Ⅴ-1様式
長さ：5.3
幅：2.4
樹種：ヒサカキ属
保存処理：PEG

090

MW- 織編 -0005
013-00016W

090　木製品（編具 / 木錘）

本木製品は、西北端の第13次調査の環濠から出土した。直径2㎝ほどの芯持材の両端を切断し、その側面中央に細い溝を巡らせるものである。長さ6㎝ほどの小型品で、樹皮はそのまま残している。共伴土器は大和第Ⅲ-2様式である。

第13次調査
遺構：SD-106C
層位：第7層
土色：砂質土Ⅱ
取上：W-737
№：382
共伴：大和第Ⅲ-2様式
長さ：6.5
幅：2.3
樹種：ヤナギ属
保存処理：PEG

091 ～ 102　木製品（編具 / 木錘）

091 ～ 102

091

MW- 織編 -0020
040-00015W

092

MW- 織編 -0021
040-00016W

093

MW- 織編 -0022
040-00017W

094

MW- 織編 -0023
040-00018W

095

MW- 織編 -0024
040-00019W

096

MW- 織編 -0025
040-00020W

097

MW- 織編 -0026
040-00021W

098

MW- 織編 -0027
040-00022W

099

MW- 織編 -0028
040-00023W

100

MW- 織編 -0029
040-00024W

101

MW- 織編 -0030
040-00025W

102

MW- 織編 -0031
040-00026W

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	樹種	保存処理
091	第 40 次	SK-101	第 7 層	植物層	W-701	318	庄内式	14.6	10.7	コナラ属アカガシ亜属	ラクチ・トレハ
092	第 40 次	SK-101	第 7 層	植物層	W-702	318	庄内式	14.4	10.9	コナラ属アカガシ亜属	ラクチ・トレハ
093	第 40 次	SK-101	第 7 層	植物層	W-703	318	庄内式	14.7	10.4	コナラ属アカガシ亜属	ラクチ・トレハ
094	第 40 次	SK-101	第 7 層	植物層	W-704	318	庄内式	14.3	11.3	コナラ属アカガシ亜属	ラクチ・トレハ
095	第 40 次	SK-101	第 7 層	植物層	W-705	318	庄内式	14.0	11.0	コナラ属アカガシ亜属	ラクチ・トレハ
096	第 40 次	SK-101	第 7 層	植物層	W-706	318	庄内式	13.9	10.5	コナラ属アカガシ亜属	ラクチ・トレハ
097	第 40 次	SK-101	第 7 層	植物層	W-707	318	庄内式	15.0	11.1	コナラ属アカガシ亜属	ラクチ・トレハ
098	第 40 次	SK-101	第 7 層	植物層	W-708	318	庄内式	14.2	10.6	コナラ属アカガシ亜属	ラクチ・トレハ
099	第 40 次	SK-101	第 7 層	植物層	W-709	318	庄内式	15.5	10.1	コナラ属アカガシ亜属	ラクチ・トレハ
100	第 40 次	SK-101	第 7 層	植物層	W-710	318	庄内式	14.4	10.7	コナラ属アカガシ亜属	ラクチ・トレハ
101	第 40 次	SK-101	第 7 層	植物層	W-711	318	庄内式	14.5	11.4	コナラ属アカガシ亜属	ラクチ・トレハ
102	第 40 次	SK-101	第 7 層	植物層	W-712	318	庄内式	15.2	13.9	コナラ属アカガシ亜属	ラクチ・トレハ

これら木製品は、南東端の第40次調査の井戸底から12点が一括出土した木錘である。樹皮をそのまま残したままの直径11㎝ほどの素木を、長さ約14㎝に切断した大型の木錘である。一木を連続して12個に切断したもので、その切断面はやや膨らみのあるものもあるが、ほぼ平坦である。その側面中央に細い溝を巡らせている。溝内には、蔓状の紐が残っているものがある（木製品100）。共伴土器は庄内式である。

103

MW- 織編 -0032
098-00030W

103　木製品（編具 / 木針）

本木製品は、中央区の第98次調査の土坑から出土した。先端の一部を欠く。頭部は扁平でやや大きく作り、その中央に0.8㎝の孔をあける。先端に向かって徐々に細くなり、断面形は楕円形になる。先端は尖らず、やや丸い。共伴土器は大和第Ⅱ-2様式である。

第 98 次調査
遺構：SK-201
層位：第 4 層
土色：　－
取上：W-402
№：529
共伴：大和第Ⅱ-2 様式
残存長：22.9
残存幅：3.5
樹種：ヒノキ
保存処理：ラクチ・トレハ

104

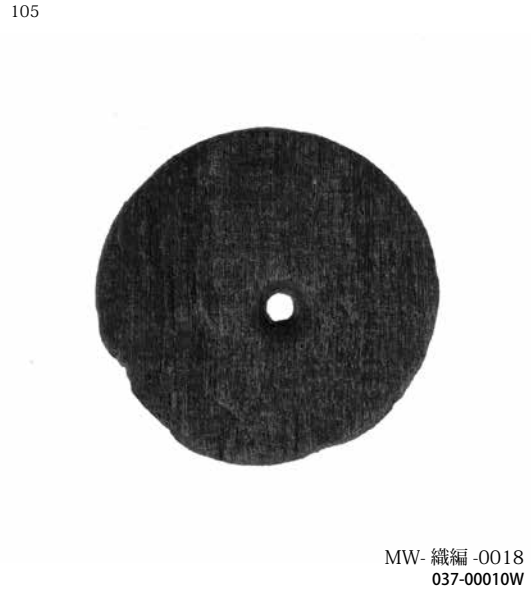
MW- 織編 -0010
023-00023W

104　木製品（編具 / 木針）

本木製品は、北地区の第23次調査の区画溝から出土した。基部の一部を欠く。基部から先端に向かって徐々に細くなる。身部の断面は丸い。基部は突起を巡らせる。先端より２㎝の位置に径0.3㎝の小孔があけられ、この小孔と先端の間には樹皮が巻かれている。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

第 23 次調査
遺構：SD-1102
層位：第 6 層
土色：植物層
取上：　－
№：392
共伴：大和第Ⅱ-3 様式
長さ：25.1
幅：2.4
樹種：ヒノキ
保存処理：PEG

105



MW- 織編 -0018
037-00010W

105　木製品（紡織具 / 紡錘車）

本木製品は、西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。周縁の一部を欠く。ほぼ正円で板状である。孔は中心からややずれ、小さい。共伴土器は大和第Ⅱ-3-b様式である。

第 37 次調査
遺構：SK-2116
層位：第 5(下) 層
土色：灰粘
取上：　－
№：1114
共伴：大和第Ⅱ-3 様式
径：4.2
厚さ：0.6
樹種：　－
保存処理：ラクチ・トレハ

106　木製品（紡織具 / 紡錘車）

本木製品は、西北端の第19次調査の環濠から出土した。周縁の一部を欠く。不整円形で、周縁はやや薄くなる。孔はやや大きい。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

第19次調査
遺構：SD-204
層位：第4(下)層
土色：黒粘
取上：W-4004
№：673
共伴：大和第Ⅴ-1様式
長　　軸：6.7
残存短軸：6.4
樹種：広葉樹
保存処理：ラクチトール

106

MW- 織編 -0008
019-00014W

107　木製品（紡織具 / 糸巻）

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から出土した。一木で、木芯を軸部としてその両端を円盤状に削り出したものである。両端の円盤部はその一部を欠く。共伴土器は大和第Ⅲ様式である。

第3次調査
遺構：SD-106
層位：　－
土色：黒粘Ⅱ下灰色バラス層
取上：　－
№：10646
共伴：大和第Ⅲ様式
長　　さ：8.4
端部径長軸：3.0
樹種：ヒノキ？
保存処理：PEG

107

MW- 織編 -0016
003-00314W

108　木製品（紡織具 / 糸巻）

本木製品は、西地区北部の第93次調査の土坑から出土した。木芯を軸部としてその両端を円盤状に削り出したものであるが、片側の円盤を欠き、軸部は炭化している。製品としては、やや粗雑である。共伴土器は大和第Ⅳ-2様式である。

第93次調査
遺構：SK-2116
層位：第4-b層
土色：植物層
取上：　－
№：312
共伴：大和第Ⅳ-2様式
残存幅：6.1
径　：3.1
樹種：カヤ
保存処理：ラクチ・トレハ

108

MW- 織編 -0013
093-00004W

109

MW- 織編 -0003
013-00020W

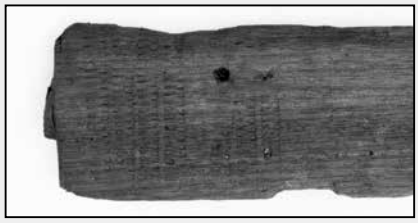
109　木製品（紡織具 / 緯打具）

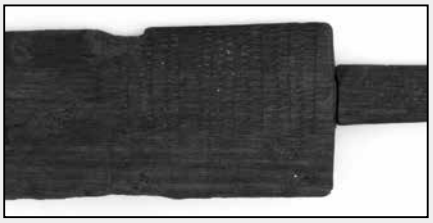
本木製品は、西北端の第13次調査の環濠から、工具（木製品013）、盾（木製品119）、石剣鞘（木製品123）、匙未成品（木製品134）、火鑽臼（木製品183）、箕（『目録Ⅳ』掲載予定、繊維製品007）とともに出土した。片端を欠くが、両端が尖る形態と思われる。下端は直線的で刃部をもつ。上端は緩やかな弓形の湾曲を呈し、断面円形の隆起帯を削り出す。共伴土器は大和第Ⅳ-2・Ⅴ-1様式である。

第13次調査
遺構：SD-102
層位：　―
土色：植物層
取上：W-43
№：111
共伴：大和第Ⅳ-2・Ⅴ-1様式
残存長：6.3
残存幅：31.5
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：PEG

110・111　木製品（紡織具 / 布送具）

110・111





110

MW- 織編 -0002
013-00029W

111

MW- 織編 -0019
115-00005W

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	樹種	保存処理
110	第13次	SD-106C	第6層	砂質土	W-616	346	大和第Ⅳ-1様式	5.5	(53.2)	ムクノキ	PEG→ラクチ・トレハ
111	第115次	SD-101B	第13層	―	W-1302	183	大和第Ⅳ-1様式	5.7	(24.8)	サカキ	真空凍結

木製品110は、西北端の第13次調査の環濠から出土した布送具の上辺部材である。左側の把手と下辺の一部を欠く。身部の断面形は逆「V」字状を呈し、下辺中央には溝が作られている。身部の両端から約6㎝には鋸歯文の文様帯がある。鋸歯文帯は左右各8帯で、小さな向かい合う鋸歯文を陰刻する。共伴土器は大和第Ⅳ-1様式である。

木製品111は、西北端の第115次調査の環濠から出土した布送具の下辺部材である。左側の把手と身部の一部が残存する。8㎝ほどの把手で、断面は楕円形で先端は尖っている。身部の断面形は逆「V」字状を呈し、下辺中央には溝が作られている。身部の左端から5.5㎝ほどが一段高い隆起帯となり、その下端には「U」字形の刳り込みがある。身部中央は、下辺に刃があり、上辺は段をもって「V」字形を呈す。共伴土器は大和第Ⅳ-1様式である。

112　木製品（武器 / 木鏃）

本木製品は、南地区の第65次調査の井戸から出土した。先端を尖らせ、基部に浅い抉りを巡らせるものである。表面の仕上げは丁寧ではなく削り痕がみられる。身部の片面には黒色物が付着、あるいは炭化している。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

第65次調査
遺構：SK-105
層位：第4層
土色：黒粘
取上：　－
№：335
共伴：大和第Ⅴ-1様式
長さ：4.5
幅　：0.8
樹種：モミ属
保存処理：ラクチ・トレハ

112

MW- 武器 -0009
065-00006W

113・114　木製品（武器 / 弓）

木製品113は、中央区の第98次調査の区画溝から出土した。弓幹が一木からなる短弓で、大きく湾曲している。両端は斜めに削り、さらにその内側に抉りを入れ弭とするものである。弭は、湾曲の内側面にあるため、現状の湾曲とは逆方向に弓幹を曲げて弦を張った可能性がある。弭近くの下端内湾側と外湾中央は、削りによる面取りがある。弓幹の側面には一部樹皮が残る。共伴土器は大和第Ⅰ-2-a様式である。

113

第98次調査
遺構：SD-201
層位：　－
土色：暗灰粘（シルト混）
取上：　－
№：370
共伴：大和第Ⅰ-2様式
長さ：65.5
幅　：22.9
樹種：ヒノキ
保存処理：ラクチ・トレハ

木製品114は、北地区の第38次調査の区画溝から出土した。弓幹が一木からなる短弓で、中央においてやや湾曲が強いが、全体としては弱い。両端は斜めに削り、さらにその内側に抉りを入れ弭とするものである。弭は、湾曲の内側面にあるため、現状の湾曲とは逆方向に弓幹を曲げて弦を張った可能性がある。共伴土器は大和第Ⅰ-1様式である。

114

第38次調査
遺構：SD-201
層位：第4層
土色：黒灰粘
取上：　－
№：133
共伴：大和第Ⅰ-1様式
長さ：73.6
幅　：8.8
樹種：イヌガヤ
保存処理：ラクチ・トレハ

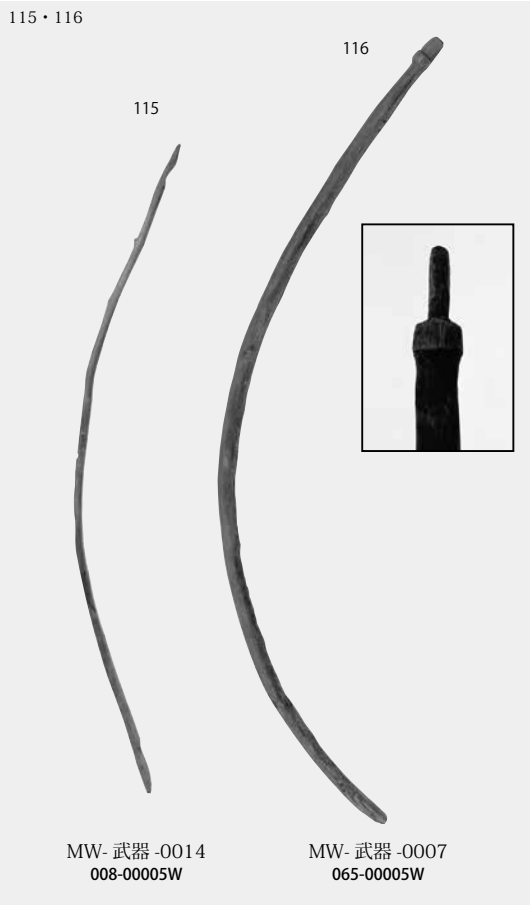
113・114

113

114

MW- 武器 -0008
098-00005W

MW- 武器 -0006
038-00019W



115・116　木製品（武器/弓）

木製品115は、西地区中央部の第8次調査の土坑から出土した。弓幹が一木からなる短弓で、中央において少し湾曲しているが、全体としてはその度合いは低い。両端は斜めに削り、さらにその内側に抉りを入れ弭とする。弭は、湾曲の内側面にあるため、現状の湾曲とは逆方向に弓幹を曲げて弦を張った可能性がある。内湾面を削る。共伴土器は大和第Ⅰ様式である。

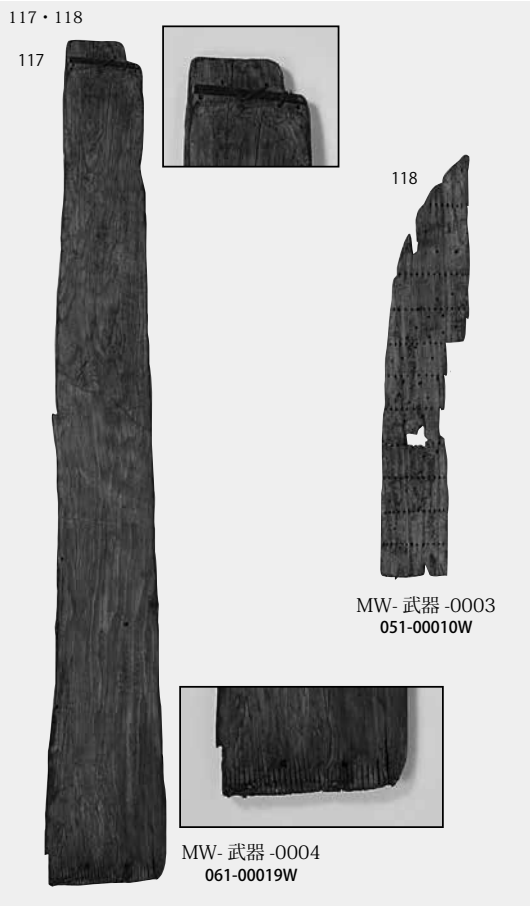
木製品116は、南地区の第65次調査の区画溝から出土した。一端を欠損する。弓幹は一木からなるもので、大きく湾曲している。直径約2㎝の弓幹で、全体に丁寧な削り調整をおこない、外湾面に幅0.5㎝の「U」字形の棒樋を入れている。弭は、内湾面以外の部分に隆起帯を巡らせ、先端は縦方向に薄く削り出している。共伴土器は大和第Ⅲ-1・2様式である。

115

第8次調査
遺構：SK-211
層位：第2層
土色：黒灰色砂
取上：　－
№：10679
共伴：大和第Ⅰ様式
長さ：75.0
幅：10.0
樹種：未同定
保存処理：PEG

116

第65次調査
遺構：SR-151S
層位：第5層
土色：　－
取上：W-501
№：904
共伴：大和第Ⅲ-1・2様式
残存長：89.8
残存幅：21.7
樹種：マキ属？
保存処理：ラクチ・トレハ



117・118　木製品（武器/盾）

木製品117は、南地区の第61次調査の区画溝から出土した。上下端と一側辺を残す無彩の盾である。表裏とも加工痕が全体に明瞭に残り、表裏は判断できない。上下端部は片面を削り薄くするが、横桟を使って補強する。上端部の両面では、細棒の横桟をその上下にあけた小孔を手がかりに三角に綴じる。下端部には縦方向の切れ込みを多数入れ、両面に渡した蔓状植物をコイル巻きした横桟を樹皮で綴じる。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

木製品118は、北地区の第51次調査の井戸から出土した。左上側面を残す無彩の盾である。上部がややすぼまる長方形で、上辺が半円を呈する。主軸に対して、横方向に列をなす小孔が約1㎝間隔であけられ、この孔列は5㎝間隔で縦12段分が残存する。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

117

第61次調査
遺構：SD-151BN
層位：第8層
土色：灰黒粘
取上：W-805
№：1532
共伴：大和第Ⅱ-3様式
長　さ：112.3
残存幅：15.7
樹種：モミ属
保存処理：アル・キシ

118

第51次調査
遺構：SK-104
層位：第5層
土色：　－
取上：W-519
№：120
共伴：大和第Ⅴ-1様式
残存長：56.5
残存幅：10.7
樹種：モミ属
保存処理：PEG

119・120　木製品（武器/盾）

木製品119は、北西端の第13次調査の環濠から異形高坏（『目録Ⅱ』特殊063）とともに出土した。左上面を残す赤彩の盾である。上端が円弧状の縦長の長方形を呈す。上端部は薄くなり、幅0.2㎝間隔で深さ1㎝ほどの細い切れ込みを入れる。主軸に対して、横方向に列をなす小孔を約1㎝間隔で穿つ。この孔列は約6.2㎝間隔で縦8段分が残存する。共伴土器は大和第Ⅳ-2・Ⅴ-1様式である。

木製品120は、北西端の第13次調査の環濠から出土した。左上側面を残す赤彩の盾である。上端がやや細くなる縦長の長方形を呈する盾である。主軸に対して、横方向に列をなす小孔を約1.3㎝間隔で穿つ。また、この横方向の孔列は約7㎝間隔（上端のみ4.7㎝）で縦6段分が残存する。共伴土器は大和第Ⅳ-1様式である。

119

第13次調査
遺構：SD-102
層位：　―
土色：植物層
取上：W-29
№：114
共伴：大和第Ⅳ-2・Ⅴ-1様式
残存長：55.0
残存幅：9.5
樹種：モミ属
保存処理：PEG

120

第13次調査
遺構：SD-106C
層位：第6層
土色：砂質土
取上：W-622
№：346
共伴：大和第Ⅳ-1様式
残存長：43.0
残存幅：8.2
樹種：モミ属
保存処理：PEG

121・122　木製品（武器/剣鞘）

木製品121は、西地区北部の第93次調査の大型建物の柱穴から出土した。2枚合わせの板による鞘であるが、片面の右半分と鞘尻が欠損する。平面はほぼ長方形を呈し、内面は内刳りしているため、横断面形は縦に半裁した紡錘形を呈する。鞘の両端には小溝を作っており、樹皮によって緊縛していたと考えられる。共伴土器は大和第Ⅲ-3様式である。

木製品122は、北東端の第60次調査の環濠から出土した。2枚合わせの板による鞘であるが、片面の右半分が残る。平面は細長の長方形を呈す。内面の内刳りは浅く、鞘口にあたる部分は柄の一部が収まるように一段彫りくぼめている。鞘の両端には1.1㎝ほどの隆起帯を設けている。共伴土器は布留1式である。

121

第93次調査
遺構：Pit-1201W
層位：西アゼ Sec. 第7層
土色：黒色粘砂（木片混）
取上：　―
№：1133
共伴：大和第Ⅲ-3様式
残存長：9.0
残存幅：1.9
樹種：マキ属
保存処理：ラクチ・トレハ

122

第60次調査
遺構：SD-1117
層位：第1層
土色：青灰色粘質土
取上：W-101
№：77
共伴：布留1式
長　さ：21.6
残存幅：2.1
樹種：　―
保存処理：脂肪酸

123

MW- 武器 -0010
013-00060W

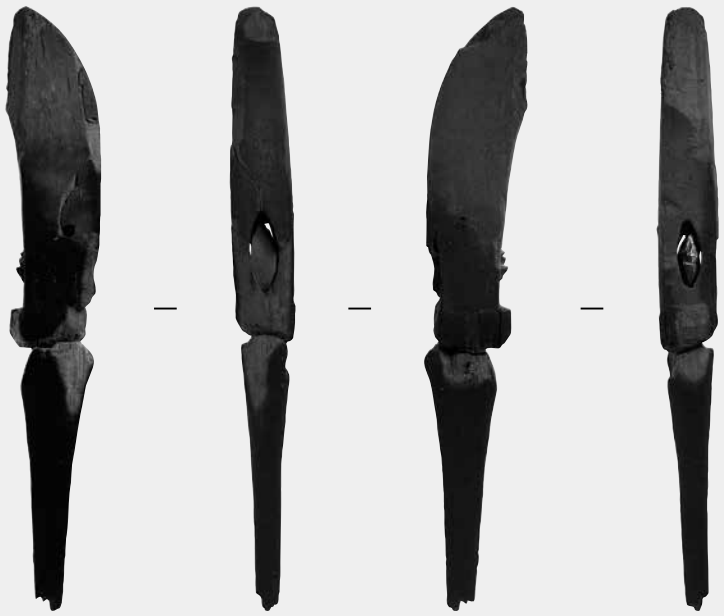
123　木製品（武器 / 石剣鞘）

本木製品は、北西端の第13次調査の環濠から出土した。本鞘は、柄部に樹皮を巻いた石剣（打製石器211）が収まった状態で出土した。佩表中央を欠損する。鞘口から鞘尻に向かって徐々にすぼまる。２枚合わせの板で、鞘の横断面形は、紡錘形を呈する。佩表・佩裏の両端には全周するように幅0.6㎝の小溝を作り、樹皮によって緊縛している。鞘尻の中央には、小孔をあける。共伴土器は大和第Ⅳ-2・Ⅴ-1様式である。

第 13 次調査
遺構：SD-102
層位：　－
土色：植物層
取上：W-31
№：114
共伴：大和第Ⅳ-2・Ⅴ-1 様式
長さ：14.0
幅　：4.2
樹種：ヒノキ
保存処理：真空凍結

124　木製品（武器 / 石戈柄）

124



MW- 武器 -0013
093-00008W

本木製品は、西地区北部の第93次調査の井戸から折損した石戈の基部がそのまま挿入された状態で出土した。柄の基部は焼損、身部の一部も焼損と欠損がみられる。柄は、頭部と握り部から成る。頭部上端は緩やかに弧を描き、断面はやや太めの長方形を呈す。柄は直線的で断面はほぼ丸い。頭部と握り部の界には、幅広の隆起帯を一段設け、その直上に縦長の楕円形の装着孔を穿つ。石戈を挿入後、固定のために両面に小孔を穿ち、木釘を打ち込んでいる。柄孔には石戈の基部が残存している。共伴土器は大和第Ⅲ-2様式である。

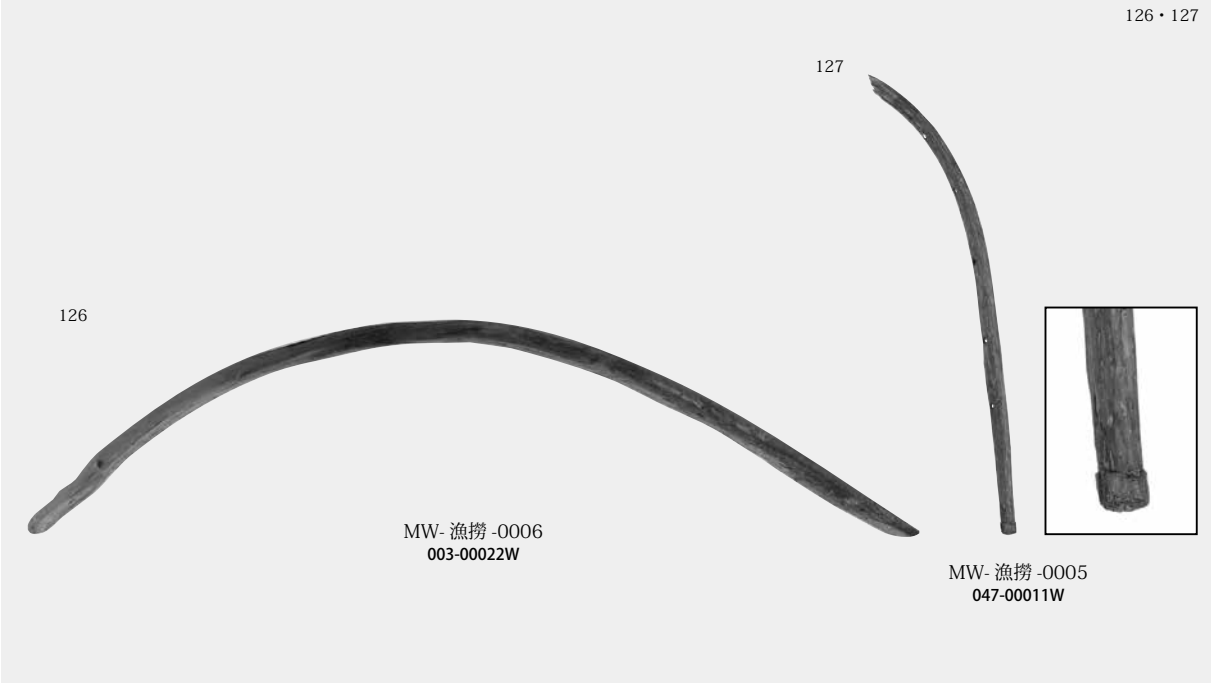
第 93 次調査
遺構：SK-2120
層位：第 11(下) 層
土色：　－
取上：W-1151
№：1279
共伴：大和第Ⅲ-2 様式
残存長：34.1
残存幅：5.9
樹種：ヤブツバキ
保存処理：ラクチ・トレハ

125　木製品（漁撈具 / 網枠）

本木製品は、中央区の第53次調査の落ち込み状遺構から出土した。両先端を僅かに欠損するが、ほぼ完形品。直径1.4㎝ほどの素木を大きく湾曲させ、半円状にした小形の擡網（たもあみ）である。両端を細く尖らせる。中ほどと両端付近に蔓状植物が僅かに残る。共伴土器は大和第Ⅱ-1様式である。

第53次調査
遺構：SR-101B
層位：第6層
土色：植物層
取上：W-602
№：335
共伴：大和第Ⅱ-1様式
残存長：27.0
幅　：34.5
樹種：ヒノキ
保存処理：ラクチトール

126・127　木製品（漁撈具 / 網枠）



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	樹種	保存処理
126	第3次	SD-102	―	黒粘Ⅰ	―	10653	大和第Ⅳ様式	115.2	53.8	モミ	PEG
127	第47次	SD-2101	第8層	黒褐粘（植物混）	―	399	大和第Ⅴ-1様式	(59.5)	2.3	―	脂肪酸

木製品126・127は、大型の擡網である。

木製品126は、南東端の第3次調査の環濠から出土した。完形品である。枠木は太めの素木で、弓形を呈す。両端は鋭く切断し面をもつ。両端部を除く枠木の湾曲内側を「山」形に面取りする。共伴土器は大和第Ⅵ様式である。

木製品127は、南東端の第47次調査の環濠から出土した。一端のみ残存する。枠木は太めで、内側を「山」形に面取りする。面取り部分には、9㎝ほどの間隔で、網を取り付ける緊縛用の小孔をあける。端部は紐緊縛のための突起を削り出す。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

128

MW- 漁撈 -0008
047-00010W

128　木製品（漁撈具 / 櫂）

本木製品は、南東端の第47次調査の環濠から出土した。軸部を一部欠損する。両端に身部を有する形態である。軸部の中央からゆるやかに幅広となり、断面は楕円形を呈する。両端の身部は、対称となる側縁に刃をもつ。共伴土器は、大和第Ⅱ-1様式である。

第 47 次調査
遺構：SD-2104B
層位：第 14 層
土色：黒粘
取上：　－
№：452
共伴：大和第Ⅱ-1 様式
残存長：78.8（写真下）
幅　：6.0　（写真下）
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：脂肪酸

129

MW- 食膳 -0011
053-00054W

129　木製品（食事具 / 匙）

本木製品は、中央区の第53次調査の落ち込み状遺構から出土した。身の口縁部と柄の一部を欠損する。身の口縁部は、柄より一段高く削り出し、身の内側も深く刳りくぼめている。柄は斜め上方へ湾曲して伸び、その端部側辺を突出させ、上面からみると楕円形を呈す。共伴土器は大和第Ⅰ-1様式である。

第 53 次調査
遺構：SR-101B
層位：第 8 層
土色：暗灰粘
取上：　－
№：404
共伴：大和第Ⅰ-1 様式
長　さ：28.3
残存幅：6.8
樹種：ヤマグワ
保存処理：ラクチトール

130　木製品（食事具 / 匙）

本木製品は、南地区の第33次調査の区画溝から出土した。身の口縁部と柄の一部を欠損する。身の口縁部と柄の上面には段はなく、身の内側は浅く刳りくぼめている。柄は斜め上方へ湾曲して伸び、その端部側辺と身との界を0.5㎝ほど突出させるとともに刻み目を入れ装飾とする。共伴土器は大和第Ⅱ-2様式である。

第33次調査
遺構：SD-127
層位：第5層
土色：黒灰色粘質土
取上：W-501
№：1151
共伴：大和第Ⅱ-2様式
残存長：12.3
残存幅：4.5
樹種：ヤマグワ
保存処理：PEG

130

MW- 食膳 -0009
033-00002W

131　木製品（食事具 / 匙）

本木製品は、南地区の第33次調査の環濠から出土した。身の口縁部と柄の基部を欠損する。身の口縁部は、柄より一段高く削り出し、身の内側も深く刳りくぼめている。柄は斜め上方へのびる。共伴土器は大和第Ⅱ-1-b・Ⅱ-2様式である。

第33次調査
遺構：SD-110
層位：第4層
土色：灰粘
取上：　－
№：344
共伴：大和第Ⅱ-1・2様式
残存長：12.8
幅　：6.2
樹種：　－
保存処理：ラクチトール

131

MW- 食膳 -0015
033-00001W

132　木製品（食事具 / 組合せ式匙の柄）

本木製品は、北地区の第59次調査の井戸から出土した。身部は外れて、柄のみ残存する。身部との接合は、段差がでないように柄前面の下部を、一段低く削り落とし、受け部を作っている。身部と接着させるため、受け部には小孔が２つあり、木釘が残存している。柄の上端部は、両側辺から抉りを入れ突出させている。また、その下方に小孔をあけている。柄主軸と受け部との角度は約20°である。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

第59次調査
遺構：SK-3135
層位：第4(下)層
土色：灰褐粘
取上：　－
№：1102
共伴：大和第Ⅱ-3様式
長さ：15.7
幅　：1.6
樹種：広葉樹
保存処理：アルコール

132

MW- 食膳 -0032
059-00038W

133　木製品（食事具 / 組合せ式匙の柄）

本木製品は、北地区の第59次調査の井戸から出土した。身部は外れて、柄のみ残存する。身部との接合は、段差がでないように柄前面の下部を、一段低く削り落とし受け部を作っている。この部分には小孔が２つあり、木釘により身部と接着させたと考えられる。柄主軸と受け部との角度は約40°である。共伴土器は大和第Ⅲ-2様式である。

第 59 次調査
遺構：SK-1101
層位：第７層
土色：黒粘
取上：　－
№：235
共伴：大和第Ⅲ-2 様式
長さ：17.1
幅：1.8
樹種：針葉樹
保存処理：アルコール

134　木製品（食事具 / 匙未成品）

本木製品は、北西端の第13次調査の環濠から、鞘入り石剣（打製石器211・木製品123）・火鑽臼（木製品181）とともに出土した。完形品。身部は紡錘形を呈す。内面の刳り込みは浅い。柄は身との界目近くでくびれてやや広くなり、斜め上方へ外湾ぎみにすぼまりながら伸びる。共伴土器は大和第Ⅳ-2・Ⅴ-1様式である。

第 13 次調査
遺構：SD-102
層位：植物層下部
土色：　－
取上：　－
№：105
共伴：大和第Ⅳ-2・Ⅴ-1 様式
長さ：24.8
幅：6.1
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：PEG

135　木製品（食事具 / 匙未成品）

本木製品は、北地区の第51次調査の井戸から、大形器台（『目録Ⅱ』搬入008）・卜骨（『目録Ⅳ』掲載予定、骨角牙072）・盾（木製品118）・平鍬（木製品019）とともに出土した。完形品。身部の厚みはあまりなく、平面は紡錘形を呈す。内面は刳り込まれていない。柄は身部から屈曲して斜め上方へ外湾し、すぼまりながら伸びる。柄の先端は逆「V」字形に尖らせる。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

第 51 次調査
遺構：SK-104
層位：第５層
土色：　－
取上：W-512
№：120
共伴：大和第Ⅴ-1 様式
長さ：28.0
幅：5.0
樹種：　－
保存処理：脂肪酸

136　木製品（食事具 / 横杓子未成品）

本木製品は、北限の第45次調査の河跡から出土した。完形品。身部の先端が細長く伸びる不整円形で、柄部が水平方向に一体的に伸びる。身部は刳り込んでいない。柄部の端部は下方へ屈曲する。全体に厚みのある未成品である。共伴土器は大和第Ⅰ-1-a様式である。

第45次調査
遺構：SR-201
層位：第4･5層
土色：黒色微砂
取上：　－
№：22
共伴：大和第Ⅰ-1様式
長　さ：35.8
身部幅：13.2
樹種：　－
保存処理：PEG

136

MW- 食膳 -0016
045-00001W

137　木製品（食事具 / 横杓子未成品）

本木製品は、北地区の第26次調査の土坑から出土した。ほぼ完形である。身部は丸く、内面は口縁部に面をもたせ、その中央を僅かに刳り込んでいる。柄部は身部底部から水平に伸び、上部に横長の縦把手を作り込む。共伴土器は大和第Ⅲ-3様式である。

第26次調査
遺構：SK-2116
層位：第4層
土色：黒粘 (砂混)
取上：W-401
№：523
共伴：大和第Ⅲ-3様式
長さ：26.5
幅　：13.7
樹種：サクラ属
保存処理：PEG

137

MW- 食膳 -0005
026-00001W

138　木製品（食事具 / 組合せ式横杓子未成品）

本木製品は、北西端の第115次調査の環濠から出土した。完形品。身部は丸く、内面は口縁部から中央に向かって刳りくぼめているが、まだ厚みがある。身の口縁部の一端に楕円形の突起を削り出し、柄を取り付ける受け部とする。柄は上面あるいは側面に接着させると思われる。共伴土器は大和第Ⅳ-1様式である。

第115次調査
遺構：SD-101B
層位：第12層
土色：　－
取上：W-1243
№：169
共伴：大和第Ⅳ-1様式
長さ：13.5
幅　：11.8
樹種：サクラ属
保存処理：真空凍結

138

MW- 食膳 -0043
115-00011W

139

MW- 食膳 -0035
079-00015W

139　木製品（食事具 / 縦杓子未成品）

本木製品は、西地区北部の第79次調査の環濠から出土した。ほぼ完形である。身部は小さな半球状で、少し刳りくぼめている。柄は、斜め上方へ長く伸びる。柄の端部は、後面側に円形の突起を作り出す。共伴土器は大和第Ⅳ様式である。

第 79 次調査
遺構：SD-101B
層位：第 7-b 層
土色：黒灰色微粘砂 (植物混)
取上：　－
№：394
共伴：大和第Ⅳ様式
高さ：25.2
幅：3.0
樹種：ヤマグワ
保存処理：ラクチ・トレハ

140

MW- 食膳 -0018
074-00026W

140　木製品（食事具 / 縦杓子未成品）

本木製品は、西地区中央部の第74次調査の土坑から出土した。完形品。身部は半球状で、上面は僅かに刳りくぼめている。柄は、身部から垂直に立ち上がり、中央で大きく外反し端部にいたる。柄端部は、横方向に突起を削り出す。全体は淡褐色を呈し、木質を残している。共伴土器は大和第Ⅱ-1 様式である。

第 74 次調査
遺構：SK-203
層位：第 6 層
土色：　－
取上：W-601
№：814
共伴：大和第Ⅱ-1 様式
高さ：25.5
幅：27.9
樹種：ケヤキ
保存処理：ラクチトール

141

MW- 食膳 -0003
016-00004W

141　木製品（食事具 / 縦杓子未成品）

本木製品は、西地区中央部の第16次調査の土坑から、平鍬身未成品（木製品030）とともに出土した。完形品。身部は円筒状で、底部は尖底を呈す。身部から垂直に柄部が伸びる形態である。共伴土器は大和第Ⅰ-2-b 様式である。

第 16 次調査
遺構：SX-102
層位：　－
土色：黒粘Ⅲ
取上：W-21
№：224
共伴：大和第Ⅰ-2 様式
高さ：29.5
幅：11.0
樹種：　－
保存処理：PEG

142　木製品（食事具 / 蓋）

本木製品は、西地区北部の第79次調査の環濠から出土した。端部の一部を欠損する。土中乾燥のため、残存状況は悪い。円盤状を呈す被せ蓋で、内面の周縁は内部を一段削り込む。外面中央には径約８㎝の円形を削り出し、その内側に３つの円形を削り込む。共伴土器は大和第Ⅲ-３様式である。

第 79 次調査
遺構：SD-101B
層位：第９層
土色：　－
取上：W-901
№：472
共伴：大和第Ⅲ-3 様式
長軸：24.0
短軸：23.0
樹種：ヤマグワ
保存処理：ラクチ・トレハ

142

MW- 食膳 -0021
079-00012W

143　木製品（食事具 / 合子蓋）

本木製品は、南地区の第61次調査の土坑から、後述木製品144とともに出土し、組み合うものである。完形品。長方形にちかい楕円形を呈すが、片側の長辺に使用時のものとみられる抉りが残存する中央部がややふくらむ覆い蓋である。合子本体との緊縛用に長方形の小さな耳を短辺両側に作り出している。各耳には、紐孔が各３つあけられている。全体は使用により表面が摩耗している。共伴土器は大和第Ⅱ-２様式である。

第 61 次調査
遺構：SK-153
層位：第２層
土色：　－
取上：W-202
№：1367
共伴：大和第Ⅱ-2 様式
長さ：16.6
幅　：12.3
樹種：ヤマグワ
保存処理：真空凍結

143

MW- 食膳 -0024
061-00031W

144　木製品（食事具 / 合子身）

本木製品は、南地区の第61次調査の土坑から前述木製品143とともに出土し、組み合うものである。胴下半の一部を欠損する。平面は楕円形を呈すが、土圧により変形している。口縁部から底部に向かってややすぼまる形態である。底部には、短い円柱の脚部４つを削り出す。胴部上端の短辺側には、蓋と組み合うように長方形の小さな突起のある耳が作られ、各耳には、紐孔が各１つあけられている。内面には灰白色の付着物が残存する。使用により表面は摩耗している。共伴土器は大和第Ⅱ-２様式である。

第 61 次調査
遺構：SK-153
層位：第２層
土色：　－
取上：W-201
№：1367
共伴：大和第Ⅱ-2 様式
高さ：12.2
長さ：16.7
樹種：ヤマグワ
保存処理：真空凍結

144

MW- 食膳 -0023
061-00030W

145　木製品（食事具 / 合子身）

本木製品は、南東端の第３次調査の環濠から出土した。上端受け部を僅かに欠くが、ほぼ完形品である。上面の口縁部は僅かに楕円形、底部は円形を呈す。口縁部上端は蓋を受けるための突起を削り出す。また、口縁部上端の側面には、蓋との緊縛用の楕円状突起を設け、紐孔２孔をあける。口縁部から底部に向かってややすぼまる形態で、底部にはやや太い円柱の脚部４つを削り出している。全体は使用によりやや表面が摩耗している。共伴土器は大和第Ⅴ様式である。

第３次調査
遺構：SD-102N
層位：　－
土色：　－
取上：　－
№：10645
共伴：大和第Ⅴ様式
高さ：14.6
長さ：20.1
樹種：未同定
保存処理：PEG

146　木製品（食事具 / 合子身）

本木製品は、南地区の第33次調査の土坑から出土した。脚部と片方の耳を欠損する。円筒状を呈す小型の合子である。印籠蓋を受けるため、口縁部上面は内側を突出させる。底部には、４本の円柱脚を削り出していたが、欠損・摩滅している。胴部上端の側面には、長方形の小さな突起の耳が作られている。耳には、紐孔１つあけられている。共伴土器は大和第Ⅲ-3様式である。

第 33 次調査
遺構：SK-124
層位：第 4-b 層
土色：暗茶褐粘
取上：W-401
№：680
共伴：大和第Ⅲ-3 様式
残存高：7.5
残存長：11.5
樹種：　－
保存処理：PEG

147　木製品（食事具 / 方形容器）

本木製品は、南地区の第33次調査の区画溝から出土した。口縁部の一部を欠損する。上方へ広がる小型の方形容器である。脚部は胴部と一体で、双脚状に削り出し、その中央を抉り４脚としている。共伴土器は大和第Ⅱ-2様式である。

第 33 次調査
遺構：SD-202B
層位：第 5 層
土色：灰黒粘
取上：　－
№：1063
共伴：大和第Ⅱ-2 様式
長さ：9.1
幅：7.9
樹種：　－
保存処理：PEG

148　木製品（食事具 / 鳥形容器）

本木製品は、南東端の第40次調査の環濠から出土した。口縁部の一部を欠損する。平面は紡錘形で、鳥胴部に似せた形に削り出す。両長辺側の口縁部は内湾し、両端はやや厚みを加え、面をもつ。底部は円形に削り出し、端部は突出する。共伴土器は大和第Ⅱ-1様式である。

第40次調査
遺構：SD-102B
層位：第8層
土色：　－
取上：W-807
№：508
共伴：大和第Ⅱ-1様式
長さ：15.7
幅：7.6
樹種：ヤマグワ
保存処理：ラクチトール

149　木製品（食事具 / 筒形容器）

本木製品は、南地区の第50次調査の区画溝から出土した。筒形容器の胴部残片である。やや上方へ広がる筒状を呈する。外面には8条を一単位とする流水文が刻まれているが、横型か縦型かは判断できない。向かい合う弧線には割り付けの縦線が残っている。内面は平滑に仕上げている。共伴土器は大和第Ⅱ-2様式である。

第50次調査
遺構：SD-108B
層位：第5(下)層
土色：灰黒色砂質土
取上：　－
№：352
共伴：大和第Ⅱ-2様式
残存長：12.6
残存幅：12.8
樹種：　－
保存処理：ラクチトール

150　木製品（食事具 / 蓋未成品）

本木製品は、西地区中央部の第74次調査の河跡？から出土した。完形品。楕円形の両端が突出する板状の未成品である。この突出部は、連続した蓋未成品の切断痕跡であろう。外面中央がふくらみ、それに対応する内面も浅く刳り込まれている。他の部分は平坦である。共伴土器は大和第Ⅰ-2様式である。

第74次調査
遺構：SR-201
層位：第3層
土色：　－
取上：W-301
№：741
共伴：大和第Ⅰ-2様式
長さ：23.3
幅：16.0
樹種：ケヤキ
保存処理：アルコール

151

MW- 食膳 -0012
058-00015W

151　木製品（食事具 / 無頸壷未成品）

本木製品は、西地区中央部の第58次調査の区画溝から出土した。完形品。球形の胴部にわずかに突出する小さな円形の底部がつく。口縁部側面には、紐孔用の小さな突起を削り出している。胴部内面は刳り貫いているが、まだ器壁は厚い。共伴土器は大和第1-2様式である。

第 58 次調査
遺構：SD-201
層位：第 3 層
土色：　－
取上：W-301
№：463
共伴：大和第Ⅰ-2 様式
高さ：12.9
長さ：16.0
樹種：ケヤキ
保存処理：ラクチトール

152

MW- 食膳 -0029
034-00002W

152　木製品（食事具 / 鉢未成品）

本木製品は、北地区の第34次調査の土坑から出土した。完形品。底部から口縁部に直線的に広がる縦長の鉢で、口縁部側面に小さな突起１つを削り出す。胴部内面は刳り貫いているが、まだ器壁は厚い。共伴土器は大和第Ⅲ-2様式である。

第 34 次調査
遺構：SK-103
層位：第 2 層
土色：　－
取上：W-204
№：111
共伴：大和第Ⅲ-2 様式
高さ：9.2
幅：10.7
樹種：ハルニレ
保存処理：PEG

153

MW- 食膳 -0030
084-00001W

153　木製品（食事具 / 高杯）

本木製品は、西地区北部の第84次調査の土坑から出土した。杯部および脚裾部を欠損する。中実の脚柱部に裾部は強く屈曲して広がる。屈曲部は２条の凸帯を巡らせる。外面は黒漆塗りで、裾部には赤色顔料で木葉文を彩色する。共伴土器は大和第Ⅰ様式である。

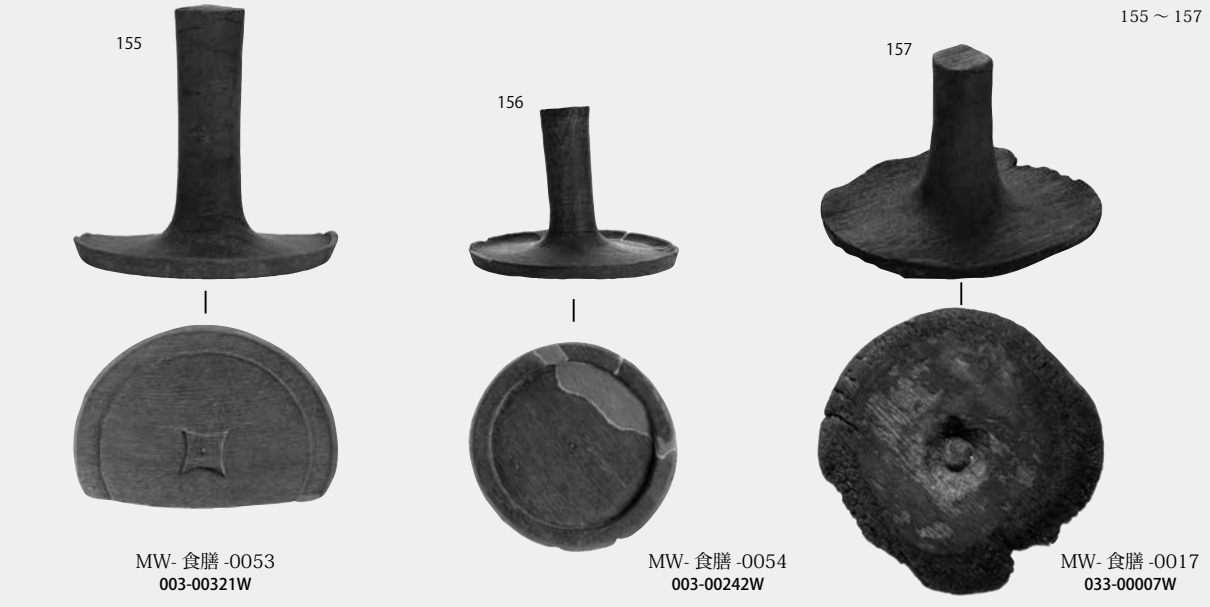
第 84 次調査
遺構：SK-201
層位：　－
土色：青灰色シルト
取上：W-01
№：477
共伴：大和第Ⅰ様式
残存高：12.8
残存長：24.3
樹種：クスノキ
保存処理：ラクチ・トレハ

154　木製品（食事具 / 高杯）

本木製品は、南東端の第３次調査の環濠から出土した。水平縁口縁の高杯で、杯部の一部を欠損する。中実の脚柱部は欠損しており、その折損面に漆が付着しているため、接着剤として利用していたものと考えられる。杯部内面は一部炭化する。口縁端部は垂下し、上面の内面側は僅かに凸帯を巡らせる。杯部内面の上部は、垂直に立ち上がる。共伴土器は大和第Ⅳ様式である。

第３次調査
遺構：SD-106
層位：　－
土色：黒粘Ⅱ
取上：　－
№：　－
共伴：大和第Ⅳ様式
最大径：25.7
残存高：8.9
樹種：　－
保存処理：PEG

155 ～ 157　木製品（食事具 / 高杯）



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	高さ	幅	樹種	保存処理
155	第３次	SD-106	－	黒粘Ⅲ	－	－	大和第Ⅲ様式	(17.0)	17.8	ヤマグワ	PEG
156	第３次	SD-106	－	黒粘Ⅱ	－	－	大和第Ⅲ様式	(10.8)	14.2	ヤマグワ	PEG
157	第33次	SK-175	第６層	モミ層	W-601	956	大和第Ⅲ-1 様式	(13.1)	(19.3)	－	PEG

木製品155・156は、南東端の第３次調査の環濠から出土した。155・156ともに杯部と脚裾部の一部を欠損する。脚柱部は中実で、裾部は平坦である。裾部は強く屈曲して広がり、端部は上方へ突出する。裾部底面は、外周部を幅広の凸帯とし、その内部を一段削り込む。155の底面の中央には、轆轤の芯部の凹みがあり、内湾する四角形状の装飾的な削り込みを入れる。156の底面の中央には、轆轤の芯部の凹みがある。155・156ともに共伴土器は大和第Ⅲ様式である。

木製品157は、南地区の第33次調査の土坑から出土した。脚部のみの高杯で、脚裾部の一部を焼損する。脚部は中実の円柱状で、裾部は強く屈曲して広がる。裾端部は上方へ僅かに突出する。裾部底面は平坦であるが、中心部は芯部を突起状に残し、円形に刳り込んでいる。また、裾部底面は炭化しているが、特に端部の炭化は著しい。共伴土器は大和第Ⅲ-1様式である。

158

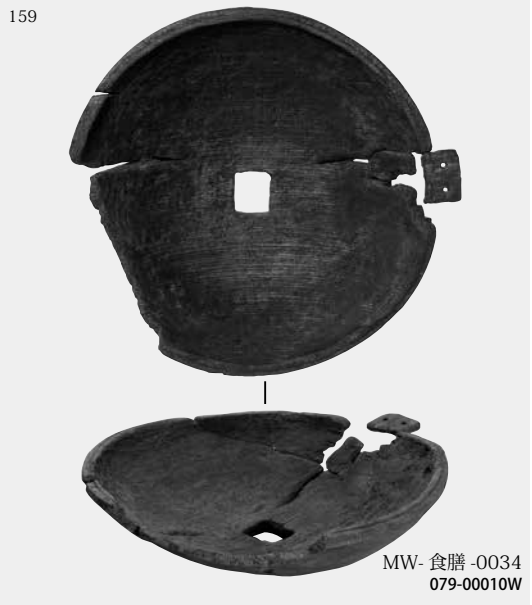
MW- 食膳 -0001
013-00027W

158　木製品（食事具 / 高杯身）

第 13 次調査
遺構：SD-106C
層位：第 7 層
土色：砂質土Ⅱ
取上：W-721
№：382
共伴：大和第Ⅲ-3･4 様式
高　さ：21.2
残存幅：24.7
樹種：ケンポナシ属
保存処理：PEG

本木製品は、北西端の第 13 次調査の環濠から、後述の自在鉤（木製品 182）とともに出土した。杯部の一部を欠損する。杯部は椀状を呈す。蓋付の杯部で印籠蓋を受けるため、口縁部上面は内側を突出させる。また、口縁部上端の側面には、一対の把手状の耳が付くが、片方は欠損している。耳の上面には、蓋との緊縛用の紐孔を 2 孔穿つ。脚部は中実の円柱状で、裾部は強く屈曲して広がる。裾端部は上方へ突出する。共伴土器は大和第Ⅲ-3・4 様式である。

159



MW- 食膳 -0034
079-00010W

159　木製品（食事具 / 組合せ式高杯杯部）

第 79 次調査
遺構：SD-101B
層位：第 6 層
土色：暗灰粘 (植物混)
取上：W-601
№：663
共伴：大和第Ⅳ-1 様式
高　さ：7.6
残存長：32.1
樹種：ケヤキ
保存処理：ラクチ・トレハ

本木製品は、北西端の第 79 次調査の環濠から出土した。組合せ式高杯の杯部で、杯部口縁部の一部を欠損する。杯部は浅い椀状を呈す。蓋付の杯部で、口縁部上端は蓋を受けるための突起を削り出す。また、口縁部上端の側面には、蓋との緊縛用の方形突起を設け、紐孔 2 孔をあける。杯部底面には、脚部との結合のための方孔をあける。共伴土器は大和第Ⅳ-1 様式である。

160

組合せ部の上面

MW- 食膳 -0042
115-00008W

160　木製品（食事具 / 組合せ式高杯脚部）

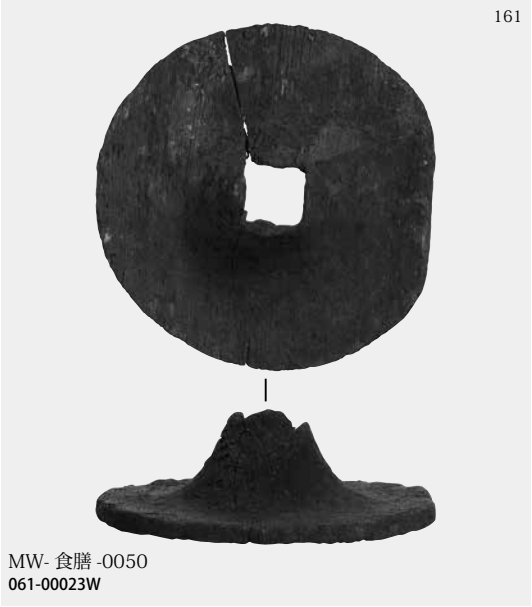
第 115 次調査
遺構：SD-101B
層位：第 13 層
土色：　－
取上：W-1357
№：209
共伴：大和第Ⅳ-1 様式
残存高：17.3
残存長：13.6
樹種：本体・差込部 - ヤマグワ、木釘 - 広葉樹（散孔材）
保存処理：真空凍結

本木製品は、北西端の第 115 次調査の環濠から出土した。杯部と脚部から成る組合せ式高杯の脚柱部で、脚裾部の一部と上端を欠損する。裾部は、脚柱部から大きく広がり、裾端部は上方へ突出する。脚部内面は中央が一段刳りくぼめられている。脚柱部上面には、杯部の枘が差し込めるように長方形の孔があけられており、木釘が打ち込まれた枘が方孔内に残存していた。脚裾部から柱状部にかけての一部が炭化している。共伴土器は大和第Ⅳ-1 様式である。

161　木製品（食事具 / 組合せ式高杯脚部）

本木製品は、南地区の第61次調査の区画溝から出土した。杯部・脚柱部・脚裾部から成る組合せ式高杯の脚裾部で、脚裾部の一部と上端を欠損する。裾部は平坦な円盤状で、脚柱部へは短く立ち上がる。裾部上端の中央には貫通する方孔があけられ、脚柱部の枘が差し込めるようにしている。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

第61次調査
遺構：SD-151B
層位：第7層
土色：暗灰褐粘
取上：W-701
№：1266
共伴：大和第Ⅱ-3様式
残存高：5.7
長　さ：17.1
樹種：ヤマグワ
保存処理：ラクチ・トレハ



MW- 食膳 -0050
061-00023W

162　木製品（食事具 / 高杯未成品）

本木製品は、中央区の第53次調査の土坑から出土した。一木式の大形の高杯未成品である。脚裾部と杯部上面は不整円形でまだ刳り込みはない。側面からみると逆「工」字形で、逆台形の側面中央の周囲を刳り込み、短い脚柱部を作り出している。杯部上面の一端には、同様な未成品からの切り離しによる切断痕が残っている。共伴土器は大和第Ⅱ-1様式である。

第53次調査
遺構：SK-201
層位：第2層
土色：　－
取上：W-208
№：412
共伴：大和第Ⅱ-1様式
高さ：18.2
長軸：48.9
樹種：　－
保存処理：PEG

MW- 食膳 -0033
053-00009W

163　木製品（食事具 / 高杯未成品）

本木製品は、西地区中央部の第38次調査の木器貯蔵穴から平鍬身未成品（木製品023）とともに出土した一木式の高杯未成品で、ほぼ完形品である。脚裾部と杯部上面は円形、側面からみると鼓形を呈す。杯部上面や裾部に刳り込みはまだ無い。共伴土器は大和第Ⅰ-1様式である。

第38次調査
遺構：SK-208
層位：第2層
土色：　－
取上：W-205
№：177
共伴：大和第Ⅰ-1様式
高さ：8.7
長軸：13.9
樹種：ケヤキ？
保存処理：ラクチ・トレハ

MW- 食膳 -0022
038-00018W

164

MW- 食膳 -0006
033-00006W

164　木製品（食事具 / 高杯未成品）

第 33 次調査
遺構：SK-124
層位：第 6 層
土色：黒粘
取上：W-602
№：770
共伴：大和第Ⅲ-3 様式
高さ：16.5
長軸：18.8
樹種：ヤマグワ
保存処理：PEG

本木製品は、南地区の第33次調査の木器貯蔵穴から出土した。一木式の高杯未成品である。脚裾部と杯部上面は不整円形で刳り込みはない。側面は逆「工」字形で、逆台形の側面中央の周囲を刳り込み、杯部と脚部を作り出す。相対する側面には切り離しの切断面が残ることから、1.断面が逆台形の長い一木、2.両側面を刳り込み、逆「工」字形の長い一木にする、3.一木を杯部の大きさ毎に分断する、という工程が想定できる。杯部は大きく深みもあり、椀形に加工するのであろう。共伴土器は大和第Ⅲ-3様式である。

165

MW- 食膳 -0013
024-00002W

165　木製品（食事具 / 盤）

第 24 次調査
遺構：SK-103
層位：第 5 層
土色：黒粘
取上：　－
№：195
共伴：布留 1 式
長　さ：73.1
残存幅：30.2
樹種：　－
保存処理：ラクチトール

本木製品は、北地区の第24次調査の土坑から出土した。平面が長方形の大型の盤で、一長側辺が欠損している。平坦な底面から周縁部へ緩やかに立ち上がる形態で、短側辺の上面は幅広の面をもつ。脚台部は、長辺側に平行する双脚状で、その中央を抉り込み、4 脚としている。使用時に縦割れしたため、小孔を穿ち樹皮で緊縛した跡がみられるが、今は欠損している。共伴土器は布留 1 式である。

166

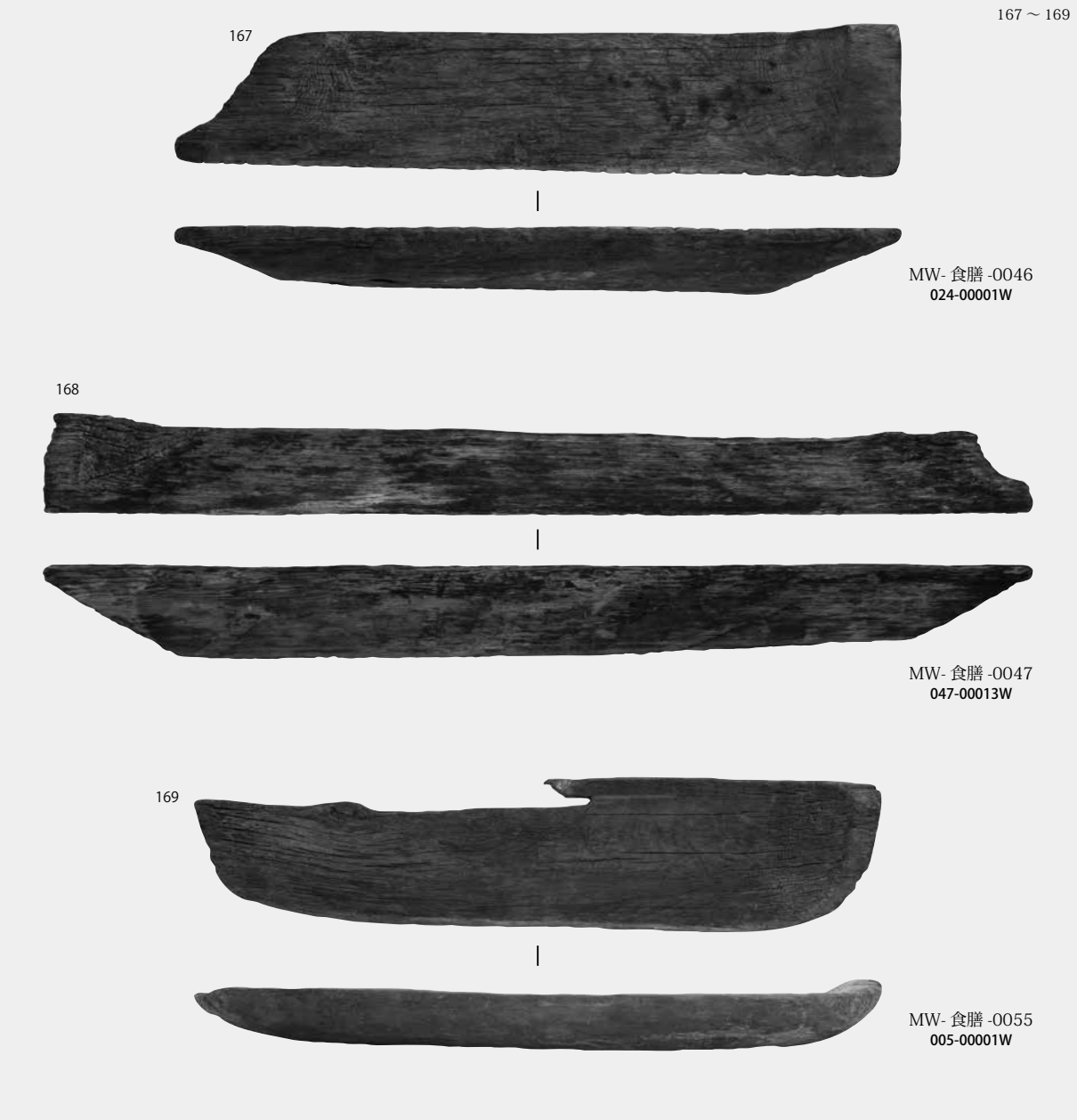
MW- 食膳 -0028
094-00001W

166　木製品（食事具 / 盤）

第 94 次調査
遺構：SD-101C
層位：第 12 層
土色：　－
取上：W-1201
№：56
共伴：大和第Ⅳ・Ⅴ様式
長さ：37.2
幅：23.6
樹種：サクラ属
保存処理：ラクチ・トレハ

本木製品は、西端の第94次調査の環濠から出土した。完形品。平面が楕円形で、底部から両短辺に向かって内湾ぎみに立ち上がる小型の盤である。長側辺の立ち上がりは少なく、短側辺側が高くなり厚みもある形態となる。脚台部は、長辺側に平行する 4 脚である。共伴土器は大和第Ⅳ・Ⅴ様式である。

167 ～ 169　木製品（食事具 / 槽）



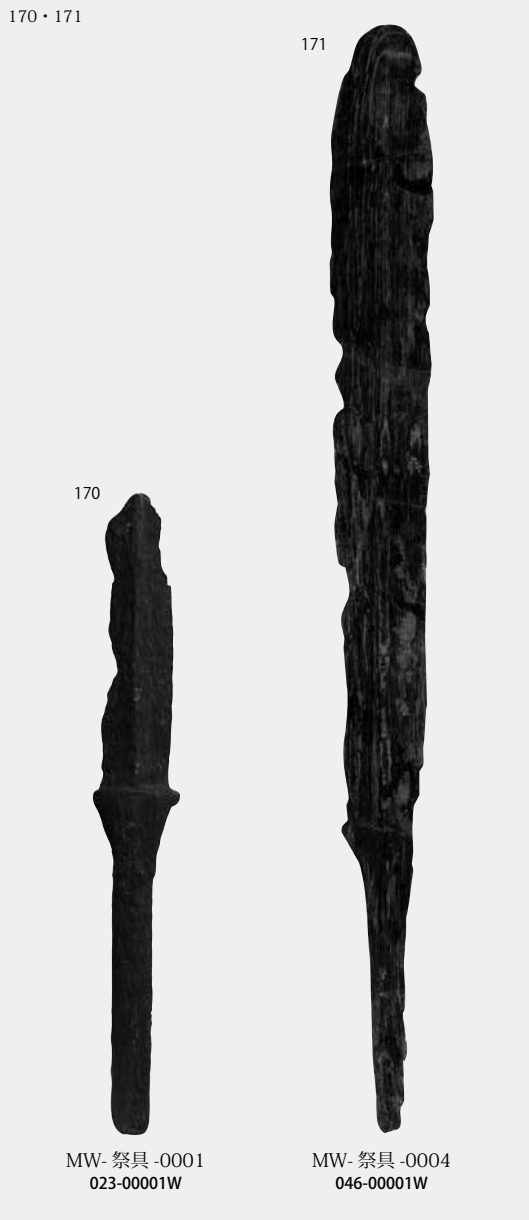
	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	樹種	保存処理
167	第 24 次	SD-107	第 3 層	黒粘	W-311	170	大和第Ⅵ-3 様式	(88.1)	(18.9)	モミ？	脂肪酸
168	第 47 次	SD-2103	第 3 層	―	W-301	224	大和第Ⅵ-4 様式・布留 1 式	119.9	(12.4)	コウヤマキ	PEG
169	第 5 次	SK-102	下層	―	―	10602	布留 0 式	(83.3)	(20.8)	―	PEG?

木製品167 ～ 169は、槽である。

木製品167は、北東端の第24次調査の環濠から出土した。一側辺のみ残存する。平面は長方形を呈する。平底で、底部から斜め上方へ直線的に広がる。短辺側の上面は幅広の面をもち、厚みも増している。長辺側の口縁部には2.7 ～ 3.0㎝間隔で刻目を入れるが、その用途は不明。共伴土器は大和第Ⅵ-3様式である。

木製品168は、南東端の第47次調査の環濠から出土した。一側辺のみ残存する。平面は長方形を呈する。平底で、底部から斜め上方へ直線的に広がる。短辺側の上面は幅広の面をもち、厚みも増している。脚台は付かない。共伴土器は大和第Ⅵ-4様式・布留1式である。

木製品169は、北地区の第5次調査の井戸から、補遺土師器146・補遺特殊140・141（『目録Ⅳ』掲載予定）とともに出土した。一側辺のみ残存する。平面はほぼ長方形を呈するが、両短側辺は丸くなる。平底で、底部から斜め上方へ緩やかに広がる。短側辺の上面は幅広の面をもち、厚みも増している。長辺側の上部は底部から徐々に薄くなる。共伴土器は布留0式である。



170　木製品（祭祀具 / 矛形木製品）

本木製品は、北地区の第23次調査の土坑から出土した。穂部と握り部（袋部）下端を欠損する。穂部は直線的で、中央に鎬を作ることから横断面は菱形となる。握り部（袋部）も直線的で、断面は楕円形を呈す。握り部（袋部）から穂部への界は緩やかに広がり、くびれて段を成す。共伴土器は大和第Ⅰ-2様式である。

第 23 次調査
遺構：SK-153
層位：第 3 層
土色：灰粘
取上：W-308
№：550
共伴：大和第Ⅰ-2 様式
残存長：47.5
幅　：6.5
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：PEG

171　木製品（祭祀具 / 矛形木製品）

本木製品は、西地区中央部の第46次調査の暗灰色砂質土層（土坑？・溝？）から出土した。刃部と握り部下端を欠損する。全体に土中での腐朽が進んだ状態である。鋒はややふくらむ形態である。横断面は全体に扁平であるが、中央の鎬部分は突起させて表現している。握り部（袋部）は基部に向かって細くなり、断面は扁平な楕円形を呈す。握り部（袋部）から穂部への界は緩やかに広がり、くびれて段を成す。共伴土器は大和第Ⅱ-1様式である。

第 46 次調査
遺構：　－
層位：第Ⅶ(上) 層
土色：暗灰色砂質土
取上：　－
№：36
共伴：大和第Ⅱ-1 様式
残存長：82.3
残存幅：7.8
樹種：コナラ属アカガシ亜属
保存処理：PEG

172　木製品（祭祀具 / 戈形木製品）

本木製品は、南地区の第33次調査の井戸中層（籾層直上）から出土した。胡の一部を欠損する。鋒に向かってややふくらむ形態である。鋒はやや摩耗する。横断面は扁平である。胡の部分には小円孔を２つ穿ち、「穿」を表現する。また、「内」も表現することから、青銅器を写実的に模したものである。共伴土器は大和第Ⅲ-3様式である。

第 33 次調査
遺構：SK-111
層位：第 4-b 層
土色：モミ層
取上：W-401
№：918
共伴：大和第Ⅲ-3 様式
残存長：21.5
残存幅：4.9
樹種：コウヤマキ
保存処理：PEG

173　木製品（祭祀具 / 戟形木製品）

本木製品は、西地区中央部の第74次調査の井戸から出土した。柄と鋒の一部を欠損する。柄と鋒が一体となるタイプで、その角度は鈍角である。鋒の断面は扁平で薄い。柄の断面は楕円形で、下端に紐かけの突起を作り出す。共伴土器は大和第Ⅲ-2様式である。

第74次調査
遺構：SK-113
層位：第6層
土色：　―
取上：W-601
№：315
共伴：大和第Ⅲ-2様式
復元長：20.3
残存幅：33.4
樹種：広葉樹
保存処理：ラクチトール

173

MW- 祭具 -0005
074-00027W

174　木製品（祭祀具 / 陽物形）

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から出土した。左側辺部を縦方向に欠損する。茎部はやや扁平な丸棒状で、頭部は三角形状に削り出す。基部はやや尖りぎみになる。共伴土器は大和第Ⅳ様式である。

第3次調査
遺構：SD-106
層位：　―
土色：黒粘Ⅰ
取上：　―
№：10644
共伴：大和第Ⅳ様式
長　さ：14.8
残存幅：4.5
樹種：アカガシ亜属
保存処理：PEG

174

MW- 祭具 -0006
003-00353W

175・176　木製品（服飾具 / 竪櫛）

木製品175は、西地区北部の第37次調査の土坑から出土した。竪櫛の先端部分の残欠である。幅0.5㎝ほどの角棒状のものに赤漆（朱）を塗布したものである。共伴土器は大和第Ⅰ-2様式である。

木製品176は、西地区中央部の第74次調査の井戸から出土した。赤漆塗り竪櫛の断片である。直径0.2㎝ほどの竹ひご状丸棒を歯とする。歯は、9本分が残存しているが、1本は脱落している。丸棒を糸で螺旋巻きにし、それらを0.7㎝間隔で結束しており、その上を赤漆（朱）で固めている。共伴土器は大和第Ⅵ-3様式である。

175

MW- 服飾 -0001
037-00027W

176

MW- 服飾 -0003
074-00023W

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	高さ	幅	樹種	保存処理
175-1	第37次	SK-2204	第3層	植物層	―	804	大和第Ⅰ-2様式	4.0（写真上）	0.6（写真上）	コナラ属クヌギ節	ﾗｸﾁﾄｰﾙ
176	第74次	SK-119	第4(下)層	黒灰色粘質土	その1	687	大和第Ⅵ-3様式	(2.1)	(2.4)	―	PEG

177

MW- 服飾 -0002
037-00007W

177　木製品（服飾具 / 簪）

本木製品は、西地区北部の第37次調査の井戸から出土した。三つ叉のフォーク状の簪で三つ叉端部の一部を欠損する。軸部先端、三つ叉端部のいずれも尖っている。丁寧な作りであるが、白木のままである。共伴土器は大和第Ⅵ-1様式である。

第37次調査
遺構：SK-2122
層位：第20層
土色：灰黒粘 (植物層)
取上：W-2001
№：990
共伴：大和第Ⅵ-1 様式
残存長：16.8
幅　：2.0
樹種：広葉樹
保存処理：ラクチトール

178

MW- 服飾 -0006
037-00130W

178　木製品（服飾具 / 垂飾品）

本製品は、西地区北部の第37次調査の区画溝から出土した。平面形は縦長の台形で、横断面形は裾が広がる凸形（角のある半裁竹管状）を呈す。上端に横方向の紐孔２を穿つ。全体に厚く漆を塗布する。黒漆の上に赤漆（朱）を重ねる。漆は一部剥落し、反り上がる。共伴土器は大和第Ⅰ-2-b様式である。

第37次調査
遺構：SD-2202B
層位：第８層
土色：黒灰粘
取上：　－
№：1003
共伴：大和第Ⅰ-2 様式
長さ：3.6
幅　：1.4
樹種：同定不可
保存処理：ラクチトール

179

MW- 服飾 -0004
023-00028W

179　木製品（服飾具 / 蓋未成品）

本木製品は、北地区の第23次調査の井戸から、後述の木製品180とともに出土した。完形品。幹（軸木）から４方向に枝（腕木）が張り出した材を利用して作っている。一部に樹皮が残存する。腕木先端は斜めに切断している。軸木上端は、くびれて上端を太くする。軸木には孔はない。共伴土器は庄内式である。

第23次調査
遺構：SK-102
層位：第８層
土色：黒灰粘
取上：W-801
№：547
共伴：庄内式
高さ：15.1
長さ：35.1
樹種：広葉樹
保存処理：ラクチ・トレハ

180　木製品（服飾具 / 蓋未成品）

本木製品は、北地区の第23次調査の井戸から、前述の木製品179とともに出土した。幹（軸木）から4方向に枝（腕木）が張りだした材を利用して作っている。一部に樹皮が残存する。腕木先端は斜めに切断している。軸木のくびれはなく、また孔もない。共伴土器は庄内式である。

第23次調査
遺構：SK-102
層位：第8層
土色：黒灰粘
取上：W-802
№：547
共伴：庄内式
高さ：17.6
長さ：38.1
樹種：不明
保存処理：ラクチ・トレハ

MW- 服飾 -0005
023-00029W

181　木製品（雑具 / 自在鉤）

本木製品は、北地区の第59次調査の土坑から出土した。軸部の樹皮部分を僅かに欠くが、ほぼ完形である。枝分かれ部分を利用した素木で、「レ」字状を呈す。軸部上端は切断面が残る。軸上部に溝を巡らせ、吊り下げのための紐を巻き付けている。紐は炭化し、その一部が残る。鈎部はやや外反し、先端部は切断面のままである。外面に樹皮が残る。共伴土器は大和第Ⅱ-3式である。

第59次調査
遺構：SK-3135
層位：第4(下)層
土色：灰褐粘
取上：　－
№：1118
共伴：大和第Ⅱ-3様式
長さ：23.8
幅　：9.2
樹種：サカキ
保存処理：脂肪酸

MW- 雑具 -0003
059-00047W

182　木製品（雑具 / 自在鉤）

本木製品は、北西端の第13次調査の環濠から、前述の蓋付高杯（木製品158）とともに出土した。完形品。板状で、逆「し」字形を呈する。軸部端には紐孔があけられる。孔は内面側が大きくなり、磨滅している。鈎部先端は、外側面側を一段削り込み、細く作る。表面の軸部には、複合鋸歯文が線刻され、その両側辺には、外側辺部を全周する刻目をいれる。共伴土器は大和第Ⅲ-3・4様式である。

第13次調査
遺構：SD-106C
層位：第7層
土色：砂質土Ⅱ
取上：W-701
№：382
共伴：大和第Ⅲ-3･4様式
長さ：41.2
幅　：25.3
樹種：カヤ
保存処理：PEG

MW- 雑具 -0001
013-00042W

183

MW- 雑具 -0002
013-00032W

183　木製品（雑具 / 火鑽臼）

本木製品は、北西端の第13次調査の環濠から、前述の鞘入り石剣（打製石器211・木製品123）・緯打具（木製品109）等とともに出土した。縁辺を小欠する。ベースとなる板の上に凸形を削り出している。凸形の上面に、回転摩擦によって生じた火鑽穴が等間隔に４つ残存し、内３つには焼痕がみられる。また、火鑽穴に沿うようにその両側面には浅く溝が作られ、火の粉がこぼれ落ちる構造にしている。共伴土器は大和第Ⅳ-2・Ⅴ-1様式である。

第13次調査
遺構：SD-102
層位：　－
土色：粗砂下の植物層
取上：　－
№：125
共伴：大和第Ⅳ-2・Ⅴ-1様式
長さ：7.2
幅　：3.7
樹種：クワ属
保存処理：PEG

184

MW- 雑具 -0012
042-00011W

184　木製品（雑具 / 作業台）

本木製品は、北西端の第42次調査の環濠から出土した。完形品。不定形の木塊の平面を利用し、作業台としている。上面に多数の刃線痕が残存する。共伴土器は大和第Ⅳ様式である。

第42次調査
遺構：SD-101
層位：第３層
土色：灰黒色砂質土
取上：　－
№：50
共伴：大和第Ⅳ様式
上面長軸：29.9
高　　さ：14.0
樹種：ケヤキ
保存処理：ラクチトール

185

MW- 雑具 -0013
031-00017W

185　木製品（雑具 / 作業台）

本木製品は、北西端の第31次調査の環濠から出土した。作業台（木製品184）が出土した一連の遺構で、隣接する。周縁の一部を欠損する。不定形の板材を利用した作業台である。底面は凹凸があり、安定しない。上面には多数の刃線痕が残存する。共伴土器は小片のみで、大和第Ⅲ-2・３様式であるが、木製品184と一連とみなした場合は大和第Ⅳ様式の可能性もある。

第31次調査
遺構：SD-2101
層位：第２層
土色：灰黒色砂質土
取上：　－
№：13
共伴：大和第Ⅲ-2・３様式？
長　さ：58.2
残存幅：37.7
樹種：　－
保存処理：ラクチ・トレハ

186　木製品（雑具 / 棚状木製品）

186

A 面

B 面

A 面

MW- 雑具 -0006
061-00115W

第 61 次調査
遺構：SD-151BN
層位：第 8 層
土色：灰黒粘
取上：W-807
№：1532
共伴：大和第Ⅱ-3 様式
長さ：94.4（上個体）
幅：40.3（上個体）
樹種：枠 - ムラサキシキブ属?、植物 - タケ亜科？
保存処理：ラクチトール

本木製品は、南地区の第 61 次調査の区画溝から出土した。すのこ状の棚板状木製品で、2 枚重なっている。半裁し、両端を削り出した有頭棒を枠としている。横軸の上に 15 ～ 20 ㎝間隔の 4 本の縦軸の半裁棒と細棒を並べ、横方向に矢竹状の細棒を敷く。共伴土器は大和第Ⅱ-3 様式である。

187

MW- 雑具 -0004
048-00002W

187　木製品（雑具 / 叩板）

本木製品は、北東端の第48次調査の環濠から出土した。握部下端と頭部左側辺の一部を欠く。頭部は、長方形で薄い板状である。片面は縦方向の板目に合わせて彫り込み、叩面とする。握部の断面は楕円形である。共伴土器は大和第Ⅵ-2様式である。

第48次調査
遺構：SD-C-107
層位：第3層
土色：　－
取上：W-301
№：375
共伴：大和第Ⅵ-2様式
長さ：30.0
幅　：5.2
樹種：ヤマグワ
保存処理：ラクチトール

188

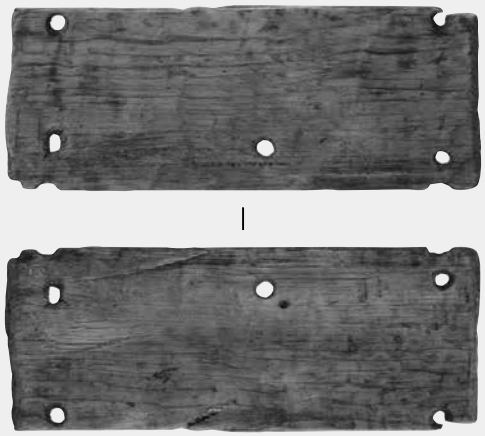
MW- 雑具 -0011
003-00081W

188　木製品（雑具 / 叩板）

本木製品は、南東端の第3次調査の環濠から、木製品010・037・038・041・052～054・057・076とともに出土した。握り部から頭部へ、徐々に広がる板状の叩板である。頭部端・周縁と握部下端の一部を欠損する。全体に縦方向に板目が浮き出ているが、特に頭部の叩面は、さらに深く彫り込んでいるようである。共伴土器は大和第Ⅴ様式である。

第3次調査
遺構：SD-102
層位：　－
土色：黒粘Ⅱ
取上：　－
№：10655
共伴：大和第Ⅴ様式
長さ：25.4
残存幅：6.9
樹種：モミ
保存処理：PEG

189



MW- 雑具 -0007
061-00074W

189　木製品（雑具 / 部材）

本木製品は、南地区の第61次調査の大溝から出土した。一長側辺を欠損する。箱状製品の部材であろう。内面側が外面側よりやや磨滅しており、切断面も斜めで磨滅する。四隅と残存する一長辺の中央に、円孔を穿つ。また、その長辺の縁辺端（円孔の下部分）にも半円弧の抉りを入れる。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

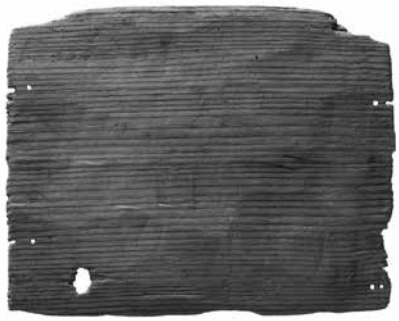
第61次調査
遺構：SD-151BS
層位：第9層
土色：褐灰粘 (植物混)
取上：　－
№：1502
共伴：大和第Ⅱ-3様式
長　さ：15.4
残存幅：6.4
樹種：ヒノキ
保存処理：PEG

190　木製品（雑具 / 部材）

本木製品は、南東端の第３次調査の環濠から出土した。周縁の一部を欠損する。長方形の薄板で、箱部材の一部の可能性がある。表面はやや丸みがあり削り痕が少なく、裏面（写真側）は平坦で削り痕を明瞭に残す。両側辺から４㎝ほどが薄い。上辺は中央が僅かに高くなる。下辺中央やや左に凹みをもつ。両側辺に径0.3㎝ほどの目釘孔を横２列に上下２つずつあける。また、下辺近くの右側に不整円孔（0.9×1.5㎝）１つを穿つ。共伴土器は大和第Ⅴ様式である。

第３次調査
遺構：SD-102
層位：　－
土色：黒粘Ⅱ
取上：　－
№：10627
共伴：大和第Ⅴ様式
長さ：20.8
幅　：24.5
樹種：未同定
保存処理：PEG

190



MW- 雑具 -0014
003-00120W

191　木製品（雑具 / 部材）

本木製品は、南地区の第69次調査の環濠から出土した。何らかの部材の一部であろう。一端を欠損する。両端に縦長の長方形の方孔を穿つが、大きさは揃っていない。小さい方の方孔と端部の間には、縦方向の罫描き線がみられる。また、中央よりやや偏った上端に横長の方孔をあける。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

第69次調査
遺構：SD-1109
層位：第６層
土色：　－
取上：W-605
№：848
共伴：大和第Ⅴ-1様式
長さ：46.4
幅　：5.7
樹種：スギ
保存処理：ラクチトール

191

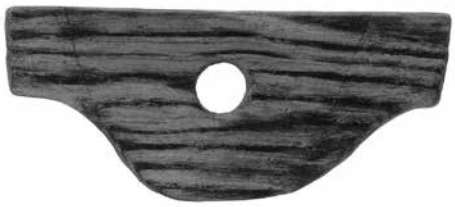
MW- 雑具 -0008
069-00053W

192　木製品（雑具 / 部材）

本木製品は、北西端の第42次調査の環濠から出土した。完形品。何らかの部材の一部であろう。板材で、平面はなだらかな山形で下辺の両端が突出する。中央に1.3㎝ほどの円孔を穿ち、片面側がやや広い。他面には、山形に沿うように罫描き線がみられる。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

第42次調査
遺構：SD-101
層位：第1(下)層
土色：暗灰褐色粘質土
取上：　－
№：40
共伴：大和第Ⅴ-1様式
長さ：4.9
幅　：11.3
樹種：　－
保存処理：PEG

192



MW- 雑具 -0010
042-00001W

193

MW- 雑具 -0009
098-00028W

193　木製品（雑具 / 部材）

本木製品は、中央区の第98次調査の土坑から出土した。栓状の木製品で、先端を欠損する。断面が楕円形の頭部で、軸部分は方形に削り出す。軸先端には円形孔があけられていたが、欠損している。共伴土器は大和第Ⅱ-2様式である。

第 98 次調査
遺構：SK-203
層位：第 3 層
土色：　—
取上：W-301
№：536
共伴：大和第Ⅱ-2 様式
残存長：19.1
幅　：4.6
樹種：サカキ
保存処理：アルコール

194・195

MW- 建築 -0004
054-00002W

MW- 建築 -0016
055-00001W

194　木製品（建築部材 / 梯子）

本木製品は、東端の第54次調査の河跡から出土した。半裁の板材の曲面側を斜めに深く削り込み、上面は平坦にし、4階段とする。下端は斜めに切断する。風化が全体にみられ、磨耗している。共伴土器は大和第Ⅵ-3様式である。

第 54 次調査
遺構：SR-102A
層位：第 3 層
土色：　—
取上：W-301
№：11
共伴：大和第Ⅵ-3 様式
長さ：117.3
幅　：17.4
樹種：コナラ属コナラ節
保存処理：ラクチトール

195　木製品（建築部材 / 梯子未成品）

本木製品は、北西端の第55次調査の環濠から出土した。4段の梯子である。一側辺に樹皮が残存するが、一部は脱落している。下端は尖らせる。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

第 55 次調査
遺構：SD-102
層位：第 5 層
土色：　—
取上：W-505
№：52
共伴：大和第Ⅴ-1 様式
長さ：139.5
幅　：25.0
樹種：ヤマグワ
保存処理：ラクチ・トレハ

196・197　木製品（建築部材 / 柱）

196・197

196

197

MW- 建築 -0005
074-00030W

MW- 建築 -0006
074-00029W

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	高さ	幅	樹種	保存処理
196	第 74 次	Pit-104W	第 1 層	―	柱 -101	919	大和第Ⅴ様式	(56.6)	67.0	ケヤキ	ﾗｸﾁﾄｰﾙ
197	第 74 次	Pit-104E	第 1 層	―	柱 -101	918	大和第Ⅱ-2 様式	(57.6)	63.0	ケヤキ	ﾗｸﾁﾄｰﾙ

木製品196・197の柱は、西地区中央部の第74次調査で検出した大型建物跡の柱穴に残存していたケヤキ柱である。大型建物は調査区外に延びており、柱穴の全てを検出したわけでなく、棟持柱１基を含む16基の柱穴を検出し、その内４基に柱が残存していた。196の柱は東側柱列の北から４番目、197は西側柱列の北から４番目のものである。この２本の柱は立った状態で出土した。いずれも直径60㎝ほどの柱で、全体に腐朽が進んでおり、加工痕は残っていない。底面は平坦でなく、やや斜めに切断されている。上面や側面にはクラックが全体に入っており、地下水の関係で一度、乾燥した可能性がある。後述する柱（木製品198）にみられるような目途穴はない。C14年代測定法によれば、下ってもB.C.５Ｃまでの結果が得られている。

198　木製品（建築部材 / 柱）

198

MW- 建築 -0015
074-00028W

本木製品は、西地区中央部の第74次調査で検出した大型建物跡の柱穴に残存していたケヤキ柱である。前述の柱（木製品196・197）と一連のケヤキ柱で、東側柱列の北から1番目の隅柱である。この柱は転用するために抜き取ろうとして放置されたか、そのままでは邪魔なので横に倒した状態にしたものである。したがって、地上側になっていた柱の側面は腐朽が進み原形がなく、全体としては木製品196・197のようにクラックが入っている。その反対側の下面の一部分は残存状況が良く、加工痕も一部残る。柱下部の側面には長方形孔の貫通する目途穴1つがあけられているが、対となる目途穴は一段彫り込んで止めている。直径約52㎝、残存高約143㎝である。

第74次調査
遺構：Pit-101E
層位：第1層
土色：　－
取上：柱-101
№：981
共伴：大和第Ⅱ-2様式
残存高：143.4
幅　：52.0
樹種：ケヤキ
保存処理：ラクチトール

199　木製品（建築部材 / 柱）

本木製品は、西地区北部の第93次調査で検出した大型建物跡のケヤキ柱である。西側の北から１番目の隅柱で、柱穴の横に抜き取り用の穴を彫り、斜めに倒された状態で出土したものである。転用できずに放置されたものであろう。柱は直径83㎝、残存高約250㎝の巨大なものである。柱上半は、地上付近にあたり腐朽しクラックが多数入っているが、下半は加工痕を明瞭に留めている。柱下部には対になる長方形の貫通する目途穴が２つあけられている。また、この２つの目途穴間の片側面は、柱底面に向かって斜めに削り込み「樵」状にしている。目途穴には運搬に使われたと考えられる蔓14本の束が残存していた。底面は伐採痕跡が明瞭で、周囲からの削り込みのため、中央が残存気味に尖って残っている。

第93次調査
遺構：Pit-1201WB
層位：第14層
土色：　－
取上：W-101
№：1274
共伴：大和第Ⅲ-2様式
残存高：250.0
幅　：83.2
樹種：ケヤキ
保存処理：ラクチ・トレハ

200

MW- 建築 -0012
065-00010W

200　木製品（建築部材 / 柱）

本木製品は、南地区の第65次調査の柱穴から出土した。長軸17.8×短軸15.0㎝の断面が楕円形を呈する柱である。上端は腐朽している。下面は切断痕のままである。下部に枝があったが、平坦に削りこんでいる。樹皮は剝いでいる。共伴土器は大和第Ⅰ様式である。

第 65 次調査
遺構：Pit-201
層位：　－
土色：　－
取上：　－
№：1068
共伴：大和第Ⅰ様式
残存高：70.5
径長軸：17.8
樹種：チドリノキ
保存処理：ラクチトール

201

MW- 建築 -0001
016-00022W

201　木製品（建築部材 / 建築材）

本木製品は、西地区中央部の第16次調査の土坑から出土した。側辺の一部を欠損する。長方形板の中央に約13㎝の円形孔をあけ、両短辺側には方形孔をあける。共伴土器は大和第Ⅰ-2様式である。

第 16 次調査
遺構：SX-102
層位：　－
土色：黒粘Ⅲ
取上：W-01
№：224
共伴：大和第Ⅰ-2 様式
長さ：57.5
幅：18.8
樹種：　－
保存処理：PEG

202　木製品（建築部材 / 建築材）

本木製品は、南東端の第３次調査の環濠から出土した。右上端部と左下端部の一部を欠損する。細長い長方形板の上半に方孔・円孔をあけたものである。右上隅に小方孔１、中央やや右上に小方孔２とその間に大きめの方孔、左上端に小円孔２をあける。上端の小方孔の上がやや凹んでおり、使用による摩滅痕と考えられる。共伴土器は大和第Ⅴ様式である。

第３次調査
遺構：SD-102N
層位：　－
土色：　－
取上：W-03
№：10656
共伴：大和第Ⅴ様式
長さ：10.8
幅　：91.7

203　木製品（建築部材 / 部材）

本木製品は南東端の第47次調査の環濠から出土した。両端に方孔をもつ建築部材である。片端の一部を欠損する。横断面は三角形を呈し、底面は幅広になる。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

第 47 次調査
遺構：SD-2101
層位：第８層
土色：　－
取上：W-870
№：389
共伴：大和第Ⅴ-1 様式
長さ：126.2
幅　：10.9
樹種：ツブラジイ
保存処理：PEG

204　木製品（建築部材 / 不明建築材）

本木製品は、北西端の第90次調査の環濠から出土した。上向きに立ち上がる鉤の手状の板材である。完形品。基部を凸帯状に一段削り出し、末端は枘を作る。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

第 90 次調査
遺構：SD-101C
層位：第 16 層
土色：　－
取上：W-1601
№：85
共伴：大和第Ⅴ-1 様式
長さ：6.7
幅　：16.2
樹種：コウヤマキ
保存処理：ラクチ・トレハ

205

MW- 其他 -0001
037-00043W

205　木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、北地区の第37次調査の河跡から出土した。赤漆塗り木製品の側辺片である。外側面は半円形を呈し、赤漆（朱）の上に部分的に黒漆を塗る。外側面の上端は外湾ぎみに立ち上がる。内面側が中実か中空かは不明である。共伴土器は大和第Ⅰ-2様式である。

第 37 次調査
遺構：SX-4201
層位：第３層
土色：黒褐粘
取上：　－
№：917
共伴：大和第Ⅰ-2 様式
長　さ：2.0
残存幅：6.1
樹種：　－
保存処理：ラクチトール

206

MW- 其他 -0013
003-00069W

206　木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、南東端の第３次調査の環濠から、木製品010・037・038・041・052～054・060・076とともに出土した。完形品。長柄鋤状の木製品で、身部の側辺を一部欠損する。軸部は丸棒状で直線的である。身部の上端はナデ肩で、下方へ徐々に細くなり、また下部で広がる。身部上端で一段削り込み、中央が薄くなり、下部で厚くなる。反対面は平坦である。共伴土器は大和第Ⅴ様式である。

第３次調査
遺構：SD-102
層位：　－
土色：黒粘Ⅱ
取上：　－
№：10654
共伴：大和第Ⅴ様式
長さ：107.3
幅　：10.2
樹種：アカガシ亜属
保存処理：PEG

207　木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、南地区の第61次調査の区画溝から出土した。工具の柄であろうか。基部を小欠するが、ほぼ完形である。柄部は断面が円形であり、基部が突出する。基部端は平坦で、その中央に紐かけの突起を削り出す。柄の先端部分は一段削り込み、先端に向かって細く尖らせる。先端の柄部寄りは断面円形、それより先端は断面方形となる。先端の中ほどに木釘が残存する。共伴土器は大和第Ⅲ-1様式である。

第61次調査
遺構：SD-152
層位：第２層
土色：　－
取上：W-201
№：1556
共伴：大和第Ⅲ-1様式
長さ：23.0
長軸：1.8
樹種：カヤ
保存処理：PEG

208　木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、南東端の第３次調査の環濠から出土した。側面を僅かに欠くが、ほぼ完形である。丸棒で上端から下端に向かって徐々に細くなり、先端が尖る刺突具状を呈する。上端は丸くなり、炭化する。全体に面は滑らかに仕上げている。共伴土器は大和第Ⅴ様式である。

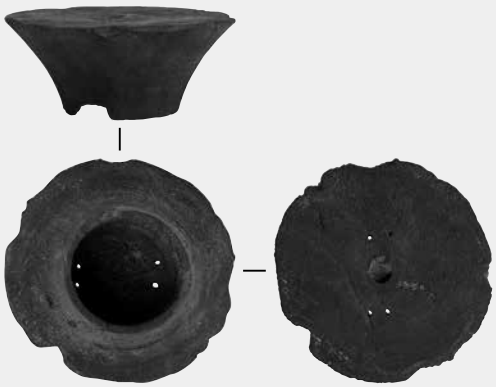
第３次調査
遺構：SD-102
層位：　－
土色：黒粘Ⅱ
取上：　－
№：10573
共伴：大和第Ⅴ様式
長さ：46.9
径：2.6
樹種：　－
保存処理：PEG

209　木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、南地区の第61次調査の土坑から出土した。儀仗様の木製品である。先端を一部欠損する。丸棒を加工して製作している。頭部に扁球形の珠２つを削り出し、その上を円錐状に加工する。中央から下半は細くなるように削っており、粗く加工痕が残存する。共伴土器は大和第Ⅰ様式頃か。

第61次調査
遺構：SK-155
層位：第２層
土色：　－
取上：W-201
№：1497
共伴：大和第Ⅰ様式？
残存長：59.3
残存幅：5.4
樹種：サカキ
保存処理：ラクチ・トレハ

210



MW- 其他 -0003
090-00010W

210　木製品（その他木製品 / 用途不明品）

第 90 次調査
遺構：SD-101C
層位：第 16(下) 層
土色：　－
取上：W-1651
№：92
共伴：大和第Ⅴ-1 様式
径長軸：12.0
高　さ：5.0
樹種：広葉樹
保存処理：ラクチ・トレハ

本木製品は、北西端の第90次調査の環濠から出土した。側縁を小欠するが、ほぼ完形である。やや内湾する円錐台状を呈する。内部は垂直に刳り込み、丸棒が挿入できるようにしている。天井部は平坦に作る。中心に、径1.3㎝の軸を削り出していたようだが欠損している。また、軸を中心に２方向に２列の小孔を貫通させる。小孔は、中心部に向かって斜めにあけられている。側外面の湾曲は精緻で、轆轤成形と考えられる。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

211

MW- 其他 -0004
065-00023W

211　木製品（その他木製品 / 用途不明品）

第 65 次調査
遺構：SK-115
層位：第 5 層
土色：　－
取上：W-501
№：464
共伴：大和第Ⅴ-1 様式
径長軸：5.1
高　さ：2.6
樹種：ニワトコ
保存処理：ラクチ・トレハ

本木製品は、南地区の第65次調査の井戸から出土した。上端側縁を小欠するが、ほぼ完形である。下部がすぼまる低い円筒状を呈する木製品で、天井部の周縁は幅0.7㎝ほど突出している。下面は丁寧に刳り込む。下辺の両側には長方形の抉りを入れ、直交する内面天井部には不整円形の孔２つをあける。下辺はほぼ円形であるが、前述の不整円孔の大きい方の側にあたる下辺は、やや外側に突出する。色調は淡褐色を呈する。共伴土器は大和第Ⅴ-1様式である。

212

MW- 其他 -0005
078-00006W

212　木製品（その他木製品 / 用途不明品）

第 78 次調査
遺構：SD-108
層位：第 3 層
土色：　－
取上：W-301
№：119
共伴：大和第Ⅴ様式
長さ：17.2
幅　：6.2
樹種：ヒノキ科
保存処理：ラクチ・トレハ

本木製品は、東端の第78次調査の環濠から出土した。上端側縁の一部を欠損する。平面は細長い楕円形で、周縁が垂直に立ち上がり筒状を呈する。側面に0.3㎝ほどの小孔が１㎝間隔で横方向に２段以上あけられる。共伴土器は大和第Ⅴ様式である。

213　木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、北地区の第59次調査の井戸から出土した。何らかの組合せの部材であろう。側縁を小欠する。細長い紡錘形の身部に方形の頭部がつく。片面の身部は膨らみ、頭部中央が突出している。他面の身部内部は刳り込み、頭部は平坦に作る。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

第59次調査
遺構：SK-3135
層位：第5層
土色：灰褐粘
取上：　－
№：1129
共伴：大和第Ⅱ-3様式
長　さ：18.7
残存幅：3.5
樹種：ヤマグワ
保存処理：ラクチ・トレハ

213

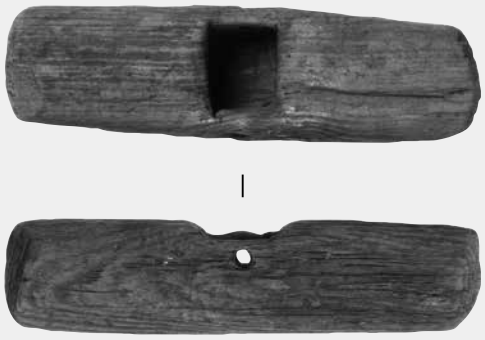
MW- 其他 -0010
059-00059W

214　木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、西地区北部の第93次調査の柱穴から出土した。完形品。鋤の把手状の木製品であるが、用途は不明である。丸棒の中央に方孔をあけ、その側面に固定のための小孔をあける。両側面はやや丸い。共伴土器は大和第Ⅲ-3様式である。

第93次調査
遺構：Pit-1201W
層位：第5層
土色：黒粘（シルト・砂混）
取上：　－
№：996
共伴：大和第Ⅲ-3様式
長さ：10.2
幅　：2.8
樹種：ヒノキ
保存処理：ラクチ・トレハ

214



MW- 其他 -0008
093-00030W

215　木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、南地区の第33次調査の土坑から出土した。側辺の一部を欠損する。縦長の長方形の板材であったが、左上半を斜めに切断したものである。外面はやや膨らみ、内面は平坦。内面下半は一段削り込み、別物が嵌まるようにしている。上端・下半を中心に横方向の孔列がある。最上端は小孔2（推定3）、2段目は孔2（推定3）、3段目は中央に孔1を穿つ。下半の孔は削り込み部にあけられている。最下段は中央よりに小孔2、上へ2段目は両端に小孔2、3段目は孔2、4段目はややランダムに孔7を穿つ。共伴土器は大和第Ⅱ-3様式である。

第33次調査
遺構：SK-123
層位：第2層
土色：灰黒粘
取上：W-201
№：603
共伴：大和第Ⅱ-3様式
長さ：35.8
幅　：17.3
樹種：ヒノキ属
保存処理：ラクチ・トレハ

215

MW- 其他 -0009
033-00040W

216

MW- 其他 -0006
078-00004W

216　木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、東端の第78次調査の溝から出土した。片面の一部と片方の枘部分を欠損する。両端に把手状の枘を削り出す細長い板状製品である。枘は、長さ約4㎝で断面方形を呈する。身部は細長い紡錘形を呈すが、一側辺はやや面をもち、他面は丸い。共伴土器は古墳時代後期である。

第78次調査
遺構：SD-102
層位：第6層
土色：灰褐粘 (植物混)
取上：W-601
№：183
共伴：古墳時代後期
残存長：46.3
幅　：2.9
樹種：ヒノキ
保存処理：ラクチ・トレハ

217

MW- 其他 -0011
019-00009W

217　木製品（その他木製品 / 用途不明品）

本木製品は、北西端の第19次調査の環濠から出土した。天秤棒状の木製品で、片側の一部を欠損する。横断面が隅丸方形を呈する棒を湾曲させ、湾曲面の内側中央に幅広の抉りを入れる。また、湾曲面外側の両端は、抉りを入れて端部を突出させる。細長い紡錘形の身部に方形の頭部がつく形状で、片面の身部は膨らみ頭部中央が突出する。他面の身部内部は刳り込み、頭部は平坦である。内外面は不明である。共伴土器は大和第Ⅲ-2・3様式である。

第19次調査
遺構：SD-204
層位：第9層
土色：黒粘 (植物混)
取上：W-951
№：1085
共伴：大和第Ⅲ-2･3様式
長さ：10.7
幅　：42.4
樹種：　－
保存処理：PEG

218

MW- 其他 -0012
033-00033W

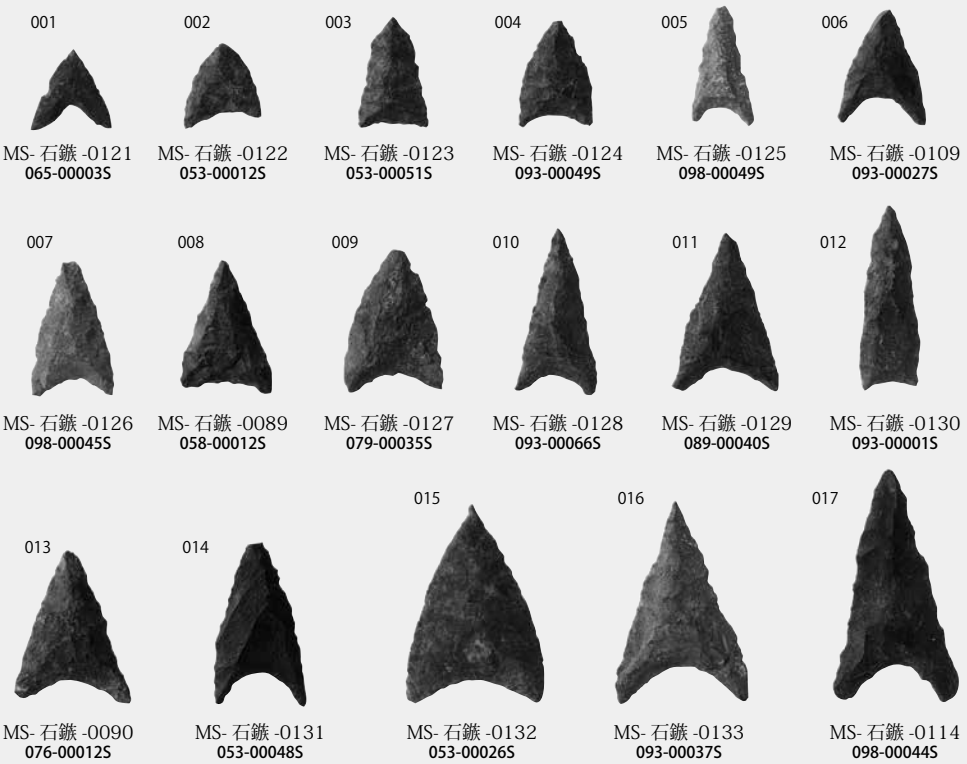
218　木製品（その他木製品 / 用途不明未成品）

本木製品は、南地区の第33次調査の木器貯蔵穴から、平鍬身未成品（木製品022）・一木鋤未成品（木製品059・060）とともに出土した。円筒状の未成品である。完形品。上面に輪状の刳り込みがある。底面は平坦に整形する。共伴土器は大和第Ⅰ-2様式である。

第33次調査
遺構：SK-208
層位：第5層
土色：灰褐粘
取上：W-506
№：1072
共伴：大和第Ⅰ-2様式
高さ：4.4
長さ：10.2
樹種：同定不可
保存処理：脂肪酸

001 ～ 017　打製石器（凹基式石鏃）

001 ～ 017



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
001	第 65 次	SK-105	第 2-b 層	黒褐色粘質土（砂混）	―	391	大和第Ⅴ-1 様式	1.6	1.6	0.5
002	第 53 次	SR-101A	第 4(上) 層	灰黒色粘砂	―	232	大和第Ⅰ-2・Ⅱ・Ⅲ-1 様式	1.6	1.6	0.7
003	第 53 次	SR-101B	第 4 層	黒粘 (炭灰)	―	211	大和第Ⅱ・Ⅲ-1 様式	2.2	1.4	1.0
004	第 93 次	―	―	灰色粘質土	―	755	大和第Ⅰ様式	(2.1)	1.5	(0.9)
005	第 98 次	―	―	暗褐色砂質土	その 2	55	弥生時代	(2.4)	(1.3)	(0.9)
006	第 93 次	Pit-1204C	第 5 層	黒粘	―	1176	大和第Ⅲ様式	(2.3)	1.9	(1.2)
007	第 98 次	―	―	黒色砂質土	―	465	弥生時代	(2.7)	1.7	(2.1)
008	第 58 次	SD-51	第 8(下) 層	灰黒粘	―	172	弥生時代	2.7	1.9	2.6
009	第 79 次	表採	―	―	―	856	弥生時代	(2.8)	2.0	(2.2)
010	第 93 次	―	―	廃土	―	817	弥生時代	3.3	1.7	2.2
011	第 89 次	―	―	黒褐色粘質土	―	83	大和第Ⅰ様式	3.2	2.1	2.3
012	第 93 次	SK-2102	第 1 層	黒褐色粘質土	―	191	大和第Ⅵ-4 様式	3.7	1.3	2.1
013	第 76 次	SD-1114	第 1-b 層	黒褐色粘質土 (砂質)	―	174	布留 1 式	3.1	2.3	2.8
014	第 53 次	SR-101B	第 6 層	植物層	―	224	大和第Ⅱ-1 様式	(3.3)	1.9	(2.1)
015	第 53 次	SR-101A	第 4(上) 層	灰黒色粘砂	―	306	大和第Ⅲ-1・2 様式	4.0	2.8	4.1
016	第 93 次	―	―	黒褐色粘質土	―	38	弥生時代中期	4.1	2.7	2.8
017	第 98 次	―	―	暗黄褐色砂質土Ⅱ	―	525	大和第Ⅱ-3 様式	4.7	2.5	3.8

打製石器001 ～ 034は、サヌカイト製の凹基式の石鏃である。長さ1.6 ～ 4.8㎝、重さ0.5 ～ 4.9ｇのものがある。これらは、大きく３種に分類できる。長さ2.5㎝までで重さ１ｇ前後、長さ３㎝前後で重さ３ｇまで、長さ４㎝以上で重さ３ｇ以上である。003・018・029は五角形を呈する。

018 ～ 034　打製石器（凹基式石鏃）

018 ～ 034

018
MS- 石鏃 -0030
033-00002S

019
MS- 石鏃 -0070
074-00007S

020
MS- 石鏃 -0043
047-00005S

021
MS- 石鏃 -0098
053-00011S

022
MS- 石鏃 -0097
022-00003S

023
MS- 石鏃 -0031
033-00004S

024
MS- 石鏃 -0001
000-00002S

025
MS- 石鏃 -0007
014-00048S

026
MS- 石鏃 -0006
014-00026S

027
MS- 石鏃 -0047
053-00010S

028
MS- 石鏃 -0035
037-00006S

029
MS- 石鏃 -0050
058-00024S

030
MS- 石鏃 -0026
026-00006S

031
MS- 石鏃 -0063
069-00016S

032
MS- 石鏃 -0101
091-00016S

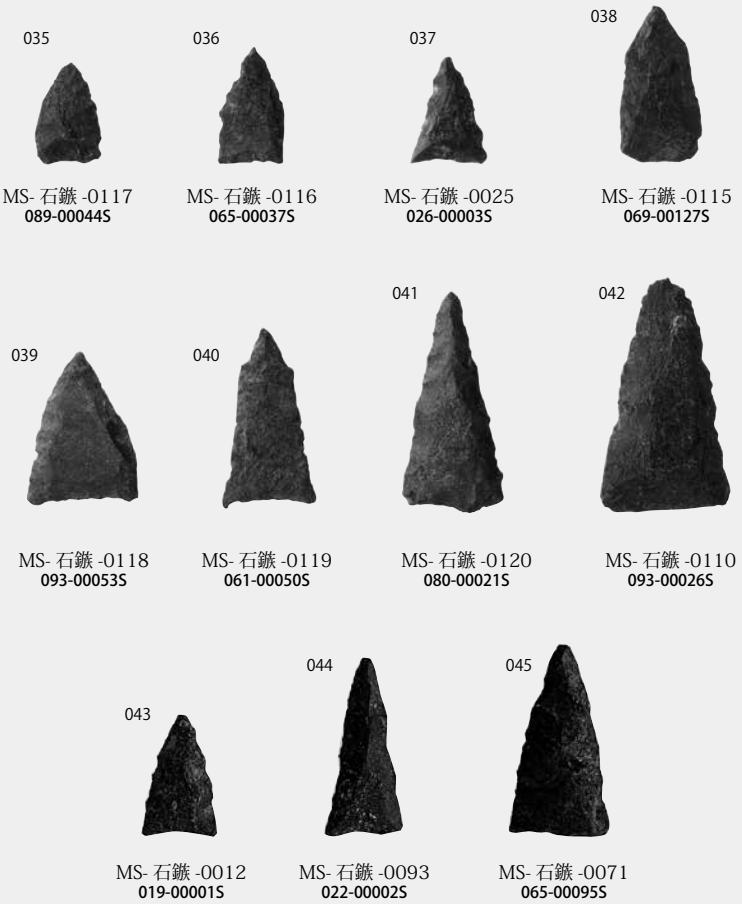
033
MS- 石鏃 -0100
091-00012S

034
MS- 石鏃 -0104
093-00023S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
018	第 33 次	SK-169	第 1 層	暗灰粘	―	808	大和第Ⅱ-2 様式	2.1	1.8	1.0
019	第 74 次	SK-113	第 10 層	灰黒色粘砂	その 1	325	大和第Ⅲ-2 様式	(2.0)	1.3	(0.7)
020	第 47 次	SD-2105	第 4 層	灰黒色粘砂	その 1	460	大和第Ⅳ様式	2.0	1.3	0.6
021	第 53 次	SR-101A	第 4 層	灰黒粘	―	239	大和第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ様式	2.3	1.6	1.0
022	第 22 次	SK-106	第 2 層	黒褐色砂質土	―	172	大和第Ⅰ・Ⅱ様式	2.5	(1.4)	(1.2)
023	第 33 次	SD-108	第 5 層	黒粘	―	323	大和第Ⅲ-1 様式	(2.5)	1.6	(1.1)
024	第 0 次	表採	―	―	―	102	弥生時代	(2.9)	1.8	(1.5)
025	第 14 次	前期包含層	―	―	―	171	大和第Ⅰ様式	2.9	2.0	1.2
026	第 14 次	包含層Ⅱ	―	―	―	149	弥生時代中期	(2.7)	(1.6)	(1.4)
027	第 53 次	SR-101A	第 4 層	灰黒粘	―	276	大和第Ⅱ様式	(2.9)	2.4	(1.8)
028	第 37 次	SD-2201	第 3 層	植物層	―	685	大和第Ⅱ-1 様式	2.9	1.9	2.1
029	第 58 次	SD-51	第 4 層	灰褐色砂質土	―	152	弥生時代	(3.2)	1.8	(2.3)
030	第 26 次	―	第Ⅰ層	黒褐色土	―	259	弥生時代	3.3	1.7	2.8
031	第 69 次	SK-1137	第 6(下) 層	灰粘 (植物混)	その 22	2123	大和第Ⅲ-3 様式	3.3	1.8	1.5
032	第 91 次	―	―	黒褐色砂質土	―	657	弥生時代中期	(3.6)	2.6	(3.6)
033	第 91 次	SD-104	第 1 層	青灰色粘質土	―	682	弥生時代	4.4	2.2	3.5
034	第 93 次	SD-2103	第 2 層	黒色粘質土	―	115	大和第Ⅴ-1 様式	4.8	2.4	4.9

035 ～ 045　打製石器（平基式石鏃）

035 ～ 045

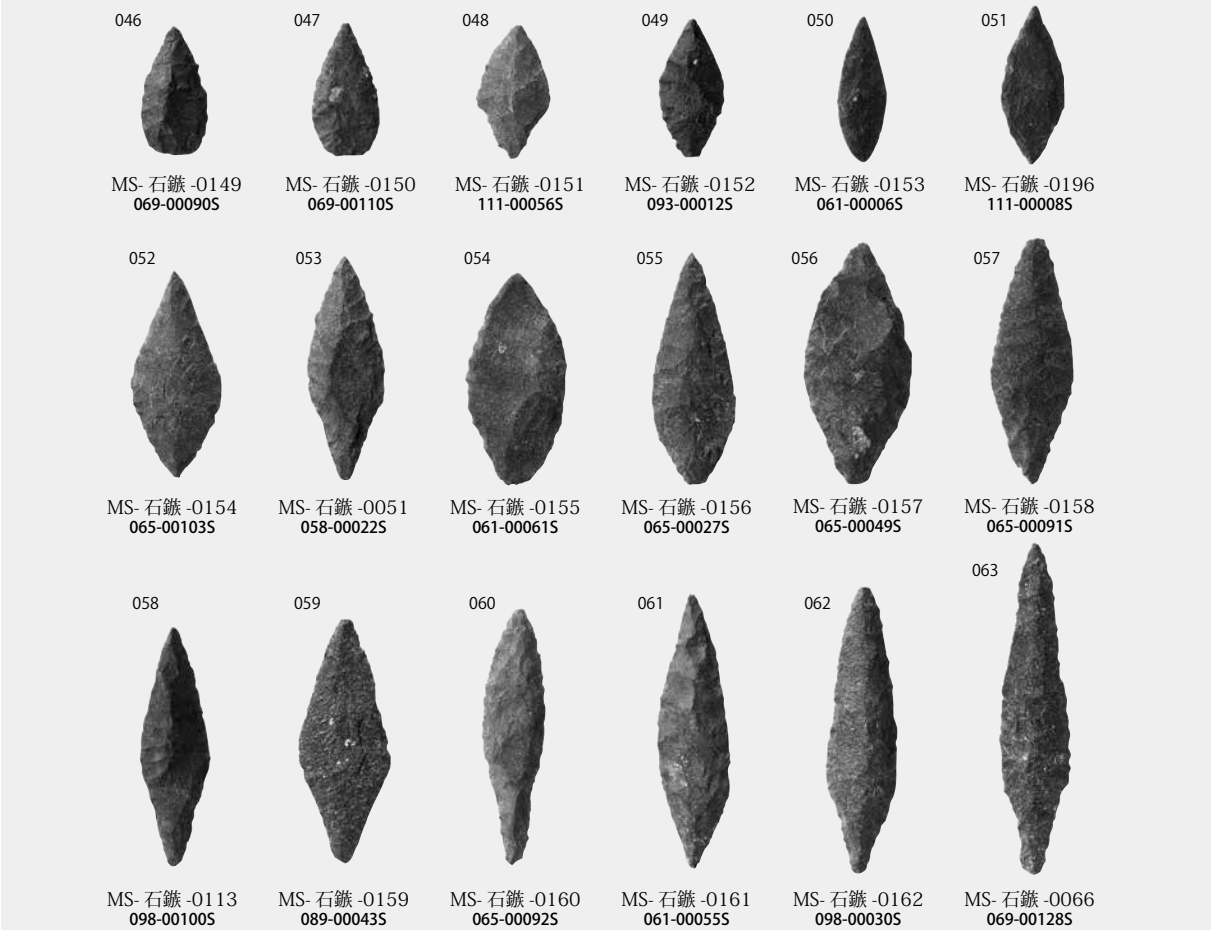


	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
035	第 89 次	―	―	黒褐色粘質土	―	75	弥生時代中期	(2.0)	(1.3)	(0.8)
036	第 65 次	SB-101	第 1-b(下) 層	黒褐色砂質土	―	530	弥生時代中期	2.3	1.3	0.8
037	第 26 次	SK-2113	第 1 層	黒色土	―	334	大和第Ⅱ-2 様式	2.1	1.5	1.4
038	第 69 次	―	―	暗褐色土	―	1647	弥生時代	3.1	1.7	2.0
039	第 93 次	―	―	黄褐色粘質土	―	357	弥生時代	3.0	3.0	2.9
040	第 61 次	―	―	黒色粘質土 (炭灰混)	―	555	大和第Ⅵ-4 様式	3.5	1.9	1.9
041	第 80 次	SD-105	第 2(下) 層	暗褐色粘質土 (砂混)	―	261	大和第Ⅳ様式	4.3	1.9	5.7
042	第 93 次	Pit-1203E	第 3 層	褐色粘質土	―	605	大和第Ⅲ様式	4.6	2.6	7.0
043	第 19 次	SK-111	第 1 層	黒灰色土	―	263	弥生時代中期	(2.4)	1.5	(1.1)
044	第 22 次	SK-101	第 1(下) 層	黒色粘質土	―	187	大和第Ⅳ-1 様式	3.6	1.6	2.4
045	第 65 次	―	―	黒褐色土Ⅱ	―	678	弥生時代中・後期	3.8	2.0	3.1

打製石器035 ～ 045は、サヌカイト製の平基式の石鏃である。基部中央は僅かに凹む。長さ2.0 ～ 4.6㎝、重さ0.8 ～ 7 ｇのものがある。これら平基式の石鏃もおおよそ前述の凹基式石鏃と同様に分類できる。

046 ～ 063　打製石器（凸基式石鏃）

046 ～ 063

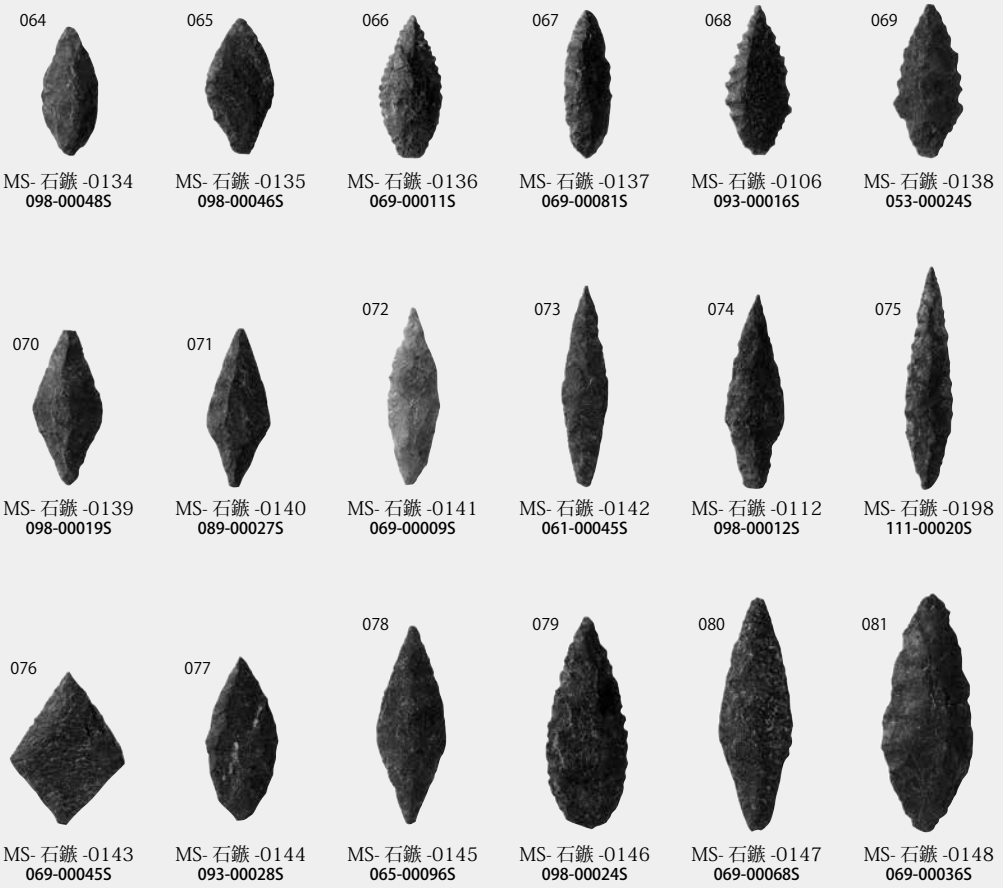


	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
046	第 69 次	―	―	黒褐色土	―	15	大和第Ⅳ・Ⅴ様式	2.6	1.3	1.5
047	第 69 次	―	―	黒褐色土	―	101	大和第Ⅵ-3・4 様式	2.7	1.4	1.4
048	第 111 次	―	―	暗褐灰色砂質土	―	181	弥生時代	2.7	1.5	1.7
049	第 93 次	SK-2115	第 7 層	黒粘 (シルトブロック)	その 4	534	大和第Ⅴ様式	2.8	1.3	1.1
050	第 61 次	SD-101B	第 5(下) 層	灰黒粘	その 5	643	大和第Ⅴ様式	2.9	1.0	1.0
051	第 111 次	SD-02	第 3 層	灰色砂質土	―	65	弥生時代	3.2	1.3	1.1
052	第 65 次	―	―	黒褐色土Ⅱ	―	921	大和第Ⅲ・Ⅳ様式	4.1	1.8	2.8
053	第 58 次	SD-51	第 4 層	灰褐色砂質土	―	136	弥生時代	4.5	1.6	2.8
054	第 61 次	―	―	暗褐色砂質土	―	933	弥生時代	4.2	2.0	3.1
055	第 65 次	SD-103	第 2 層	黒褐色粘砂	―	216	大和第Ⅲ-3 様式	(4.6)	1.7	(3.2)
056	第 65 次	Pit-183	―	黒色粘質土	―	601	大和第Ⅳ様式	4.8	2.2	8.5
057	第 65 次	―	―	黒褐色土	―	18	弥生時代後期	(4.9)	1.6	(3.6)
058	第 98 次	SD-102	第 2 層	暗褐色砂質土	―	294	大和第Ⅲ-2 様式	4.8	1.4	2.4
059	第 89 次	―	―	黒褐色粘質土	―	63	弥生時代前・中期	4.9	1.9	3.0
060	第 65 次	―	―	黒褐色土	―	35	大和第Ⅴ・Ⅵ様式	5.1	1.2	3.6
061	第 61 次	―	―	黒褐色土	―	77	大和第Ⅵ-4 様式	5.4	1.5	3.8
062	第 98 次	―	―	黒色砂質土	―	89	弥生時代中・後期	(5.7)	1.4	(5.2)
063	第 69 次	―	―	廃土	―	2183	弥生時代	6.6	1.4	3.2

打製石器046～116は、サヌカイト製の凸基式の石鏃である。基部は円基・尖基式のものもここに含める。柳葉形・縦長の菱形を呈す。前者の身部はやや厚めで、後者は扁平なものが多い。小形品の側縁部は微細な剥離によって刃部を作っている。長さ2.5 ～ 7.9㎝、重さ0.8 ～ 15.7ｇのものがある。これら石鏃は、大きく３種に分類できる。長さ３㎝前後で重さ約２ｇまで、長さ約３～５㎝で重さ３ｇ前後、長さ５㎝以上で重さ３ｇ以上になり、凹基式や平基式より一回り大きな石鏃となる。

064 ～ 081　打製石器（凸基式石鏃）

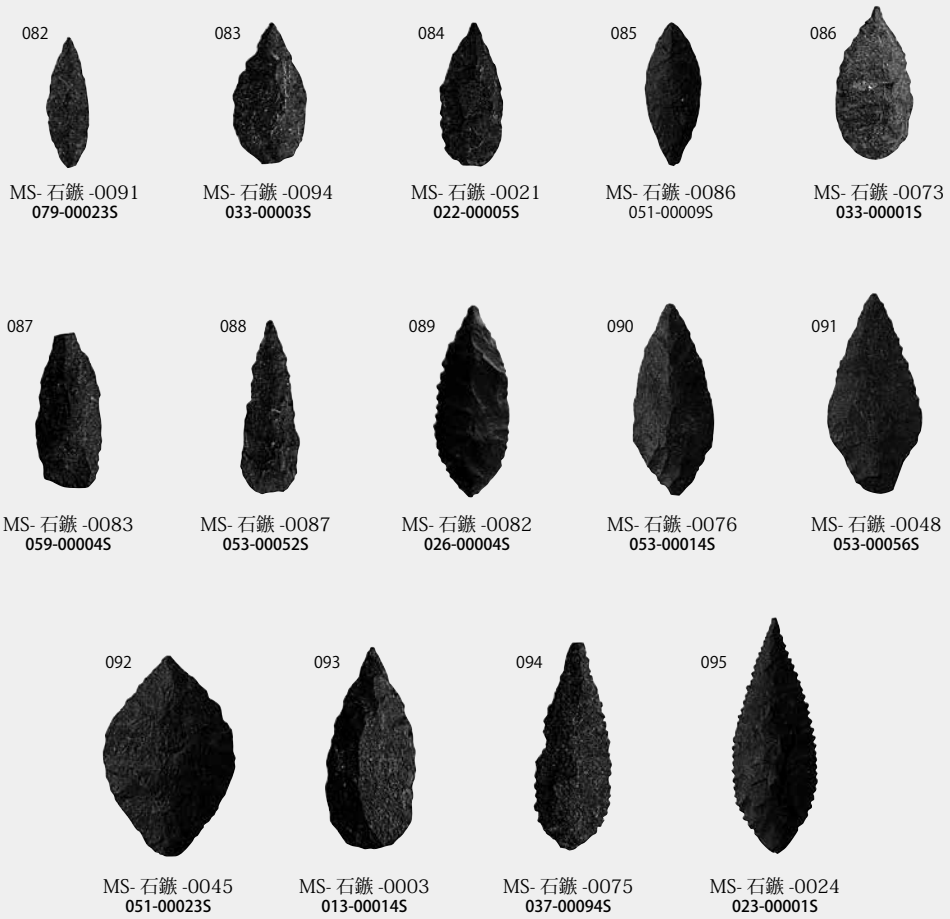
064 ～ 081



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
064	第 98 次	―	―	暗褐色砂質土	その 2	55	弥生時代	2.5	1.1	1.3
065	第 98 次	―	―	黒色砂質土	―	495	弥生時代中期	(2.7)	1.4	(1.1)
066	第 69 次	SK-1130	第 5 層	黒色粘砂 (微砂ブロック)	―	1710	大和第Ⅲ-3 様式	(2.8)	1.3	(1.4)
067	第 69 次	―	―	黒褐色粘質土	―	2130	大和第Ⅳ-2・Ⅵ-2 様式	3.0	1.0	1.3
068	第 93 次	SK-2120	第 11(下) 層	黒褐粘 (植物混)	―	797	大和第Ⅲ-1 様式	(3.0)	1.3	(1.2)
069	第 53 次	SR-101A	第 4(上) 層	灰黒色粘砂	―	219	大和第Ⅲ・Ⅳ-1 様式	(3.1)	1.4	(1.6)
070	第 98 次	SD-53	第 1 層	灰色粘質土	―	6	弥生時代	(3.0)	1.4	(1.7)
071	第 89 次	SD-1116	第 1 層	黒褐色粘質土	―	132	大和第Ⅴ-1 様式	(3.1)	1.3	(1.3)
072	第 69 次	SK-1125	第 4 層	黒灰色粘質土	―	1617	布留 0 式	(3.5)	1.1	(1.2)
073	第 61 次	Pit-1199	―	黒色砂質土	―	1268	弥生時代中期	(4.0)	1.0	(1.1)
074	第 98 次	SD-102	第 2 層	暗褐色砂質土	―	210	大和第Ⅲ-2 様式	(3.8)	1.2	(1.7)
075	第 111 次	SD-02	第 1 層	茶灰色粘質土	―	45	弥生時代	4.3	1.0	1.5
076	第 69 次	SD-1104	第 3-ｳ層	暗灰黄色粘砂	―	1344	大和第Ⅴ-1 様式	3.0	2.2	2.2
077	第 93 次	Pit-1206C	第 3 層	暗灰色粘質土	―	427	大和第Ⅲ様式	3.2	1.4	1.5
078	第 65 次	―	―	黒褐色土Ⅱ	―	1038	大和第Ⅲ様式	3.9	1.4	1.9
079	第 98 次	SD-61	第 1 層	灰色粘質土	―	61	弥生時代	(4.2)	1.7	(3.5)
080	第 69 次	SD-1111	第 2 層	黒灰粘 (炭灰)	―	1438	大和第Ⅳ・Ⅵ様式	(4.6)	1.4	(3.0)
081	第 69 次	SD-1102	第 2 層	黒褐色粘質土	―	903	大和第Ⅵ-3 様式	4.7	1.9	5.5

082 ～ 095　打製石器（凸基式石鏃）

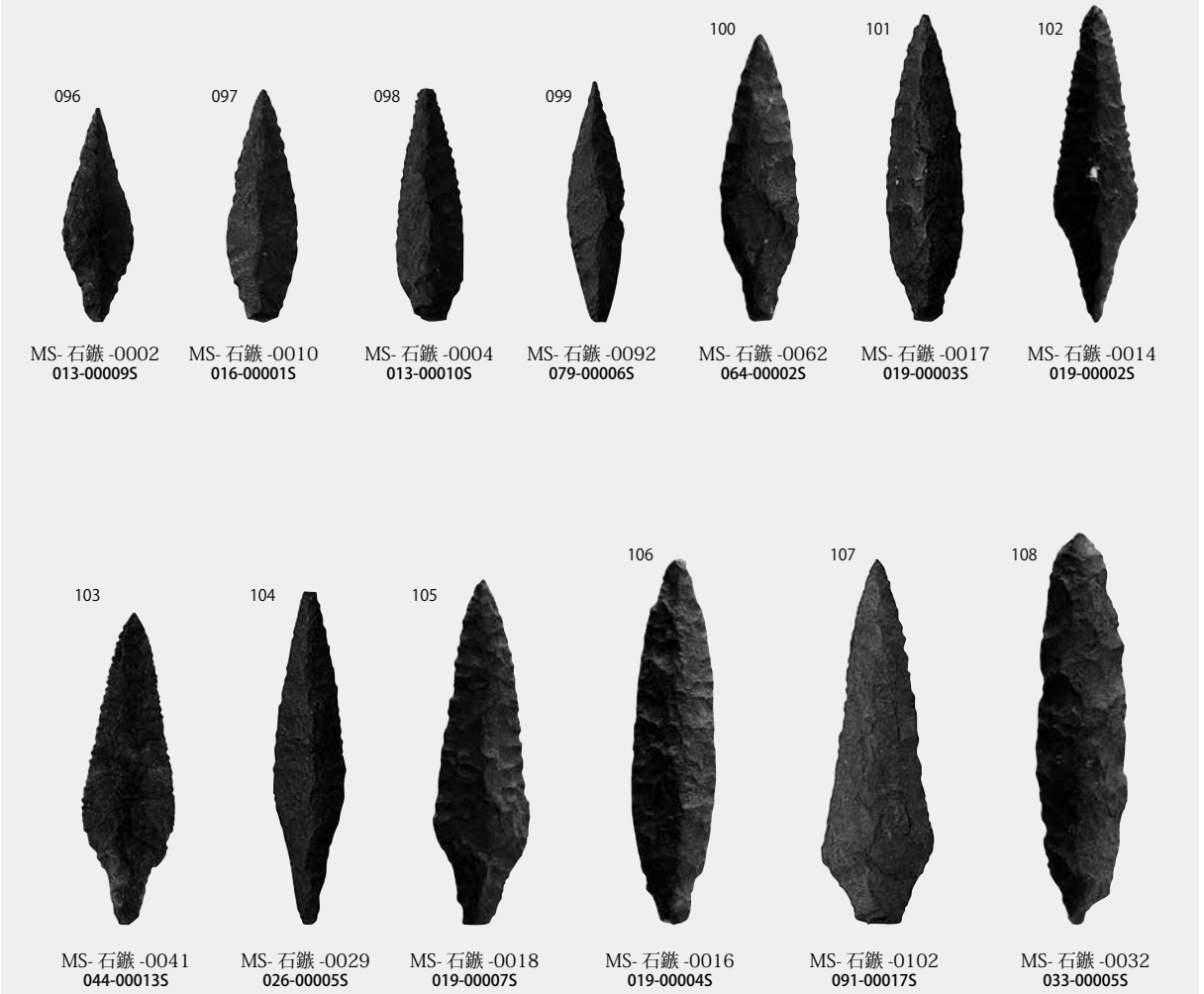
082 ～ 095



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
082	第 79 次	―	―	黒色粘質土	―	560	大和第Ⅱ様式	(2.6)	0.9	(0.8)
083	第 33 次	SK-202	第 2 層	黒粘	―	813	大和第Ⅱ-2 様式	2.8	1.5	1.7
084	第 22 次	廃土 D	―	―	―	367	弥生時代	2.9	1.2	1.1
085	第 51 次	SK-104	第 3 層	黒粘	その 1	70	大和第Ⅴ-1 様式	2.8	1.1	1.2
086	第 33 次	SK-161	第 1 層	炭灰層	―	807	大和第Ⅱ-3・Ⅲ-1 様式	3.1	1.6	1.7
087	第 59 次	SK-1113	第 1 層	黒褐色粘質土	―	376	弥生時代中期	(3.1)	1.3	(2.1)
088	第 53 次	SR-101B	第 4 層	黒粘（炭灰）	―	221	大和第Ⅱ・Ⅲ-1・2 様式	3.5	1.2	1.3
089	第 26 次	SD-1201	第 1 層	暗灰粘	―	373	大和第Ⅱ-1 様式	3.9	1.5	2.6
090	第 53 次	SR-101A	第 4(上) 層	灰黒色粘砂	―	292	大和第Ⅱ-1・3・Ⅲ-1 様式	3.8	1.5	2.2
091	第 53 次	SR-101B	第 3 層	黒色粘砂	―	116	大和第Ⅲ-1・2 様式	(4.0)	1.8	(3.2)
092	第 51 次	SD-103	第 3 層	黒粘	―	57	大和第Ⅲ-2 様式	(3.9)	2.5	(4.3)
093	第 13 次	SD-106D	第 11 層	黒粘Ⅳ	―	413	大和第Ⅱ-3 様式	4.0	1.8	3.2
094	第 37 次	SX-3101	第 2- b 層	灰褐色砂質土	―	361	大和第Ⅴ様式	(4.1)	1.5	(2.4)
095	第 23 次	SK-123	第 5 層	植物層	―	373	大和第Ⅱ-2 様式	4.7	1.6	2.2

096 ～ 108　打製石器（凸基式石鏃）

096 ～ 108



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
096	第 13 次	SD-106C	第 7 層	砂質土Ⅱ	S-709	382	大和第Ⅲ-3・4 様式	4.3	1.4	2.5
097	第 16 次	SD-101	―	黒色土	―	2	大和第Ⅲ-3・4 様式	(4.7)	1.3	(3.6)
098	第 13 次	SD-106C	第 7 層	砂質土Ⅱ	S-711	382	大和第Ⅲ-3・4 様式	(4.6)	1.3	(3.0)
099	第 79 次	SD-103	第 4(下) 層	暗灰色粘砂 (粗砂)	その 2	229	大和第Ⅲ-2 様式	(4.8)	(1.1)	(1.8)
100	第 64 次	―	―	黄褐色粘質土	―	5	弥生時代	5.8	1.6	5.9
101	第 19 次	SD-204	第 2 層	暗灰褐色砂質土	S-201	601	大和第Ⅳ様式	(5.9)	1.5	(7.2)
102	第 19 次	SD-204	第 5 層	灰黒色粗砂	―	745	大和第Ⅳ様式	6.4	1.7	5.3
103	第 44 次	SD-103	第 2(上) 層	黒褐色粘質土	―	139	大和第Ⅳ-2 様式	6.3	1.9	4.9
104	第 26 次	Pit-1167	―	―	―	354	弥生時代中期	(6.5)	1.4	(3.9)
105	第 19 次	―	―	黄褐色土	―	413	大和第Ⅲ-2・3 様式	(7.0)	2.0	(6.4)
106	第 19 次	SD-204	第 5 層	灰黒色粗砂	―	745	大和第Ⅳ様式	(7.4)	1.7	(10.1)
107	第 91 次	―	―	黒褐色砂質土	―	661	弥生時代中期	(7.3)	2.2	(7.7)
108	第 33 次	SD-109	第 3-b 層	暗褐色土	―	449	大和第Ⅱ・Ⅲ様式	(7.9)	1.9	(15.7)

109 ～ 116　打製石器（凸基式石鏃）

109 ～ 116

109

MS- 石鏃 -0034
033-00006S

110

MS- 石鏃 -0056
053-00020S

111

MS- 石鏃 -0023
022-00004S

112

MS- 石鏃 -0095
047-00006S

113

MS- 石鏃 -0053
013-00011S

114

MS- 石鏃 -0020
019-00005S

115

MS- 石鏃 -0080
079-00027S

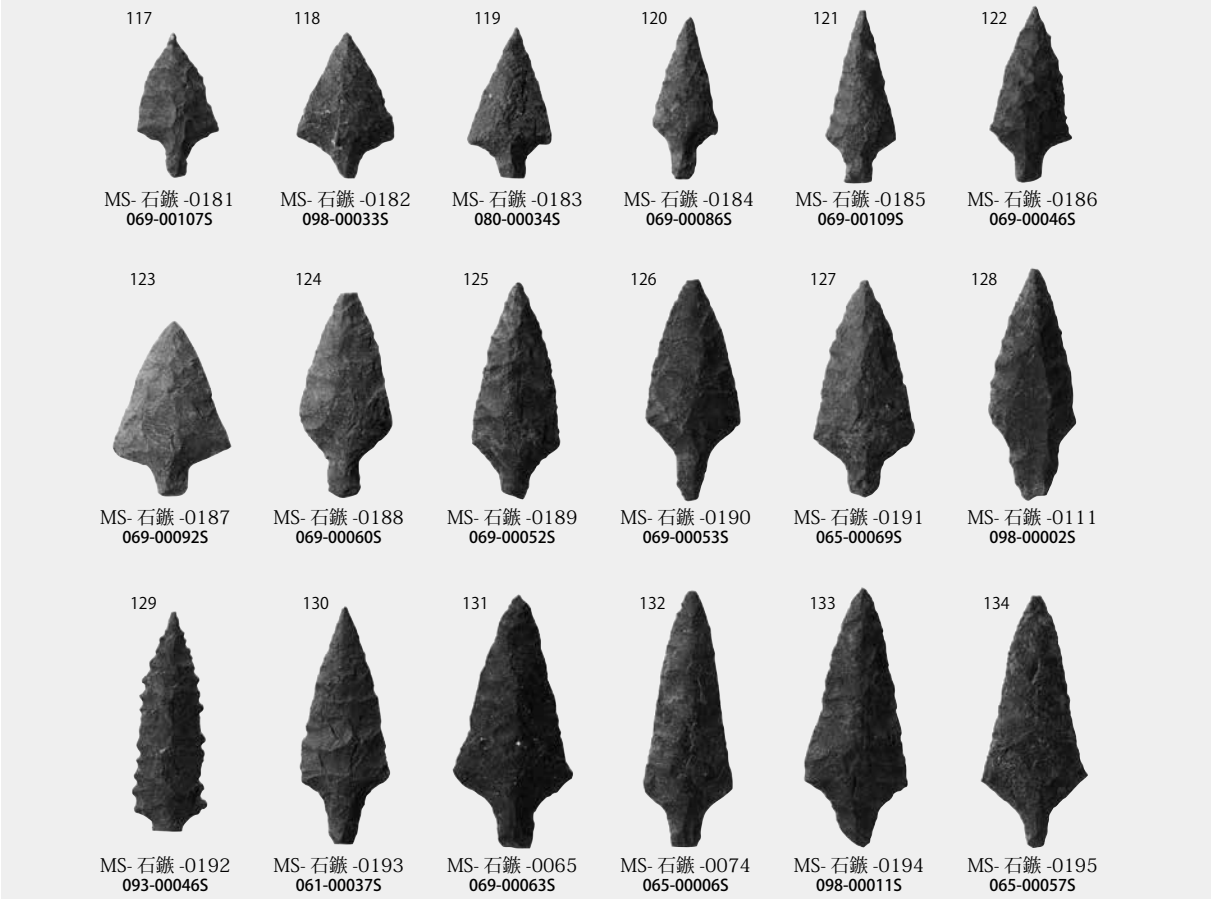
116

MS- 石鏃 -0103
048-00020S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
109	第 33 次	SD-115	第 1 層	灰褐色土	―	408	大和第Ⅳ-1 様式	(4.6)	3.2	(3.3)
110	第 53 次	SR-101A	第 4(上) 層	灰黒色粘砂	―	293	大和第Ⅱ-1・Ⅲ-1・2 様式	(4.3)	2.0	(3.5)
111	第 22 次	SD-54	第 3 層	灰粘	―	72	弥生時代	(5.4)	1.9	(3.8)
112	第 47 次	SD-2107	第 2 層	茶灰色砂質土	―	416	大和第Ⅳ様式	(5.2)	1.3	(3.0)
113	第 13 次	SD-106C	第 6 層	砂質土	―	368	大和第Ⅳ-1 様式	(4.9)	2.9	(2.7)
114	第 19 次	SD-204	第 5 層	灰黒色粗砂	―	803	大和第Ⅳ様式	5.9	1.6	7.5
115	第 79 次	―	―	黒褐色粘質土	―	797	弥生時代中期	(5.7)	1.9	(5.0)
116	第 48 次	―	―	黒灰色粘質土 (黄斑)	―	263	大和第Ⅱ-3・Ⅲ-1 様式	6.4	1.9	8.8

117 ～ 134　打製石器（有茎式石鏃）

117 ～ 134

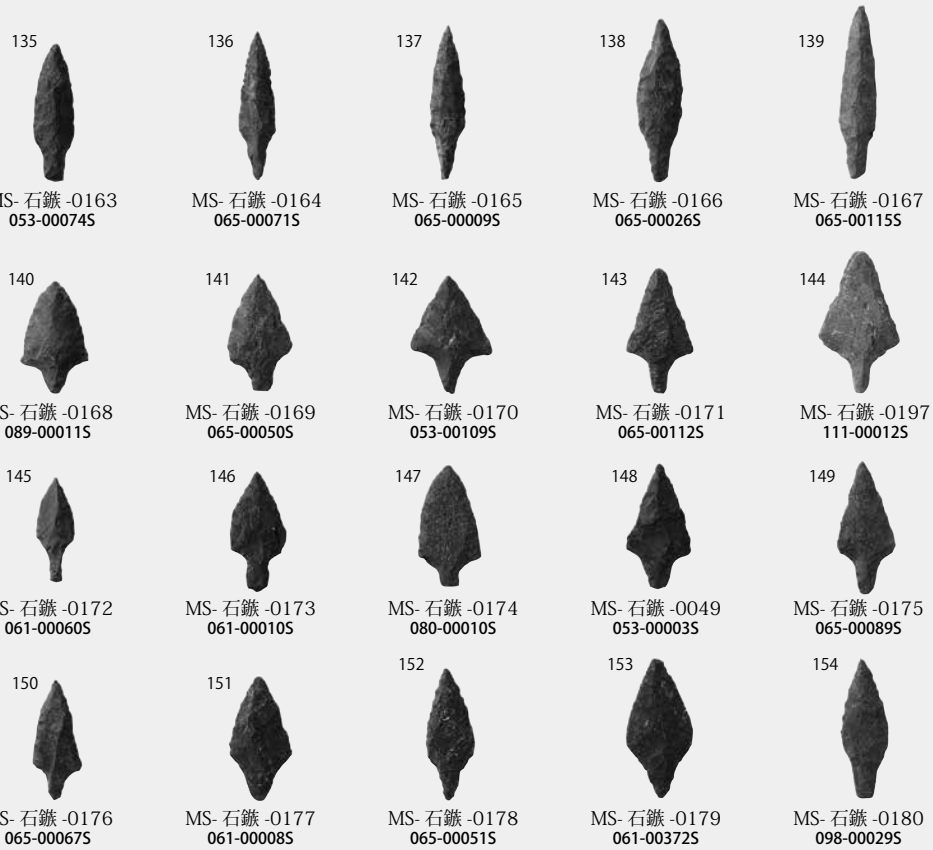


	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
117	第 69 次	―	―	黒褐色土	―	92	大和第Ⅵ-3・4 様式・庄内式	2.9	1.7	1.4
118	第 98 次	―	―	暗褐色砂質土	―	51	弥生時代	2.2	2.0	2.3
119	第 80 次	SD-106	第 2(下) 層	暗褐色粘質土 (黄斑)	―	262	大和第Ⅲ-3 様式	(3.1)	1.7	(1.9)
120	第 69 次	―	―	黒褐色土	―	1481	大和第Ⅳ様式	3.3	1.3	1.7
121	第 69 次	―	―	黒褐色土	―	101	大和第Ⅵ-3・4 様式	3.5	1.4	2.0
122	第 69 次	SD-1104	第 2(下)-ｱ層	黒灰色粘質土	―	880	大和第Ⅵ-2 様式	3.5	1.7	2.4
123	第 69 次	―	―	黒褐色土	―	17	大和第Ⅵ-4 様式	3.5	2.4	3.5
124	第 69 次	SD-1109	第 5 層	黒色粘質土 (砂混)	―	273	大和第Ⅵ-3 様式	(4.2)	1.9	(3.5)
125	第 69 次	SD-1104B	第 3-b 層	暗灰粘 (黄灰色粘質土ブロック)	―	1189	大和第Ⅲ・Ⅳ様式	(4.3)	1.8	(4.7)
126	第 69 次	SD-1107	第 1 層	暗褐色土	―	395	大和第Ⅲ・Ⅳ様式	(4.4)	1.9	(3.4)
127	第 65 次	―	―	黒褐色土	―	187	弥生時代中・後期	4.3	2.0	5.3
128	第 98 次	SK-104	第 3 層	暗灰色粘質土 (炭灰混)	―	160	大和第Ⅲ-2 様式	(4.6)	1.8	(4.1)
129	第 93 次	―	―	黒褐色粘質土	―	16	弥生時代	(4.4)	1.4	(2.2)
130	第 61 次	SD-151BN	中央 Sec.	―	S-01	1635	大和第Ⅱ-2・3 様式	(4.8)	1.8	(3.0)
131	第 69 次	SD-1109	第 3(下) 層	暗褐色粘質土 (砂混)	―	109	大和第Ⅵ-4 様式	5.1	2.4	5.6
132	第 65 次	SK-106	第 2 層	黒色粘質土	―	398	大和第Ⅴ-1 様式	(5.1)	1.8	(4.7)
133	第 98 次	SD-102	第 2 層	暗褐色砂質土	―	412	大和第Ⅲ-2 様式	(5.2)	2.1	(4.0)
134	第 65 次	―	―	黒粘 (炭灰混)	―	882	大和第Ⅱ-3 様式	(5.0)	2.1	(4.0)

打製石器 117 ～ 184 は、サヌカイト製の有茎式の石鏃である。身部の形態が三角形・二等辺三角形・柳葉形に茎部が作り出されているものである。長さ 2.5 ～ 6.9 ㎝、重さ 0.8 ～ 17.6 g のものがある。長さ 3 ㎝前後で重さ約 2 g まで、長さ約 3 ～ 5 ㎝で重さ 2 ～ 5 g 前後、長さ 5 ㎝以上で重さ 5 g 以上の大きく 3 種小・中・大に分類でき、凸基式より重量的に重くなる傾向がみられる。特に 179 ～ 184 の大形品のように、形態的にも整い精緻な製品がみられるようになる。また、大形品は大和第Ⅳ・Ⅴ様式に多く作られたようである。

135 ～ 154　打製石器（有茎式石鏃）

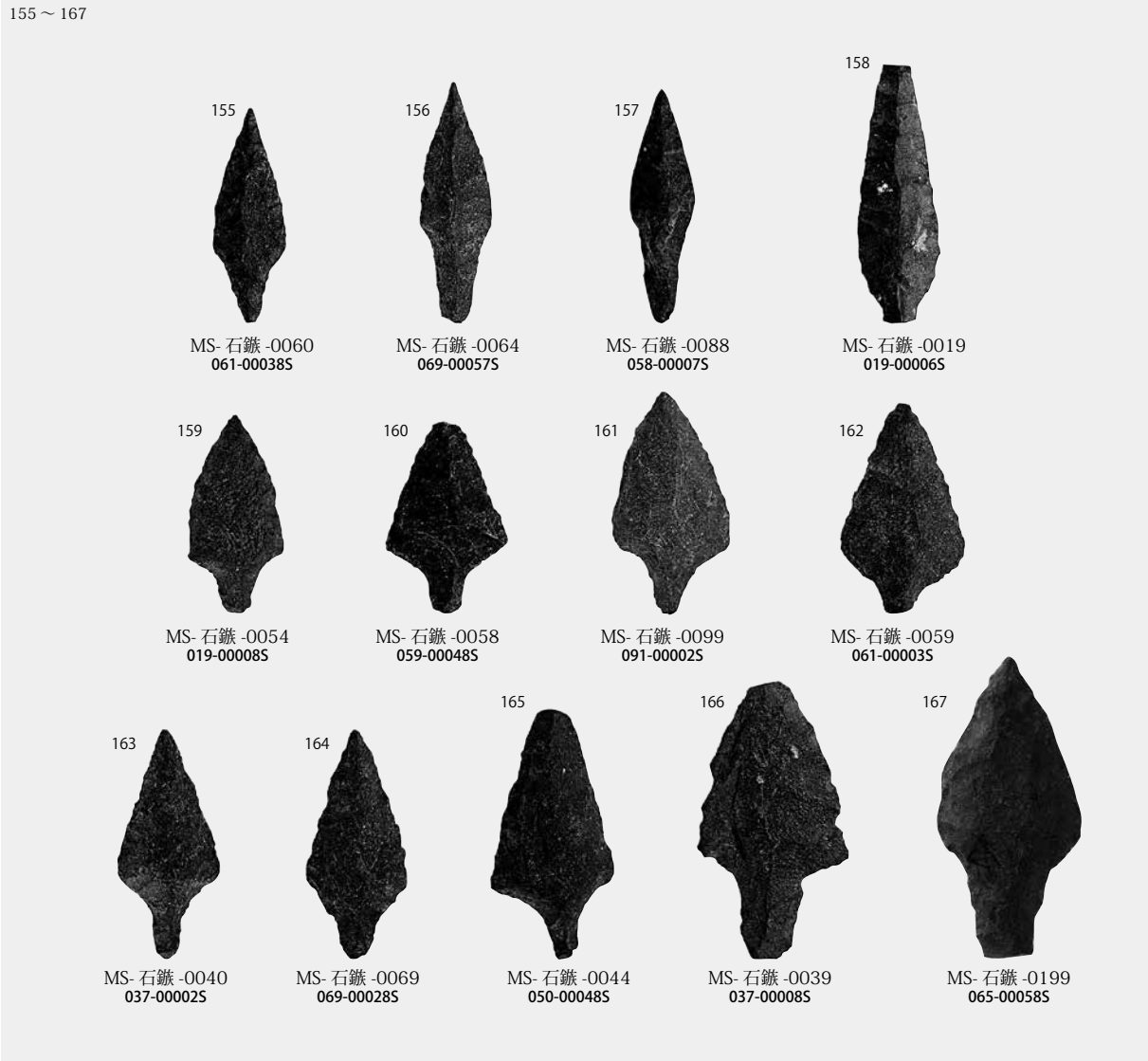
135 ～ 154



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
135	第 53 次	落ち込み Ⅰ	第 1 層	黒色粘質土	―	78	大和第Ⅳ-1 様式	4.0	1.2	2.8
136	第 65 次	―	―	黒褐色土	―	818	大和第Ⅳ様式	4.3	1.1	2.1
137	第 65 次	SK-106	第 1 層	黒褐色土	―	309	大和第Ⅴ様式	4.5	1.1	2.6
138	第 65 次	SD-101N	第 1 層	黒褐色土	―	86	大和第Ⅵ-3 様式	4.2	1.3	2.9
139	第 65 次	―	―	暗茶褐色土	―	803	弥生時代中・後期	5.0	1.1	2.9
140	第 89 次	SD-1114	第 2 層	黒褐色粘質土	―	255	大和第Ⅴ・Ⅵ-3 様式	3.3	2.0	3.9
141	第 65 次	Pit-1155	―	黒色粘質土	―	687	弥生時代中期	3.4	1.9	3.4
142	第 53 次	―	―	黄褐色砂質土	その 2	15	弥生時代	3.4	2.4	3.3
143	第 65 次	―	―	黒褐色土Ⅱ	―	873	大和第Ⅲ・Ⅳ様式	(3.6)	2.0	(2.3)
144	第 111 次	SD-02	第 2 層	灰色粘質土	―	52	弥生時代	(4.1)	2.4	(5.1)
145	第 61 次	―	―	暗褐色砂質土	―	726	弥生時代	3.1	1.1	1.2
146	第 61 次	SD-101B	第 5 層	灰黒粘	その 9	574	大和第Ⅴ様式	3.5	1.7	2.3
147	第 80 次	SD-101	第 2 層	黒灰色粘質土	―	92	大和第Ⅴ-1 様式	(3.5)	1.8	(2.7)
148	第 53 次	SK-106	第 2 層	黒粘	―	266	大和第Ⅲ様式	3.6	1.9	2.2
149	第 65 次	―	―	黒褐色土	―	205	大和第Ⅳ・Ⅴ様式	3.9	1.7	2.8
150	第 65 次	―	―	黒褐色土	―	171	大和第Ⅳ様式	3.5	1.5	2.1
151	第 61 次	SD-101B	第 5 層	灰黒粘	その 6	584	大和第Ⅴ様式	3.6	1.8	3.0
152	第 65 次	Pit-2170	―	暗灰色粘質土	―	962	弥生時代中期？	3.8	1.4	2.0
153	第 61 次	―	―	黒褐色土Ⅱ	―	180	大和第Ⅳ・Ⅴ様式	(4.1)	2.0	(2.9)
154	第 98 次	―	―	黒色砂質土	―	89	弥生時代中・後期	(4.1)	1.4	(2.6)

155 ～ 167　打製石器（有茎式石鏃）

155 ～ 167



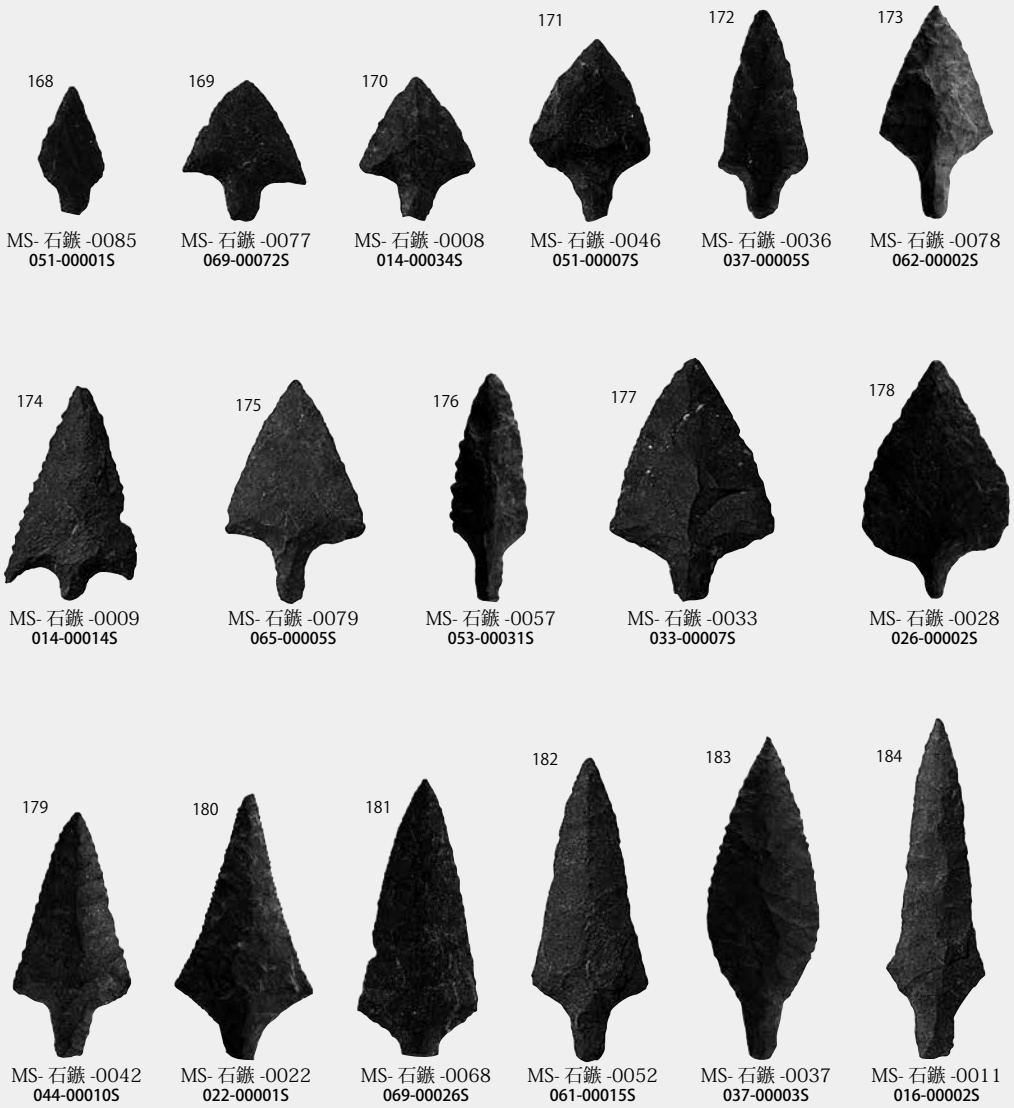
	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
155	第 61 次	SD-151BN・BS	第 8 層	灰黒粘	―	1490	大和第Ⅱ-2 様式	4.5	1.5	2.3
156	第 69 次	SD-1109	第 5 層	黒色粘質土 (砂混)	―	248	大和第Ⅵ-3・4 様式	5.0	1.5	3.3
157	第 58 次	SD-106B	第 8 層	灰黒色粘砂	―	168	大和第Ⅱ-3 様式	4.9	1.4	3.0
158	第 19 次	―	―	黒色土Ⅱ	―	105	大和第Ⅳ・Ⅴ様式	(5.4)	1.7	(5.1)
159	第 19 次	―	―	廃土	―	945	弥生時代	4.1	2.0	4.5
160	第 59 次	SK-3105	第 1 層	黒色土	―	743	布留式	(4.0)	2.6	(4.9)
161	第 91 次	SD-101	第 3(下)-c 層	褐色粘質土 (砂混)	―	81	庄内式	4.6	2.5	9.8
162	第 61 次	SK-109	第 1 層	黒色粘質土	―	552	大和第Ⅵ-3 様式	(4.4)	2.6	(9.0)
163	第 37 次	SK-2116	第 1(下) 層	黒色土	―	267	弥生時代中・後期	4.8	2.1	5.3
164	第 69 次	SD-1101B	第 5 層	暗灰粘	―	937	大和第Ⅳ・Ⅴ様式	4.8	2.1	3.8
165	第 50 次	―	―	廃土	―	450	弥生時代	(5.2)	2.6	(10.0)
166	第 37 次	―	―	廃土	―	1129	弥生時代	(5.8)	3.2	(9.8)
167	第 65 次	―	―	黒褐色粘砂	―	884	弥生時代中期	(6.3)	3.0	(17.6)

打製石器 185・186 はサヌカイト製の異形の石鏃である。185 は長さ 3.4 ㎝の小形品で、平基式である。両側縁中央部に突起をもち五角形を呈する。186 は長さ 6 ㎝の大形品で、柳葉形の身部中央に抉りを入れる石鏃である。

打製石器 187 ～ 194 はサヌカイト製の中形尖頭器である。従来の石鏃より大形で、長さ 6 ～ 9 ㎝の長身である。細身のもの、柳葉形を呈するもの、有茎式のものなど定型的でなく、形態的に様々なものがある。

168 ～ 184　打製石器（有茎式石鏃）

168 ～ 184



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
168	第 51 次	SK-101	第 2(下) 層	黒粘	―	28	大和第Ⅳ-1 様式	(2.5)	1.2	(0.8)
169	第 69 次	SD-1122	第 1 層	黒灰色粘質土	―	1244	大和第Ⅴ-1 様式	2.7	2.4	(2.0)
170	第 14 次	包含層Ⅲ	―	―	―	136	弥生時代	(2.7)	2.1	(2.9)
171	第 51 次	SK-104	第 4 層	灰黒色砂質土	その 1	83	大和第Ⅴ-1 様式	(3.5)	2.3	(4.3)
172	第 37 次	SD-2008	第 1 層	淡灰褐色粘質土	―	88	弥生時代	(4.2)	1.8	(3.2)
173	第 62 次	SD-101	第 1 層	黒褐色土	―	43	大和第Ⅵ-3 様式	4.4	2.3	3.9
174	第 14 次	包含層	―	―	―	154	弥生時代	(4.2)	2.5	(4.7)
175	第 65 次	SK-105	第 1 層	黒褐色土	―	288	大和第Ⅴ-1 様式	4.2	2.6	5.0
176	第 53 次	SR-101A	第 3 層	黒褐色粘質土	―	194	大和第Ⅳ-1 様式	4.6	1.6	3.5
177	第 33 次	落ち込み I	第 1 層	黒褐色土	―	191	大和第Ⅴ-1 様式	(4.8)	3.1	(6.3)
178	第 26 次	SK-2103	第 1 層	黒粘	―	216	大和第Ⅲ-3 様式	4.7	2.9	5.8
179	第 44 次	SD-103	第 2(下) 層	―	S-202	186	大和第Ⅳ-1 様式	4.9	2.3	4.4
180	第 22 次	SK-101	第 1(下) 層	黒色粘質土	―	187	大和第Ⅳ-1 様式	(5.3)	2.8	(5.3)
181	第 69 次	SD-1101B	第 5-イ層	暗灰粘 (黄灰色粘質土ブロック)	―	969	大和第Ⅴ様式	(5.5)	2.4	(6.3)
182	第 61 次	SD-101B	第 5 層	灰黒粘	その 1	439	大和第Ⅴ様式	5.7	2.2	6.0
183	第 37 次	SK-2130	アゼ Sec. 第 4 層	暗灰粘	―	704	大和第Ⅲ-3 様式	6.5	2.3	6.2
184	第 16 次	SD-101	上層	黒色土	―	311	大和第Ⅳ-1 様式	6.5	1.8	4.3

185・186　打製石器（異形石鏃）

185・186

185

MS- 石鏃 -0072
037-00004S

186

MS- 石鏃 -0027
026-00001S

185

第 37 次調査
遺構：SK-2139
層位：第 4 層
土色：植物層
取上：　—
№：1034
共伴：大和第Ⅱ-3 様式
長さ：3.4
幅　：1.5
重さ：1.7

186

第 26 次調査
遺構：SK-1109
層位：第 1 層
土色：黒褐色土
取上：　—
№：238
共伴：大和第Ⅲ-1 様式
残存長：6.0
幅　：2.6
残存重：8.3

187 ～ 194　打製石器（中形尖頭器）

187 ～ 194

187

MS- 打他 -0103
020-00179S

188

MS- 打他 -0196
061-00068S

189

MS- 打他 -0177
093-00072S

190

MS- 打他 -0197
059-00106S

191

MS- 打他 -0209
086-00001S

192

MS- 打他 -0208
037-00001S

193

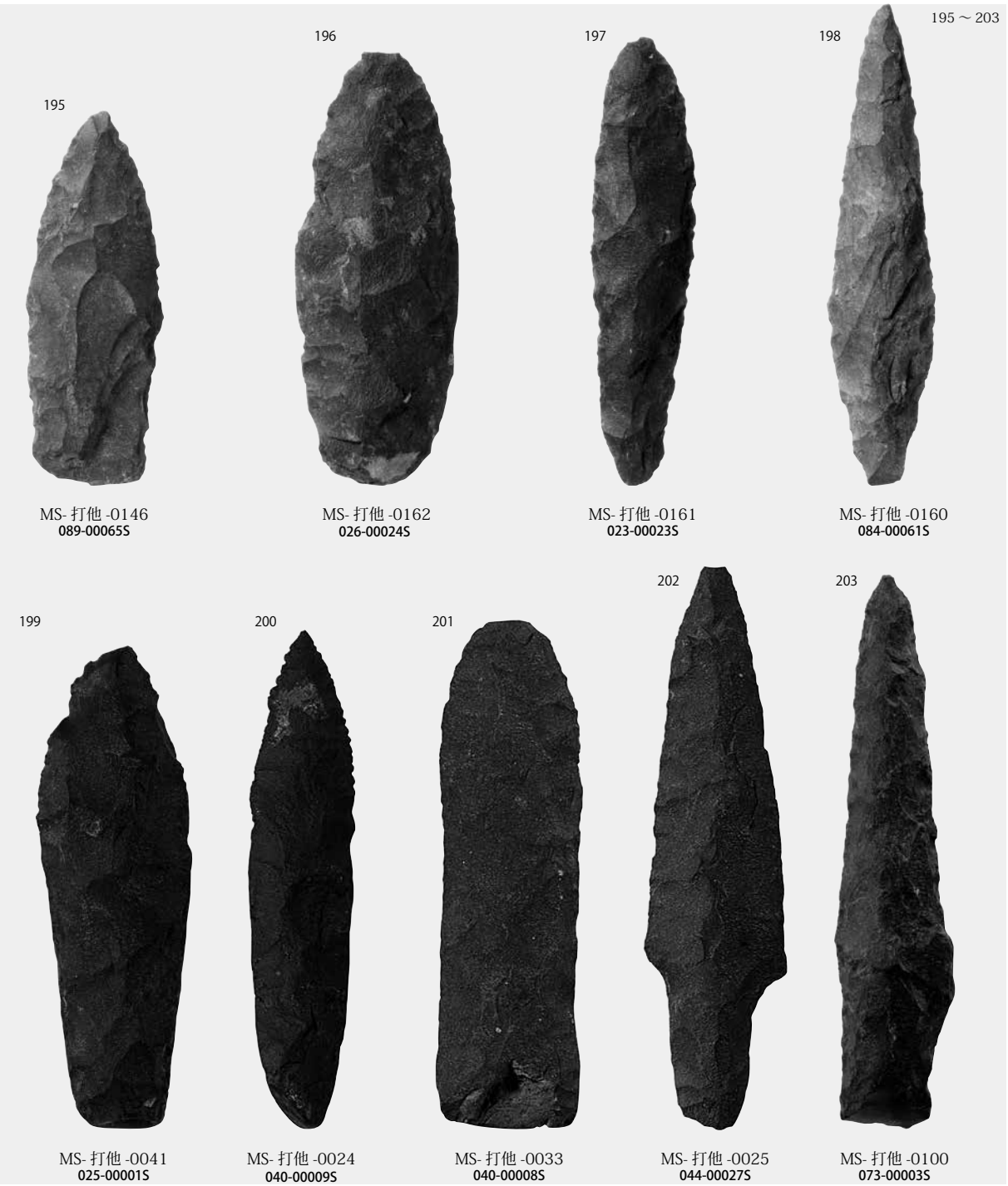
MS- 打他 -0001
016-00010S

194

MS- 打他 -0198
048-00040S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
187	第 20 次	SK-105	第 1 層	黒色土	—	276	弥生時代中期	6.2	1.2	6.1
188	第 61 次	SD-105C	第 4 層	黒色粘質土	—	483	大和第Ⅵ-4 様式	6.6	2.5	12.7
189	第 93 次	—	—	灰褐色粘質土	—	6	弥生時代	8.0	2.0	13.2
190	第 59 次	SD-1102	第 1 層	黒色粘質土	—	326	大和第Ⅲ-3・4・Ⅴ様式	7.9	2.6	29.8
191	第 86 次	SD-1201	第 1 層	灰粘	—	28	大和第Ⅱ-3 様式	7.0	2.9	11.5
192	第 37 次	SK-2114	第 3 層	灰黒色粘質土	土 -333	264	大和第Ⅲ-2 様式	7.5	3.1	2.00
193	第 16 次	SD-102	—	灰黒色砂質土	S-02	108	大和第Ⅱ-3 様式	(9.0)	2.9	(19.3)
194	第 48 次	排水溝	—	—	—	123	大和第Ⅵ様式	8.8	1.3	36.9

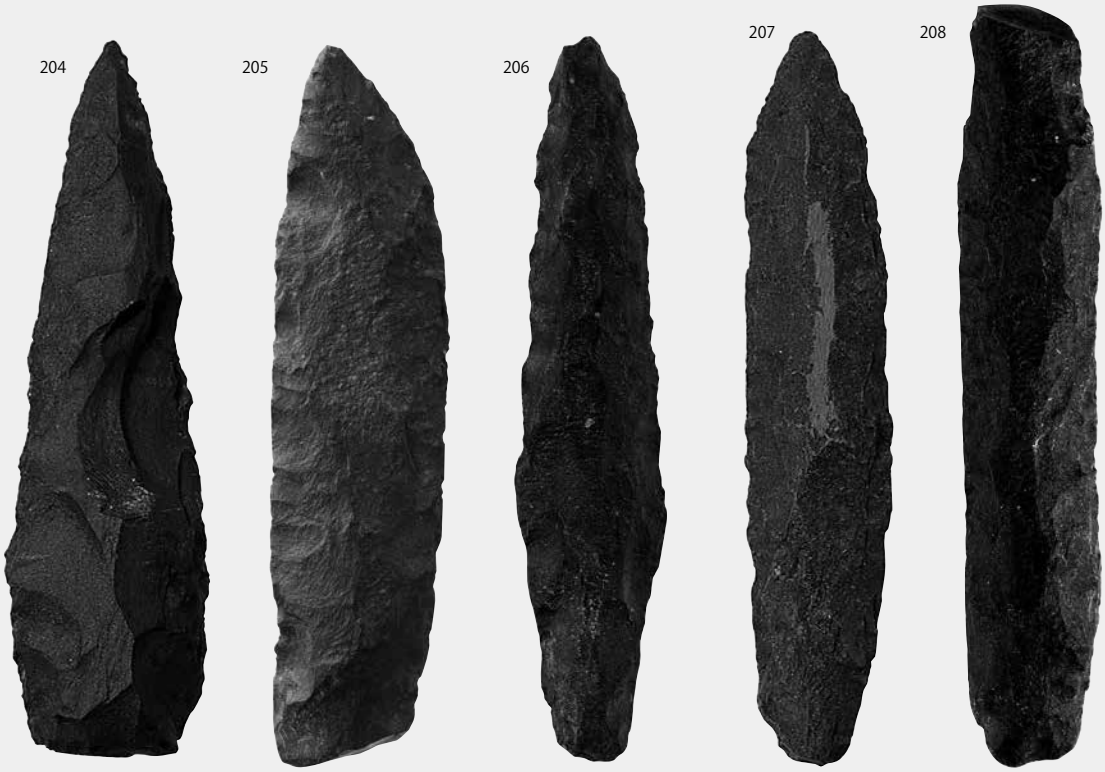
195 ～ 203　打製石器（打製石剣）



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
195	第 89 次	SD-1114B	第 8 層	暗灰粘 (ハード)	―	532	大和第Ⅳ様式	8.9	3.2	36.2
196	第 26 次	―	第 I 層	黒褐色土	―	366	弥生時代中期	(10.3)	3.9	(66.2)
197	第 23 次	落ち込みⅢ	第 1 層	暗黄灰色土	―	242	大和第 I・Ⅱ様式	(10.6)	2.4	(28.7)
198	第 84 次	SD-101W	第 1 層	暗褐色粘質土 (砂混)	―	158	弥生時代	(11.5)	2.6	(32.1)
199	第 25 次	SD-201	第 3 層	灰褐色砂質土	―	7	大和第 I 様式	(11.5)	3.7	(60.9)
200	第 40 次	SD-104	第 4(下) 層	灰黒粘	―	347	大和第Ⅱ-1 様式	11.9	2.4	27.0
201	第 40 次	SD-102B	第 8 層	―	S-801	426	大和第Ⅱ-2 様式	(12.1)	3.3	(57.8)
202	第 44 次	SD-103	第 6 層	―	S-601	290	大和第Ⅲ-2 様式	(12.8)	3.2	(34.9)
203	第 73 次	SK-106	第 1 層	黒褐色粘質土 (青灰色砂質土混)	―	117	大和第Ⅲ-1 様式	(13.3)	2.8	(62.2)

204 ～ 208　打製石器（打製石剣）

204 ～ 208



MS- 打他 -0082
058-00048S

MS- 打他 -0228
000-00046S

MS- 打他 -0081
037-00174S

MS- 打他 -0054
084-00080S

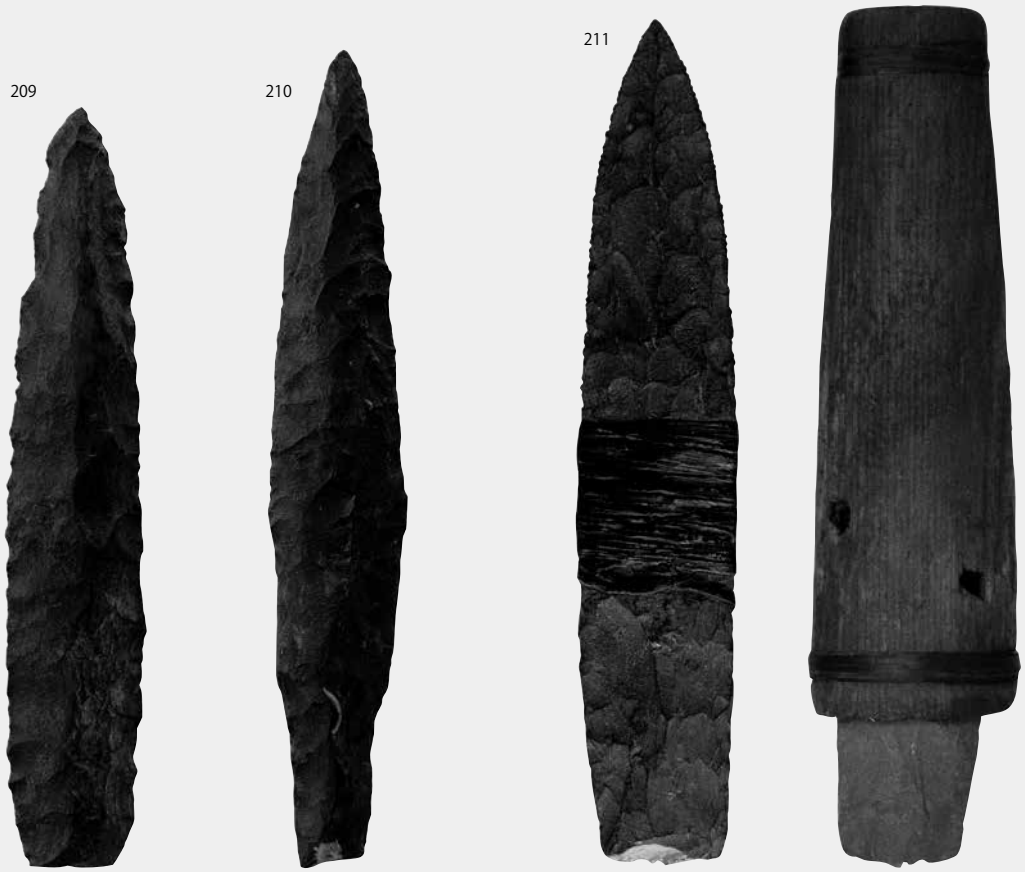
MS- 打他 -0070
086-00005S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
204	第 58 次	SD-201	第 2 層	―	S-201	461	大和第Ⅰ-2 様式	13.6	3.8	88.8
205	第 0 次	表採	―	―	―	118	弥生時代	(14.2)	3.5	(79.8)
206	第 37 次	―	第Ⅰ層	黒褐色土	―	49	弥生時代中・後期	(14.3)	3.0	(80.6)
207	第 84 次	―	―	黒褐色粘質土	―	64	弥生時代	14.0	2.7	63.5
208	第 86 次	SD-7201	第 3 層	暗灰粘	―	205	大和第Ⅲ-1 様式	(15.1)	2.9	(106.1)

打製石器195 ～ 215は、サヌカイト製の石剣である。長さ約９～ 24㎝のものがある。平面形態は細長い柳葉形、あるいは基部からほぼ平行する両側縁部に尖形の先端部がつく２種に分類できる。また、205のように先端部の切っ先が偏るものや202の有茎の基部も例外的にみられる。身部の横断面形は、菱形状の厚みのあるタイプと薄い凸レンズ状の厚みのないタイプがある。また、基部端には自然面を残すものが多い。200の先端部は鋸歯状の剥離による刃部を作っている。身部中央から基部の側縁部、基端部は研磨により仕

209 ～ 211　打製石器（打製石剣）

209 ～ 211



MS- 打他 -0013
026-00025S

MS- 打他 -0012
026-00026S

MS- 打他 -0055
013-00023S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
209	第 26 次	SD-1201	―	崩壊土	―	414	大和第Ⅰ-2 様式	15.1	2.7	55.9
210	第 26 次	SK-3105	第 1 層	暗黄灰色粘質土	―	181	大和第Ⅲ・Ⅳ様式	16.2	2.7	56.9
211	第 13 次	SD-102	―	植物層	W-31	114	大和第Ⅳ-2・Ⅴ-1 様式	16.8	3.1	81.2

上げている。211は西北端の環濠（第13次調査）から、異形高坏（『目録Ⅰ』文様040・『目録Ⅱ』特殊063）や箕など祭祀遺物と一括出土した。整った長身の石剣で、基部はやや細くなるが、中央部はほぼ平行する側縁部をもつ。基部側縁部は僅かに研磨する。身部中央よりやや下で、樹皮を約３㎝の幅で巻き、握部としている。樹皮より上部の先端部の側縁部は、微細な剝離で鋸歯状に刃部を作り出している。本石剣は、木製の鞘（木製品123）に収められており、基部が３㎝程度見える範囲まで収納されていた。

212 ～ 215　打製石器（打製石剣）

212 ～ 215

MS- 打他 -0121
065-00152S

MS- 打他 -0014
026-00027S

MS- 打他 -0152
115-00001S

MS- 打他 -0067
079-00049S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
212	第 65 次	―	―	黒褐色土Ⅱ	―	276	大和第Ⅳ-1 様式？	19.6	2.8	(51.4)
213	第 26 次	SK-2116	第 1(下) 層	黒褐色粘質土	S-101	522	大和第Ⅲ-3 様式	19.2	3.6	92.6
214	第 115 次	SD-101B	第 7 層	―	S-701	139	大和第Ⅴ・Ⅵ様式	24.3	3.5	(110.3)
215	第 79 次	SD-101B	第 10 層	―	S-1003	493	大和第Ⅲ-3 様式	(22.8)	4.3	(218.3)

打製石器212 ～ 215は、長身の石剣で形態的にも整っている。213は完形品である。212は基部から先端に向かって徐々に細くなるタイプ、213 ～ 215は身部中央から基部がほぼ平行する側縁部をもつタイプである。いずれも基端部には自然面を残す。また、基部から身部中位までの側縁部は僅かに研磨しており、212 ～ 214のそれより先端寄りの側縁部は、微細な剥離で鋸歯状に刃部を作り出している。214は、全長のわかる石剣として本遺跡で最も長い。

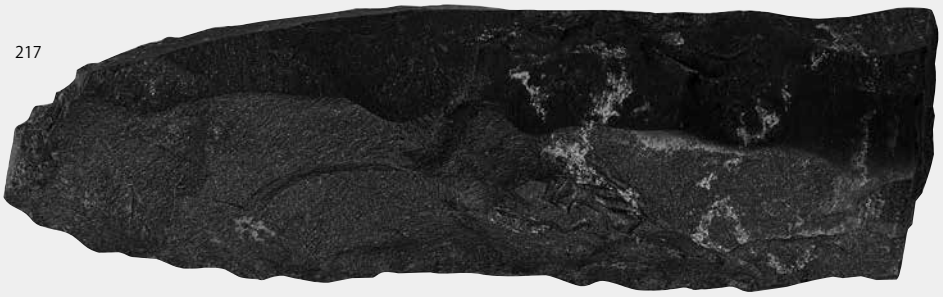
216 ～ 218　打製石器（打製石戈）

216 ～ 218

216

MS- 打他 -0149
047-00024S

217



MS- 打他 -0045
077-00024S

218

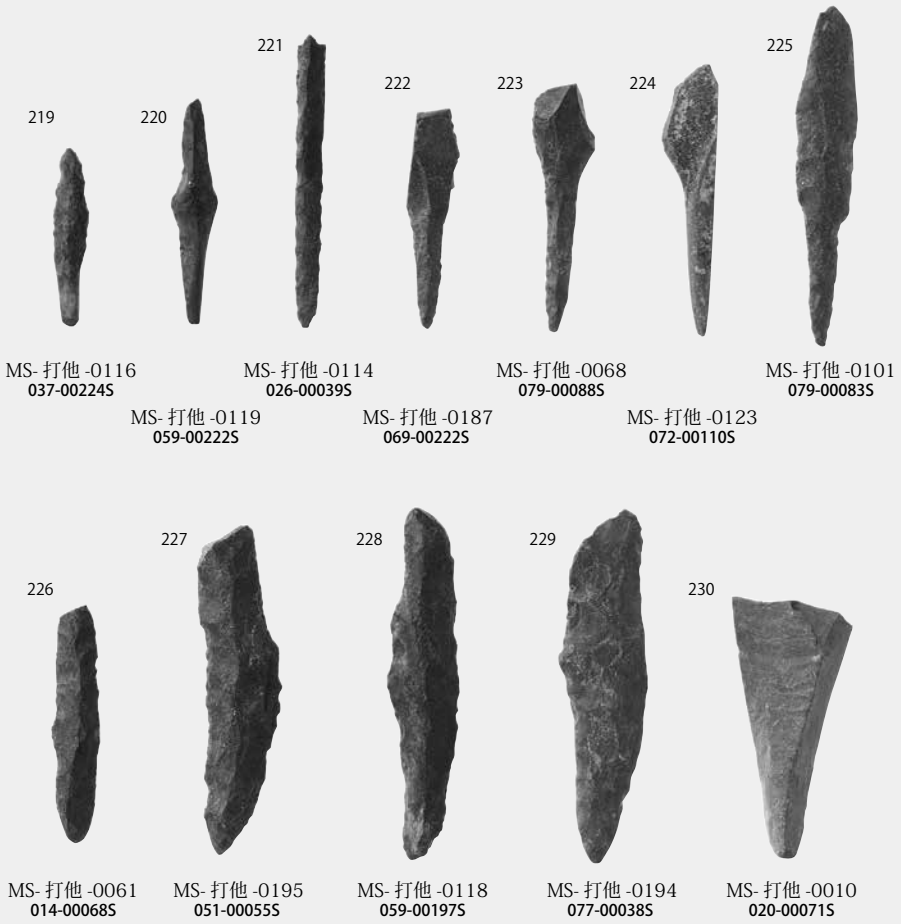
MS- 打他 -0246
011-00001S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
216	第 47 次	SD-2105	第 7 層	灰黒粘	―	484	大和第Ⅲ-1 様式	(16.7)	4.9	(187.8)
217	第 77 次	SX-3101	第 5 層	―	S-501	120	大和第Ⅱ-3 様式	(18.5)	(5.4)	(350.7)
218	第 11 次	SK-125	―	―	―	―	大和第Ⅰ様式	19.5	5.3	221.7

打製石器216 ～ 218は、サヌカイト製の石戈である。216は先端部と基端部の一部を欠損する。身部中央には自然面を残す。基部は身部より薄くし、端部には研磨がみられることから、着柄が想定される。217は先端部と基端部、片側縁部を欠損する。身部は厚く、中央から基部は全体に研磨を施す。218は、完形品で形態的には石剣であるが、身部幅が太く基部の片側縁に抉りを入れる。身部中央から先端部は鋸歯縁状の刃部を作る。

219 ～ 230　打製石器（石錐）

219 ～ 230

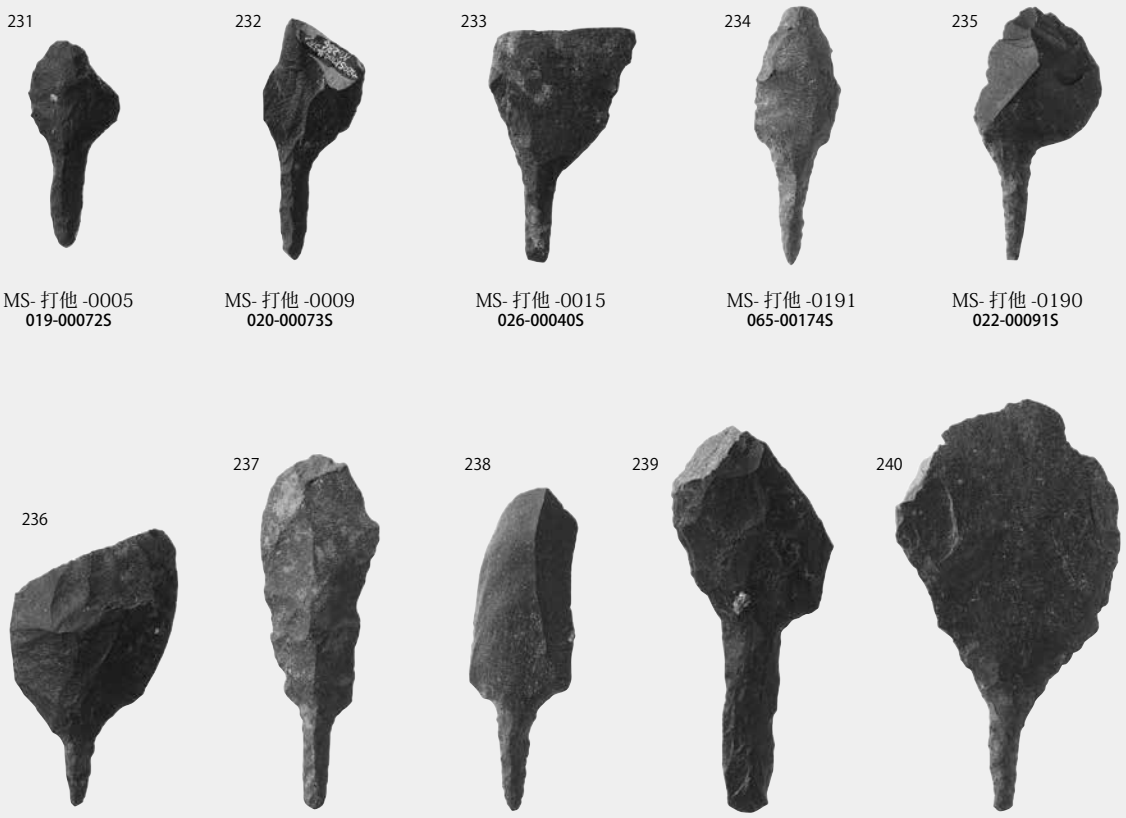


	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
219	第 37 次	SK-2122	第 4(下) 層	黒灰粘	その 3	459	大和第Ⅵ-1 様式	(3.5)	0.7	(1.5)
220	第 59 次	―	―	―	―	1158	弥生時代	(4.5)	0.9	(1.9)
221	第 26 次	SK-2102	Section	黒粘炭灰層	―	524	大和第Ⅱ-3 様式	(5.1)	0.6	(1.9)
222	第 69 次	SK-1101	第 1 層	黒褐色土	―	314	大和第Ⅵ-4 様式	4.3	0.9	2.5
223	第 79 次	―	―	黒灰色粘質土	―	699	弥生時代中期	4.9	0.5	2.9
224	第 72 次	SD-105	第 1-b 層	黒褐色砂質土	―	123	弥生時代	(5.4)	1.2	(2.9)
225	第 79 次	―	―	黒色粘質土 (砂混)	―	2	大和第Ⅱ様式	(6.8)	1.3	(5.0)
226	第 14 次	SK-104	―	―	―	32	大和第Ⅲ様式	(4.7)	1.0	(3.5)
227	第 51 次	SD-102	第 1(下) 層	黒褐色土	―	41	大和第Ⅲ-3 様式	(6.5)	1.2	(10.2)
228	第 59 次	―	―	黒褐色粘質土	―	193	大和第Ⅲ-2 様式	7.0	1.4	10.3
229	第 77 次	SD-4101	第 2 層	灰黒色砂質土	―	237	大和第Ⅵ-3 様式	7.1	1.8	10.8
230	第 20 次	―	―	黒色土	―	67	弥生時代中期	5.2	2.4	10.5

打製石器219 ～ 257はサヌカイト製、258はチャート製の石錐である。219 ～ 230は、錐部と基部（頭部）の界が不明瞭なものである。230を除き、全体が棒状を呈する。219 ～ 225は錐部が細長く鋭いのに対し、226 ～ 230は錐部先端が太めである。225は基部にも回転による摩滅痕がみられる。227は石小刀を転用した可能性がある。230は錐部先端は回転による摩滅痕がみられるが、基部までの一側縁部にも摩滅痕が認められ、錐以外の使用痕跡と考えられる。

231 ～ 240　打製石器（石錐）

231 ～ 240



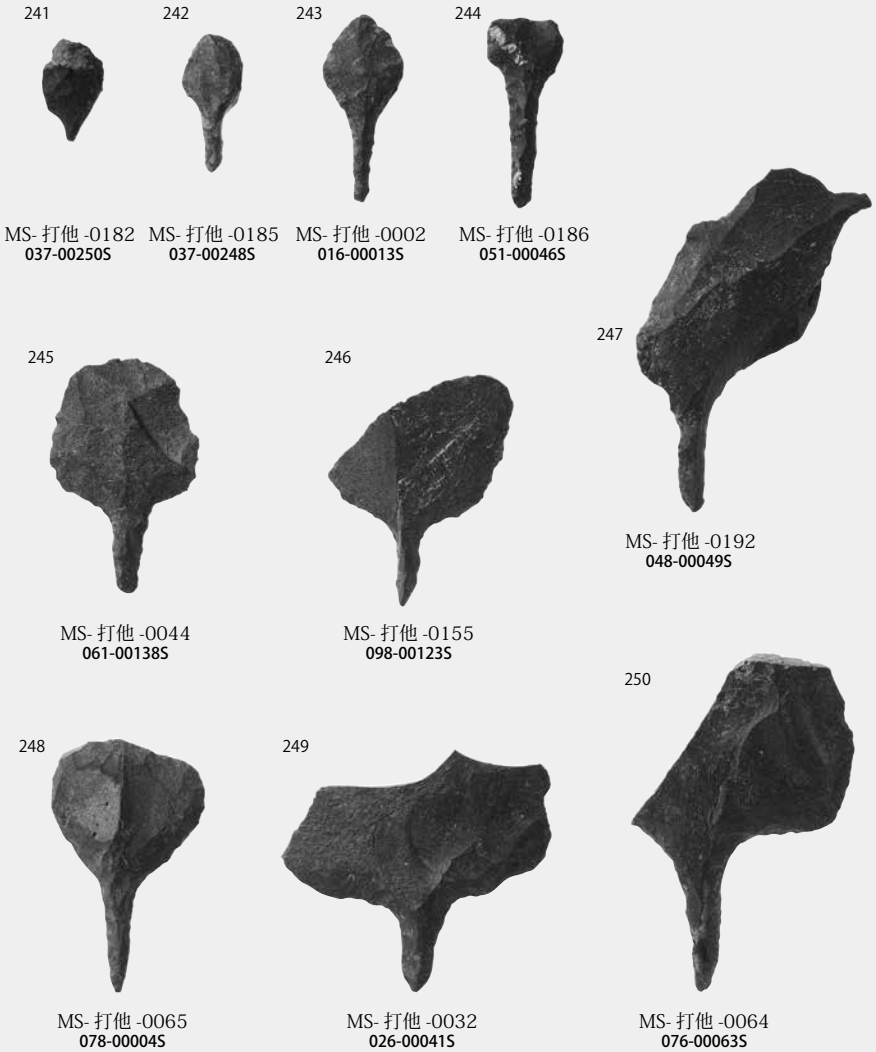
	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
231	第 19 次	中世大溝	第 1 層	灰褐色土	―	1013	弥生時代	4.1	1.8	4.0
232	第 20 次	SK-104	第 3 層	黒粘	―	286	大和第Ⅴ-2 様式	(4.8)	2.0	(3.4)
233	第 26 次	―	―	廃土	―	485	弥生時代	(4.7)	2.9	(7.6)
234	第 65 次	SD-101W	第 1 層	黒褐色土	―	111	大和第Ⅵ-3 様式	5.2	1.8	5.9
235	第 22 次	SK-103	第 3(下) 層	黒粘	―	254	大和第Ⅲ-1 様式	(5.1)	2.3	(5.9)
236	第 51 次	SD-103	第 4 層	植物層	その 1	88	大和第Ⅲ-1 様式	5.5	3.2	11.8
237	第 37 次	SK-2116	第 1(下) 層	黒色土	―	269	弥生時代中・後期	(7.0)	2.0	(11.8)
238	第 69 次	SK-1110	第 2 層	黒色粘質土	―	2020	大和第Ⅲ-3 様式？	6.4	2.1	12.0
239	第 37 次	SK-2116	北アゼ Sec. 第 5 層	―	―	484	大和第Ⅲ-2 様式	7.7	3.2	24.5
240	第 20 次	―	―	黒色土	―	2	弥生時代中・後期	(8.2)	4.5	(28.4)

231 ～ 250は棒状の錐部に不定形な基部をつけるものである。239を除き、錐部は細く短い。251・252は石鏃の転用の可能性のあるもの、253 ～ 257は石鏃の転用品で、石鏃先端を錐部として利用している。これらは、いずれも先端だけでなく、錐部中位まで回転痕が認められるものが多く、大きく穿孔するタイプである。

258はチャート製の石錐であるが、唐古・鍵遺跡では唯一のチャート製である。

241 ～ 250　打製石器（石錐）

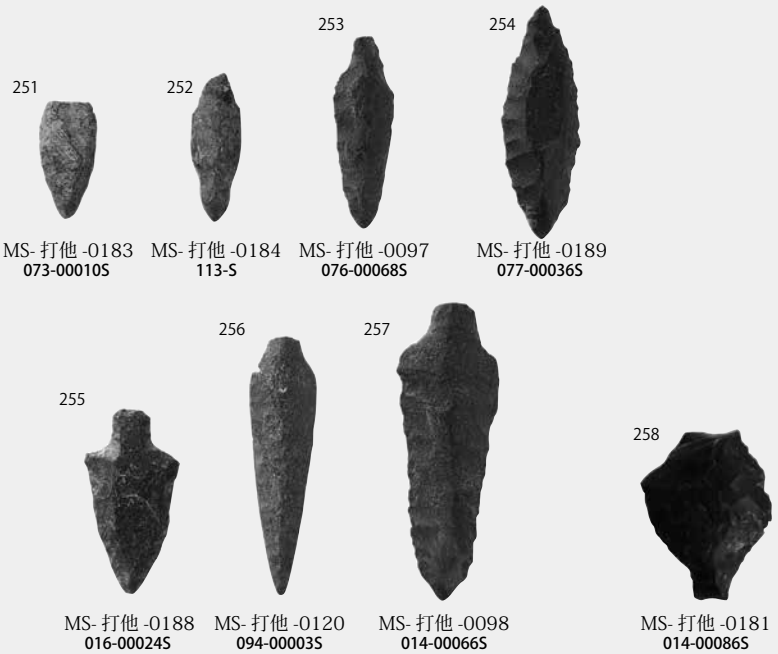
241 ～ 250



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
241	第 37 次	SK-2122	第 4(下) 層	黒灰粘	その 6	429	大和第Ⅵ-1 様式	(2.1)	1.3	(1.1)
242	第 37 次	SK-2122	第 5 層	黒粘	その 6	486	大和第Ⅵ-1 様式	2.8	1.2	1.3
243	第 16 次	SD-101	―	黒色土 (下)	―	326	大和第Ⅲ-3・4 様式	(3.7)	1.6	(1.8)
244	第 51 次	SD-103	第 4 層	植物層	その 2	91	大和第Ⅱ-3 様式	3.8	1.5	2.0
245	第 61 次	SD-105B	第 4 層	黒色粘砂	―	480	大和第Ⅲ-3 様式	4.6	3.0	8.9
246	第 98 次	―	―	暗褐色砂質土	―	46	弥生時代	4.7	3.2	7.4
247	第 48 次	―	第Ⅳ層	黄灰色粘質土	―	202	大和第Ⅰ・Ⅱ様式	6.8	3.3	12.2
248	第 78 次	SD-109	第 2 層	暗灰粘	―	116	大和第Ⅴ-1 様式	5.0	3.0	8.9
249	第 26 次	―	第Ⅰ層	黒褐色土	―	45	弥生時代	4.9	5.3	9.7
250	第 76 次	SK-1102	第 2 層	黒褐色粘質土	―	167	大和第Ⅲ様式？	6.8	4.5	20.0

251 ～ 258　打製石器（石錐）

251 ～ 258



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
251	第 73 次	SD-103	第 1 層	暗灰青色砂質土	―	42	大和第Ⅲ-3 様式	2.3	1.2	1.0
252	第 113 次	―	第Ⅳ層	褐灰色土	―	95	弥生時代	2.0	1.0	1.4
253	第 76 次	SD-1105	第 1-b 層	黒褐色砂質土	―	179	弥生時代	3.8	1.2	2.3
254	第 77 次	SK-3101	第 1 層	黒粘	―	60	大和第Ⅲ-1 様式	4.6	1.9	3.7
255	第 16 次	包含層	―	―	―	296	大和第Ⅲ様式	3.7	1.9	3.7
256	第 94 次	SD-101	第 2(下) 層	黒褐色粘質土	―	25	大和第Ⅲ様式～庄内式	(5.1)	1.4	(4.0)
257	第 14 次	SK-101	上層	黒色土	―	18	大和第Ⅵ-3 様式	5.9	2.1	7.9
258	第 14 次	包含層Ⅲ	―	―	―	136	弥生時代	(3.4)	2.6	(7.2)

259　打製石器（着柄石小刀）

259

MS- 打他 -0089（MW- 工具 -0012）
033-00408S（033-00105W）

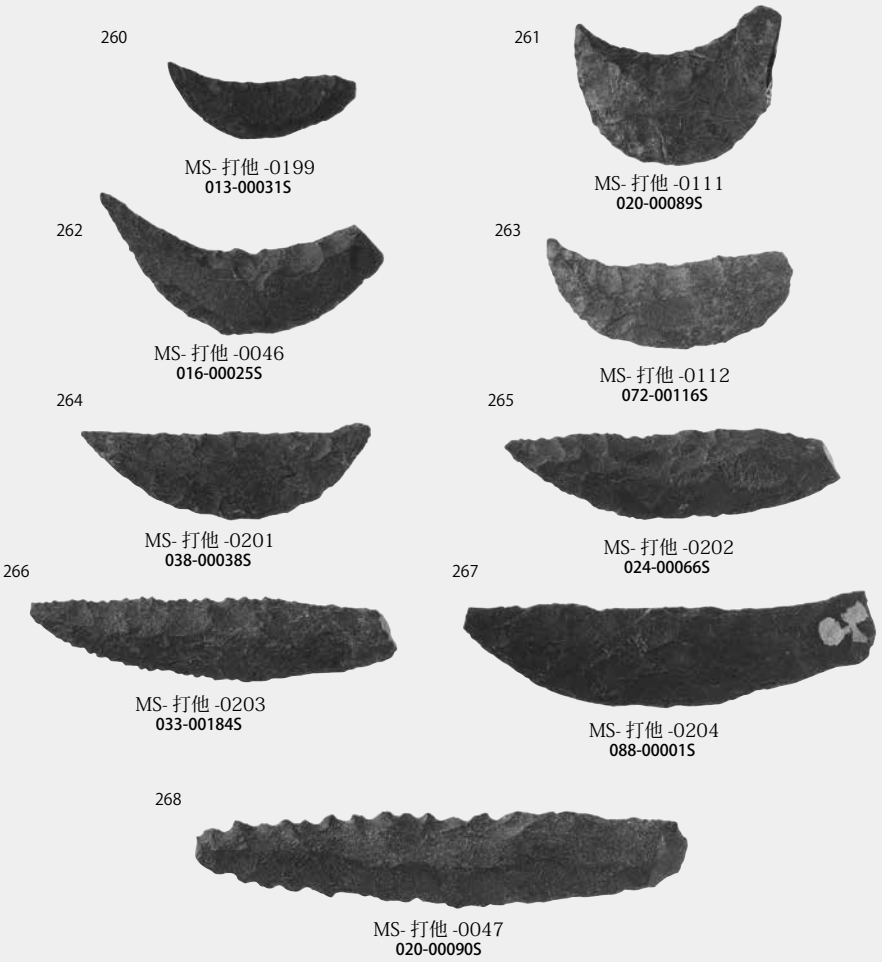
259

第 33 次調査
遺構：SK-123
層位：第 2 層
土色：灰黒粘
取上：W-208
№. ：603
共伴：大和第Ⅱ-3 様式
残存長：1.4
幅　：2.2
残存重：19.8

打製石器259 ～ 279はサヌカイト製の石小刀である。259は着柄の石小刀と思われるが、刃部は折損しており、木製柄部（木製品012）に差し込まれた基部のみである。柄部は、木製丸棒先端に縦方向のスリットを一部入れ、石小刀の基部を差し込み、樹皮で固く緊縛したものである。

260 ～ 268　打製石器（石小刀）

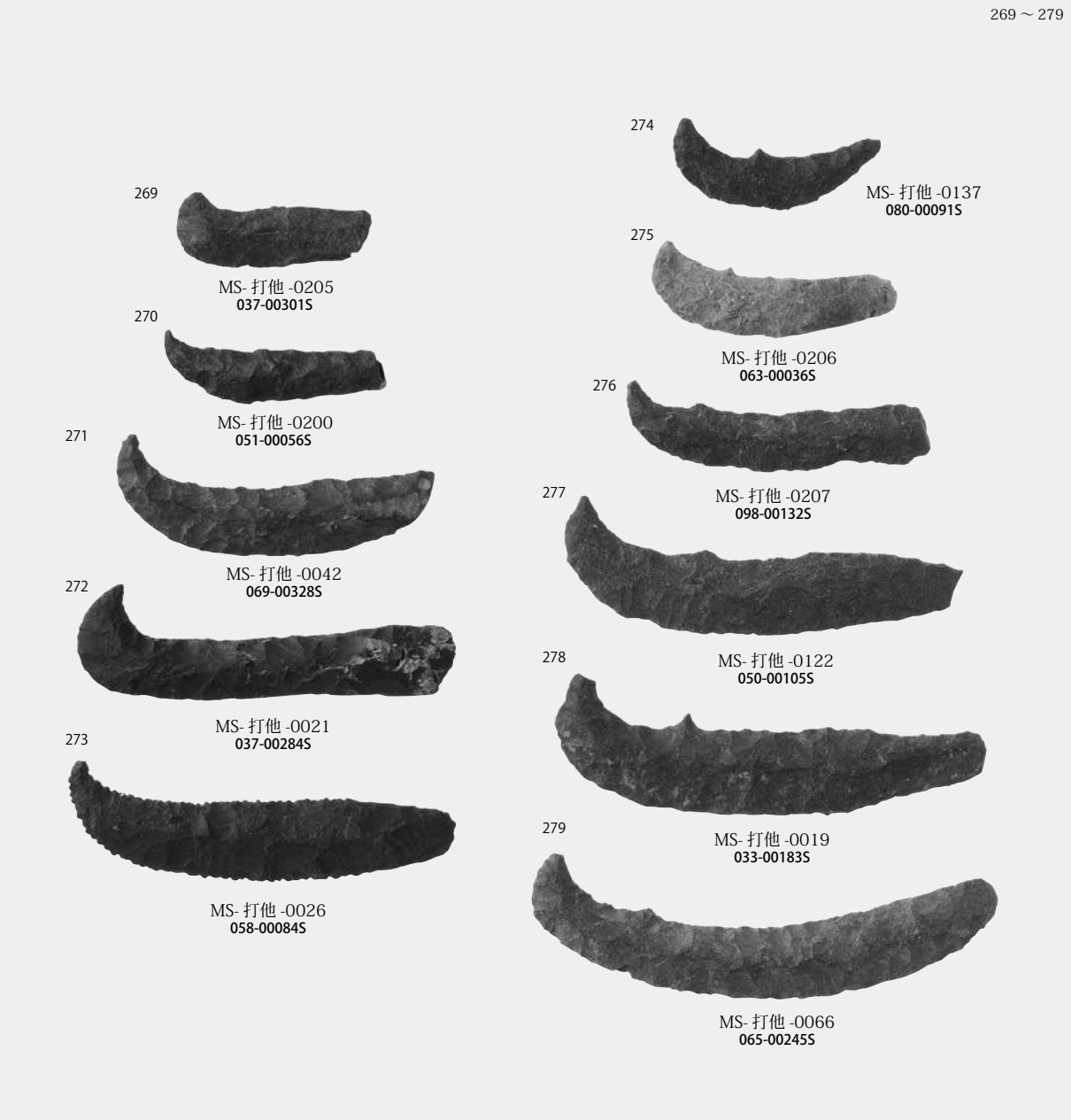
260 ～ 268



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
260	第 13 次	SD-106D	第 10-d 層	黒粘	―	436	大和第Ⅱ-3 様式	3.8	1.1	1.9
261	第 20 次	SD-201	第 4 層	黄灰色砂質土	―	492	大和第Ⅰ-2 様式	(4.0)	3.3	(9.1)
262	第 16 次	SD-103	―	灰黒色粗砂	―	140	大和第Ⅱ-3 様式	(5.4)	2.4	(5.4)
263	第 72 次	―	―	黒褐色土Ⅱ	―	155	弥生時代中・後期	4.9	2.3	4.9
264	第 38 次	SK-102	第 4 層	暗黄灰色砂質土	―	77	大和第Ⅱ-3 様式	5.8	1.8	6.1
265	第 24 次	―	第Ⅳ-a 層	黒褐色粘質土	―	204	大和第Ⅲ-1 様式	(6.6)	2.7	(8.8)
266	第 33 次	SK-134	第 2 層	灰粘	―	499	大和第Ⅲ-1 様式	(7.3)	1.7	(9.8)
267	第 88 次	SK-2107	第 4 層	暗灰粘（砂混）	―	92	大和第Ⅱ-3 様式	(8.2)	2.0	(16.1)
268	第 20 次	SK-114	第 1 層	黒色土	―	369	大和第Ⅱ-1 様式	(9.5)	1.9	(20.0)

打製石器260 ～ 279の石小刀は、刃部先端を上辺部とするものや上方へ湾曲させているものである。形態的には、身部全体を大きく湾曲させるもの（260 ～ 263）、身部がほぼ直線的で刃部先端の湾曲が少ないもの（264 ～ 268）と刃部先端を強く湾曲させるもの（269 ～ 273）、前３者の形態のもので内湾側に小さく突

269 ～ 279　打製石器（石小刀）



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
269	第 37 次	―	第 I 層	黒褐色土	―	188	弥生時代中・後期	4.4	1.6	4.0
270	第 51 次	SD-103	第 4-b 層	灰黒粘	―	129	大和第Ⅲ-1 様式	5.1	2.6	3.8
271	第 69 次	―	―	廃土	―	2183	弥生時代	7.1	3.0	9.9
272	第 37 次	SD-2101	第 5 層	黒粘 (砂混)	―	56	大和第Ⅴ-1 様式	8.9	2.6	11.4
273	第 58 次	SK-101	第 6 層	―	S-601	438	大和第Ⅱ様式	8.5	2.6	(10.9)
274	第 80 次	SD-101	第 6 層	黒灰色粘砂	―	176	大和第Ⅳ・Ⅴ様式	4.7	1.3	(2.7)
275	第 63 次	―	―	黒褐色土	―	11	弥生時代	5.5	1.4	5.0
276	第 98 次	SD-65B	第 1 層	灰色粘質土	―	64	弥生時代	(6.7)	1.3	(6.1)
277	第 50 次	―	―	黒色土	―	33	大和第Ⅳ-3・Ⅵ-3 様式	8.9	1.9	11.3
278	第 33 次	―	―	黒褐色土Ⅱ	―	434	弥生時代中・後期	9.5	2.9	(18.1)
279	第 65 次	SB-101	第 1-b(下) 層	―	S-151	633	大和第Ⅲ様式	10.4	3.1	(15.8)

起を有するもの(274 ～ 279)がある。長さは3.8 ～ 10.4㎝のものがあるが、各形態に大小が存在している。基部は身部よりやや細めに作り出し、基部端には自然面を残すものが多い。274 では刃部外湾部の先端を除く部位に摩滅痕が認められ、使用痕と考えられる。

280 ～ 287　打製石器（スクレイパー）

280 ～ 287

280
MS- 打他 -0087
072-00140S

284
MS- 打他 -0211
053-00272S

281
MS- 打他 -0092
069-00379S

285
MS- 打他 -0215
033-00209S

282
MS- 打他 -0210
022-00110S

286
MS- 打他 -0216
038-00042S

283
MS- 打他 -0086
026-00175S

287
MS- 打他 -0220
026-00063S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
280	第 72 次	SD-107	第 3 層	灰黒粘	―	236	大和第Ⅳ-1・Ⅴ-1 様式	5.4	3.7	21.6
281	第 69 次	―	―	暗灰色粘質土	―	1659	大和第Ⅲ-2 様式	5.9	3.7	17.9
282	第 22 次	SK-105	第Ⅱ層	黒褐色土	―	309	大和第Ⅲ-4 様式	6.8	3.5	16.0
283	第 26 次	SD-2103	第 2 層	黒粘	―	198	大和第Ⅲ-1 様式	6.6	4.7	24.8
284	第 53 次	SR-101B	第 6 層	植物層	―	334	大和第Ⅱ-1 様式	7.6	3.4	38.7
285	第 33 次	SD-202B	第 4 層	黒粘	―	1055	大和第Ⅱ-3 様式	7.0	4.8	25.5
286	第 38 次	SK-104	第 1 層	黒色土	―	128	大和第Ⅱ-3 様式	7.4	4.8	33.8
287	第 26 次	―	第 0・Ⅰ層	―	―	3	弥生時代	9.3	6.2	54.7

打製石器280 ～ 306は、サヌカイト製のスクレイパーである。剥片の横長方向の一辺に刃部をつけたものが多く、長さ5.4 ～ 11.6㎝のものがある。284や295のように周縁全体を刃部とするものもある。280・281・283・292では外弯する刃部あるいは直線の刃部全体が摩滅しており、擦り切りのような滑らかな使用痕跡と推定される。一方、293や300、305の刃部は潰れており、敲打等による使用が考えられる。

打製石器307 ～ 311はサヌカイト製の石匙である。唐古・鍵遺跡では数少ない形態である。下辺を刃部とし、一側辺の上部に突出部（基部）を設けるものである。基部は末端を突起させるものもある。309 ～ 311は、基部あるいは身部に自然面を残している。

288 ～ 295　打製石器（スクレイパー）

288 ～ 295

288

MS- 打他 -0213
051-00060S

289

MS- 打他 -0214
015-00003S

290

MS- 打他 -0212
016-00030S

291

MS- 打他 -0165
084-00160S

292

MS- 打他 -0217
065-00269S

293

MS- 打他 -0219
051-00059S

294

MS- 打他 -0008
020-00096S

295

MS- 打他 -0007
020-00098S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
288	第 51 次	SD-103	第 4 層	植物層	―	90	大和第Ⅱ-3・Ⅲ-1 様式	9.1	3.7	42.9
289	第 15 次	SD-03W	下層	黒粘	―	39	大和第Ⅱ・Ⅲ様式	9.8	3.4	35.2
290	第 16 次	SD-101	―	黒褐色砂質土	―	309	大和第Ⅱ-3 様式	9.9	3.6	60.1
291	第 84 次	SD-101S	第 3 層	黒粘 (ベース混)	―	186	弥生時代	10.9	3.6	42.3
292	第 65 次	Pit-195B	―	―	―	775	弥生時代中期	8.4	4.5	58.2
293	第 51 次	SD-103	第 4 層	植物層	―	88	大和第Ⅱ-3・Ⅲ-1 様式	9.1	5.3	74.1
294	第 20 次	SX-101	第 4-b 層	黄褐色粗砂	―	304	大和第Ⅲ-1 様式	8.6	4.8	73.4
295	第 20 次	SX-101	第 5(下) 層	灰黒粘	―	338	大和第Ⅲ-1 様式	8.8	5.1	73.5

296 ～ 302　打製石器（スクレイパー）

296 ～ 302

296

MS- 打他 -0006
020-00091S

297

MS- 打他 -0059
016-00028S

298

MS- 打他 -0218
053-00259S

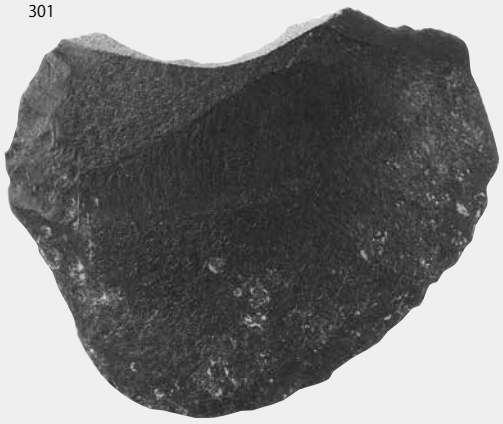
299

MS- 打他 -0058
016-00003S

300

MS- 打他 -0060
061-00178S

301



MS- 打他 -0130
061-00184S

302

MS- 打他 -0221
091-00037S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
296	第 20 次	SX-101	第 7 層	灰黒粘	―	355	大和第Ⅲ-1 様式	7.4	6.0	64.7
297	第 16 次	SD-101	―	黒色粘砂	―	51	大和第Ⅱ-3・Ⅲ-1 様式	8.7	6.3	(86.2)
298	第 58 次	SR-101A	第 4 層	灰黒粘	―	322	大和第Ⅰ-2 様式	8.5	5.6	59.4
299	第 16 次	SD-101	―	黒色土	S-06	20	大和第Ⅰ-1 様式	11.2	5.5	78.4
300	第 61 次	SD-151	第 5 層	暗灰褐粘	―	1274	大和第Ⅲ様式	9.6	6.2	112.2
301	第 61 次	SD-201B	第 2 層	暗青灰粘	―	1630	大和第Ⅱ-1 様式	8.7	9.5	135.4
302	第 91 次	―	―	黒灰色粘質土	―	7	大和第Ⅴ-1 様式	9.4	7.4	151.7

303 ～ 306　打製石器（スクレイパー）

303 ～ 306

303

MS- 打他 -0131
061-00176S

304

MS- 打他 -0166
083-00010S

305

MS- 打他 -0127
098-00156S

306

MS- 打他 -0128
080-00095S

307 ～ 311　打製石器（石匙）

307 ～ 311

307

MS- 打他 -0157
020-00091S

308

MS- 打他 -0094
089-00141S

309

MS- 打他 -0071
037-00539S

310

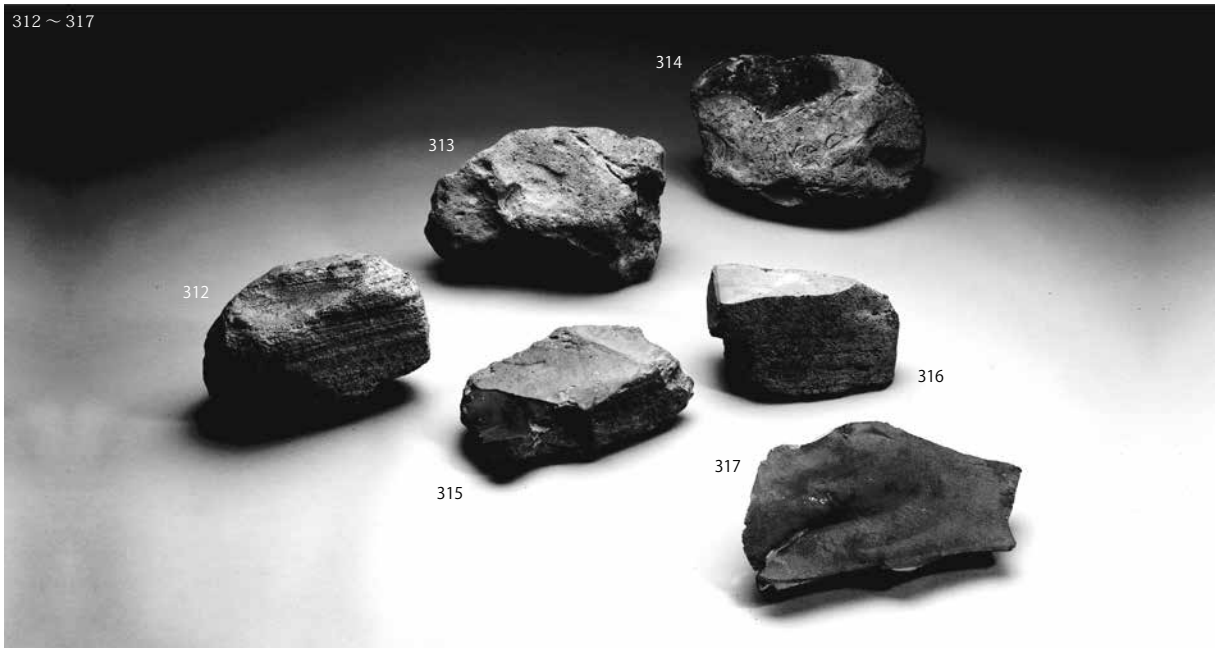
MS- 打他 -0158
053-00279S

311

MS- 打他 -0150
033-00214S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
303	第 61 次	SD-105B	第 6 層	黒粘	―	988	大和第Ⅲ-3 様式	6.2	9.6	86.2
304	第 83 次	SD-1103B	第 12 層	黒褐粘 (植物混)	―	196	大和第Ⅳ-1 様式	7.7	9.6	104.6
305	第 98 次	SX-201	第 1 層	灰褐粘 (植物混)	―	551	大和第Ⅱ-1 様式	11.6	3.2	88.7
306	第 80 次	SD-106	第 5(下) 層	黒灰色粘質土 (砂混)	―	325	大和第Ⅲ様式	7.8	9.2	109.9
307	第 20 次	SK-213	第 4 層	灰黒色砂質土	―	602	大和第Ⅱ-2 様式	4.0	2.1	3.6
308	第 89 次	SD-1114B	第 7 層	黒灰色砂質土	―	543	大和第Ⅳ様式	(5.2)	3.1	(13.9)
309	第 37 次	SD-2202	第 3(下) 層	植物層	―	1118	大和第Ⅰ-1 様式	7.2	3.4	22.7
310	第 53 次	SR-101A	第 4(上) 層	灰黒色粘砂	―	308	大和第Ⅲ-3・4・Ⅳ-1 様式	6.2	2.8	(10.0)
311	第 33 次	―	第Ⅳ-b 層	黒褐色粘質土 (黄斑)	―	1091	大和第Ⅱ-1・2 様式	7.4	3.4	23.4

312 ～ 317　打製石器（サヌカイト原石）



MS- 打他 -0035
037-10002S

MS- 打他 -0034
037-10001S

MS- 打他 -0036
037-10003S

MS- 打他 -0020
037-10005S

MS- 打他 -0038
037-10006S

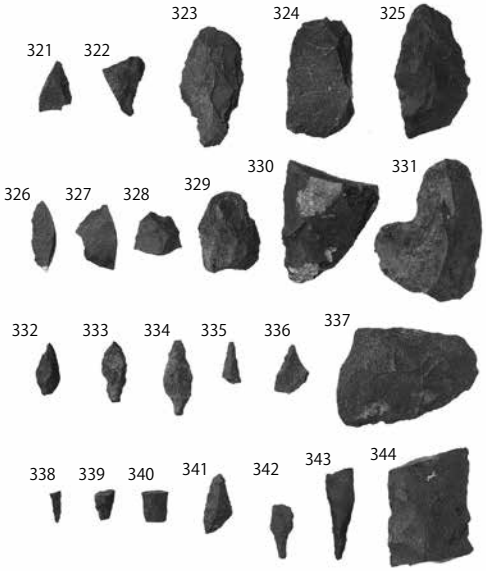
MS- 打他 -0037
037-10004S

318 MS- 打他 -0244-1 **037-20001S-1**	319 MS- 打他 -0244-2 **037-20001S-2**	320 MS- 打他 -0244-3 **037-20001S-3**	321 MS- 打他 -0239 **037-10013S**	322 MS- 打他 -0240 **037-10014S**	323 MS- 打他 -0241 **037-10015S**	324 MS- 打他 -0242 **037-10016S**
325 MS- 打他 -0243 **037-10017S**	326 MS- 打他 -0233 **037-10007S**	327 MS- 打他 -0234 **037-10008S**	328 MS- 打他 -0235 **037-10009S**	329 MS- 打他 -0236 **037-10010S**	330 MS- 打他 -0237 **037-10011S**	331 MS- 打他 -0238 **037-10012S**
332 MS- 石鏃 -0219 **037-00846S**	333 MS- 石鏃 -0220 **037-00847S**	334 MS- 石鏃 -0221 **037-00848S**	335 MS- 石鏃 -0222 **037-00849S**	336 MS- 石鏃 -0223 **037-00850S**	337 MS- 打他 -0232 **037-00851S**	338 MS- 石鏃 -0215 **037-00503S**
339 MS- 石鏃 -0216 **037-00501S**	340 MS- 石鏃 -0217 **037-00502S**	341 MS- 石鏃 -0218 **037-00504S**	342 MS- 打他 -0230 **037-00510S**	343 MS- 打他 -0231 **037-00509S**	344 MS- 打他 -0229 **037-00508S**	

318 ～ 344　打製石器（サヌカイトチップ・二次加工）

318 ～ 320

321 ～ 344

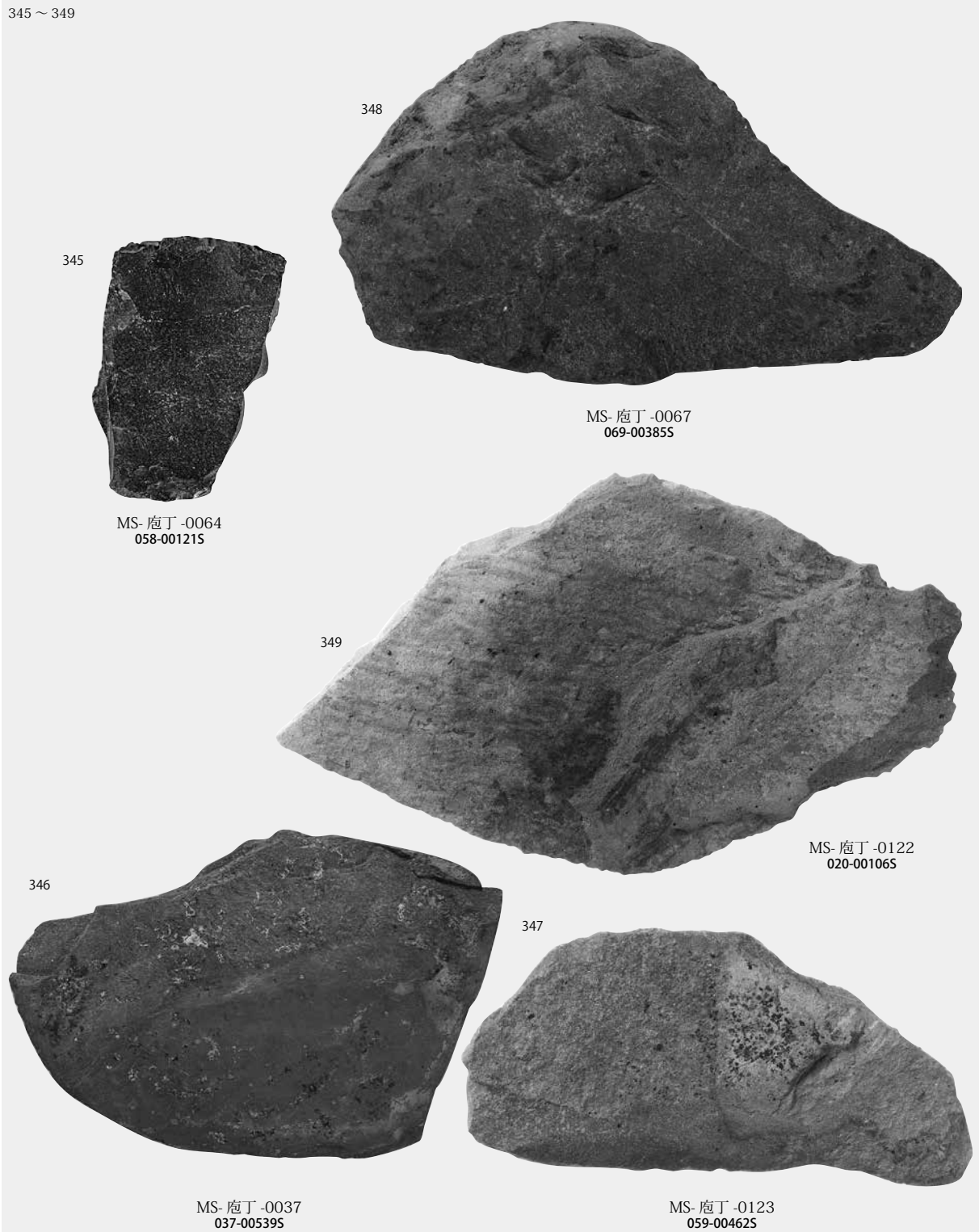


打製石器312 ～ 317はサヌカイトの原石で、西地区北部東端（第37次調査）の土坑から一括出土したものである。おおよそ長さ20 ～ 30㎝、幅15 ～ 20㎝ほどで、重量は約2.5 ～ 11.5㎏である。原石の一部に1打撃を加えているものがある。

318 ～ 344はサヌカイトの剝片及び製作途中品・失敗品で、西地区北部（第37次調査）の大形土坑中層から一括出土した遺物である。このような多量のサヌカイト剝片の土坑への一括廃棄は、北地区（第59次遺跡）や西地区北部（第93次調査）などにみられ、また、小土坑（ピット）に少量の剝片の一括廃棄も存在するがこれらは限られている。

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
312	第37次	SK-4101	第1層	黒褐色土	S-102	688	弥生時代中期	24.2	16.4	8,055
313	第37次	SK-4101	第1層	黒褐色土	S-101	688	弥生時代中期	29.7	15.1	8,372
314	第37次	SK-4101	第1層	黒褐色土	S-103	688	弥生時代中期	31.5	20.1	11,459
315	第37次	SK-4101	第1層	黒褐色土	S-105	688	弥生時代中期	25.9	15.6	3,950
316	第37次	SK-4101	第1層	黒褐色土	－	712	弥生時代中期	20.2	13.9	4,661
317	第37次	SK-4101	第1層	黒褐色土	S-104	688	弥生時代中期	30.8	17.8	2,491
318	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	－	235	大和第Ⅲ-2様式	－	－	225.1
319	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	－	235	大和第Ⅲ-2様式	－	－	768.6
320	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	－	235	大和第Ⅲ-2様式	－	－	1,037.6
321	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和第Ⅲ-2様式	2.0	1.3	0.9
322	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和第Ⅲ-2様式	2.3	1.7	1.2
323	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和第Ⅲ-2様式	4.7	2.5	9.5
324	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和第Ⅲ-2様式	4.7	2.9	15.8
325	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和第Ⅲ-2様式	5.4	3.0	14.7
326	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	－	235	大和第Ⅲ-2様式	2.9	1.0	1.2
327	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	－	235	大和第Ⅲ-2様式	2.6	1.7	1.8
328	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	－	235	大和第Ⅲ-2様式	1.8	1.9	1.7
329	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	－	235	大和第Ⅲ-2様式	3.2	2.4	8.6
330	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	－	235	大和第Ⅲ-2様式	4.8	3.9	19.1
331	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	－	235	大和第Ⅲ-2様式	5.5	4.3	35.7
332	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和第Ⅲ-2様式	2.1	1.0	0.5
333	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和第Ⅲ-2様式	2.4	1.1	0.8
334	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和第Ⅲ-2様式	3.0	1.2	0.9
335	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和第Ⅲ-2様式	1.7	0.7	0.4
336	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和第Ⅲ-2様式	2.0	1.4	0.7
337	第37次	SK-2114	第2層	黒褐色粘質土	その1	234	大和第Ⅲ-2様式	4.9	5.6	23.2
338	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	－	235	大和第Ⅲ-2様式	1.3	0.5	0.2
339	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	－	235	大和第Ⅲ-2様式	1.2	0.9	0.4
340	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	－	235	大和第Ⅲ-2様式	1.3	1.1	0.6
341	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	－	235	大和第Ⅲ-2様式	2.4	1.2	1.1
342	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	－	235	大和第Ⅲ-2様式	2.2	1.0	0.7
343	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	－	235	大和第Ⅲ-2様式	5.6	1.2	1.5
344	第37次	SK-2114	第3層	灰黒色粘質土	－	235	大和第Ⅲ-2様式	4.5	3.3	27.7

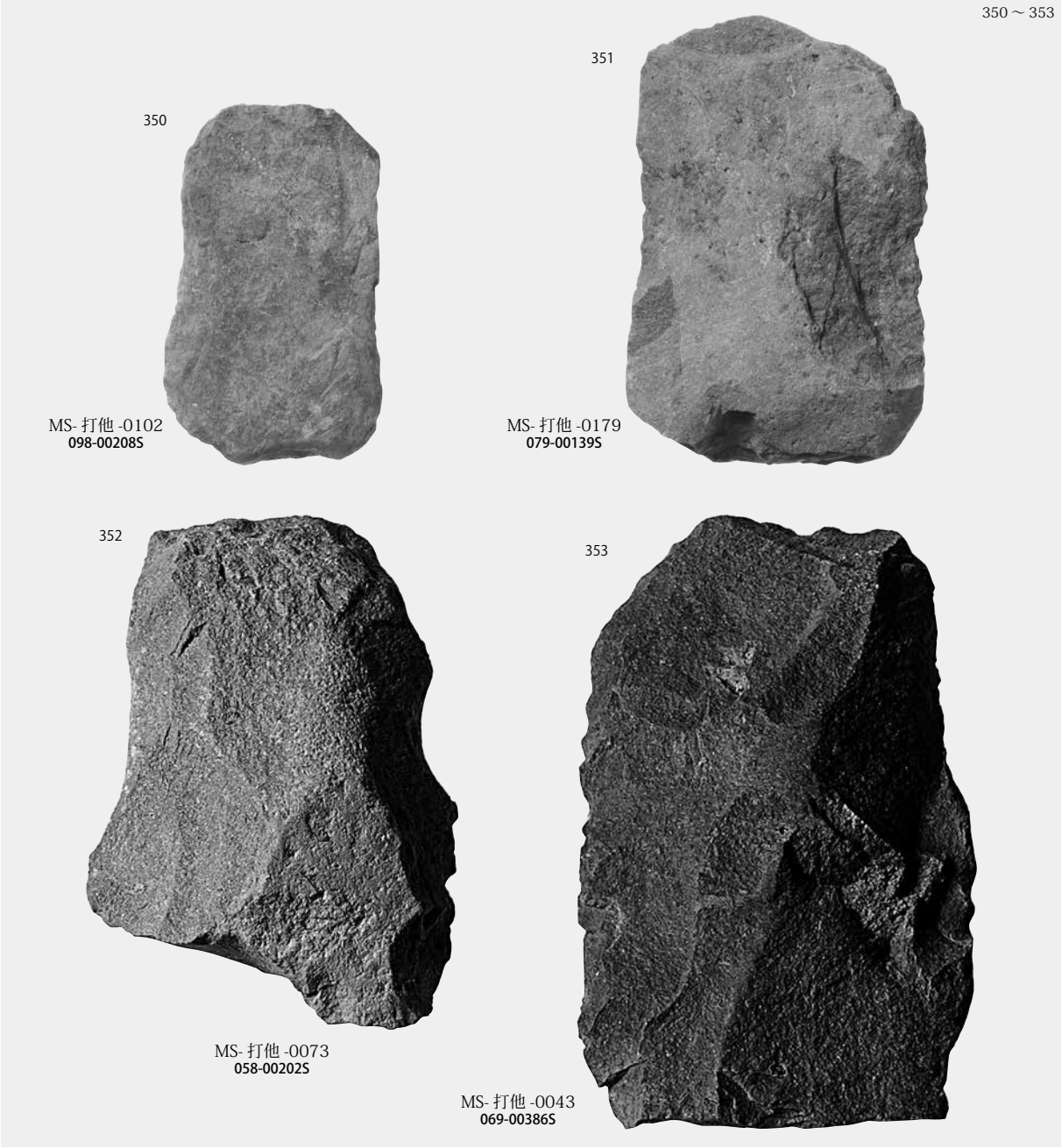
345 ～ 349　打製石器（大型直縁刃石器）



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
345	第 58 次	SD-201	第 2 層	黄灰色細砂	―	460	大和第Ⅰ-2 様式	(5.1)	8.2	(95.4)
346	第 37 次	―	―	暗黄褐色土	―	512	大和第Ⅲ-1 様式	(12.2)	8.4	(162.0)
347	第 59 次	―	―	黒褐色土	―	34	弥生時代	12.6	6.2	137.4
348	第 69 次	SK-1101	第 2 層	黒色粘質土	―	532	大和第Ⅵ-4 様式	15.6	8.9	(292.8)
349	第 20 次	SK-215	第 3 層	炭化物層	―	709	大和第Ⅰ-2 様式	16.9	9.9	153.5

350 ～ 353　打製石器（石鏃）

350 ～ 353

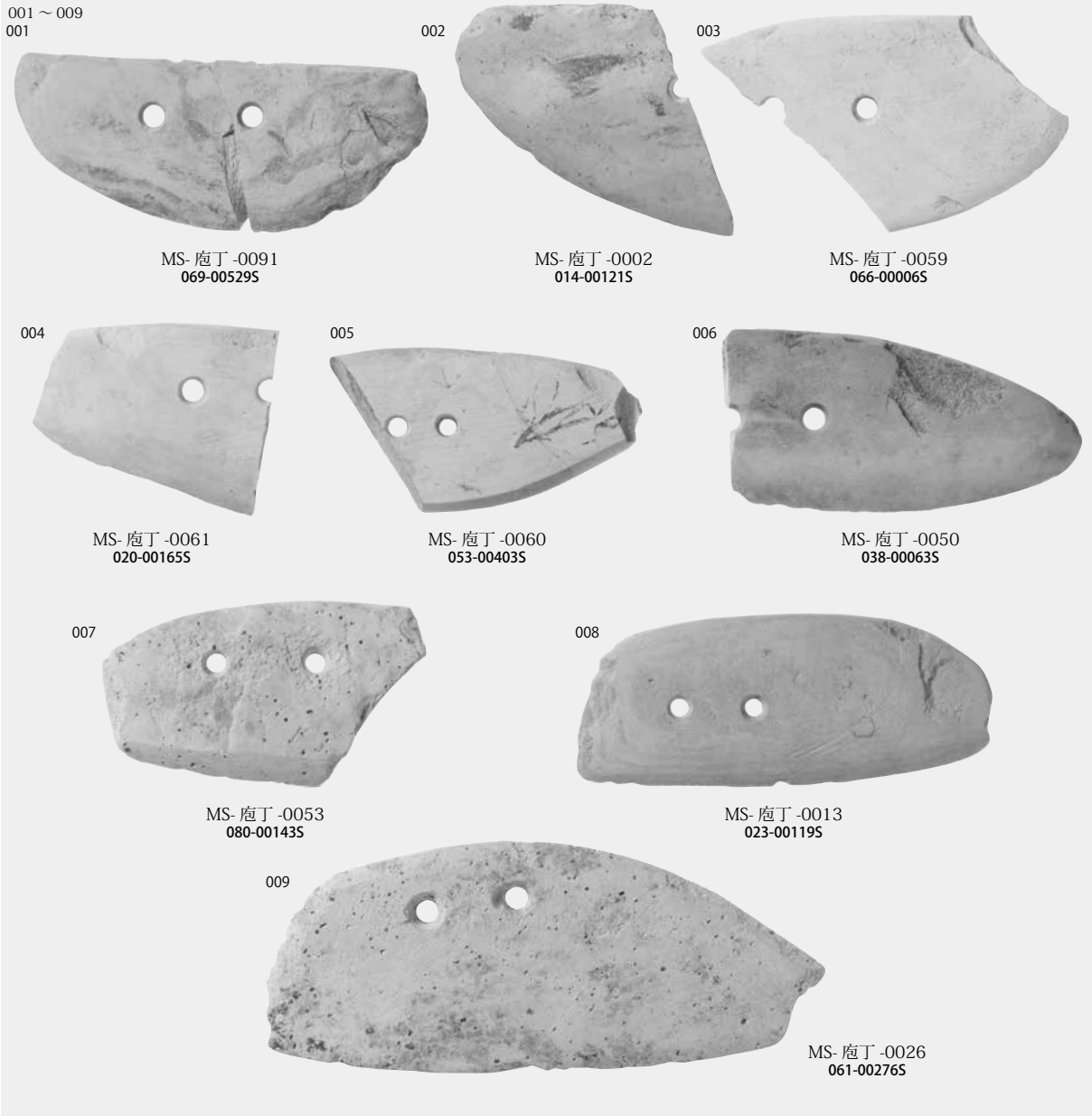


	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
350	第 98 次	―	―	黒色砂質土	―	465	弥生時代	(8.2)	4.2	(95.2)
351	第 79 次	SD-101	第 3 層	暗灰色粘質土 (黄斑)	―	320	大和第Ⅳ様式	(10.1)	6.7	(150.6)
352	第 58 次	SD-106	第 1 層	暗褐色砂質土	―	359	大和第Ⅱ-3 様式	(11.7)	7.5	(274.7)
353	第 69 次	SD-1110	第 3 層	灰粘 (炭混)	―	1767	大和第Ⅱ-2 様式	(13.9)	8.0	(414.9)

打製石器345 ～ 349は大型直縁刃石器である。長さ約13 ～ 17㎝の大型剝片の一部を横長にし、刃部とするものである。刃部は研磨するもの(346)もある。いずれにしても刃部は、使用による摩滅が認められるとともに稲科植物と思われる光沢がみられる。345はサヌカイト製、他は安山岩系の石材を利用している。

打製石器350 ～ 353は石鏃であるが、折損しているため全体は不明である。平面の形態は短冊形で、両側辺の中位あるいは上位に括れ部を有する。全体に厚みがある。350は結晶片岩製の小形品で、他の大型直縁刃石器の石材と同様なものが使用されている。352は敲打により括れ部を作るとともに括れ部に平行する上面部分も敲打調整で仕上げている。353の上面の突出した部分は研磨により平滑にしている。

001 ～ 009　磨製石器（石庖丁）



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
001	第 69 次	SD-1101B	第 5-イ層	暗灰粘 (黄灰色粘質土ブロック)	―	868	大和第Ⅴ-1 様式	12.2	5.0	(61.5)
002	第 14 次	前期包含層	―	―	―	129	大和第Ⅰ様式	(7.9)	6.9	(54.3)
003	第 66 次	SR-201	第 4 層	黒灰粘	―	56	大和第Ⅰ-1 様式	(10.5)	(6.5)	(52.3)
004	第 20 次	SK-215	第 2(下) 層	灰黒粘	S-208	705	大和第Ⅰ-2 様式	(6.8)	5.5	(41.5)
005	第 53 次	SR-101A	第 4 層	灰黒粘	―	381	大和第Ⅰ-2 様式	(8.9)	4.9	(42.3)
006	第 38 次	SD-201	第 3 層	黒褐色砂質土	―	119	弥生時代前期	(10.6)	5.2	(63.0)
007	第 80 次	SD-101B	第 5-c 層	褐灰色砂質土	―	265	弥生時代中期	(9.5)	5.4	(53.3)
008	第 23 次	SD-101	第 3 層	黒粘	S-302	120	大和第Ⅱ-3 様式	(12.1)	5.0	(65.0)
009	第 61 次	SK-117	第 1 層	黒色粘質土 (炭灰混)	S-101	756	大和第Ⅲ様式	(16.2)	6.7	(140.7)

磨製石器001 ～ 009は、流紋岩製の石庖丁である。001 ～ 005は外湾刃、006 ～ 009は直刃で、いずれも両刃である。001の背部は研磨を施すが、剥離面を残す。刃部中央には刃こぼれがみられる。008は長方形にちかい形態で、紐孔は左寄りの下位に２孔をあける。全体に研磨痕を残すが、Ｂ面左側は摩耗が進み光沢がみられる。009はやや大形品である。紐孔はやや左に寄るのに相応するように、左半の刃部は面をもち右半の刃部を作り出しており、使用方法が推定できるものである。

010 ～ 017　磨製石器（石庖丁）

010 ～ 017

010

MS- 庖丁 -0044
061-00262S

011

MS- 庖丁 -0025
059-00405S

012

MS- 庖丁 -0085
059-00456S

013

MS- 庖丁 -0087
037-00613S

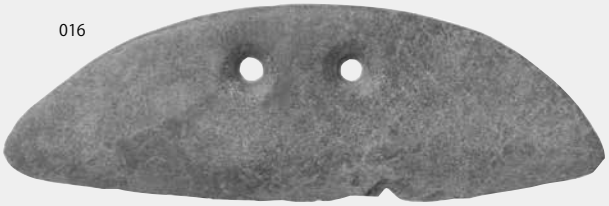
014

MS- 庖丁 -0086
061-00240S

015

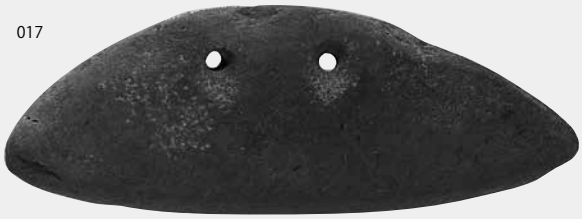
MS- 庖丁 -0117
098-00257S

016



MS- 庖丁 -0074
040-00033S

017



MS- 庖丁 -0020
053-00330S

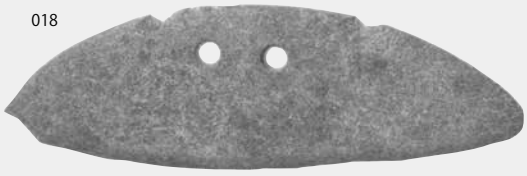
	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
010	第 61 次	Pit-119	第 1 層	暗褐色粘質土	S-101	485	弥生時代	13.3	4.6	74.6
011	第 59 次	SK-3130	第 2 層	―	S-201	1010	大和第Ⅲ様式	14.2	5.4	92.4
012	第 59 次	―	―	黒褐色砂質土	S-101	1202	弥生時代	11.5	6.0	(85.9)
013	第 37 次	SK-2102	第 2 層	黒灰粘	―	24	大和第Ⅱ-3 様式	(10.3)	5.0	(57.1)
014	第 61 次	SD-103	第 2 層	黒褐色粘質土	その 1	258	大和第Ⅵ-4 様式	13.3	4.6	75.6
015	第 98 次	―	―	暗褐色粘質土 (灰粘混)	―	554	弥生時代	14.5	6.2	108.3
016	第 40 次	SD-101	第 2-b 層	暗灰褐色砂質土	―	111	大和第Ⅴ-1・Ⅵ-3・4 様式	15.9	5.2	(111.9)
017	第 53 次	SR-101A	第 4(上) 層	―	S-406	319	大和第Ⅲ-1・2 様式	15.2	5.6	123.5

磨製石器010 ～ 049は、結晶片岩製の石庖丁である。011・019・024・031・033・046の６点はいずれも完形品で北地区第59次調査の小土坑から、また、036・040・041は北西端の第13次調査の環濠中層からいずれも集積した状態で出土した。017・026・028・045は中央区の第53次調査の落ち込み状遺構からやや散在状況であるが、全体としてはまとまって出土した。

018～025　磨製石器（石庖丁）

018～025

018



MS- 庖丁 -0089
061-00239S

019

MS- 庖丁 -0041
059-00407S

020

MS- 庖丁 -0045
098-00254S

021

MS- 庖丁 -0118
059-00401S

022

MS- 庖丁 -0043
059-00416S

023

MS- 庖丁 -0083
053-00333S

024

MS- 庖丁 -0031
059-00408S

025

MS- 庖丁 -0032
079-00159S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
018	第 61 次	SD-103	第 3 層	黒褐色粘砂	―	301	大和第Ⅵ-4 様式	(13.7)	4.4	(65.9)
019	第 59 次	SK-3130	第 2 層	―	S-203	1010	大和第Ⅲ様式	15.9	4.9	88.0
020	第 98 次	―	―	暗黄褐色砂質土Ⅱ	―	527	大和第Ⅱ-3～Ⅲ-1 様式	12.1	4.2	63.8
021	第 59 次	SK-3107	第 2 層	―	S-201	1001	大和第Ⅲ-1 様式	14.8	4.1	67.7
022	第 59 次	SD-3101	第 1 層	―	S-104	537	弥生時代	11.3	3.4	42.0
023	第 53 次	SR-101A	第 4(上) 層	―	S-409	319	大和第Ⅲ-1・2 様式	11.2	4.1	43.1
024	第 59 次	SK-3130	第 2 層	―	S-204	1010	大和第Ⅲ様式	(14.4)	5.5	(118.1)
025	第 79 次	SD-103	第 2(下) 層	黒色粘質土 (粘性)	その 1	115	大和第Ⅲ-2 様式	(14.3)	5.4	(91.8)

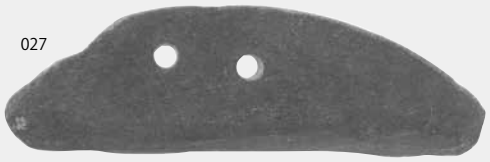
010・011は整った杏仁形、012・013はやや不定形な杏仁形である。他はおおまかに半月形を呈する。010のB面刃部には縦方向の使用痕がみられる。011は全体に研磨痕が残るが、B面周縁及び背部には光沢が多くみられる。017は、全体に丁寧な研磨を施すが、A面では紐孔周辺に敲打痕が残る。刃部は鋭くないが未使用品か。

026 ～ 033　磨製石器（石庖丁）

026 ～ 033

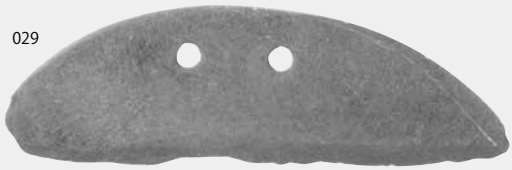
026

MS- 庖丁 -0119
053-00328S

027

MS- 庖丁 -0084
053-00326S

028

MS- 庖丁 -0081
053-00327S

029

MS- 庖丁 -0077
058-00125S

031

MS- 庖丁 -0030
059-00409S

030

MS- 庖丁 -0046
070-00003S

032

MS- 庖丁 -0036
053-00359S

033

MS- 庖丁 -0042
059-00410S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
026	第 53 次	SR-101A	第 4(上) 層	―	S-402	319	大和第Ⅲ-1・2 様式	10.5	3.6	37.6
027	第 53 次	SR-101A	第 4 層	灰黒粘	―	255	大和第Ⅳ-1 様式	(12.6)	3.9	(49.0)
028	第 53 次	SR-101A	第 4(上) 層	―	S-401	319	大和第Ⅲ-1・2 様式	(13.4)	3.4	(50.0)
029	第 58 次	SK-101	第 4 層	―	S-401	321	大和第Ⅳ-1 様式	13.3	4.0	62.5
030	第 70 次	SR-201	第 3 層	―	S-301	27	大和第Ⅱ-1 様式	15.6	4.8	86.7
031	第 59 次	SK-3130	第 2 層	―	S-205	1010	大和第Ⅲ様式	13.8	5.1	75.1
032	第 53 次	SR-101B	第 4 層	黒粘（炭灰）	―	221	大和第Ⅱ・Ⅲ-1・2 様式	(15.5)	3.7	(68.7)
033	第 59 次	SK-3130	第 2 層	―	S-206	1010	大和第Ⅲ様式	14.3	4.4	57.7

034 ～ 041　磨製石器（石庖丁）

034 ～ 041

034

MS- 庖丁 -0088
063-00058S

035

MS- 庖丁 -0126
023-00081S

036

MS- 庖丁 -0116
013-00072S

037

MS- 庖丁 -0129
019-00153S

038

MS- 庖丁 -0054
098-00234S

039

MS- 庖丁 -0076
059-00376S

040

MS- 庖丁 -0001
013-00073S

041

MS- 庖丁 -0039
013-00071S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
034	第 63 次	SD-103A	第 3(下) 層	暗灰粘	―	344	大和第Ⅳ-1 様式	(13.0)	3.9	(48.1)
035	第 23 次	SK-118	第 2 層	黒粘	S-201	472	大和第Ⅳ様式	10.5	4.4	55.8
036	第 13 次	SD-106C	第 5 層	粗砂	S-503	360	大和第Ⅳ-1 様式	12.5	4.3	64.2
037	第 19 次	中世大溝	第 5 層	暗灰青粘	―	1059	弥生時代	11.7	5.1	64.9
038	第 98 次	―	―	灰粘	―	83	大和第Ⅲ-2 様式	16.3	4.3	86.8
039	第 59 次	―	―	黒色土	―	1216	弥生時代	13.0	4.3	74.0
040	第 13 次	SD-106C	第 5 層	粗砂	S-504	360	大和第Ⅳ-1 様式	14.5	4.6	95.4
041	第 13 次	SD-106C	第 5 層	粗砂	S-502	360	大和第Ⅵ-1 様式	(17.5)	4.9	(125.2)

042 ～ 049　磨製石器（石庖丁）

042 ～ 049

042

MS- 庖丁 -0082
053-00305S

043

MS- 庖丁 -0080
063-00067S

044

MS- 庖丁 -0068
061-00247S

045

MS- 庖丁 -0078
053-00332S

047

MS- 庖丁 -0069
061-00218S

046

MS- 庖丁 -0040
059-00406S

049

MS- 庖丁 -0047
019-00151S

048

MS- 庖丁 -0048
023-00080S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
042	第 53 次	SK-106	第 4 層	黒色粘砂	その 1	361	大和第Ⅲ-1 様式	(11.8)	3.2	(37.1)
043	第 63 次	SD-103B	第 3 層	黒灰粘	―	268	大和第Ⅳ-1 様式	11.9	3.8	46.3
044	第 61 次	SD-151	第 2 層	灰褐色砂礫	―	1281	大和第Ⅲ-4 様式	14.7	3.9	59.8
045	第 53 次	SR-101A	第 4(上) 層	―	S-408	319	大和第Ⅲ-1・2 様式	12.9	4.0	65.4
046	第 59 次	SK-3130	第 2 層	―	S-202	1010	大和第Ⅲ様式	15.9	4.7	90.8
047	第 61 次	SK-117	第 1 層	―	S-102	873	大和第Ⅲ-4 様式	14.1	4.2	73.1
048	第 23 次	落ち込みⅢ	第 1 層	暗黄灰色土	―	242	大和第Ⅰ-2 様式	(14.9)	4.1	(61.1)
049	第 19 次	SD-204	第 6(下) 層	黒灰色砂質土	―	735	大和第Ⅳ-1 様式	13.8	3.6	61.9

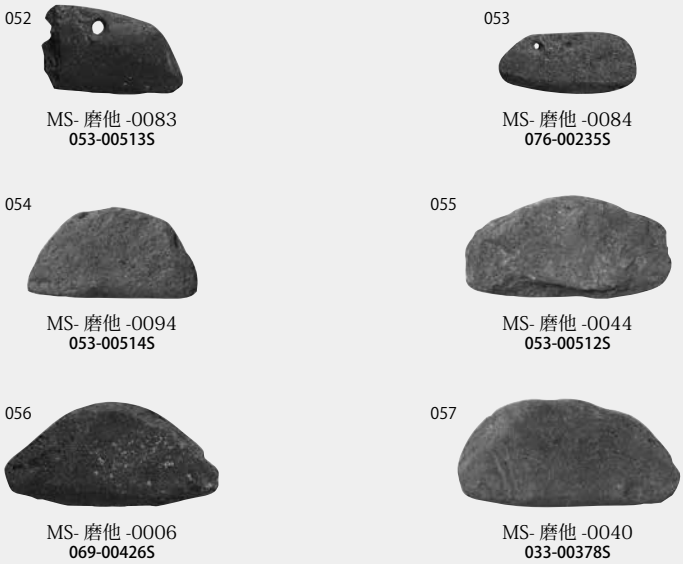
050・051　磨製石器（石庖丁）

050・051

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
050	第０次	―	―	―	―	9	弥生時代	(14.4)	4.3	(78.3)
051	第 33 次	SD-110	第２層	暗灰褐色粘砂	―	342	大和第Ⅱ-3 様式	15.2	4.7	(63.2)

052 ～ 057　磨製石器（小形石庖丁）

052 ～ 057



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
052	第 53 次	SR-101A	第 2-b 層	黒褐色粘質土	―	165	大和第Ⅳ-1 様式	(3.8)	2.2	(6.5)
053	第 76 次	SD-1117	第２層	暗灰褐色粘質土	―	318	大和第Ⅳ-2・3 様式	3.6	1.6	2.7
054	第 53 次	SR-101A	第 1-b 層	黒褐色粘質土	―	137	大和第Ⅳ-1 様式	4.5	2.4	7.1
055	第 53 次	SK-201	第１層	灰黒粘	―	312	大和第Ⅱ-1 様式	5.4	2.7	15.0
056	第 69 次	SD-1102	第１層	暗褐色土	―	853	大和第Ⅵ-3 様式	5.6	2.8	12.3
057	第 33 次	SK-120・SD-115	第 0(上) 層	黒褐色粘質土	―	400	大和第Ⅳ-1 様式	5.8	2.8	15.0

磨製石器050・051は、粘板岩系と思われる黒色を呈す石庖丁である。050の左側縁には一部欠損がみられるが、縦位の擦痕があり全体に摩耗している。特に背部の摩耗が激しい。片刃である。

磨製石器052 ～ 057は結晶片岩製の小形石庖丁である。いずれも６㎝以下の小形品で、刃部を作り出すなど石庖丁の形態を忠実に模している。石庖丁製作時の剝片を利用したものと推定される。052は左半分を欠くが、紐孔２をあける。053の右側紐孔は途中穿孔である。054 ～ 057は紐孔をもたない。

058 ～ 061　磨製石器（大形石庖丁）

058 ～ 061

058

MS- 庖丁 -0033
083-00011S

059

MS- 庖丁 -0014
079-00146S

060

MS- 庖丁 -0124
R-198916-S

061

MS- 庖丁 -0093
079-00146S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
058	第 83 次	―	―	灰褐色砂質土	―	88	弥生時代中期	(9.0)	(7.4)	(109.3)
059	第 24 次	SR-101	第 2 層	灰白色粗砂	―	91	大和第Ⅳ-2 様式	(11.8)	11.8	(198.0)
060	R-198916	―	―	―	―	1	弥生時代	(9.5)	(15.4)	(165.6)
061	第 79 次	―	―	黒色粘質土 (砂混)	―	9	大和第Ⅱ-3 様式	(12.9)	10.1	(163.7)

磨製石器058 ～ 061は大形石庖丁である。いずれも欠損しており、全体は不明である。058・059は背部中央が突出し、その中央に紐孔 1 をあける。刃部が横長になるタイプと思われる。060・061は背部中央が平坦な山形を呈するタイプである。060では背部中央に紐孔 2、未完通孔 2 がある。

062 ～ 076　磨製石器（流紋岩原石）

062
MS- 庖丁 -0130-3
016-20003S

063
MS- 庖丁 -0130-2
016-20002S

064
MS- 庖丁 -0130-4
016-20004S

065
MS- 庖丁 -0130-1
016-20001S

066
MS- 庖丁 -0131-1
016-20006S

067
MS- 庖丁 -0131-2
016-20007S

068
MS- 庖丁 -0132-1
016-20009S

069
MS- 庖丁 -0131-3
016-20008S

070
MS- 庖丁 -0130-5
016-20005S

MS- 庖丁 -0090
016-10003S

MS- 庖丁 -0028
016-10002S

MS- 庖丁 -0034
052-10001S

MS- 庖丁 -0027
052-10004S

MS- 庖丁 -0104
052-10003S

MS- 庖丁 -0079
058-10001S

磨製石器062 ～ 114は、流紋岩の原石及び剝片である。これらのうち剝片は、集落内部の調査では散在的に出土するが、原石を含めてまとまって出土したのは、西地区中央部南の第16次調査（062 ～ 072・076 ～ 114）や南地区の第52次調査（073 ～ 075）である。掲載したものは、それらの一部である。原石はおおよそ20 ～ 40㎝の大きさで、重量は10㎏を最大とする。これぐらいの重量が取り扱う単位の最大であろう。

077 ～ 114　磨製石器（流紋岩チップ）

077 MS- 庖丁 -0132-2 016-20010S
078 MS- 庖丁 -0132-3 016-20011S
079 MS- 庖丁 -0132-4 016-20012S
080 MS- 庖丁 -0132-5 016-20013S
081 MS- 庖丁 -0132-6 016-20014S
082 MS- 庖丁 -0132-7 016-20015S
083 MS- 庖丁 -0132-8 016-20016S
084 MS- 庖丁 -0132-9 016-20017S
085 MS- 庖丁 -0132-10 016-20018S
086 MS- 庖丁 -0132-11 016-20019S
087 MS- 庖丁 -0132-12 016-20020S
088 MS- 庖丁 -0132-13 016-20021S
089 MS- 庖丁 -0132-14 016-20022S
090 MS- 庖丁 -0132-15 016-20023S
091 MS- 庖丁 -0132-16 016-20024S
092 MS- 庖丁 -0132-17 016-20025S
093 MS- 庖丁 -0132-18 016-20026S
094 ～ 114 MS- 庖丁 -0132-19 ～ 132-39 016-20027S ～ 20047S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
062	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	S-25	172	大和第Ⅰ-2 様式	12.2	20.6	2,202.0
063	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	S-03	172	大和第Ⅰ-2 様式	10.9	13.8	664.7
064	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	S-40	172	大和第Ⅰ-2 様式	10.9	13.9	537.7
065	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	S-02	172	大和第Ⅰ-2 様式	9.2	12.5	696.5
066	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	169	大和第Ⅱ-1 様式	9.5	11.8	463.1
067	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	169	大和第Ⅱ-1 様式	8.6	10.4	385.3
068	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅱ-1 様式	9.0	11.7	259.8
069	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	169	大和第Ⅱ-1 様式	10.0	10.9	292.0
070	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	S-72	172	大和第Ⅰ-2 様式	9.9	10.8	472.7
071	第 16 次	SX-102	―	砂質土Ⅲ	S-01	229	大和第Ⅱ-3 様式	36.5	26.2	9,406.0
072	第 16 次	SX-101	―	灰黒色砂質土	S-01	193	大和第Ⅱ-3 様式	41.8	20.3	9,304.0
073	第 52 次	SX-101	第 2 層	―	S-230	32	大和第Ⅲ様式	32.0	19.1	3,884.0
074	第 52 次	SX-101	第 2 層	―	S-227	32	大和第Ⅲ様式	31.8	39.5	1,320.0
075	第 52 次	SX-101	第 1 層	―	S-101	7	大和第Ⅳ様式	28.5	18.5	10,000.0
076	第 58 次	SD-51B	第 10 層	暗灰褐色土	―	181	弥生時代？	29.5	35.4	2,270.0
077	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・2 様式	8.0	8.2	127.1
078	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・2 様式	4.5	9.4	90.0
079	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・2 様式	6.0	7.4	116.0
080	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・2 様式	5.9	8.0	75.4
081	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・2 様式	6.7	6.2	38.7
082	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・2 様式	4.9	7.0	63.9
083	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・2 様式	3.4	8.6	43.2
084	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・2 様式	3.5	5.9	23.0
085	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・2 様式	5.2	4.0	40.7
086	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・2 様式	6.5	7.9	119.7
087	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・2 様式	4.3	7.8	57.3
088	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・2 様式	5.3	3.9	33.2
089	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・2 様式	3.6	4.6	12.6
090	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・2 様式	3.3	4.2	9.1
091	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・2 様式	2.4	4.5	13.2
092	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・2 様式	2.9	4.7	5.8
093	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・2 様式	3.2	3.7	4.3
094～114	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	―	171	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・2 様式	―	―	―

115 ～ 120　磨製石器（石庖丁未成品）

115 ～ 120

115

MS- 庖丁 -0004
016-00091S

118

MS- 庖丁 -0058
063-00109S

116

MS- 庖丁 -0006
016-00093S

119

MS- 庖丁 -0005
016-00092S

117

MS- 庖丁 -0057
069-00694S

120

MS- 庖丁 -0029
060-00015S

121 ～ 126　磨製石器（石庖丁未成品）

121 ～ 126

121

MS- 庖丁 -0009
019-00209S

122

MS- 庖丁 -0022
058-00163S

123

MS- 庖丁 -0063
014-00124S

124

MS- 庖丁 -0051
020-00193S

125

MS- 庖丁 -0052
076-00207S

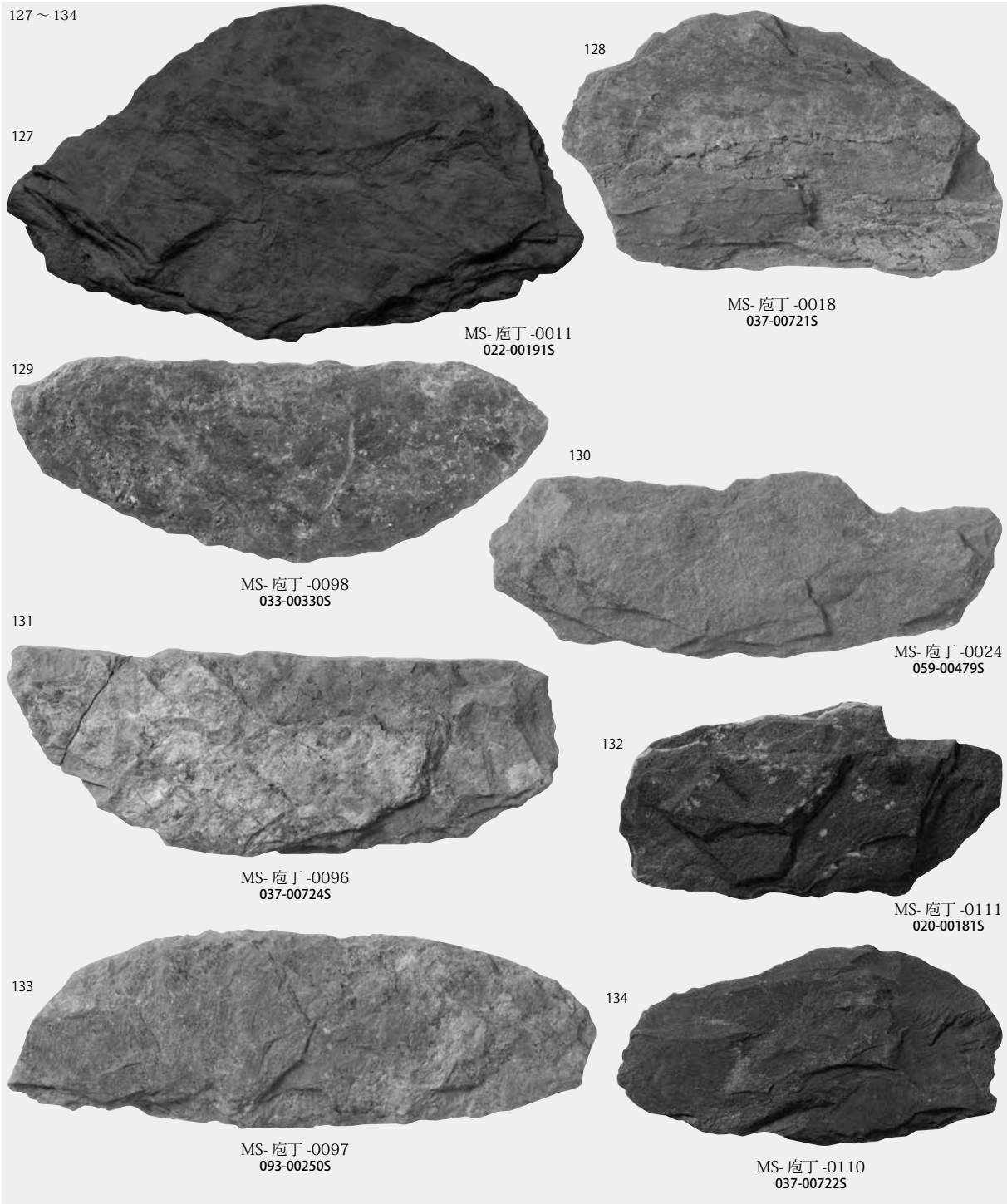
126

MS- 庖丁 -0120
053-00451S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
115	第 16 次	SD-101	―	黒粘下層	S-06	50	弥生時代前期	(21.2)	13.0	(836.1)
116	第 16 次	SD-102	―	黒粘Ⅱ	S-01	316	大和第Ⅱ-3 様式	18.7	10.0	311.1
117	第 69 次	SD-1109	第 5(下) 層	―	S-5506	548	弥生時代	11.3	15.3	643.1
118	第 63 次	SD-103B	第 2 層	灰黒粘	―	233	弥生時代	6.3	9.3	208.5
119	第 16 次	SD-105	―	黒色砂質土	S-17	172	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1 様式	14.0	9.2	330.7
120	第 60 次	SX-1101	第 3 層	黒褐色粘質土	―	48	大和第Ⅱ-1 様式	13.0	8.6	233.8
121	第 19 次	SD-204	第 4(下) 層	黒粘	S-4008	673	弥生時代	(6.4)	8.2	(55.8)
122	第 58 次	SK-51	第 5(下) 層	灰黒色粘質土	―	62	弥生時代	(9.8)	6.2	(94.0)
123	第 14 次	SK-210	―	―	―	99	大和第Ⅰ-1 様式	(9.3)	6.8	(106.5)
124	第 20 次	―	―	暗黄褐色土Ⅴ	―	368	大和第Ⅰ様式	13.9	6.9	177.2
125	第 76 次	―	―	黄灰色粘質土	―	421	大和第Ⅰ様式	10.5	5.4	66.5
126	第 53 次	SR-101A	第 4 層	灰黒粘	―	339	大和第Ⅱ-1・Ⅲ-1 様式	(8.8)	4.6	(38.6)

磨製石器115 ～ 126は、流紋岩製の石庖丁の未成品である。粗割段階から紐孔穿孔段階のものがある。流紋岩の石質が硬いため、形態を整えるのがかなり困難で厚みのあるものが多い。120 ～ 124は大形剥片を利用したもので、周縁部に剥離調整がみられるが、研磨はまだみられない。125は不定形な長方形を呈する小形の未成品である。全体に研磨が及んでいる。紐孔は未完通の２孔がＡ面のみにみられる。刃部も作り出しているが、中央部分は刃こぼれ状を呈していることから使用痕の可能性もある。

127 ～ 134　磨製石器（石庖丁未成品）



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
127	第 22 次	SK-201	第 3 層	灰黒色粘質土	S-301	131	大和第Ⅱ-2 様式	18.9	11.1	474.6
128	第 37 次	SX-2101	第 1 層	茶褐色砂質土	―	254	弥生時代中期	13.7	8.1	155.1
129	第 33 次	落ち込みⅢ	第 1-b 層	黒褐色土	―	127	弥生時代中・後期	16.7	6.2	212.3
130	第 59 次	SR-4101	第 1-e 層	暗黄褐色砂質土	―	708	弥生時代中・後期	15.9	5.8	143.7
131	第 37 次	―	第Ⅰ層	黒褐色土	―	83	弥生時代中・後期	16.9	6.3	159.8
132	第 20 次	SX-101	第 7 層	灰黒粘	S-701	767	大和第Ⅲ-1 様式	12.1	6.2	148.6
133	第 93 次	―	―	黒褐色粘質土	―	34	大和第Ⅳ・Ⅴ様式	(18.2)	7.2	(208.8)
134	第 37 次	SX-3101	第 3 層	灰褐粘	―	347	大和第Ⅴ・Ⅵ様式	12.2	6.3	128.4

135 ～ 142　磨製石器（石庖丁未成品）

135 ～ 142

135

MS- 庖丁 -0012
023-00122S

136

MS- 庖丁 -0023
059-00463S

137

MS- 庖丁 -0008
019-00210S

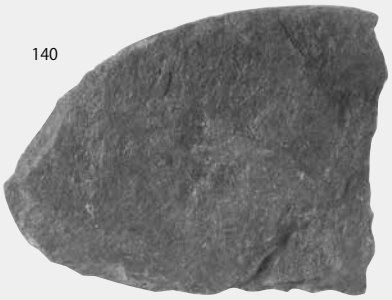
138

MS- 庖丁 -0071
053-00418S

139

MS- 庖丁 -0099
073-00043S

140



MS- 庖丁 -0100
050-00186S

141

MS- 庖丁 -0072
111-00162S

142

MS- 庖丁 -0070
023-00123S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
135	第 23 次	SD-103	第 1 層	黒褐色土	―	247	大和第Ⅱ-3 様式	15.9	7.5	213.6
136	第 59 次	SD-1102	第 3 層	灰黒粘	―	338	大和第Ⅲ-1 様式	(11.9)	6.2	(104.1)
137	第 19 次	SD-103	第 2(下) 層	黄褐色粗砂	―	245	大和第Ⅱ-3 様式	(12.2)	6.6	(116.3)
138	第 53 次	SR-101A	第 4(上) 層	灰黒色粘砂	―	213	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-3・Ⅲ-2 様式	(11.3)	5.0	(83.8)
139	第 73 次	SD-201	―	―	―	191	弥生時代中期	14.8	7.1	183.5
140	第 50 次	SD-106	第 3(上) 層	灰黒色砂質土	―	165	大和第Ⅲ様式	7.8	(10.3)	(145.6)
141	第 111 次	―	―	暗灰褐色土	―	4	弥生時代	16.6	8.2	(331.6)
142	第 23 次	SD-106	第 2 層	黒粘	S-203	292	大和第Ⅲ-1 様式	15.7	4.5	188.0

143 ～ 149　磨製石器（石庖丁未成品）

143 ～ 149

143

MS- 庖丁 -0015
033-0329S

144

MS- 庖丁 -0102
061-00281S

145

MS- 庖丁 -0101
061-00279S

146

MS- 庖丁 -0019
053-00434S

147

MS- 庖丁 -0038
090-00034S

149

MS- 庖丁 -0094
069-00537S

148

MS- 庖丁 -0103
096-00018S

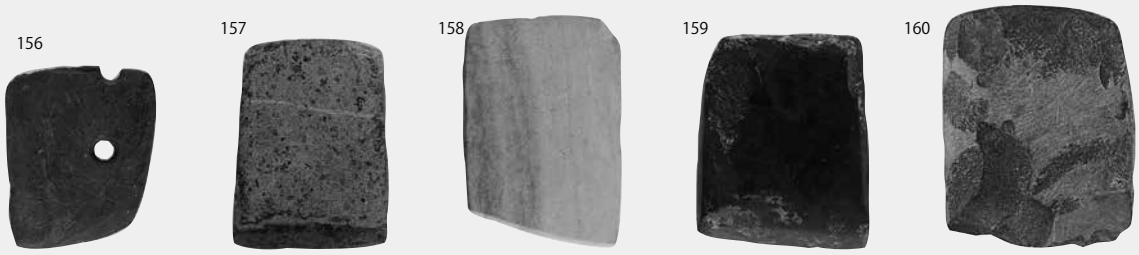
	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
143	第 33 次	―	第Ⅳ層	黒褐色粘質土	―	876	弥生時代中期	13.4	6.5	156.8
144	第 61 次	SD-115	第 2 層	灰粘	―	1355	大和第Ⅲ-2 様式	(11.6)	(5.9)	(84.5)
145	第 61 次	SD-102B	第 4-b 層	灰褐色粘砂	―	437	大和第Ⅴ様式	(10.3)	(4.7)	(71.2)
146	第 53 次	SR-101B	第 1(下) 層	黒色粘質土	―	99	大和第Ⅲ-1・2 様式	14.0	5.1	96.8
147	第 90 次	SD-103	第 2 層	―	S-201	112	大和第Ⅲ様式	12.5	4.9	50.1
148	第 96 次	SD-51	第 5 層	暗青灰粘	―	76	弥生時代	(5.2)	(7.1)	(47.4)
149	第 69 次	SK-1143	第 1 層	暗灰粘 (炭灰混)	―	1846	大和第Ⅱ-3 様式	(17.2)	11.9	(147.8)

磨製石器127 ～ 149は結晶片岩製の石庖丁未成品である。現在までの調査で唐古・鍵遺跡出土の最も大きい未成品は127であり、長さ20㎝程度のものが運ばれてきていると推定される。これは粗割段階のもので、周縁を打欠し形態を整えたものである。129 ～ 135は、さらに大きさや厚さ、形態を整えた段階のものであるが、まだ研磨はみられない。136・137は形態がほぼ出来上がり、研磨直前のもの、138 ～ 145は、面的な研磨をおこなっているもの、146は、厚さがほぼ整い、周縁部の研磨をおこなっているもの、147は背部・刃部（両刃）を作り出し、僅かに紐孔位置を示す敲打痕をつけた段階のもの、148は敲打による紐孔穿孔段階のものである。149は、大形石庖丁の未成品である。山形の形態を呈するが、未研磨段階のものである。

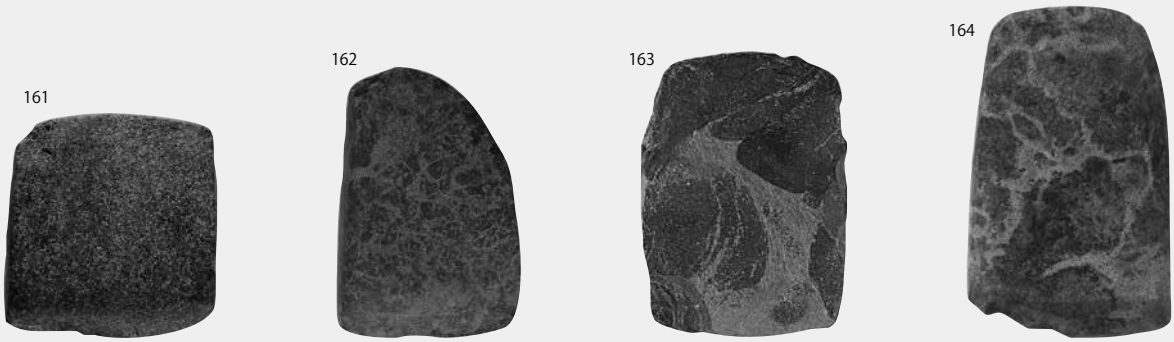
150 ～ 164　磨製石器（扁平片刃石斧）

150 ～ 164

150 MS- 石斧 -0075 026-00128S
151 MS- 石斧 -0074 069-00568S
152 MS- 石斧 -0035 013-00091S
153 MS- 石斧 -0053 041-00020S
154 MS- 石斧 -0001 013-00089S
155 MS- 石斧 -0040 092-00010S



156 MS- 石斧 -0036 053-00479S
157 MS- 石斧 -0023 053-00482S
158 MS- 石斧 -0078 069-00571S
159 MS- 石斧 -0022 053-00474S
160 MS- 石斧 -0044 050-00117S



161 MS- 石斧 -0014 050-00202S
162 MS- 石斧 -0038 091-00079S
163 MS- 石斧 -0043 044-00041S
164 MS- 石斧 -0054 065-00406S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
150	第 26 次	SK-2103	第 1 層	黒粘	―	216	大和第Ⅲ-3 様式	2.5	2.7	9.1
151	第 69 次	SD-1104B	第 4(上)-7層	暗灰色粘砂	―	1379	大和第Ⅳ・Ⅴ様式	2.9	2.6	5.6
152	第 13 次	SD-08	―	―	―	569	弥生時代	3.3	3.1	11.6
153	第 41 次	―	―	黒褐色粘質土	―	11	弥生時代中・後期	3.5	3.3	17.4
154	第 13 次	SD-106D	第 10-c 層	植物層	S-1062	443	大和第Ⅲ-1 様式	3.7	3.4	25.2
155	第 92 次	SD-2101	第 2 層	暗灰色粘質土	―	8	大和第Ⅳ様式	4.1	4.0	(41.5)
156	第 53 次	SR-101B	第 6(下) 層	黒褐粘	―	385	大和第Ⅱ-1 様式	4.9	4.0	18.1
157	第 53 次	落ち込みⅡ	第 2(下) 層	黒褐色粘質土	その 1	91	大和第Ⅴ-1 様式	5.7	4.1	41.4
158	第 69 次	―	―	黒褐色土	その 1	122	大和第Ⅵ-3・4 様式	4.3	6.2	48.6
159	第 53 次	SR-101A	第 4(上) 層	灰黒色粘砂	―	234	大和第Ⅰ-2・Ⅲ-1・3 様式	5.8	4.5	66.2
160	第 50 次	SD-105	第 1 層	灰褐粘	―	371	大和第Ⅲ-4 様式	4.9	3.8	(33.3)
161	第 50 次	―	―	黒色土	―	24	大和第Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ様式	6.0	5.6	108.3
162	第 91 次	SD-103	第 3-b 層	暗褐色砂質土	―	273	大和第Ⅴ-1 様式	(7.1)	4.7	(129.2)
163	第 44 次	SD-103	第 5-b 層	暗灰黄色砂質土	―	274	大和第Ⅲ-3 様式	5.7	4.0	(45.2)
164	第 65 次	―	―	黒褐色土Ⅱ	S-204	993	大和第Ⅳ様式	8.8	5.4	(148.4)

磨製石器150 ～ 179は扁平片刃石斧である。さまざまな石材が使われており、156・173は石庖丁、162は柱状片刃石斧からの転用品、160・163・164はサヌカイト製である。特に小形の扁平片刃石斧については、何らかの別製品からの転用品の可能性が高い。形態的には正方形にちかいもの（150 ～ 161）と、縦長の長方形を呈するもの（162 ～ 179）がある。また、刃部幅は、2 ～ 3㎝までのものと5㎝前後のものに分類できる。

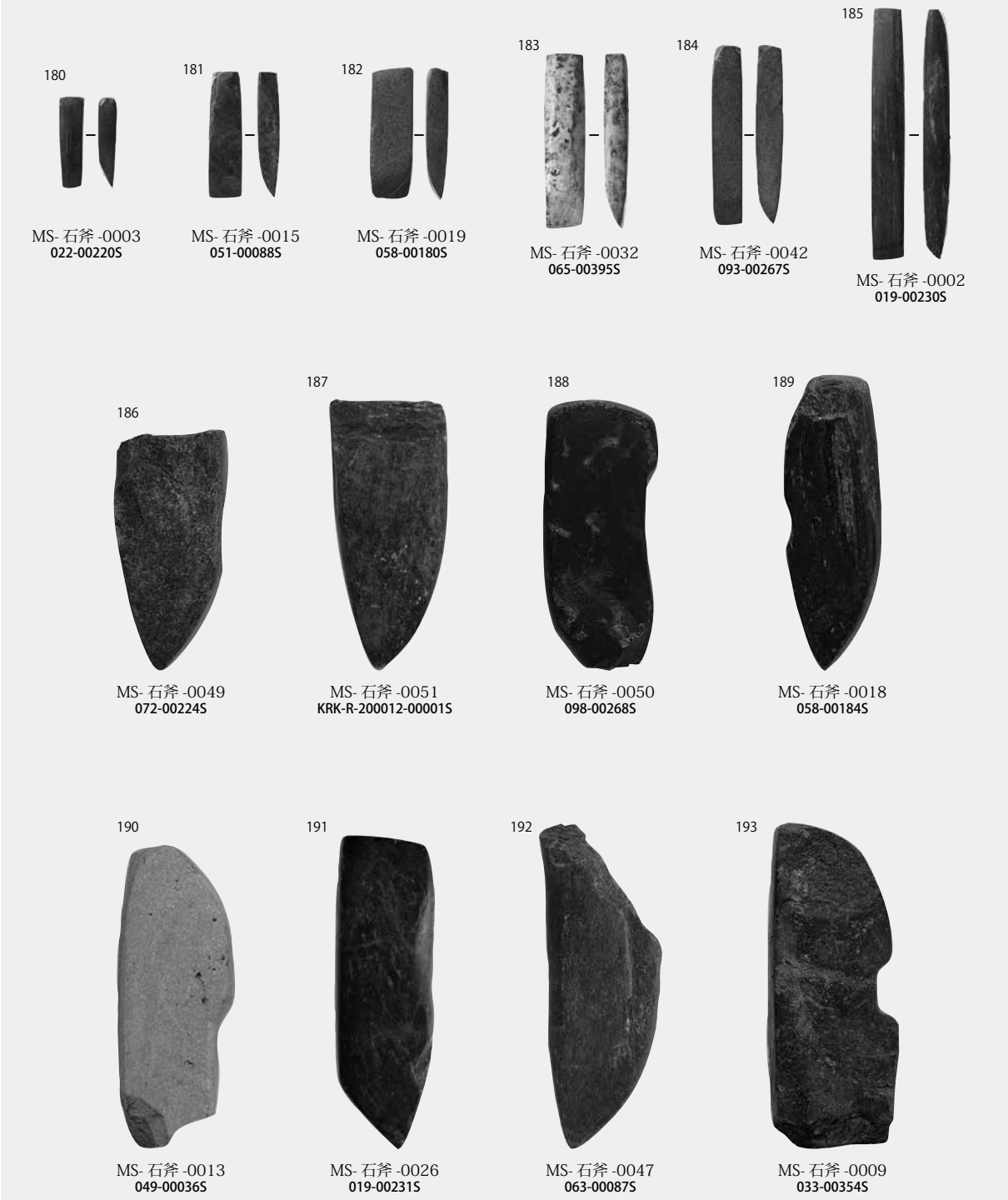
165 ～ 179　磨製石器（扁平片刃石斧）

165 ～ 179

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
165	第 93 次	SK-2122	第 6 層	黒粘 (木片混)	―	910	大和第Ⅴ-1 様式	2.8	1.8	3.3
166	第 16 次	SD-101	―	―	―	57	大和第Ⅲ-4 様式	3.2	2.3	9.1
167	第 65 次	SR-151N	第 2 層	灰白色細砂	―	1055	大和第Ⅱ様式	3.9	2.5	(13.5)
168	第 14 次	Pit-277	―	―	―	100	弥生時代	3.9	2.4	8.3
169	第 58 次	SX-101	第 3 層	黄褐色粗砂	―	312	大和第Ⅱ-3 様式	3.8	2.6	12.3
170	第 53 次	―	―	灰褐色粘質土	―	59	弥生時代中・後期	4.0	2.8	(13.2)
171	第 47 次	SD-2101	第 6-b 層	灰黒色粘質土	―	350	大和第Ⅴ様式	4.2	3.1	15.3
172	第 89 次	SD-1051	―	暗灰色粘質土	―	44	弥生時代	4.7	2.2	(8.9)
173	第 51 次	SX-201	第 2 層	植物層	―	136	大和第Ⅱ-1 様式	4.3	2.8	17.5
174	第 48 次	―	―	廃土	―	316	弥生時代	4.5	2.6	18.6
175	第 26 次	SK-1102	第 0 層	暗灰色粘質土	―	346	大和第Ⅱ-2・3 様式	4.6	2.9	(27.6)
176	第 20 次	中世大溝	第 3-c 層	黒粘	―	23	弥生時代	5.6	2.6	(26.2)
177	第 65 次	SK-108	第 1 層	黒褐色土	―	317	大和第Ⅳ-2 様式	5.8	2.8	21.6
178	第 58 次	SK-101	第 1 層	黒褐色土	―	291	大和第Ⅴ-1 様式	6.5	3.5	82.4
179	第 40 次	SD-104B	第 2 層	灰色粗砂	―	82	弥生時代中期	7.2	3.2	44.3
180	第 22 次	SK-105	第 3 層	黒粘	―	328	大和第Ⅲ-4 様式	2.9	0.8	3.1
181	第 51 次	SD-103	第 4 層	植物層	その 1	91	大和第Ⅲ様式	4.0	1.1	7.2
182	第 58 次	SK-111	第 2 層	―	S-201	366	大和第Ⅳ-2 様式？	4.2	1.4	(9.3)
183	第 65 次	SK-171	第 1 層	―	S-101	1007	大和第Ⅵ-3 様式	5.6	1.3	12.6
184	第 93 次	Pit-1201W	第 6-b 層	黒灰色粘質土	―	1218	大和第Ⅲ-2 様式	5.7	1.1	13.0
185	第 19 次	SD-204	第 10 層	黒粘	S-1001	1094	大和第Ⅱ様式	8.0	1.1	18.6
186	第 72 次	SD-106	第 1 層	―	S-101	88	弥生時代	(7.7)	3.6	(150.0)
187	R-200012	―	―	廃土	―	14	弥生時代	(8.4)	2.5	(160.9)
188	第 98 次	SK-123	第 3 層	―	S-301	316	大和第Ⅲ-2 様式	8.6	3.6	186.1
189	第 58 次	SD-51	第 1 層	灰褐色粘質土	―	118	弥生時代	9.4	3.0	(78.9)
190	第 49 次	SD-104A	―	黒褐粘	―	195	大和第Ⅱ-3 様式	(9.5)	3.7	(208.1)
191	第 19 次	SD-204	第 4(下) 層	黒粘	S-4003	673	大和第Ⅴ-1 様式	10.0	3.2	117.7
192	第 63 次	SD-103B	第 4(下) 層	褐灰色粘質土 (植物)	―	328	大和第Ⅳ様式	(10.3)	3.9	(155.2)
193	第 33 次	―	第Ⅲ(下) 層	暗黄褐色土	―	698	弥生時代中期	(10.3)	4.0	(194.0)

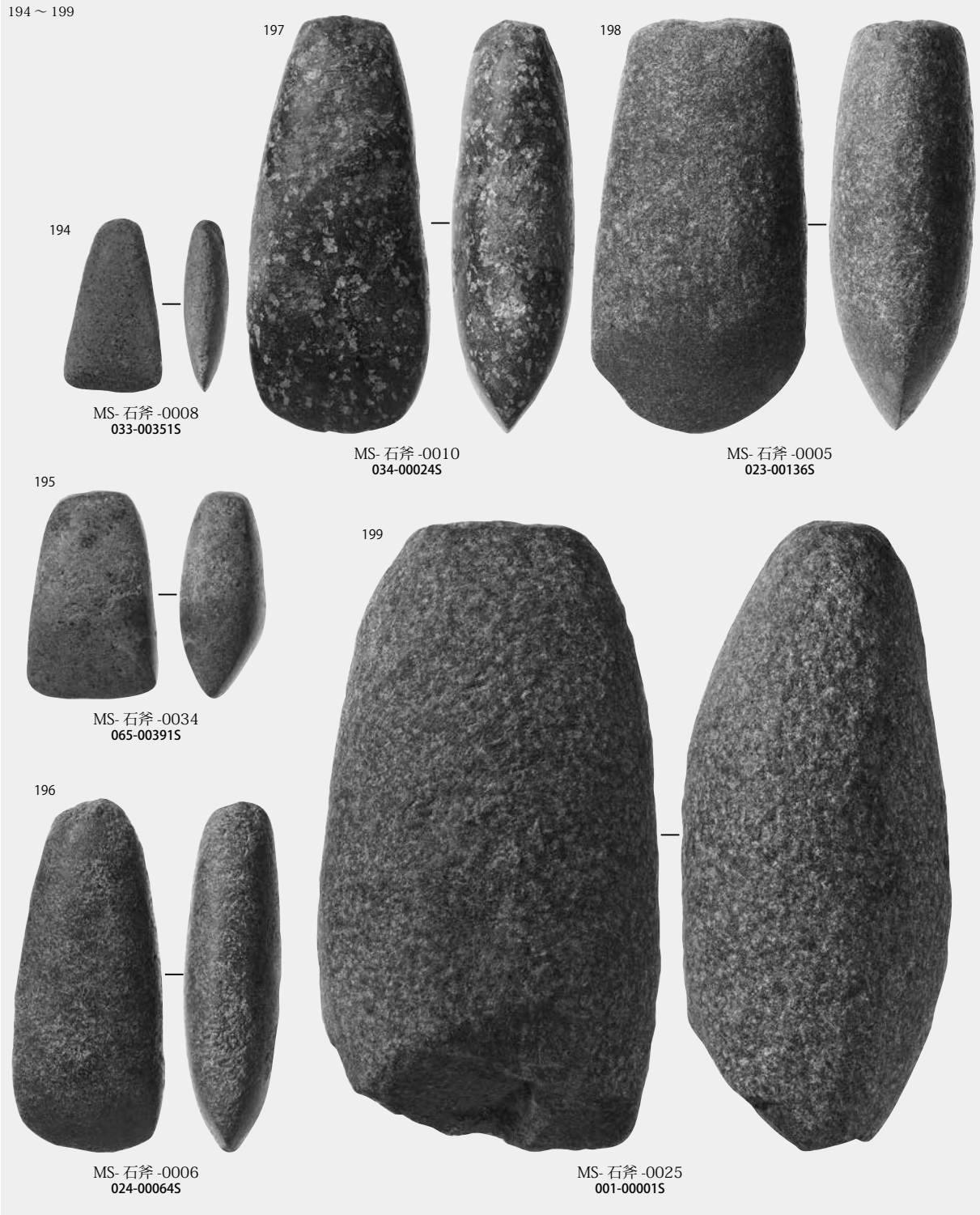
180 ～ 193　磨製石器（柱状片刃石斧）

180 ～ 193



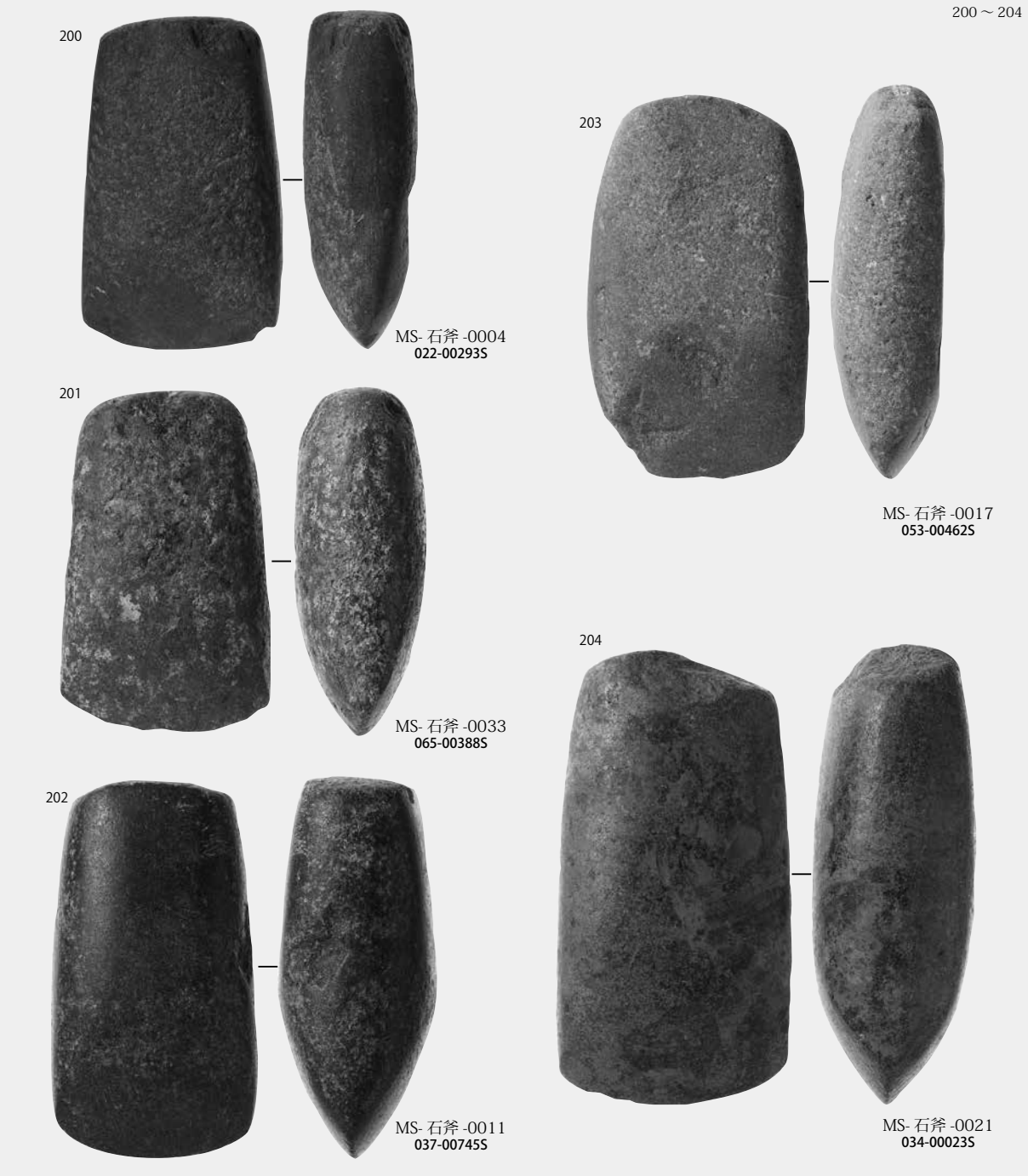
磨製石器180 ～ 193は柱状片刃石斧である。180 ～ 185の小形品は、別石斧の折損品からの転用の可能性が高い。186 ～ 193は抉り入りである。いずれも折損しており、完形品はない。189・191は縦方向に折損した面を再研磨し、再利用している。

194 ～ 199　磨製石器（両刃磨製石斧）



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
194	第 33 次	SD-202	第 2(下) 層	植物層	―	984	大和第Ⅱ-3 様式	5.7	3.1	38.2
195	第 65 次	SB-101	第 1-b(下) 層	―	S-153	633	弥生時代中期	6.8	4.3	130.4
196	第 24 次	SK-103	第 5 層	黒粘	―	174	布留式	11.5	5.0	(300.3)
197	第 34 次	SD-102C	第 6 層	植物層	―	91	大和第Ⅲ-4 様式	13.5	6.0	511.2
198	第 23 次	SD-105	第 1 層	黒色粘質土	S-101	183	大和第Ⅳ様式	13.4	7.0	(670.8)
199	第 1 次	―	―	―	―	5	弥生時代	(19.8)	10.8	(2,955.0)

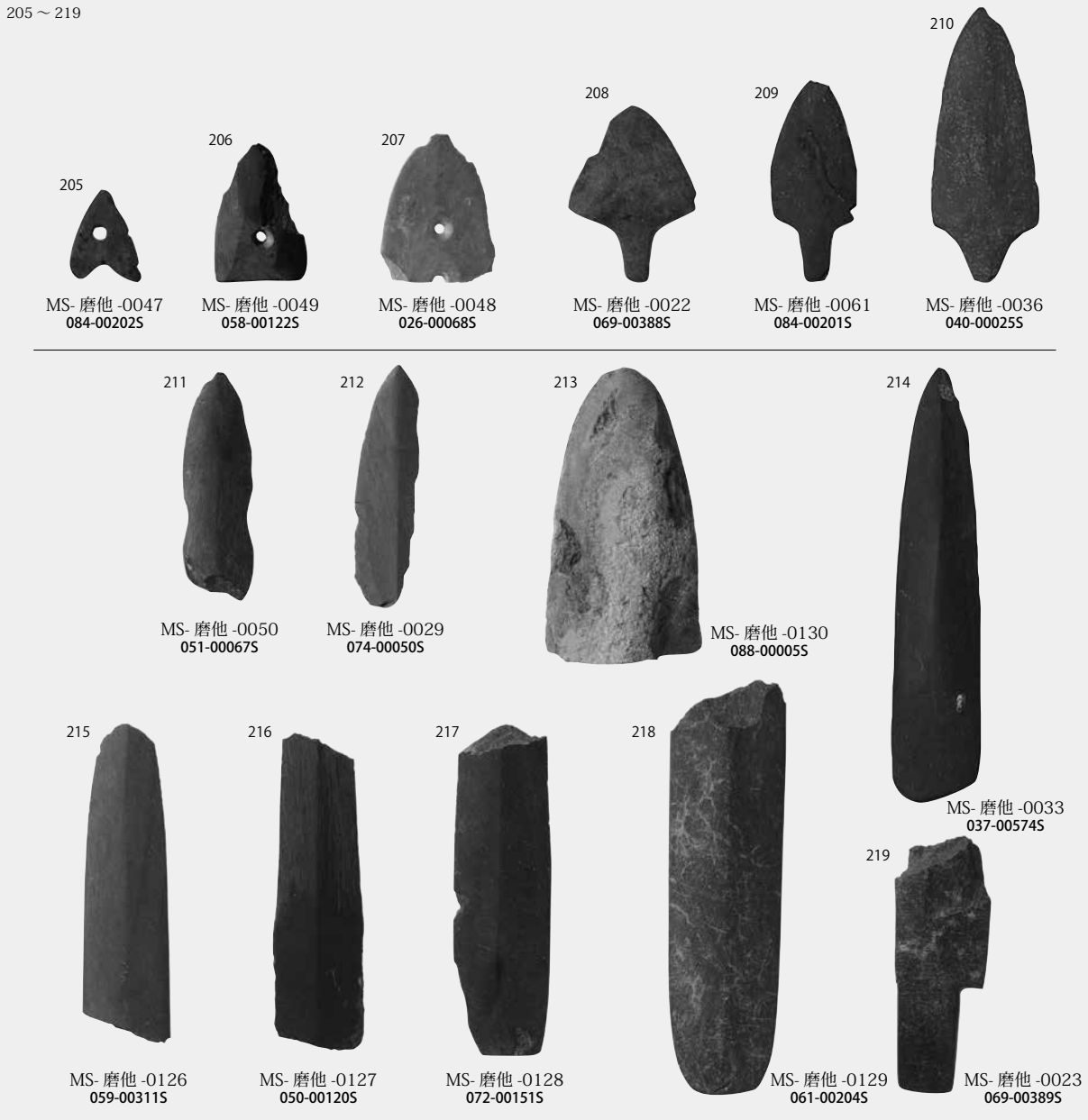
200 ～ 204　磨製石器（太型蛤刃石斧）



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
200	第 22 次	SD-54	―	暗灰色粗砂	―	236	弥生時代	10.2	6.2	402.8
201	第 65 次	SK-146	第 1 層	―	S-101	744	大和第Ⅵ-3 様式	10.5	6.5	470.9
202	第 37 次	SK-2116	第 5(上) 層	灰粘	S-502	1103	大和第Ⅱ-3 様式	11.4	6.3	650.9
203	第 53 次	SR-101A	第 4(上) 層	―	S-404	319	大和第Ⅲ-1 様式	11.8	6.8	471.4
204	第 34 次	SK-103	第 2 層	灰黒粘	―	81	大和第Ⅲ-2 様式	13.9	7.1	925.8

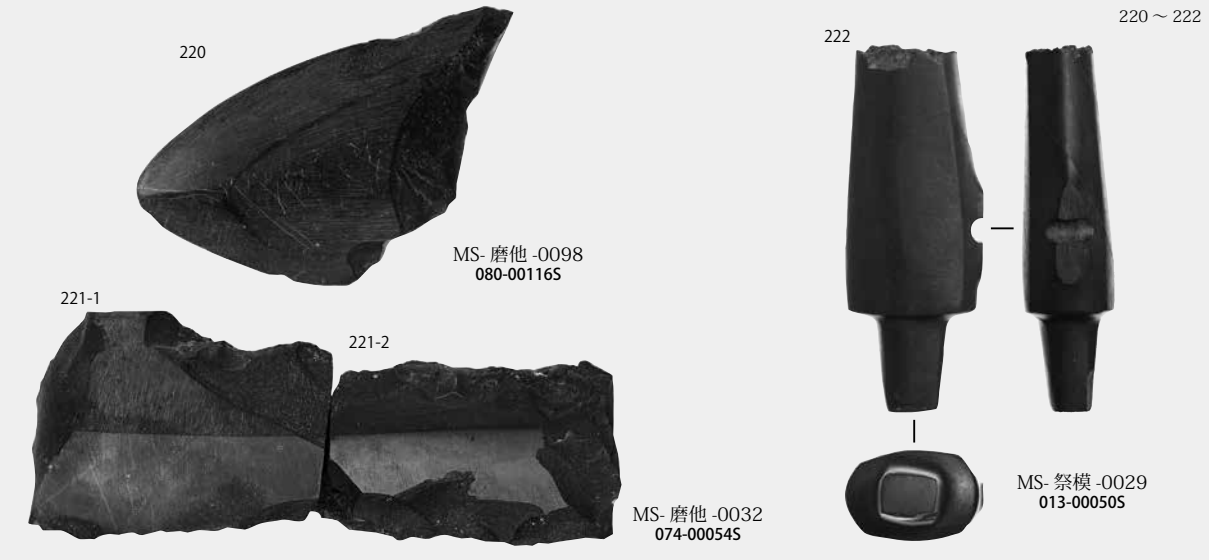
磨製石器194 ～ 199は両刃磨製石斧、200 ～ 204は太型蛤刃石斧である。194・195は長さ7㎝までの小形品、196 ～ 198・200 ～ 204は長さ10 ～ 15㎝の中形品、199は20㎝ほどの大形品である。194・196・197は基部が尖る尖基式で、特に196・197の横断面形は丸い。200 ～ 204は平面形が短冊形で、横断面形が長方形にちかい楕円形を呈する太型蛤刃石斧である。

205 ～ 219　磨製石器（磨製石鏃・磨製石剣）



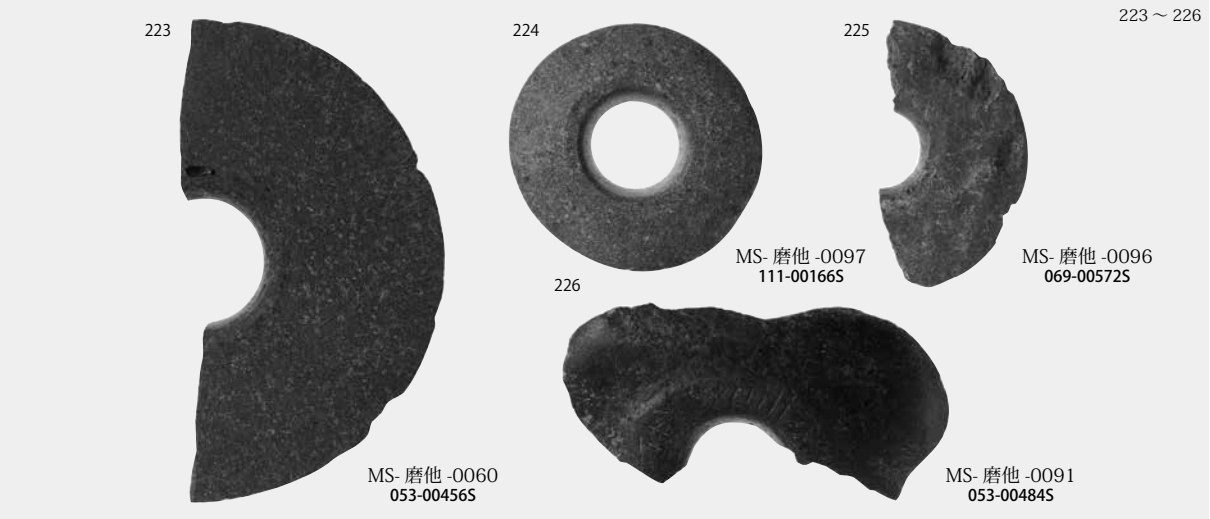
	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
205	第 84 次	―	―	褐灰色粘質土	―	151	弥生時代	2.1	(1.5)	(0.8)
206	第 58 次	SK-110	第 1 層	黒褐色粘質土	―	357	大和第Ⅴ様式	3.1	2.1	(2.4)
207	第 26 次	SD-2004	第 1 層	暗灰褐色土	―	73	弥生時代	(3.3)	(2.5)	(2.7)
208	第 69 次	―	―	廃土	―	2183	弥生時代	3.9	2.8	(5.1)
209	第 84 次	―	―	黒褐色粘質土	―	297	大和第Ⅲ-2 様式	(4.3)	1.8	(3.1)
210	第 40 次	SD-101	第 7(上) 層	灰黒色粘砂	―	306	大和第Ⅴ-1・Ⅵ-3 様式	(6.1)	2.3	(6.2)
211	第 51 次	SK-104	第 7 層	灰黒色粘質土	―	131	大和第Ⅴ-1 様式	(6.7)	2.1	(14.6)
212	第 74 次	SK-119	第 4(下) 層	―	S-401	686	大和第Ⅵ様式	(7.2)	(1.8)	(7.2)
213	第 88 次	SK-2105	第 1 層	灰褐色粘質土	―	50	大和第Ⅰ-2 様式	(8.7)	4.7	(95.0)
214	第 37 次	SK-2130	第 2-b 層	炭灰層	S-1201	546	大和第Ⅲ-3 様式	(12.8)	2.6	(36.5)
215	第 59 次	SD-1102	第 2-b 層	―	S-203	416	大和第Ⅲ-3 様式	(9.4)	2.6	(25.1)
216	第 50 次	SD-106	西壁 Sec. 第 20 層	―	S-01	423	大和第Ⅲ様式	(9.4)	2.7	(19.7)
217	第 72 次	―	―	黒褐色土Ⅱ	―	107	弥生時代	(9.8)	2.9	(28.8)
218	第 61 次	SD-102B	第 5-c 層	灰黒色粘砂	S-551	788	大和第Ⅴ様式	(12.3)	3.4	(64.9)
219	第 69 次	SK-1115	第 1 層	黒褐色粘質土	―	1199	大和第Ⅵ-4 様式	(7.7)	2.9	(27.8)

220 ～ 222　磨製石器（磨製石戈・矛形石製品）



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
220	第 80 次	SD-101B	第 9 層	黒灰粘	―	214	大和第Ⅳ-1 様式	(7.5)	4.5	(44.2)
221-1	第 74 次	SD-08	第 1 層	暗青灰色粘質土	―	370	大和第Ⅳ-1 様式	(7.9)	(6.0)	(123.3)
222	第 13 次	SD-106C	第 9 層	黒粘Ⅱ	―	454	大和第Ⅲ-1 様式	(9.5)	(3.5)	(112.8)

223 ～ 226　磨製石器（環状石斧・多頭石斧）

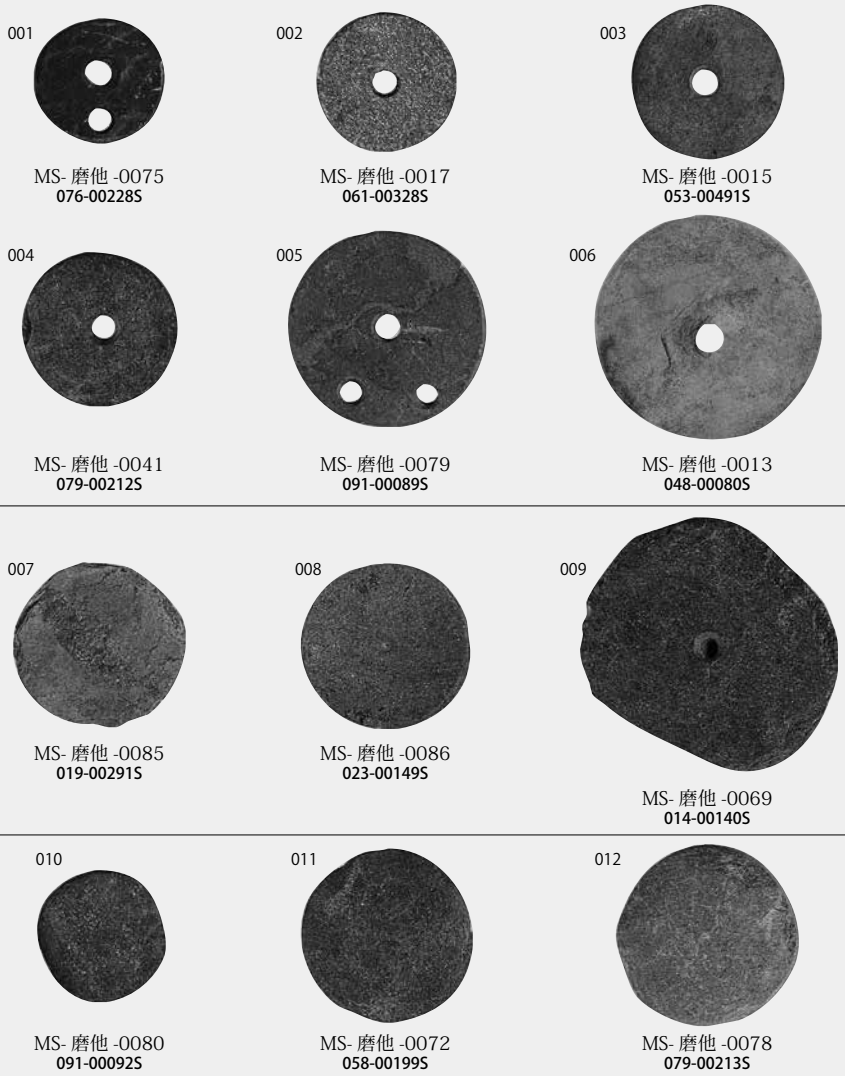


	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
223	第 53 次	SR-101B	第 6(下) 層	黒褐粘	S-651	384	大和第Ⅱ-1 様式	12.8	―	(172.2)
224	第 111 次	SX-101	第 2 層	―	S-201	201	弥生時代	6.7	6.5	93.6
225	第 69 次	SD-1101	第 1(下)-ｱ層	暗褐色土 (ハード)	―	486	大和第Ⅵ-3 様式	7.1	―	(45.9)
226	第 53 次	―	―	廃土	―	460	大和第Ⅰ様式？	10.2	(5.2)	(148.7)

磨製石器205 ～ 210は磨製石鏃、211 ～ 219は磨製石剣、220・221は磨製石戈、222は矛形石製品、223 ～ 225は環状石斧、226は多頭石斧である。磨製石鏃は、基部形態が凹基式(205)、平基式(206・207)、有茎式(208 ～ 210)があり、前２者は身部中央に１孔をあける。磨製石剣はいずれも鉄剣形で、219は有茎式である。214は、全面研磨仕上げで、身部中央から先端部にかけて鎬を作り出し、断面は薄い菱形を呈す。基部の両側縁部と基端部は、僅かに面をもち柄部とする。222の矛形石製品は、基部近くの片側辺部に耳を、基部に断面方形の茎を作り出している。224の環状石斧は完形品で、中央孔周縁を僅かに平坦にする。226の多頭石斧は、中央孔周縁の平坦部に放射状の線刻を刻む。頭部の刃部は４方に復元できる。

001 ～ 012　石製品（紡錘車・紡錘車未成品・石製円板）

001 ～ 012



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
001	第 76 次	SK-1113	西壁 Sec.	―	S-01	490	大和第Ⅴ-1 様式	3.4	3.3	10.1
002	第 61 次	―	―	暗褐色砂質土	S-101	1096	大和第Ⅳ様式	3.7	3.7	12.4
003	第 53 次	落ち込みⅠ	第 1 層	黒色粘質土	―	86	大和第Ⅳ-1 様式	4.1	4.1	10.8
004	第 79 次	SD-103	第 2(下) 層	黒色粘質土 (粘性)	その 2	123	大和第Ⅲ-3 様式	4.1	4.1	(14.9)
005	第 91 次	SD-101B	第 6-b 層	明褐粘粗砂	―	231	大和第Ⅵ-4 様式・庄内式	5.2	5.2	31.2
006	第 48 次	SK-2301	第 1 層	―	S-101	357	弥生時代前期	6.0	5.9	35.4
007	第 19 次	SD-204	第 5 層	灰黒色粗砂	―	692	大和第Ⅳ様式	4.5	4.2	18.8
008	第 23 次	SK-153	第 3 層	灰粘	S-301	550	大和第Ⅰ-2 様式	4.4	4.3	(18.1)
009	第 14 次	包含層Ⅱ	―	―	―	152	弥生時代	6.9	5.9	51.7
010	第 91 次	SD-101	第 4 層	灰粘	―	90	庄内式	3.4	3.2	11.0
011	第 58 次	SX-101	第 2 層	灰黒色砂質土	―	206	大和第Ⅲ-1 様式	4.5	4.5	20.8
012	第 79 次	SD-101B	―	―	―	519	大和第Ⅳ様式	4.8	4.8	(35.5)

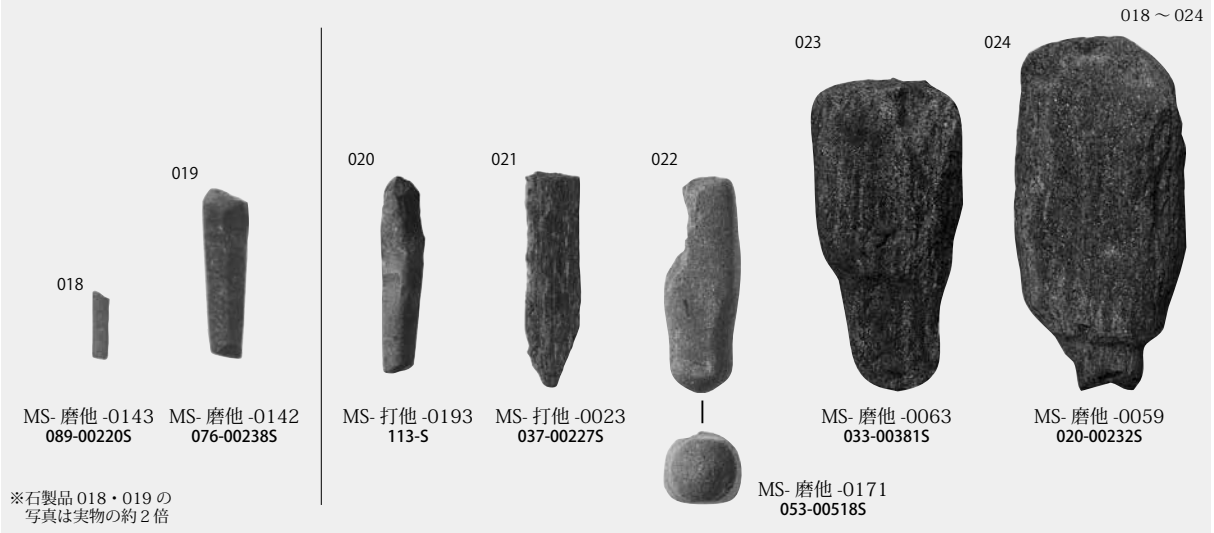
石製品001 ～ 006は紡錘車、石製品007 ～ 009は紡錘車未成品、石製品010 ～ 012は石製円板である。006を除き、全て結晶片岩製でいずれも石庖丁破損品からの転用品の可能性が高い。直径３～７㎝、重量10～50ｇほどのものである。

石製品013 ～ 016は石棒である。013は小形品で、横断面形は扁平な楕円形を呈する。先端・基部は尖形に削り出す。先端は１条の線刻を巡らせ頭部とし、片側に１条の縦方向の線刻を入れる。015の頭部には１条の刻み痕が巡り、全面に敲打痕が残る。017は半損した独鈷石である。明瞭な凸帯を削り出し、この部分に朱が残る。基端の破面は再研磨し、基端部には敲打痕が残る。

013 ～ 016　石製品（石棒）

017　石製品（独鈷石）

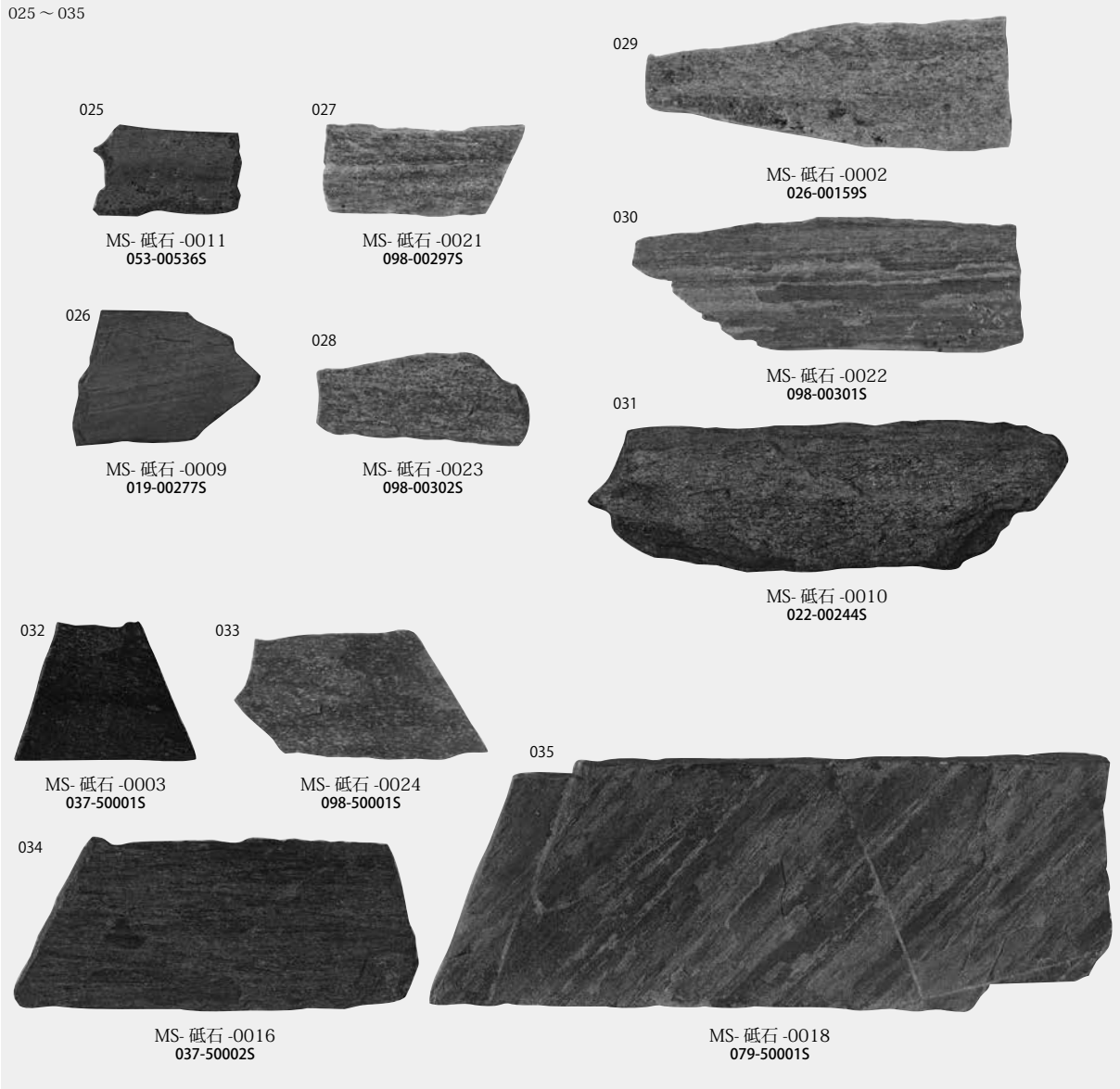
018 ～ 024　石製品（石針・石錐）



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
013	第 23 次	SD-109	第 1 層	暗黄褐色砂質土	－	541	大和第Ⅲ様式	(10.4)	2.1	(29.4)
014	第 37 次	SK-2202	第 1 層	暗灰青粘	－	691	大和第Ⅰ・Ⅱ様式	(8.6)	3.7	(72.4)
015	第 86 次	SD-2201	第 3 層	－	S-301	99	大和第Ⅱ-3 様式	(9.0)	4.3	(224.5)
016	第 50 次	SD-105	第 1 層	灰褐粘	－	385	大和第Ⅲ-3 様式	(11.8)	3.6	(239.7)
017	第 22 次	SK-51	第 1 層	灰黒色砂質土	－	237	大和第Ⅱ-1 様式	(7.3)	4.4	(92.2)
018	第 89 次	－	－	黒色粘質土	－	118	弥生時代前・中期	(0.5)	0.1	－
019	第 76 次	SD-1117	第 2 層	暗灰褐色粘質土	－	282	大和第Ⅲ-3 様式	(1.1)	0.3	(0.1)
020	第 113 次	－	第Ⅲ層	茶褐色土	－	50	弥生時代	5.2	1.2	6.5
021	第 37 次	SK-2127	第 2 層	黒色粘質土	－	236	大和第Ⅱ-3 様式	(5.7)	1.5	(8.4)
022	第 53 次	SR-101A	第 4(上) 層	灰黒色粘砂	－	214	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・Ⅲ-1 様式	5.6	2.1	(26.1)
023	第 33 次	SX-101	第 1 層	黒褐色土	－	337	大和第Ⅵ-3 様式	8.2	3.7	130.3
024	第 20 次	SK-220	第 2 層	暗茶褐色粘質土	－	668	大和第Ⅰ-2 様式	(9.4)	4.6	(163.1)

石製品018・019は石針であるが、折損しており全体は不明である。石製品020 ～ 024は石錐で、020はサヌカイト製、021は紅簾片岩製で板状である。石製品025 ～ 035は紅簾片岩製で、025 ～ 031は側縁に研磨痕がみられる石鋸、032 ～ 035は剝片（素材）である。

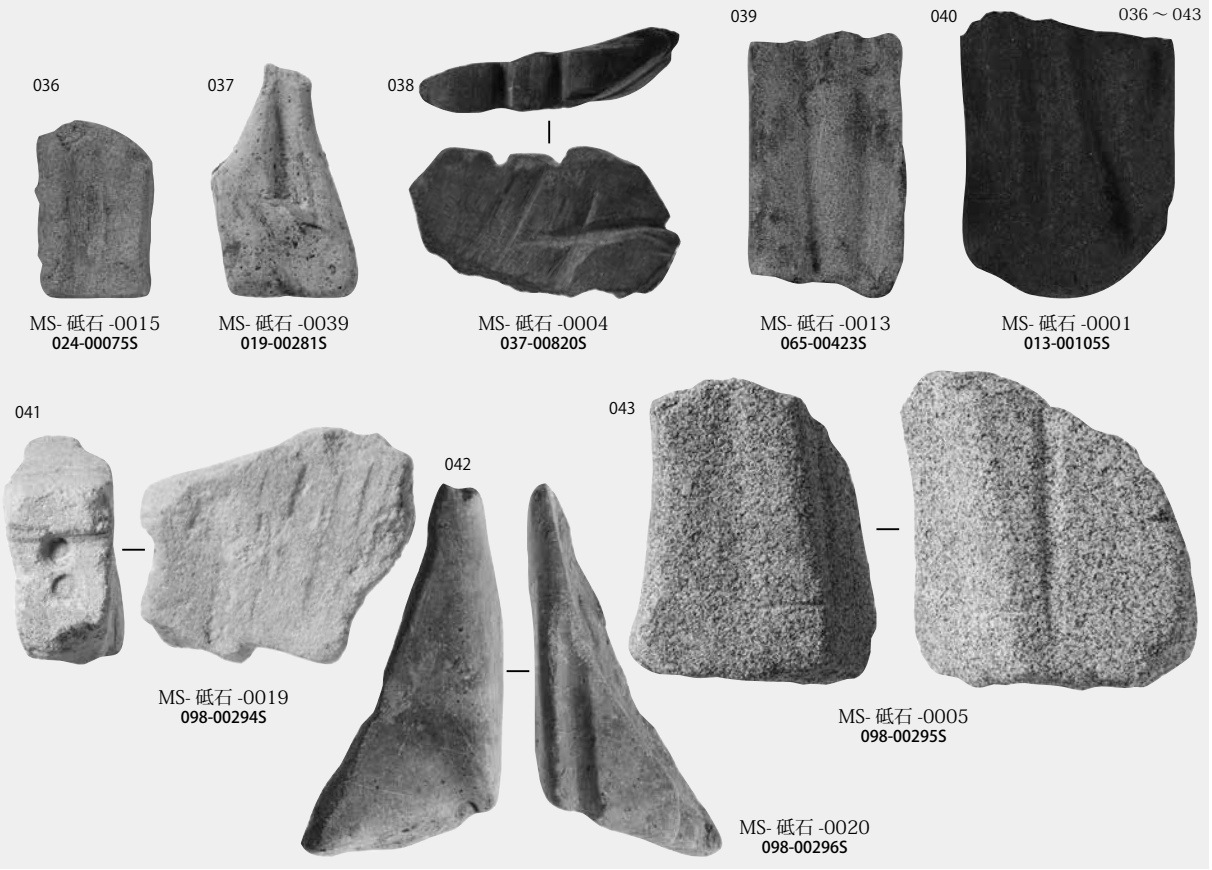
025 ～ 035　石製品（石鋸・石鋸素材）



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
025	第 53 次	SR-101A	第 4 層	灰黒粘	―	381	大和第Ⅰ-2・Ⅱ-1・Ⅲ-1 様式	(4.3)	2.6	(6.2)
026	第 19 次	SD-204	第 3-b 層	灰色砂質土	―	620	大和第Ⅳ・Ⅴ様式	(5.5)	4.1	(11.7)
027	第 98 次	SK-104	第 1 層	暗褐色粘質土 (ハード)	―	152	大和第Ⅲ-2 様式	(5.8)	(2.7)	(17.8)
028	第 98 次	―	―	暗褐色砂質土	―	44	弥生時代中期	(6.2)	(2.6)	(16.1)
029	第 26 次	―	第Ⅲ層	黒褐色土	―	91	大和第Ⅵ様式・布留式	(10.4)	3.8	(49.8)
030	第 98 次	―	―	暗褐色砂質土	―	499	弥生時代中期	(11.3)	(3.9)	(31.9)
031	第 22 次	中世大溝	第 4 層	灰黒粘	―	147	弥生時代	(13.7)	4.3	(93.3)
032	第 37 次	Pit-2185	―	―	―	527	弥生時代	(5.2)	(4.0)	(7.6)
033	第 98 次	SK-119	―	黒灰粘	―	261	大和第Ⅲ-1 様式	(7.3)	3.8	(18.0)
034	第 37 次	―	第Ⅰ層	黒褐色土	―	22	弥生時代	(11.5)	4.9	(116.3)
035	第 79 次	SD-101B	第 6 層	暗灰粘 (植物混)	―	104	大和第Ⅳ様式	19.2	7.1	285.0

石製品036～074は砥石である。036～043は砥面に「U」字状の溝や小円孔の凹みをもつ玉砥石である。また、044・045・047・061・063・069は青銅器工房跡と推定される地区（第61・65次調査）から出土したものである。砥石の形態としては、方柱状・縦長の四角錐状・平面が撥形で板状を呈するものがある。

036 ～ 043　石製品（砥石）



	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
036	第 24 次	Pit-294	―	―	―	231	大和第Ⅱ様式	(4.9)	(3.2)	(29.6)
037	第 19 次	SD-202	第 3 層	暗黒褐粘	―	417	大和第Ⅲ-3 様式	6.1	3.7	84.4
038	第 37 次	SK-2103	第 6 層	灰粘	その 9	266	弥生時代	(4.1)	7.1	(43.5)
039	第 89 次	SD-1114B	第 4(下)-b 層	暗褐色粘質土	―	487	弥生時代中・後期	(7.2)	4.3	(112.8)
040	第 13 次	SD-106C	第 7 層	砂質土Ⅱ	S-714	382	大和第Ⅳ様式	(7.6)	5.7	(176.3)
041	第 98 次	SK-201	第 6 層	黒褐粘 (植物混)	―	537	大和第Ⅱ-2 様式	6.9	7.0	107.6
042	第 98 次	―	―	暗黄褐色砂質土	―	514	大和第Ⅲ様式	9.9	4.8	103.5
043	第 98 次	SD-101C	第 13-b 層	暗灰粘	―	337	大和第Ⅲ-1 様式	(9.0)	(6.8)	(313.7)
044	第 65 次	―	―	黒褐色土	―	949	大和第Ⅳ-1・Ⅴ-1・Ⅵ-3 様式	2.7	1.4	8.7
045	第 65 次	SK-115	第 3 層	黒色粘質土	―	489	大大和第Ⅴ-1 様式	3.7	2.5	15.6
046	第 80 次	SD-101	第 5 層	暗灰褐粘	―	136	大和第Ⅴ-1 様式	6.2	2.0	29.5
047	第 65 次	―	―	黒褐色土Ⅱ	―	275	弥生時代中期	6.7	1.1	12.6
048	第 69 次	SK-1134	第 3 層	黒灰粘 (炭混)	―	2116	大和第Ⅲ-1 様式	7.7	3.5	57.1
049	第 3 次	SD-106	―	灰白色砂	―	5192	大和第Ⅲ様式	8.0	2.9	71.6
050	第 69 次	SD-1102	第 2 層	―	S-203	1064	大和第Ⅵ-3 様式	13.9	3.1	(148.0)
051	第 83 次	SD-1101	第 2 層	黒色砂質土	―	161	布留式？	15.7	4.9	(520.1)
052	第 76 次	SK-1107	第 2 層	―	S-201	275	大和第Ⅲ-3 様式	16.9	4.4	375.4
053	第 79 次	SD-103	第 2(下) 層	黒色粘質土 (粘性)	―	107	大和第Ⅲ様式	6.1	4.1	(127.4)
054	第 40 次	SD-101	第 3(下) 層	黒色粘質土	―	128	庄内式	(6.3)	(3.3)	(51.0)
055	第 23 次	―	―	黒褐色土	―	37	弥生時代中・後期	8.0	3.6	95.1
056	第 33 次	Pit-1171	―	黒褐色粘質土	―	604	弥生時代中期	7.9	3.3	80.6
057	第 37 次	SX-4101	第 2 層	黄灰色砂	―	445	弥生時代中・後期	8.4	3.0	(120.2)
058	第 59 次	SR-4101	第 1-b 層	黒褐色粘砂	―	617	大和第Ⅵ-4 様式	(8.7)	4.0	(169.9)
059	第 24 次	SK-103	第 5・6 層	―	―	202	布留０式	(10.7)	4.8	(272.2)
060	第 33 次	SK-120・SD-115	第 2 層	灰粘	―	179	大和第Ⅳ-1 様式	11.1	6.1	268.7
061	第 65 次	―	―	黒褐色土	S-103	859	大和第Ⅳ様式	(12.4)	10.7	(764.8)
062	第 19 次	SD-204	第 10 層	黒粘	―	860	大和第Ⅲ-1 様式	4.5	4.3	(42.8)
063	第 65 次	―	―	黒褐色土	―	197	大和第Ⅵ-3 様式	5.5	4.0	46.7

044 ～ 061　石製品（砥石）

044 ～ 061

044

MS- 鋳造 -0007
065-00450S

045

MS- 鋳造 -0008
065-00428S

046

MS- 砥石 -0038
080-00175S

047

MS- 鋳造 -0016
065-00455S

048

MS- 砥石 -0044
069-00625S

049

MS- 砥石 -0067
003-00250S

050

MS- 砥石 -0048
069-00634S

051

MS- 砥石 -0050
083-00019S

052

MS- 砥石 -0051
076-00239S

053

MS- 砥石 -0012
079-00222S

054

MS- 砥石 -0054
040-00080S

055

MS- 砥石 -0045
023-00166S

056

MS- 砥石 -0046
033-00292S

057

MS- 砥石 -0047
037-00821S

058

MS- 砥石 -0040
059-00566S

059

MS- 砥石 -0049
024-00076S

060

MS- 砥石 -0041
033-00392S

061

MS- 鋳造 -0027
065-00433S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
064	第 69 次	SK-1137	第 5(下) 層	モミ層 (灰粘混)	―	2062	大和第Ⅲ-3 様式	5.7	4.8	(40.2)
065	第 69 次	―	―	暗灰色粘質土	―	1672	弥生時代中・後期	5.2	7.6	(41.0)
066	第 59 次	―	―	黒色土	―	6	弥生時代	8.4	7.7	212.2

062 ～ 072　石製品（砥石）

062 ～ 072

062

MS- 砥石 -0053
019-00282S

063

MS- 鋳造 -0018
065-00435S

064

MS- 砥石 -0055
069-00627S

065

MS- 砥石 -0070
069-00661S

066

MS- 砥石 -0057
059-00596S

067

MS- 砥石 -0056
024-00077S

068

MS- 砥石 -0058
047-00096S

069

MS- 鋳造 -0031
061-00360S

070

MS- 砥石 -0042
065-00502S

071

MS- 砥石 -0043
022-00249S

072

MS- 砥石 -0059
061-00391S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
067	第 24 次	SK-103	第 5 層	黒粘	―	195	布留 0 式	9.3	5.6	95.9
068	第 47 次	SD-2104B	第 9 層	黒灰粘 (植物層)	―	200	大和第Ⅳ-1 様式	(9.8)	2.9	(66.2)
069	第 61 次	―	―	黒褐色土	―	59	大和第Ⅵ-4 様式	12.4	2.5	(70.8)
070	第 65 次	―	―	灰黒粘	―	1028	大和第Ⅵ-3 様式	(13.2)	7.0	(261.0)
071	第 22 次	SK-105	第 3 層	黒粘	S-301	329	大和第Ⅲ-4 様式	15.4	9.7	450.4
072	第 61 次	SK-108	第 3 層	炭灰層	―	1243	大和第Ⅲ-2 様式	14.1	10.4	437.8

073・074　石製品（砥石）

073・074

073

MS- 砥石 -0060
026-00162S

074

MS- 砥石 -0061
093-00316S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	№	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
073	第 26 次	SD-2103	第 1 層	黒褐色土	S-101	53	大和第Ⅲ-2・3 様式	17.9	11.7	652.3
074	第 93 次	SK-2116	第 1 層	―	S-101	291	大和第Ⅳ-2 様式	30.8	22.5	2,440.9

075 ～ 088　石製品（その他石製品）

075 ～ 088

075

MS- 磨他 -0155
044-00079S

076

MS- 磨他 -0169
016-00131S

078

MS- 磨他 -0145
089-00216S

079

MS- 磨他 -0165
037-00804S

077

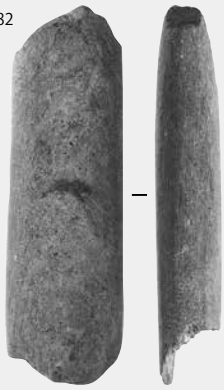
MS- 磨他 -0157
099-00019S

080

MS- 磨他 -0093
096-00025S

081

MS- 磨他 -0167
037-00803S

082

MS- 磨他 -0166
037-00801S

083

MS- 磨他 -0168
019-00258S

084

MS- 磨他 -0158
059-00621S

085

MS- 磨他 -0159
033-00382S

086

MS- 磨他 -0160
026-00146S

087

MS- 磨他 -0161
059-00620S

088

MS- 磨他 -0156
044-00083S

089・090　石製品（その他石製品）

089・090

MS- 磨他 -0185
111-00169S

MS- 磨他 -0170
020-00233S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
075	第 44 次	SD-103	第 3 層	灰黒粘	―	181	大和第Ⅳ-1 様式	3.2	2.0	7.1
076	第 16 次	SX-102	―	黒粘Ⅱ	―	211	大和第Ⅱ-1 様式	4.4	2.7	(8.4)
077	第 99 次	SD-7101	第 5 層	黒灰粘	―	27	大和第Ⅲ-4 様式	7.7	5.8	65.8
078	第 89 次	SD-1092	―	暗灰色粘質土	―	28	弥生時代	(5.5)	2.7	(31.2)
079	第 37 次	SD-2202	第 2 層	灰黒粘	―	463	大和第Ⅱ-2 様式	(8.3)	3.3	(112.7)
080	第 96 次	SD-51C	南壁 Sec. 第 12 層	黄褐色微砂 (ハード)	―	144	弥生時代	(12.8)	6.2	(261.3)
081	第 37 次	SD-2103	第 3 層	黒粘	―	85	大和第Ⅱ-2 様式	(4.8)	2.7	(48.7)
082	第 37 次	SK-2139	西壁 Sec. 第 16 層	―	―	1107	大和第Ⅱ-3 様式	(9.9)	2.1	(91.9)
083	第 19 次	SD-204	第 2 層	暗黄褐色砂質土	S-203	601	大和第Ⅳ-2 様式	(6.7)	2.5	(50.0)
084	第 59 次	―	―	黒色土	―	489	弥生時代	9.8	3.3	(111.2)
085	第 33 次	SD-109	第 4 層	黒粘	―	234	大和第Ⅵ-4 様式	10.4	2.4	(52.5)
086	第 26 次	―	第 I 層	黒褐色土	―	14	弥生時代	9.3	4.3	196.2
087	第 59 次	SD-11022	―	―	―	39	弥生時代	9.0	3.5	126.7
088	第 44 次	SD-104	第 2(下) 層	―	S-201	179	大和第Ⅳ-1 様式	12.7	4.4	(187.8)
089	第 111 次	SX-101	第 3 層	黒灰色土	―	205	弥生時代中・後期	9.9	8.5	(845.8)
090	第 20 次	SD-101	第 1 層	黒色土	S-101	146	大和第Ⅳ-1 様式	11.2	10.7	1,262.9

石製品075 ～ 090は用途不明の石製品である。079は独鈷石、081は剣の茎、089・090は碇石の可能性がある。089・090は底面が平坦で、上部がややすぼまる楕円柱状を呈するもので、中央に浅い溝を巡らせている。

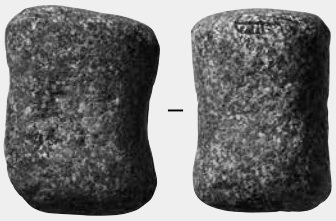
001 ～ 016　礫石器（磨石・敲石）

001 ～ 016

001

MS- 磨他 -0192
003-00216S
【磨石】

002

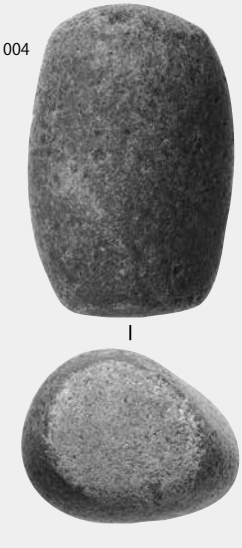


MS- 磨他 -0191
003-00232S
【磨・敲石】

003

MS- 磨他 -0188
050-00209S
【磨石】

004

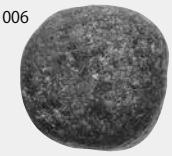


MS- 磨他 -0088
033-00368S
【磨石】

005

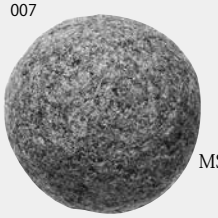
MS- 磨他 -0179
069-00595S
【敲石】

006



MS- 磨他 -0177
033-00372S
【敲石】

007

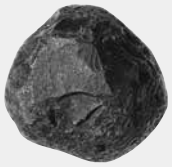


MS- 磨他 -0176
037-00782S
【敲石】

008

MS- 磨他 -0102
079-00207S
【敲石】

009



MS- 打他 -0003
019-00240S
【敲石】

010

MS- 打他 -0222
099-00012S
【敲石】

011

MS- 打他 -0004
019-00241S
【敲石】

012

MS- 打他 -0223
053-00280S
【敲石】

013

MS- 打他 -0057
079-00132S
【敲石】

014

MS- 打他 -0224
049-00020S
【敲石】

015

MS- 打他 -0226
033-00220S
【敲石】

016

MS- 打他 -0225
044-00040S
【敲石】

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
001	第 3 次	SD-102	下層上面	―	―	4661	弥生時代中・後期	6.1	5.0	277.1
002	第 3 次	SD-107	―	黒粘 I	―	4662	大和第Ⅲ・Ⅳ様式	5.7	4.4	189.5
003	第 50 次	SD-105	第 3 層	黒灰粘	―	387	大和第Ⅲ-2 様式	5.5	5.2	250.7
004	第 33 次	SK-114	第 4(下) 層	植物層 (微砂)	その 1	470	大和第Ⅵ-3 様式	8.1	5.5	301.6
005	第 69 次	SD-1109	第 5(下) 層	―	S-5513	721	大和第Ⅴ-2・Ⅵ-2 様式	7.4	3.6	(209.4)

017 ～ 029　礫石器（磨石・敲石）

017 ～ 029

017

MS- 磨他 -0186
079-00206S
【敲石】

018

MS- 磨他 -0089
076-00220S
【敲石】

019

MS- 磨他 -0174
019-00237S
【敲石】

020

MS- 磨他 -0037
069-00580S
【敲石】

021

MS- 磨他 -0147
046-00006S
【敲石】

022

MS- 磨他 -0175
020-00220S
【磨・敲石】

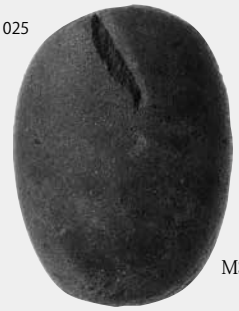
023

MS- 磨他 -0193
003-00221S
【磨・敲石】

024

MS- 磨他 -0064
091-00083S
【磨・敲石】

025



MS- 磨他 -0180
072-00233S
【磨・敲石】

028-1

028-2

029

026

MS- 磨他 -0146
061-00309S
【磨・敲石】

027

MS- 磨他 -0062
022-00228S
【磨・敲石】

MS- 磨他 -0057
091-00081S
【磨・敲石】

MS- 磨他 -0150
019-00238S
【磨・敲石】

030 ～ 038　礫石器（磨石・敲石・凹石）

030 ～ 038

030

MS- 磨他 -0148
058-00193S
【磨・敲石】

031

MS- 磨他 -0187
015-00007S
【磨・敲石】

032

MS- 磨他 -0011
037-00781S
【敲・凹石】

033

MS- 磨他 -0027
069-00585S
【敲・凹石】

034

MS- 磨他 -0172
053-00517S
【敲・凹石】

035

MS- 磨他 -0028
069-00586S
【磨・敲・凹石】

036

MS- 磨他 -0173
020-00219S
【磨・敲・凹石】

037

MS- 磨他 -0068
084-00253S
【磨・敲・凹石】

038

MS- 磨他 -0054
090-00041S
【磨・敲・凹石】

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
006	第 33 次	SD-127	第 5 層	黒灰色粘質土	―	892	大和第Ⅱ-3-b 様式	4.3	4.3	96.4
007	第 37 次	SD-2201	第 3 層	―	S-301	745	大和第Ⅱ-1 様式	5.3	5.0	199.8
008	第 79 次	SD-102	第 4 層	黒灰粘 (植物混)	―	741	大和第Ⅱ-2 様式	6.1	6.6	294.4
009	第 19 次	SK-102	第 7 層	黒粘	―	763	大和第Ⅴ-1 様式	4.2	4.0	71.6
010	第 99 次	SD-7101	第 5 層	黒灰粘	―	27	大和第Ⅲ-4 様式	4.6	3.9	80.9
011	第 19 次	SD-204	第 9 層	黒粘 (植物混)	―	828	大和第Ⅲ-1 様式	5.0	4.4	116.2
012	第 53 次	SK-107	第 2 層	黒色粘質土	―	397	大和第Ⅲ-1 様式	5.9	5.3	165.1
013	第 79 次	SD-101	第 3 層	暗灰色粘質土 (黄斑)	―	320	大和第Ⅳ様式	7.9	5.8	262.1
014	第 49 次	SD-104	第 1 層	黒褐粘	―	131	大和第Ⅱ-3 様式	8.3	6.8	393.6
015	第 33 次	SD-115	第 2 層	灰色粘質土	―	409	大和第Ⅲ-3 様式	9.3	3.6	147.5
016	第 44 次	SD-104	第 1(下) 層	黒褐色土	―	89	大和第Ⅲ-4 様式	4.4	9.3	147.5

039 ～ 044　礫石器（磨石・敲石・凹石）

039 ～ 044

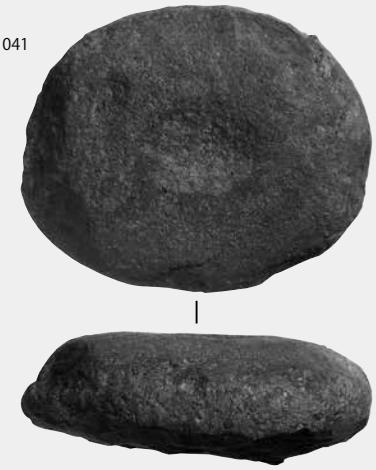
039

MS- 磨他 -0181
059-00507S
【磨・敲・凹石】

040

MS- 磨他 -0043
079-00209S
【磨・敲・凹石】

041



MS- 磨他 -0194
008-00187S
【磨・敲・凹石】

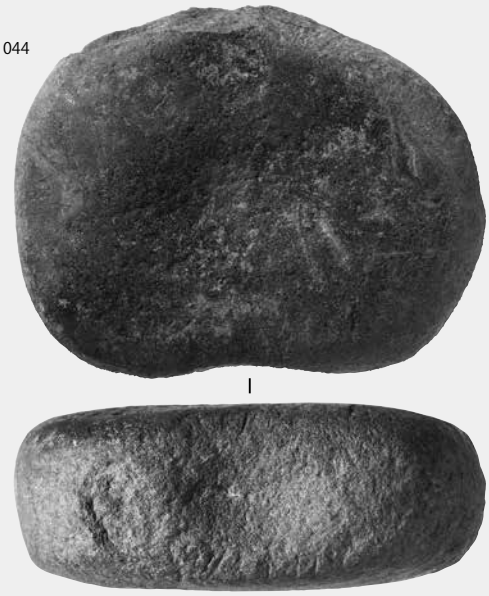
042

MS- 磨他 -0090
016-00121S
【磨・敲・凹石】

043

MS- 磨他 -0182
079-00210S
【磨・敲・凹石】

044



MS- 磨他 -0010
033-00373S
【磨・敲・凹石】

礫石器001 ～ 047は、磨石・敲石・凹石である。これらは一連の使用過程での痕跡のため、各面で「磨り」と「敲き」の使い分け、混在がみられる。また、「敲き」の使用頻度が高くなった結果、「凹み」が生じたものがみられる。「磨り」のみは001・003・004である。001は楕円柱状で上下面は平坦で研磨されている。「分銅」の可能性がある。「敲き」のみは005～021、「磨り」と「敲き」が混在するものは002・022～031、「敲き」と「凹み」が混在するものは032 ～ 034、「磨り」・「敲き」・「凹み」の３者が揃っているものは035 ～ 047である。形態的には円球状、中央が膨らむ円筒状、扁平な円盤状などで、掌に収まる５㎝前後～ 13㎝前後のものが多い。石材はさまざまで、009 ～ 016はサヌカイト製、001・008・017・018は石斧の転用品の可能性があるものである。堅果類の調理のほか、020・022・026・028には朱あるいは赤色物の付着がみられることから多様な使用が推定される。

045 ～ 047　礫石器（磨石・敲石・凹石）

045 ～ 047

045

MS- 磨他 -0038
074-00084S
【磨・敲・凹石】

046

MS- 磨他 -0016
053-00485S
【磨・敲・凹石】

047

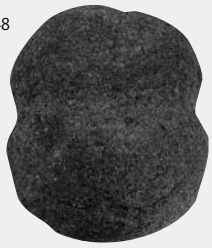
MS- 磨他 -0004
019-00239S
【磨・敲・凹石】

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
017	第 79 次	SD-101C	第 14 層	暗灰粘 (植物混)	―	505	大和第Ⅲ-2 様式	8.4	6.1	286.0
018	第 76 次	SD-1107	第 2(下) 層	―	S-253	208	大和第Ⅴ-1 様式	9.3	6.8	479.9
019	第 19 次	SD-202	第 2 層	―	S-203	900	大和第Ⅲ様式	10.9	3.1	125.9
020	第 69 次	SD-1101	第 1 層	―	S-101	432	大和第Ⅴ・Ⅵ-3 様式	11.5	6.0	351.2
021	第 46 次	―	第Ⅶ(上) 層	―	―	38	大和第Ⅰ・Ⅱ様式	12.9	8.1	935.7
022	第 20 次	SX-101	第 6 層	灰黒色砂質土	―	400	大和第Ⅲ-1 様式	6.4	6.3	328.3
023	第 3 次	SD-101	―	灰褐色砂	―	5091	大和第Ⅴ様式	8.2	7.7	327.8
024	第 91 次	SD-101B	第 6 層	暗灰粘粗砂	―	226	大和第Ⅵ-4 様式	6.8	4.3	156.0
025	第 72 次	SD-107	第 2 層	―	S-201	209	大和第Ⅴ-1 様式	7.9	5.7	(259.5)
026	第 61 次	SK-151・152	第 1 層	黒灰粘	―	1528	大和第Ⅱ-3 様式	8.0	6.0	383.0
027	第 22 次	SD-53	第 1-b 層	暗褐色土	―	97	弥生時代	9.2	6.9	(567.6)
028-1	第 91 次	SD-101B	第 6(下) 層	黒灰色粘砂	その 1	236	大和第Ⅵ-4 様式	(7.4)	(4.2)	(176.6)
029	第 19 次	SD-204	第 9(上) 層	黒粘	S-901	1092	大和第Ⅲ様式	15.2	7.0	(623.7)
030	第 58 次	SK-101	第 6(下) 層	灰黒色砂質土	―	437	大和第Ⅳ-1 様式	12.7	10.8	(1,093.1)
031	第 15 次	SD-102	―	植物層	S-01	21	大和第Ⅴ様式	11.2	11.0	1,500.8
032	第 37 次	SK-2139	第 5 層	灰黒粘	S-502	1093	大和第Ⅱ-3 様式	4.3	5.5	218.0
033	第 69 次	SD-1109	第 4 層	―	S-401	161	大和第Ⅵ-4 様式・布留 0 式	5.4	5.0	151.7
034	第 53 次	SR-101A	第 4 層	灰黒粘	―	289	大和第Ⅰ～Ⅲ様式	(9.6)	6.4	(287.2)
035	第 69 次	SD-1109	第 4 層	―	S-402	161	大和第Ⅵ-4 様式・布留式	8.3	8.3	498.8
036	第 20 次	SK-107	第 3 層	黒粘	S-301	179	大和第Ⅲ-3 様式	8.8	6.1	(301.8)
037	第 84 次	―	―	暗灰褐色粘質土	―	38	弥生時代	7.7	7.3	444.4
038	第 90 次	SD-103	第 2 層	暗灰色粘質土	―	95	大和第Ⅲ様式	8.7	8.2	385.1
039	第 59 次	―	―	黒色土	―	424	弥生時代	8.3	7.7	789.1
040	第 79 次	SD-101B	第 10 層	―	S-1001	493	大和第Ⅲ-3 様式	9.2	8.8	537.4
041	第 8 次	―	前期上層	―	―	996	弥生時代前期	9.4	7.7	406.5
042	第 16 次	中世大溝	下層	灰黒粘	―	275	弥生時代	9.1	9.4	841.5
043	第 79 次	Pit-1148	―	灰色粘質土 (ブロック)	―	406	弥生時代	9.5	8.6	(461.7)
044	第 33 次	SD-116	第 1 層	黒褐色粘質土	―	626	大和第Ⅲ-3 様式	12.5	9.9	(1,089.7)
045	第 74 次	SK-101	第 2 層	黒粘	―	82	大和第Ⅳ-2・Ⅴ-1 様式	11.7	7.1	572.9
046	第 53 次	落ち込みⅡ	第 1 層	黒褐色砂質土	―	47	大和第Ⅳ-2・Ⅴ-1 様式	12.2	8.7	(888.8)
047	第 19 次	中世大溝Ⅱ	第 3 層	暗灰粘	―	137	弥生時代	12.2	9.6	1,773.8

048 ～ 053　礫石器（石槌）

048 ～ 053

048

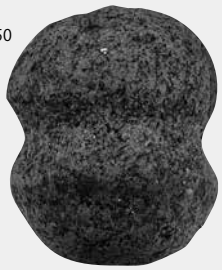


MS- 磨他 -0056
091-00087S

049

MS- 磨他 -0026
069-00594S

050



MS- 磨他 -0042
079-00211S

051

MS- 磨他 -0003
019-00242S

052

MS- 磨他 -0121
019-00243S

053

MS- 磨他 -0055
091-00088S

054　礫石器（台石）

054

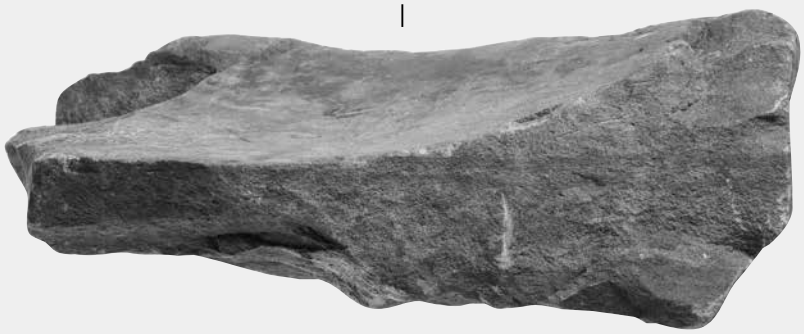
MS- 磨他 -0151
098-00278S

	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
048	第 91 次	SD-101B	第 6(下) 層	黒灰色粘砂	―	330	大和第Ⅵ-3 様式	6.2	5.2	190.5
049	第 69 次	SD-1109	第 5(下) 層	―	S-5512	721	大和第Ⅴ様式	7.2	6.0	(299.6)
050	第 79 次	SD-101B	第 7(下) 層	黒褐色微粘砂 (植物混)	―	424	大和第Ⅳ-1 様式	6.8	4.7	(251.0)
051	第 19 次	SD-204	第 5 層	灰黒色粗砂	S-504	714	大和第Ⅳ様式	(7.1)	7.1	(357.7)
052	第 19 次	中世大溝	第 4 層	黒色粘砂	―	14	弥生時代	7.3	6.5	(259.2)
053	第 91 次	―	―	廃土	―	1108	弥生時代	7.6	6.3	(280.0)
054	第 98 次	SK-201	第 3 層	暗灰粘 (植物混)	―	523	大和第Ⅱ-2 様式	(17.3)	(11.4)	(1,907.0)

055・056　礫石器（石皿）

055・056

055



MS- 磨他 -0144
069-00670S

056

MS- 磨他 -0045
037-00779S

礫石器048 ～ 053は石槌である。いずれも縦長の扁球形状の中央に浅い溝を巡らせるものである。上下面には敲打痕のあるもの(048・052・053)、僅かに敲打痕があるもの(049・050)、敲打痕のないもの(051)がある。

礫石器054は台石で、上面に敲打による凹みがみられる。055・056は石皿で、上面が磨り面になっている。056には赤色物の付着がみられる。台石・石皿とも唐古・鍵遺跡では非常に少ない遺物である。

057　礫石器（浮子）

057

MS- 磨他 -0178
019-00259S

058・059　礫石器（石錘）

058・059

058

MS- 磨他 -0035
033-00407S

059

MS- 磨他 -0034
026-00176S

060 ～ 069　礫石器（石製投弾）

060 ～ 069

060

MS- 磨他 -0002
016-00130S

061

MS- 磨他 -0053
089-00211S

062

MS- 磨他 -0046
085-00004S

063

MS- 磨他 -0052
089-00210S

064

MS- 磨他 -0020
013-00096S

065

MS- 磨他 -0051
089-00209S

066

MS- 磨他 -0092
033-00380S

067

MS- 磨他 -0021
014-00144S

068

MS- 磨他 -0005
020-00231S

069

MS- 磨他 -0140
084-00257S

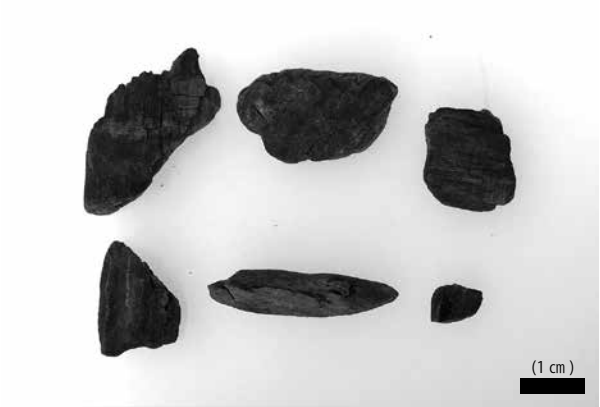
	調査次数	遺構	層位	土色	取上番号	No.	共伴時期／時代	長さ	幅	重さ
055	第 69 次	SD-1122	第 2 層	黒粘	―	1372	大和第Ⅴ-1 様式	(19.7)	(13.6)	(1,829.4)
056	第 37 次	SK-2116	第 4 層	植物層	S-401	1091	大和第Ⅱ-3 様式	22.9	20.9	3,506.0
057	第 19 次	―	包含層	黒色土Ⅱ	―	106	弥生時代中・後期	3.5	3.1	5.8
058	第 33 次	SK-157	第 0 層	黒褐色粘質土	―	296	弥生時代中期	5.3	3.9	87.6
059	第 26 次	SD-1101	第 2 層	―	S-201	156	古墳時代前期	5.5	3.9	87.6
060	第 16 次	SD-101	―	黒色土 (下)	S-02	29	大和第Ⅲ-4 様式	3.2	3.2	48.6
061	第 89 次	―	―	暗灰粘	―	620	弥生時代中期	4.2	3.3	55.7
062	第 85 次	SD-101	第 3 層	暗灰色粘質土 (砂混)	―	69	弥生時代後期後半	4.2	3.8	64.1
063	第 89 次	―	―	灰粘 (灰色砂互層)	―	593	弥生時代中期	4.6	3.6	66.2
064	第 13 次	SD-106D	第 10-c 層	植物層	―	434	弥生時代中期	4.3	4.0	52.0
065	第 89 次	SD-1115	第 1 層	黒褐色粘質土	―	131	大和第Ⅳ-1 様式	(4.7)	3.0	(61.1)
066	第 33 次	SD-114	第 3 層	黒粘	―	398	大和第Ⅲ-1 様式	4.5	4.1	84.2
067	第 14 次	SK-101	下層	黒粘	―	6	大和第Ⅵ-3 様式	4.9	3.3	64.8
068	第 20 次	SD-201	第 5 層	灰黒粘	―	521	大和第Ⅰ-2 様式	4.2	4.3	131.1
069	第 84 次	SD-110	第 2 層	黒灰色粘質土	―	264	大和第Ⅲ-2 様式	4.6	3.8	80.6

礫石器057は軽石を利用した不定形の浮子である。上下面の中央に孔が穿たれているほか、未完通孔が３つみられる。１側面に切断痕が残る。礫石器058・059は石錘で、058は円筒状、059は卵形状で縦断面形は隅丸三角形である。いずれも中央に敲打などによる溝を巡らせている。

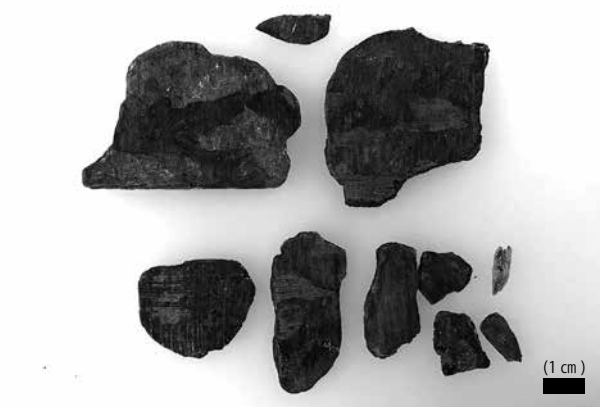
礫石器060 ～ 069は、円球状や卵形状の自然礫である。いずれも長さ３～５㎝、重さ50 ～ 80ｇほどのものが多い。

木製品004(MW-工具-0002)**残片**

木製品012(MW-工具-0012)**残片**



木製品015(MW-農具-0076)**残片**

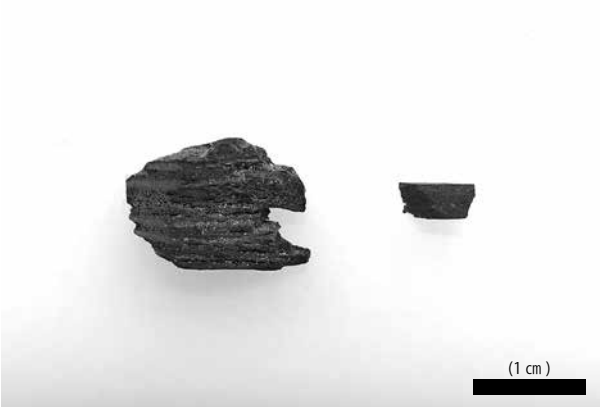


木製品017(MW-農具-0004)**残片**

木製品019(MW-農具-0047)**残片**

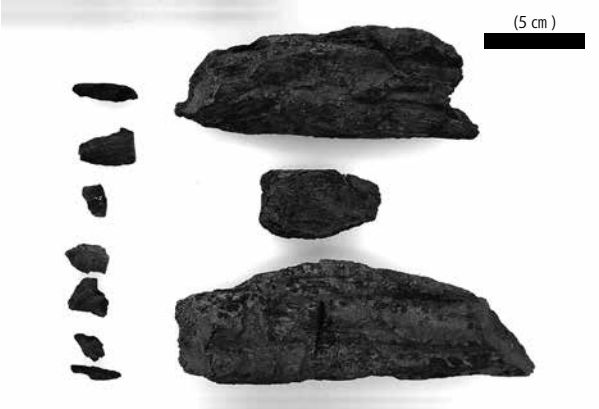
木製品021(MW-農具-0070)**残片**

木製品040(MW-農具-0046)**残片**



木製品042(MW-農具-0075)**残片**

木製品046（MW-農具-0080）**残片**



木製品051（MW-農具-0063）**残片**

木製品057（MW-農具-0051）**残片**

木製品060（MW-農具-0015）**残片**

木製品062（MW-農具-0032）**残片**

木製品068（MW-農具-0084）**残片**

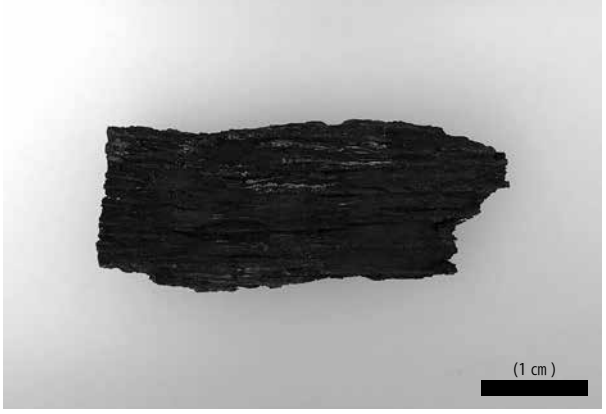
木製品072（MW-農具-0083）**残片**

木製品082（MW-農具-0035）**残片**

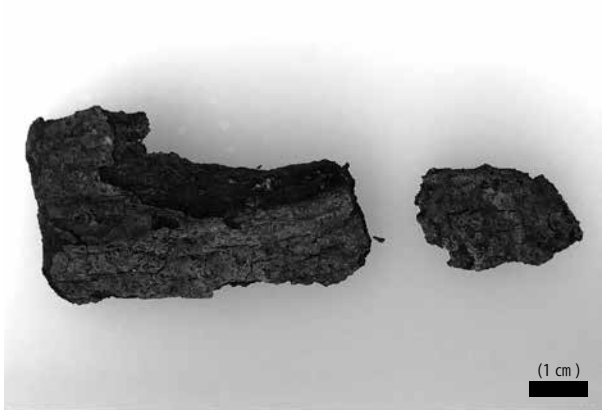
木製品083（MW-農具-0059）**残片**

木製品088（MW-織編-0012）**残片**

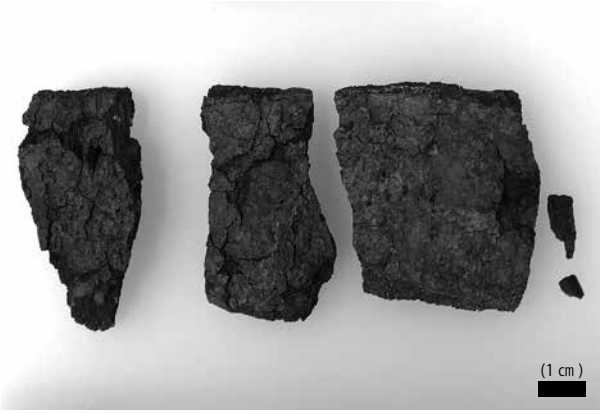
木製品091 ～ 102（MW-織編-0020 ～ 31）**残片**



木製品093（MW-織編-0022）**残片**



木製品094（MW-織編-0023）**残片**



木製品098（MW-織編-0027）**残片**

木製品099（MW-織編-0028）**残片**

木製品102（MW-織編-0031）**残片**

木製品113（MW-武器-0008）**残片**

木製品118（MW-武器-0003）**残片**

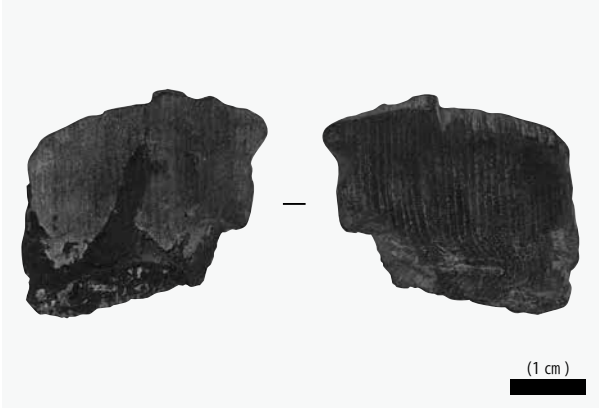
木製品124（MW-武器-0013）**残片**

木製品136（MW-食膳-0016）**残片**

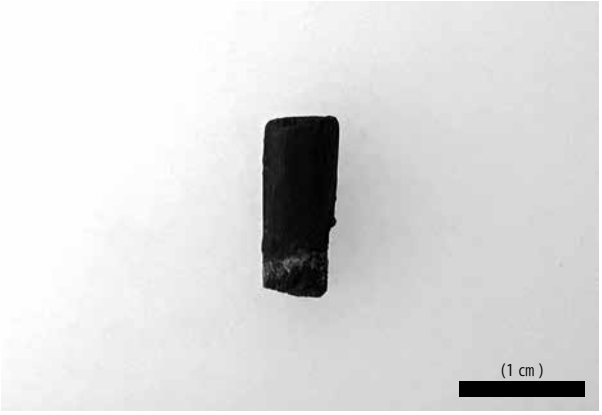
木製品142（MW-食膳-0021）**残片**

木製品144（MW-食膳-0023）**残片**

木製品152（MW-食膳-0029）**残片**



木製品154（MW-食膳-0052）**残片**



木製品160(MW-食膳-0042)**枘**

木製品163(MW-食膳-0022)**残片**

木製品166(MW-食膳-0028)**残片**

木製品168(MW-食膳-0047)**残片**

木製品171(MW-祭具-0004)**残片**

木製品184(MW-雑具-0012)**残片**

木製品185(MW-雑具-0013)**残片**

木製品186(MW-雑具-0006)**残片**

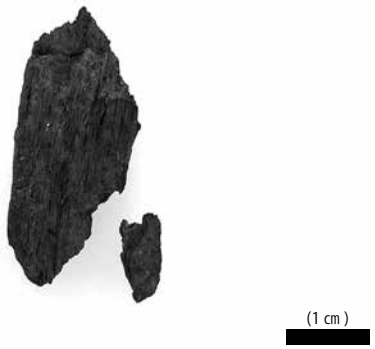
木製品195（MW-建築-0016）**残片**

木製品198（MW-建築-0015）**残片1**

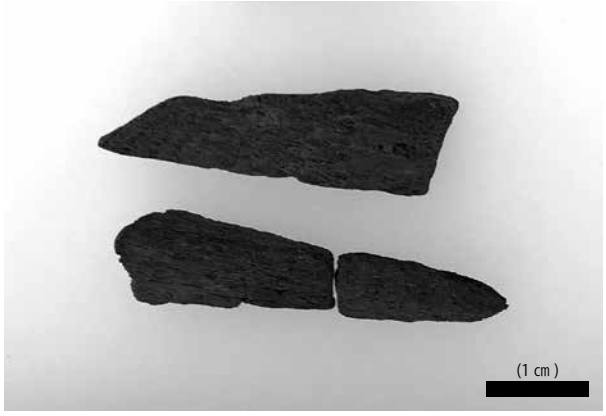
木製品198（MW-建築-0015）**残片2**

木製品199（MW-建築-0018）**残片1**

木製品199（MW-建築-0018）**残片2**



木製品200（MW-建築-0012）**残片**



木製品213（MW-其他-0010）**残片**

註 1　木製品 154 は奈良県立橿原考古学研究所附属博物館にて展示しているが、残片は田原本町埋蔵文化財センターに保管している。

註 2　木製品 198・199 の残片は多量のため、掲載したものはそれぞれの一部である。

【報告書】

末永雅雄・小林行雄・藤岡謙二郎『大和唐古弥生式遺跡の研究』京都帝国大学文学部考古学研究報告第 16 冊　1943

田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡Ⅰ―範囲確認調査― 遺構・主要遺物編』田原本町埋蔵文化財調査報告書第 5 集　2009

田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡Ⅰ―範囲確認調査― 写真図版編』田原本町埋蔵文化財調査報告書第 5 集　2007

田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡Ⅰ―範囲確認調査― 特殊遺物・考察編』田原本町埋蔵文化財調査報告書第 5 集　2009

【概報】

田原本町教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所『昭和 52 年度 唐古・鍵遺跡発掘調査概報』1978

田原本町教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所『昭和 53 年度 唐古・鍵遺跡第 4・5 次発掘調査概報』1979

田原本町教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所『昭和 54 年度 唐古・鍵遺跡第 6・7・8・9 次発掘調査概報』1980

田原本町教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所『昭和 55 年度 唐古・鍵遺跡第 10・11 次発掘調査概報』1981

田原本町教育委員会「昭和 57 年度 唐古・鍵遺跡第 13・14・15 次発掘調査概報」『田原本町埋蔵文化財調査概要 1』1983

田原本町教育委員会「昭和 58 年度 唐古・鍵遺跡第 16・18・19 次発掘調査概報　黒田大塚古墳第 1 次発掘調査概報」『田原本町埋蔵文化財調査概要 2』1984

田原本町教育委員会「昭和 59 年度 唐古・鍵遺跡第 20 次発掘調査概報　黒田大塚古墳第 2 次発掘調査概報」『田原本町埋蔵文化財調査概要 3』1986

田原本町教育委員会「昭和 60 年度 唐古・鍵遺跡第 22・24・25 次発掘調査概報」『田原本町埋蔵文化財調査概要 4』1986

田原本町教育委員会「唐古・鍵遺跡第 21・23 次発掘調査概報」『田原本町埋蔵文化財調査概要 6』1987

田原本町教育委員会「昭和 61 年度 唐古・鍵遺跡第 26 次発掘調査概報」『田原本町埋蔵文化財調査概要 7』1987

田原本町教育委員会「昭和 61 年度 唐古・鍵遺跡第 29・30 次発掘調査概報」『田原本町埋蔵文化財調査概要 9』1987

田原本町教育委員会「昭和 62・63 年度 唐古・鍵遺跡第 32・33 次発掘調査概報」『田原本町埋蔵文化財調査概要 11』1989

【年報】

田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 1　1988･1989 年度』1990
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 2　1990 年度』1991
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 3　平成 3 年度』1992
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 4　1992・1993 年度』1994
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 5　1994・1995 年度』1996
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 6　1996 年度』1997
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 7　1997 年度』1998
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 8　1998 年度』1999
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 9　1999 年度』2000
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 10　2000 年度』2001
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 11　2001 年度』2002
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 12　2002 年度』2003
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 13　2003 年度』2004
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 14　2004 年度』2006
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 21　2011 年度』2013
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 22　2012 年度』2014
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 24　2014 年度』2016
田原本町教育委員会『田原本町埋蔵文化財調査年報 25　2015 年度』2017

【図録等】

飯田恒男『大和唐古石器時代遺物図集』1929
田原本町『唐古・鍵遺跡発掘調査 50 周年記念 唐古・鍵ムラの弥生人』1986
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館『唐古・鍵弥生遺跡調査 50 年史』『奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・特別陳列解説』1986
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・田原本町教育委員会『平成 8 年度春季特別展　弥生の風景　唐古・鍵遺跡の発掘調査 60 年』1996
奈良国立文化財研究所『木器集成図録　近畿原始編』奈良国立文化財研究所史料 第 36 冊　1993
田原本町教育委員会『唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録』2004
田原本町教育委員会『たわらもと 2005 発掘速報展』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.1　2005
田原本町教育委員会『弥生時代の青銅器鋳造～唐古・鍵遺跡の鋳造遺物を中心に～』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.4　2006
田原本町教育委員会『ヤマト王権はいかにして始まったか～弥生の王都　唐古・鍵～』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.6　2007
田原本町教育委員会『道の考古学』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.11　2010

附

田原本町教育委員会『弥生エッセンス～その技と美～』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.13　2011
田原本町教育委員会『村を守る－乱世の考古学－』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.14　2012
田原本町教育委員会『弥生遺産Ⅱ』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.17　2014
田原本町教育委員会『弥生遺産Ⅴ』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.22　2017
田原本町教育委員会『たわらもと 2015 発掘速報展』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.18　2015
田原本町教育委員会『弥生遺産Ⅲ』唐古・鍵考古学ミュージアム展示図録 Vol.19　2015
田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡 Vol.1 概説編』田原本の遺跡 1　1999
田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡 Vol.2 土器編』田原本の遺跡 2　1998
田原本町教育委員会『2000 年の時間を超えて　唐古・鍵遺跡 Vol.3　概説編 2』田原本の遺跡 3　2000
田原本町教育委員会『弥生の王都　唐古・鍵』田原本の遺跡 6　2013
田原本町教育委員会『ミュージアムコレクション Vol.1』2007
田原本町教育委員会『ミュージアムコレクション Vol.2』2009
田原本町教育委員会『ミュージアムコレクション Vol.3』2010
田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡 考古資料目録Ⅰ―土器編 1（絵画・記号・文様）―』2015
田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡 考古資料目録Ⅱ―土器編 2（弥生・搬入・特殊）―』2016

唐古・鍵遺跡
考古資料目録Ⅲ
―木器・木製品・石器・石製品編―

平成29年3月28日

編集・発行／田原本町教育委員会
奈良県磯城郡田原本町大字阪手347-1

印刷・製本／株式会社　明新社
奈良県奈良市南京終町3-464